

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書89

FURUICHI

古市遺跡

床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

2005年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター



弥生時代の土器



古墳時代の土器

序 文

当センターでは、鹿児島県が行う床上浸水対策特別緊急事業(万之瀬川)に伴って、平成13年度から平成15年度にかけて、川辺郡川辺町に所在する古市遺跡と南田代遺跡の発掘調査を行いました。

この報告書は、古市遺跡に係る発掘調査の記録です。

鹿児島市権現ヶ尾を水源として、川辺町から金峰町、加世田市を経て吹上浜に注ぐ万之瀬川は、延長36kmの一級河川で、これまで、幾たびか氾濫を繰り返してきました。

古市遺跡は、対岸に南田代遺跡を見て万之瀬川の左岸、標高約40mの自然堤防上に立地しており、弥生時代から中世までの複合遺跡です。弥生時代と古墳時代の遺物が数多く出土し、竪穴住居跡と中世の掘立柱建物跡などの遺構も検出されました。

これらの遺構や遺物は、万之瀬川が氾濫を繰り返しつつも、なお、古市遺跡をはじめ、流域の人々が豊かな生活を営々として築いてきたことを物語っています。

この調査の成果が、別にまとめた南田代遺跡の調査記録と併せて、地域研究や埋蔵文化財の啓発普及の一助となれば幸いです。

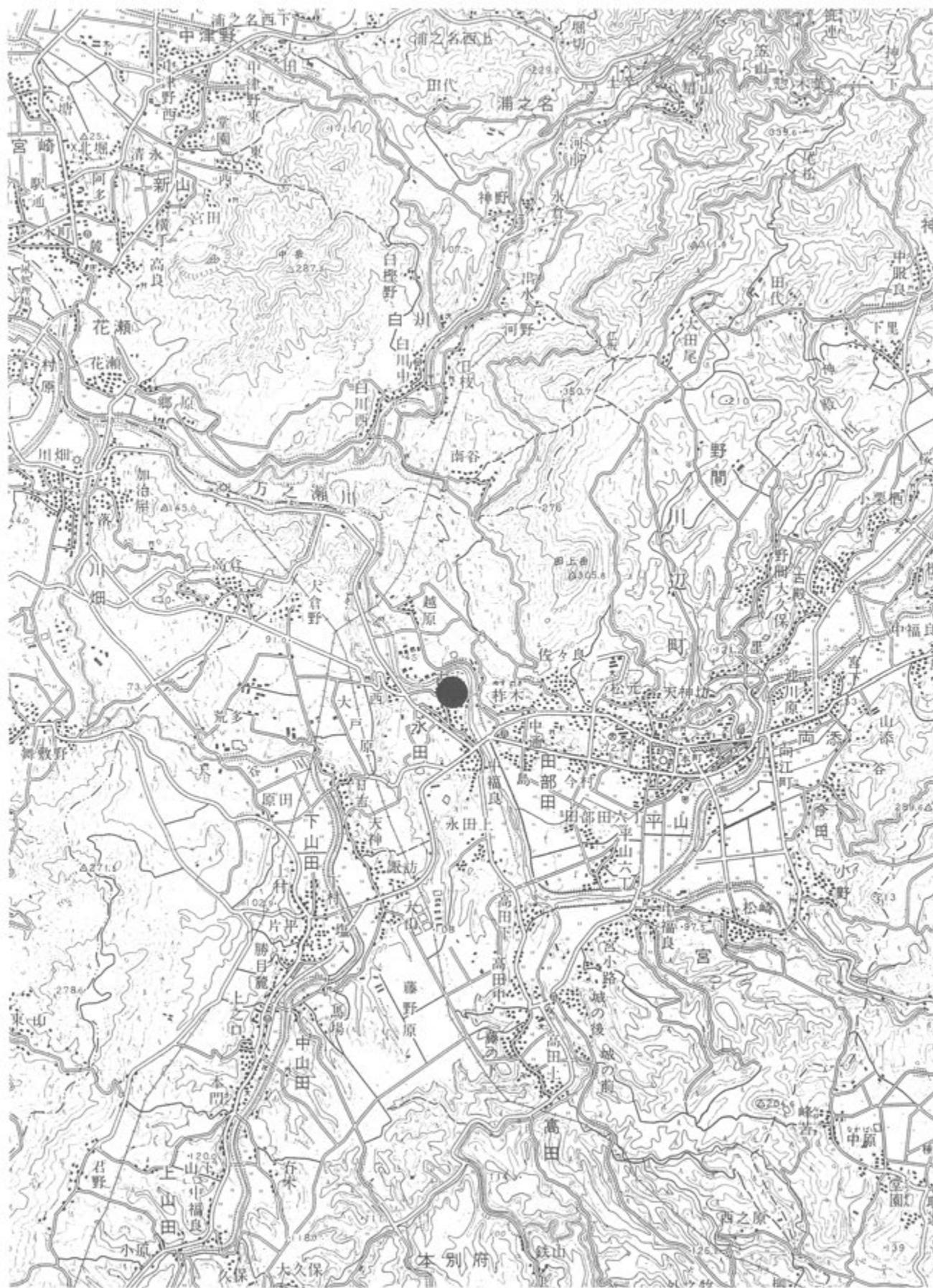
最後に、調査にあたりご協力いただいた鹿児島県土木部をはじめ、川辺町教育委員会、そして、調査に従事された地域の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所 長 木 原 俊 孝

報 告 書 抄 録

ふりがな	ふるいちいせき							
書名	古市遺跡							
副書名	床上浸水対策特別緊急事業（万之瀬川）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	89							
編著者名	彌榮久志, 平木場秀男, 福永修一, 石原田高広							
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター							
所在地	〒899-4461 国分市上之段1175-1 TEL0995-48-5811							
発行年月日	2005年 3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査起因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° / "	° / "			
ふるいちいせき 古市遺跡	かごしまけん 鹿児島県 かわなべぐん 川辺郡 かわなべちょう 川辺町 ながた 永田 あざふるいち 字古市	462021	27-89-0	31° 23' 36"	130° 22' 35"	20010903~ 20020325 20020507~ 20021003 20031020~ 20031112	17,180	床上浸水 対策特別 緊急事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
古市遺跡		弥生時代	竪穴住居		高橋式土器, 黒髪式土器 山ノ口式土器, 松木蘭式土器, 中津野式土器 石器(石鏃, 石斧, 石包丁)			
		古墳時代	竪穴住居 溝状遺構		成川式土器, 砥石, 石製品			
		中世	掘立柱建物		土師器, 須恵器, 白磁, 青磁			



古市遺跡位置図 (1/50,000)

例

- 1 本報告書は、床上浸水対策特別緊急事業（万之瀬川）に伴う「古市遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、鹿児島県土木部河川課（加世田土木事務所）の受託事業として、鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。
- 3 本書で用いたレベル数値はすべて海拔高である。
- 4 本書の遺物番号は各節ごとの通し番号とし、挿図、表、図版の番号と一致する。
- 5 発掘調査の実施においては、川辺町教育委員会の協力を得た。
- 6 発掘調査における実測および写真撮影は、調査担当者が行った。
- 7 遺物に関する写真撮影等は、鶴田静彦・福永修一・西園勝彦が行った。
- 8 出土土器に付着した煤の放射性炭素年代測定を（株）パレオ・ラボに、出土した炭化材の放射性炭素年代測定および樹種同定を（株）パリノ・サーヴェイに依頼し、その分析結果報告を掲載した。
- 9 本報告書の制作・整理作業の一部にはデジタル技術を導入し、図版等の作成および編集に係わるデータ処理は、福永修一が行い、馬籠亮道の協力を得た。
- 10 本書の執筆、編集は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで福永修一が行った。各項目の執筆分担は以下の通りである。

第Ⅰ章……………福永修一

第Ⅱ章……………西園勝彦

第Ⅲ章

第1節1……………福永修一

2……………福永修一・川口雅之・岩澤和徳

3……………福永修一・川口雅之・岩澤和徳

第2節1……………福永修一

2……………福永修一・岩澤和徳

3……………福永修一・岩澤和徳

4……………福永修一

第3節1……………福永修一

2……………平木場秀男

3……………西園勝彦

第Ⅴ章

第1節……………福永修一・川口雅之

第2節……………福永修一

第3節……………西園勝彦

言

- 11 掲載遺物の縮尺は、土器が1/3、石器は1/1を基本とする。しかし、礫石器など大型のものについてはこの限りでない。また、遺構については1/40を基本としたが、これについても大型の遺構についてはこの限りではない。各々、図中に示したスケールを参考とされたい。
- 12 土器、石器等の出土位置については、各節ごとに記載した。スケールについては、図中にグリッドラインが表示されているので参考にされたい。
- 13 本報告書に掲載した出土遺物・図面・写真等は、鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し活用する。なお、本報告書に使用したデータの一部は、鹿児島県立埋蔵文化財情報管理システムおよび埋蔵文化財情報データベース (<http://www.jomon-no-mori.jp>) で公開する予定である。

目 次

卷首図版 1
卷首図版 2
序 文
報告書抄録
例 言
目 次
本文目次
挿 図 目 次
表 目 次
図 版 目 次
あ と が き

本 文 目 次

第 I 章 発掘調査の経過 1	第 2 節 古墳時代の調査 34
第 1 節 調査に至るまでの経過 1	1 調査の方法と概要 35
第 2 節 調査の組織 1	2 古墳時代の遺構 35
第 3 節 発掘調査の概要と経過 2	3 包含層出土土器 63
第 II 章 遺跡の位置と環境 4	4 石器 94
第 1 節 遺跡の位置と地理的環境 4	第 3 節 古代～中世の調査 98
第 2 節 歴史的環境 4	1 調査の方法と概要 100
第 3 節 土層 7	2 古代～中世の遺構 100
第 III 章 発掘調査の成果 14	3 古代以降の遺物 100
第 1 節 弥生時代の調査 14	第 IV 章 自然科学分析 110
1 調査の方法と概要 16	第 V 章 発掘調査のまとめ 114
2 弥生時代の遺構 16	
3 包含層出土土器 21	

挿 図 目 次

第1図	周辺遺跡地図	6	第46図	7号竪穴住居跡2	58
第2図	基本土層柱状模式図	7	第47図	7号竪穴住居跡3(出土遺物実測図)	59
第3図	土層断面実測図1	8	第48図	溝状遺構	60
第4図	土層断面実測図2	9	第49図	溝状遺構位置図	60
第5図	土層断面実測図3	10	第50図	溝状遺構(出土遺物実測図)	60
第6図	古市遺跡周辺地形図	11	第51図	土器溜り	61
第7図	周辺地形及びピコンタ図	12	第52図	土器溜り位置図	61
第8図	グリット配置及びトレンチ配置図	13	第53図	古墳時代出土遺物実測図1	62
第9図	弥生時代遺物出土状況	14	第54図	古墳時代出土遺物実測図2	63
第10図	弥生時代遺構位置図	15	第55図	古墳時代出土遺物実測図3	64
第11図	1号竪穴住居跡1(出土遺物実測図)	17	第56図	古墳時代出土遺物実測図4	65
第12図	1号竪穴住居跡2	18	第57図	古墳時代出土遺物実測図5	66
第13図	2号竪穴住居跡1(遺物出土状況)	19	第58図	古墳時代出土遺物実測図6	67
第14図	2号竪穴住居跡2(出土遺物実測図)	19	第59図	古墳時代出土遺物実測図7	68
第15図	2号竪穴住居跡3	20	第60図	古墳時代出土遺物実測図8	69
第16図	弥生時代出土遺物実測図1	21	第61図	古墳時代出土遺物実測図9	70
第17図	弥生時代出土遺物実測図2	22	第62図	古墳時代出土遺物実測図10	71
第18図	弥生時代出土遺物実測図3	23	第63図	古墳時代出土遺物実測図11	72
第19図	弥生時代出土遺物実測図4	24	第64図	古墳時代出土遺物実測図12	75
第20図	弥生時代出土遺物実測図5	25	第65図	古墳時代出土遺物実測図13	76
第21図	弥生時代出土遺物実測図6	26	第66図	古墳時代出土遺物実測図14	77
第22図	弥生時代出土遺物実測図7	27	第67図	古墳時代出土遺物実測図15	78
第23図	弥生時代出土遺物実測図8	30	第68図	古墳時代出土遺物実測図16	79
第24図	弥生時代出土遺物実測図9	31	第69図	古墳時代出土遺物実測図17	80
第25図	弥生時代出土遺物実測図10	32	第70図	古墳時代出土遺物実測図18	81
第26図	古墳時代遺物出土状況	34	第71図	古墳時代出土遺物実測図19	82
第27図	古墳時代遺構位置図	35	第72図	古墳時代出土遺物実測図20	85
第28図	3号竪穴住居跡1	37	第73図	古墳時代出土遺物実測図21	86
第29図	3号竪穴住居跡2	38	第74図	古墳時代出土遺物実測図22	88
第30図	3号竪穴住居跡3(出土遺物実測図)	39	第75図	古墳時代出土遺物実測図23	89
第31図	4号竪穴住居跡1	40	第76図	古墳時代出土遺物実測図24	91
第32図	4号竪穴住居跡2	41	第77図	古墳時代遺物出土状況(1)	92
第33図	4号竪穴住居跡3	42	第78図	古墳時代遺物出土状況(2)	92
第34図	4号竪穴住居跡4(出土遺物実測図1)	43	第79図	古墳時代出土遺物実測図25	92
第35図	4号竪穴住居跡5(出土遺物実測図2)	44	第80図	古墳時代出土遺物実測図26	94
第36図	5号竪穴住居跡1	46	第81図	古墳時代出土遺物実測図27	95
第37図	5号竪穴住居跡2	47	第82図	古墳時代出土遺物実測図28	96
第38図	5号竪穴住居跡3	48	第83図	古代以降遺物出土状況	98
第39図	5号竪穴住居跡4(出土遺物実測図1)	49	第84図	古代～中世遺構位置図	99
第40図	5号竪穴住居跡5(出土遺物実測図2)	50	第85図	掘立柱建物跡1	101
第41図	5号竪穴住居跡6(出土遺物実測図3)	51	第86図	掘立柱建物跡2	102
第42図	5号竪穴住居跡7(出土遺物実測図4)	52	第87図	古代以降出土遺物実測図1	104
第43図	6号竪穴住居跡1	54	第88図	古代以降出土遺物実測図2	105
第44図	6号竪穴住居跡2(出土遺物実測図)	55	第89図	古代以降出土遺物実測図3	106
第45図	7号竪穴住居跡1	57	第90図	古代以降出土遺物実測図4	107

表 目 次

第1表	周辺遺跡地名表	5	第16表	古墳時代出土遺物観察表4	81
第2表	1号, 2号竪穴住居跡出土遺物観察表	20	第17表	古墳時代出土遺物観察表5	83
第3表	弥生時代出土遺物観察表1	28	第18表	古墳時代出土遺物観察表6	85
第4表	弥生時代出土遺物観察表2	29	第19表	古墳時代出土遺物観察表7	87
第5表	弥生時代出土遺物観察表3	33	第20表	古墳時代出土遺物観察表8	90
第6表	3号竪穴住居跡出土遺物観察表	42	第21表	古墳時代出土遺物観察表9	91
第7表	4号竪穴住居跡出土遺物観察表	45	第22表	古墳時代出土遺物観察表10	93
第8表	5号竪穴住居跡出土遺物観察表(1)	51	第23表	石器観察表	97
第9表	5号竪穴住居跡出土遺物観察表(2)	53	第24表	掘立柱建物跡柱穴計測表	100
第10表	6号竪穴住居跡出土遺物観察表	56	第25表	古代以降出土遺物観察表1	108
第11表	7号竪穴住居跡出土遺物観察表	59	第26表	古代以降出土遺物観察表2	108
第12表	溝状遺構出土遺物観察表	61	第27表	古代以降出土遺物観察表3	109
第13表	古墳時代出土遺物観察表1	73	第28表	古代以降出土遺物観察表4	109
第14表	古墳時代出土遺物観察表2	74	第29表	古代以降出土遺物観察表5	109
第15表	古墳時代出土遺物観察表3	76			

図 版 目 次

古市遺跡近景1	図版1	弥生時代の土器2	図版26
古市遺跡近景2	図版2	弥生時代の土器3	図版27
古市遺跡近景3	図版3	弥生時代の土器4	図版28
1号竪穴住居跡完掘状況ほか	図版4	弥生時代の土器5	図版29
2号竪穴住居跡検出状況ほか	図版5	弥生時代の土器6	図版30
3号竪穴住居跡完掘状況ほか	図版6	弥生時代7, 古墳時代の土器1	図版31
4号竪穴住居跡検出状況ほか	図版7	古墳時代の土器2	図版32
5号竪穴住居跡検出状況ほか	図版8	古墳時代の土器3	図版33
6号竪穴住居跡検出状況ほか	図版9	古墳時代の土器4	図版34
7号竪穴住居跡検出状況ほか	図版10	古墳時代の土器5	図版35
遺物出土状況	図版11	古墳時代の土器6	図版36
掘立柱建物跡完掘状況1ほか	図版12	古墳時代の土器7	図版37
掘立柱建物跡完掘状況2ほか	図版13	古墳時代の土器8	図版38
発掘調査風景ほか	図版14	古墳時代の土器9	図版39
弥生時代の土器1	図版15	古墳時代の土器10	図版40
1号, 3号, 4号竪穴住居跡出土土器	図版16	古墳時代の土器11	図版41
2号竪穴住居跡出土土器	図版17	古墳時代の土器12	図版42
古墳時代の土器	図版18	古墳時代の土器13	図版43
3号竪穴住居跡出土土器	図版19	弥生時代, 古墳時代の石器1ほか	図版44
4号竪穴住居跡出土土器	図版20	弥生時代, 古墳時代の石器2	図版45
5号竪穴住居跡出土土器1	図版21	弥生時代, 古墳時代の石器3	図版46
5号竪穴住居跡出土土器2	図版22	古代以降の土器1	図版47
5号竪穴住居跡出土土器3	図版23	古代以降の土器2	図版48
6号, 7号竪穴住居跡出土土器	図版24		
溝状遺構出土土器ほか	図版25		

第 I 章 発掘調査の経過

第 1 節 調査に至るまでの経過

鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所、以下土木部)は、床上浸水対策特別緊急事業(万之瀬川)に基づいて河川改修(万之瀬川、川辺町古市～同町田部田間)を計画し、事業対象区域内の埋蔵文化財の有無について、鹿児島県教育委員会に照会した。

これを受けて、鹿児島県教育庁文化財課(以下文化財課)は当該工事の予定地には、周知の遺跡として「古市遺跡」と、「南田代遺跡」が所在することを回答し、土木部、文化財課、鹿児島県立埋蔵文化財センター(以下埋蔵文化財センター)、川辺町教育委員会との協議の結果、事業対象地域内の遺跡の範囲と性格を把握するために古市遺跡では確認調査を、南田代遺跡では詳細分布調査(試掘調査)を行うこととなった。

本遺跡の確認調査は、川辺町教育委員会が事業対象地域約40,000㎡を対象として、平成12年2月1日から平成12年3月21日の期間実施した。

確認調査の結果、弥生時代、古墳時代、古代～中世の遺物包含層があることが明らかとなった。調査結果に基づき、遺跡の取り扱いについて協議を重ねた結果、遺跡の現状保存や、設計変更が不可能であることから、発掘調査を行い記録保存することとなり、約40,000㎡を対象とした本調査を埋蔵文化財センターが実施することとなった。

本調査は、当初約40,000㎡を対象に実施する予定であったが、調査範囲を縮小し約17,180㎡の調査を行った。これについては、確認調査の時点で建築物が残存し十分な調査が行えなかったことによるものである。

本調査は用地買収等の条件の整った区域から順次調査の対象とし平成13年9月3日から平成15年11月12日(実働208日間)の期間で3回実施した。

第 2 節 調査の組織

平成11年度 確認調査
 事業主体者 鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所)
 調査主体者 川辺町教育委員会
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
 調査責任者 川辺町教育委員会 教育長 北野 律和
 調査企画者 生涯学習課 課長 吉留 丘
 調査担当者 " 文化財係 上村 純一
 " " 新地 浩一郎
 " 発掘調査補助 大園 昭雄
 " " 藤田 光代
 事務担当者 " 文化財課係長 野入 博雄

平成13年度 本調査
 事業主体者 鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所)
 調査主体者 鹿児島県教育委員会
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
 調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
 調査企画者 次長兼総務課長 黒木 友幸
 主任文化財主事兼調査課長 新東 晃一
 調査課長補佐 立神 次郎
 主任文化財主事兼第一調査係長 青崎 和憲
 主任文化財主事 中村 耕治
 調査担当者 文化財研究員 福永 修一
 文化財研究員 菅牟田 勉
 事務担当者 総務係長 前田 昭信
 主 査 今村 孝一郎

平成14年度 本調査
 事業主体者 鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所)
 調査主体者 鹿児島県教育委員会
 企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課
 調査責任者 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 井上 明文
 調査企画者 次長兼総務課長 田中 文雄
 調査課長 新東 晃一
 調査課長補佐 立神 次郎
 主任文化財主事兼第一調査係長 池畑 耕一
 主任文化財主事 中村 耕治
 調査担当者 文化財主事 岩澤 和徳
 文化財主事 日高 正人
 文化財研究員 西園 勝彦
 文化財調査員 橋口 亘
 事務担当者 総務係長 前田 昭信
 主 査 栗山 和己

平成15年度 本調査
 事業主体者 鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所)
 調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 木原 俊孝

調査企画者

次長兼総務課長 田中 文雄

調査課長 新東 晃一

調査課長補佐 立神 次郎

主任文化財主事兼第一調査係長 池畑 耕一

主任文化財主事 中村 耕治

調査担当者

文化財主事 松尾 勉

文化財研究員 川元 禎久

事務担当者

総務係長 平野 浩二

平成16年度 報告書作成

事業主体者 鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所)

調査主体者 鹿児島県教育委員会

企画・調整 鹿児島県教育庁文化財課

調査責任者

鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 木原 俊孝

調査企画者

次長兼総務課長 賞雅 彰

調査課長 新東 晃一

調査課長補佐 立神 次郎

主任文化財主事兼第二調査係長 彌榮 久志

主任文化財主事 長野 眞一

作成担当者

文化財主事 福永 修一

文化財主事 石原田高広

事務担当者

総務係長 平野 浩二

指導者・協力者

鹿児島県土木部河川課

鹿児島県土木部河川課(加世田土木事務所)

川辺町教育委員会

森脇 広(独立行政法人国立鹿児島大学法文学部教授)

成尾英仁(現鹿児島県立中央高校 教諭)

長野眞一, 中村耕治, 倉元良文, 井ノ上秀文, 宮田栄二,

堂込秀人, 鶴田静彦, 児玉健一郎, 東 和幸, 岩澤和徳,

宗岡克英, 栗林文夫, 中村和美, 関 明恵, 黒川忠広,

桑波田武志, 横手浩二郎, 西園勝彦, 上床 真,

川口雅之, 馬籠亮道, 鮫島伸吾

第3節 発掘調査の概要と経過

調査期間は以下のとおりである。

確認調査

平成11年度(平成12年2月1日～3月21日)

本調査

平成13年9月3日から平成14年3月25日, 平成14年5月7日から平成14年10月3日, 平成15年10月20日から平成15年11月12日の3回にわたり本調査を行った。調査の経過については, 日記抄を持ってかえる。なお, 調査期間が複数年のため, 月単位の記載とした。

平成13年度

9月3日～9月26日

E-8, 9区VI層掘り下げ

CDE-1～7区表土剥ぎ, 精査

B～E-8～12区III～VI層掘り下げ

BC-13, 14区IV, V層掘り下げ

BC-15, 16区トレンチ掘り下げ

遺物出土状況撮影, 1・2号住居跡検出状況写真撮影

10月2日～10月26日

C～E-3, 4区V層掘り下げ

C～E-5, 6区III～V層掘り下げ

CD-8, 9区V層掘り下げ

EF-8, 9区III, IV層掘り下げ

AB-10～12区表土, III, IV層掘り下げ

CD-10～12区III～V層掘り下げ

遺物出土状況撮影, CD-8～10区VII層上面コンタ

図作成, 1号住居跡掘り下げ, 2号住居跡実測, 掘り

下げ, 3号住居遺物取り上げ

11月2日～11月28日

AB-1～5区V層掘り下げ

C～E-1～4区VI層掘り下げ

B～E-6, 7区II～V層掘り下げ

B-10～12区III, IV層掘り下げ

E～H-19～26, I～K-24～26, 遺物取り上げ, ピッ

ト検出, 溝状遺構検出, CE-1～4 VII層上面コンタ

図作成, 土坑掘り下げ, 1～3号住居掘り下げ

12月3日～12月26日

CDE-17～21区II層掘り下げ, 1～7トレンチ掘り

下げ, DE-7, 8区南側断面実測, 3号住居掘り

下げ

1月7日～1月29日

H～J-24～26区II層掘り下げ

BE-17～21区III～VI層掘り下げ

F-20区II層掘り下げ, トレンチ掘り下げ

遺物取り上げ, 3号住居実測, 土器溜り実測

2月1日～2月27日
E F-17, 18IV, V層掘り下げ
D～F-13～15区, H-20区, III, IV層掘り下げ
G～H-19, 20区, IV層掘り下げ
遺物取り上げ, 完形土器撮影実測, 1, 3, 4, 5号
住居掘り下げ実測
3月4日～3月25日
D～F-13～15区, IV層掘り下げ
遺物取り上げ, 掘立柱建物跡実測, 1～3, 5～8号
住居完掘, 実測, 撮影, 空撮

平成14年度

5月7日～5月28日
G-22～24区, II～IV層掘り下げ
H I J-19～27区, II～IV層掘り下げ
K L M-23～28区, II～IV層掘り下げ
N-25～27区, II, III層掘り下げ
遺物取り上げ, 総柱内ピット精査, 溝状遺構・焼土混入遺構・焼土土坑検出, 掘り下げ
6月3日～6月26日
J K L M-24～26区, III層掘り下げ
L M N O P-27～29区, II層掘り下げ
K L M-26～32区, II層掘り下げ
遺物取り上げ, G H I J K-20～23区アカホヤ上面コ
ンタ図作成
7月1日～7月24日
N O-27～31区IIa層掘り下げ
P-25～31区IIa層掘り下げ
Q-29～31区IIa層掘り下げ
遺物取り上げ, ピット掘り下げ実測
8月1日～8月27日
N O P Q R-25～28区IIa層掘り下げ
O P Q R-29～31区IV層掘り下げ
A B C-24, 25区IV層掘り下げ
遺物取り上げ, 土器集中区検出撮影半截
9月2日～9月25日
N O P Q R-29～31区III, IV層掘り下げ
焼土跡掘り下げ実測, J K L-24～26区, N O P-25,
26, コンタ図作成
10月2日～10月3日
N O P Q R-29～31区IV層掘り下げ

平成15年度
10月20日～10月28日
G H I-24～27区II層掘り下げ
溝状遺構完掘, ピット検出
11月5日～11月12日
G H I-24～27区精査, ピット検出, 実測
11月12日 調査終了 遺跡引き渡し

第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

古市遺跡の所在する川辺町は、北緯31° 23′ 15″ 東経130° 23′ 40″ のところにあり薩摩半島南部中央に位置している。県庁所在地である鹿児島市に隣接し、東は加世田市、南は知覧町・枕崎市、北は金峰町に接する。

地形的には、東西約8km、南北約22kmで、中央部が狭まる分銅形をし、南北を分けるようにして流れる万之瀬川とその支流周辺に広がる河岸段丘・平野部以外は標高約100mのシラス台地と山岳・溪谷が大勢を占める。特に南部・北部・東部は平地に乏しい。溪谷を流れる小流には八瀬尾の滝をはじめとするいくつかの滝が知られ、万之瀬川に注ぎ水田の形成を促している。町内には四万十層群の中の川辺層群と言われる頁岩、砂岩などの基盤層の存在が知られ、特に八瀬尾の滝付近には蛇紋岩がみられる。

古市遺跡は、川辺郡川辺町永田字古市に位置し、川辺町役場のある町の中心部から西へ1.7km離れる。

現在遺跡周囲には水田・畑・豚舎が広がっている。北西へ2km行くと加世田市・金峰町・川辺町の3市町の町境がある。また、2km下流には、古勢滝が存在している。また、1.5km北東に田上岳・4km北西に中岳を臨み、古市遺跡はこの田上岳と中岳との間に万之瀬川に向かって広がる扇状地形をした川端の突き出た箇所対岸の自然堤防上に位置する。

第2節 歴史的環境

古市遺跡の対岸の南田代遺跡は、以前に現鹿児島大学教授の本田道輝氏や当センター職員の東和幸氏らによって多くの遺物が表面採取されており、その中には、玦状耳飾りをはじめとする玉類があり、注目されていた。また、万之瀬川とその支流の加世田川・大谷川流域には多くの遺跡が知られている。

《旧石器時代》

川辺町内の旧石器時代の遺跡は、寺山遺跡をはじめとして背野平遺跡、津フジ遺跡、上桑持野遺跡などの遺跡が知られている。これらの遺跡のうち背野平遺跡以外の3遺跡は、古市遺跡から2kmの範囲内にあり、背野平遺跡も万之瀬川へ注ぐ大谷川を臨む位置にある。そのほかにも遺跡の下流で万之瀬川と合流する加世田川流域にはいくつかの遺跡が知られている。

《縄文時代》

川辺町内には、縄文時代の遺跡が多く知られている。草創期では鷹爪野遺跡で多くの遺物と共に配石遺構や集石遺構が発見され、早期では前平式土器・押型文土器・塞ノ神式土器などが出土する遺跡が多い。前期では轟式

土器・曾畑式土器が出土している遺跡が数遺跡あり、中期の遺物が出土している遺跡は少ないようである。南田代遺跡から轟式土器・曾畑式土器・阿高式土器などの土器が出土し、古市遺跡の東側に位置する、廻り淵遺跡からも轟式土器・曾畑式土器が出土している。中期同様に後期の遺物・遺構が出土した遺跡も少なく指宿式土器・市来式土器の出土している遺跡が幾つか知られるのみである。晩期の遺跡も黒川式土器が出土した遺跡が数例あり、古市遺跡からは晩期の遺物が出土した。これらの遺跡は、万之瀬川とその支流沿いに広がっている。

《弥生時代・古墳時代》

弥生時代になると遺跡数が増加し、昨年度報告書が刊行された寺山遺跡からは弥生時代中期の環壕の一部が発見され、古市遺跡からは前期の住居跡が発見された。古市遺跡より下流域の金峰町・加世田市には高橋貝塚・松木園遺跡・下小路遺跡など多くの遺跡が存在している。

古墳時代は更に遺跡数が増える。古市遺跡からも住居跡や多くの遺物が発見され、万之瀬川川床遺跡や持鉢松遺跡・渡畑遺跡・芝原遺跡・上水流遺跡など万之瀬川改修工事に伴う発掘調査でも多くの成果が上がっている。

《古代》

遺跡周辺の川辺町内では古代の遺跡はあまり知られないが、万之瀬川の支流の流域にある金峰町白檜野遺跡からは蔵骨器の入った石組み墓が発見されており、上記の持鉢松遺跡・渡畑遺跡・芝原遺跡・上水流遺跡からも多くの成果が上がっている。古市遺跡の北西約3kmの付近には荒平窯跡・中岳山麓古窯跡群がある。金峰町小中原遺跡からは「阿多」と書かれた刻書土器が出土しており、付近が「古事記」・「日本書紀」に見える阿多の地に比定されている。

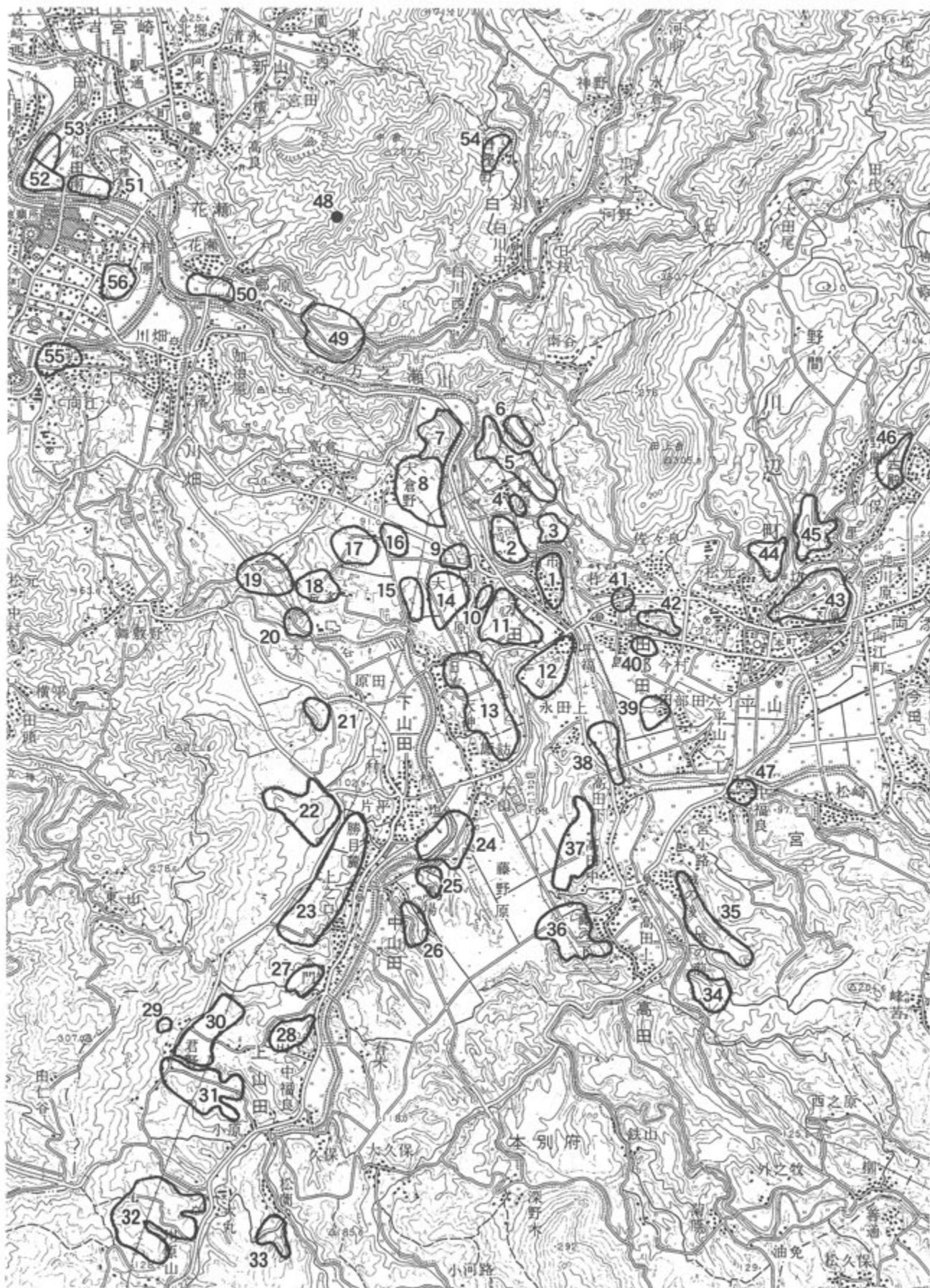
《中世》

川辺町内では、中世の城跡や陣跡をはじめとする遺跡が多く知られ、金峰町・加世田市の中世の遺跡も万之瀬川を介している。特に万之瀬川を介とした物流について近年議論の盛り上がりを見せ、阿多氏との関連を想起させる「阿多」と書かれた土器が金峰町小中原遺跡から出土している。

古市遺跡の周辺の遺跡をみると万之瀬川とその支流の流域に集中しており、これはどの時代も同じである。このことに川が関係していることは間違いないが、ヒトの交通手段として古市遺跡まで船を使ったとは考えられない。先に述べたが滝の存在と水量の問題がある。古市遺跡周辺は現在には多くの水量をたたえているが、以前は歩いて対岸に行けたという。

第1表 周辺遺跡地名表

No	遺跡名	所在地	地形	時代	出土遺物等	備考
1	古市	川辺町永田字古市	微高地	縄文(晩)・弥生・古墳・古代・中世	高橋式, 入来式, 黒髪式, 山之口式, 松木園式, 中津野式, 成川式	平成11・13・14調査 本報告書
2	南田代	川辺町田部田字南田代	微高地	縄文(前・中・晩)・弥生	轟式, 曾畑式, 阿高式, 黒川式, 挟状耳飾, 打製石鏃	平成11・13・14調査
3	廻り淵	田部田廻り淵	台地端	縄文(前)	轟式, 曾畑式, 石匙	
4	黒木山	田部田黒木山	台地	弥生(中)	土器片散布	
5	越ヶ原	田部田越ヶ原	台地	古墳	成川式土器片散布	
6	下仁久田	田部田下仁久田	台地	縄文(早)	前平式	
7	兎ヶ城跡	下山田兎ヶ城	台地端	古墳, 中世	成川式散布, 中世山城	
8	津フジ	下山田津フジほか	台地	旧石器～縄文(晩)	細石刃, 細石刃核, 黒川式	平成13・14年度確認調査
9	永田西	永田西	台地端	縄文(早)	押型文土器片散布	
10	南中野	永田南中野	微高地	縄文(後)～古墳	指宿式, 成川式散布	
11	中野迫	永田中野迫	微高地	縄文(後)	指宿式, 石斧散布	
12	寺山	永田寺山野	丘陵地	旧石器, 縄(草), 弥(中)	台形石器, 細石刃核, 手向山式, 妙見式, 石鏃, 石匙, 黒髪式, 須玖式	平成13・15年度調査本報告書
13	八幡堀	下山田八幡堀ほか	台地	縄文	土器片散布	平成10年度確認調査
14	矢倉ヶ迫	下山田矢倉ヶ迫	台地	縄文(早)	石坂式, 桑之丸式, 押型文, 打製石鏃等	平成8年度確認調査
15	供養塚	下山田供養塚	台地	縄文(早)	縄文早期土器, 集石遺構	平成7年度確認調査
16	西ノ平	下山田西ノ平	台地	中世	土器片散布	
17	水ヶ元	下山田水ヶ元	台地	弥生(後)～古墳(初)	松木園式, 中津野式	平成4・5年度調査
18	荒多	下山田荒多	台地	縄文(早)	塞ノ神式, 石鏃, 黒曜石片	平成13年度確認調査 平成14年度全面調査
19	荒多迫	下山田荒多迫	台地	縄文	石匙, 土器片散布	
20	上桑持野	下山田上桑持野	台地	旧石器～縄文(早)	ナイフ形石器, 細石刃, 塞ノ神式	平成13年度確認調査 平成14年度全面調査
21	番屋ヶ尾	下山田番屋ヶ尾	台地	縄文～古墳	石鏃, 成川式等散布	
22	答石	下山田答石ほか	山麓	縄文～弥生	土器片散布	平成5・12年度確認調査
23	塘池上	下山田塘池上ほか	台地	弥生～古墳	土器片散布	平成12年度確認調査 平成13年度全面調査
24	土器園	中山田土器園	沖積地	弥生(中)～古墳(初)	入来式, 松木園式, 中津野式, 打製石斧等	平成11年度確認調査
25	下ノ口	中山田下ノ口	台地	縄文(早)	押型文	
26	勝目城跡	中山田馬場ほか	台地端	南北朝以降	空堀, 曲輪, 土累等残存	町指定文化財
27	焼山	上山田焼山	台地	縄文(早)	前平式	
28	田中堀	上山田田中堀	台地	縄文(後)	市来式, 指宿式等	本田道輝氏調査
29	君野権現洞穴	上山田君野	山麓		溶岩性の洞穴, 縄文時代の住居	県指定文化財(天然記念物)
30	榎木馬場	上山田榎木馬場	台地	縄文～古墳	前平式, 黒川式, 夜臼式, 板付式, 石匙等	平成元年度確認調査
31	背野平	上山田背野平	台地	旧石器～縄文(早・晩)	旧石器礫群, 剥片尖頭器, 集石遺構, 加栗山式等	平成12年度調査
32	鷹爪野	上山田鷹爪野	台地	縄文(草)～縄文(中)	隆帯文, 配石遺構, 集石遺構, 前平式, 磨製石鏃, 砥石等	平成4・12・11年度調査
33	善積寺跡	上山田松園	山麓	鎌倉～明治	廃仏毀釈で廃寺 座禅石, 墓地等残存	町指定文化財(史跡)
34	高田古城跡	高田城ノ平ほか	丘陵地	南北朝以降	空堀残存	
35	高田堀之内城跡	高田城内ほか	丘陵地	南北朝以降		
36	高田城跡	高田城ノ平ほか	山地	南北朝以降	空堀・大手道残存	
37	大渡	高田大渡	台地	縄文～弥生	土器片散布	
38	九玉	永田九玉	微高地	縄文(早)～古墳	押型式, 黒川式, 成川式等	平成10年度確認調査
39	金村田	田部田金村田	沖積地	古墳	土器片散布	
40	ムクタンシマ	田部田島	沖積地	縄文(早)	塞ノ神式	
41	羽林田	田部田羽林田	台地	縄文(前)	曾畑式, 石斧, 磨石	
42	田部田城跡	田部田東陣・西陣	台地	南北朝以降	中世山城	
43	平山城跡	平山天神ほか	台地	室町	中世山城	
44	馬越原	平山馬越原	台地	縄文(早)中世	集石遺構, 前平式, 土師器, 白磁, 青磁	平成6年度確認調査
45	野間陣ノ尾城跡	野間陣ノ尾	台地	南北朝以降	中世陣跡	
46	山下	古殿山下	丘陵地	平安～鎌倉	青磁, 白磁, 土師器	平成6年度調査
47	飯倉神社境内	中福良宮飯倉神社境内	微高地	古墳	成川式, 土師器	平成10年度確認調査
48	荒平古窯跡	金峰町花瀬荒平	山腹	平安(前)	古窯6基, 須恵器(蔵骨器)	「古文化談叢」14・15号
49	中岳	金峰町花瀬	山麓	平安	須恵器	「古文化談叢」15号
50	上水流	金峰町花瀬	低地	縄文～近世	春日式, 深浦式	発掘調査中
51	芝原	金峰町松田南	低地	縄文, 古墳, 古代, 中世		発掘調査中
52	渡畑	金峰町松田南	低地	縄文, 古墳, 古代, 中世		発掘調査中
53	持鉢松	金峰町松田南	低地	縄文～中世		発掘調査中
54	白樫野A	金峰町白川	台地	古代	蔵骨器	「鹿兒島考古」34号
55	上加世田遺跡	加世田市川畑上加世田2715	河岸段丘	縄文～中世	土器, 石器, 岩偶, 石棒, 石斧, ヒスイ	市埋文報(3)(4)(13)
56	椿ノ原遺跡	加世田市村原椿ノ原	台地	旧石器～古墳, 中世, 近世	剥片尖頭器, 隆帯文, 土器, 須恵器, 土師器, 砥石, 石斧, 岩偶, たたき石	市埋文報(1)(15)(17)(20) 県埋文報(5)



第1図 周辺遺跡地図(1/50,000)

第3節 土層

古市遺跡は、現在畑地・養豚場として利用されており、耕作や豚舎建設に伴い一部が削られ層の欠落がみられる所が多くあった。また遺跡の東側と中央部と西側では様相が異なっている。大きくは、L-28区～N-25区の斜目に段差が入るか所から東側と西側に分かれ、東側が河川の自然堤防状の地形で、西側が河川に伴う三日月湖状の地形である。この差に伴い層序が西側と東側とで異なったため、第7図はL-28区～N-25区の斜目に段差が入るか所から東側はⅦ層上面の等高線、西側はアカホヤ火山灰層を剥いた時点の等高線である。

遺跡の東側は、等高線を見ると（第7図参照）調査区内で高い部分が6区～13区と18区～28区の2か所あり、河川側と東側に緩やかに下っている。更に14区より東側は鹿児島県内の台地上の遺跡でみられるような地層の堆積をしている。また15区からL-28区～N-25区へ斜目に段差が入るか所までの中央部は、アカホヤ火山灰層の下層が砂層・砂礫層であり、更にその下層は、川の水の浸透により確認トレンチの壁が崩落するため確認できなかった。またアカホヤ火山灰層の上位に位置する地層はどの層も厚く、Ⅴ層は開聞岳噴出期限の灰コラが黄橙色を呈し小さなパミスが15～20cm大の固まりとなり密集した層としてみられた。

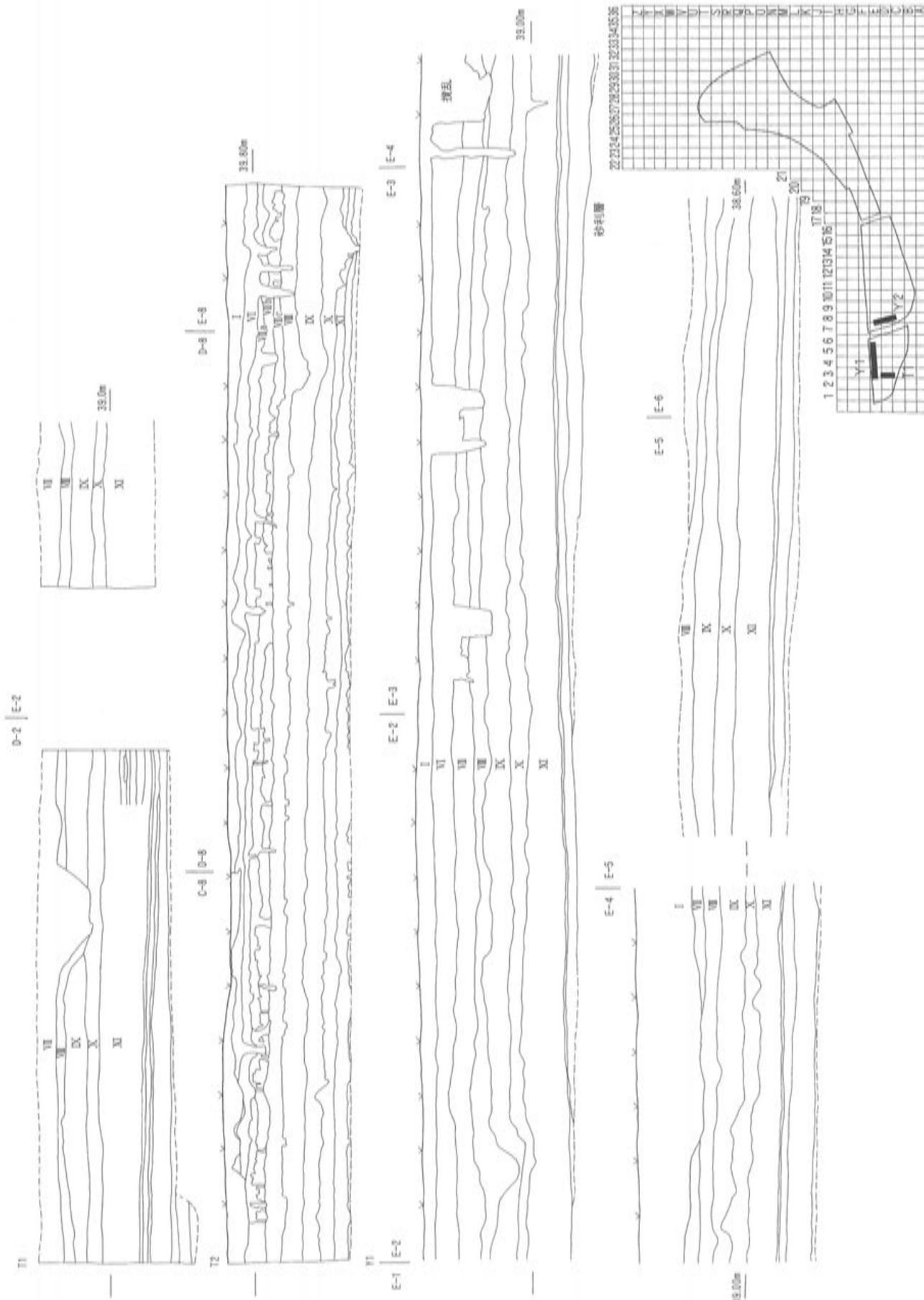
遺跡の西側は、近世から現代まで水田として利用され、最近では養豚場として利用されていた。等高線を見ると一段低く三日月湖状を呈し、東側部分のⅡ層～Ⅵ層に相当する部分が異なり、湖底堆積のような堆積をしている。第7、8図に示した調査範囲より北側の河川側も試掘調査をしたが、やはり同じような層序であった。また、河川に向かい高くなり自然堤防状になっていたことが推測される。この三日月湖状の窪まりの湖底堆積のような層の始まる高さは、東側のⅡ層下面よりも2m低く、層中からは中世・古代・古墳時代・弥生時代の遺物が出土し、その下位のアカホヤ火山灰層の二次堆積土中からは古墳時代・弥生時代の遺物が出土した。これより下位は砂層・砂礫層である。また、更にその下層は、川の水の浸透により確認トレンチの壁が崩落するため確認できなかった。これらのことからこの三日月湖状を呈する地形は、アカホヤ火山灰降灰以前に形成され、少なくとも中世頃までは三日月湖状ないしは、河川の自然堤防の後背湿地のような様相をしていたことがうかがえる。

古市遺跡と対岸の南田代遺跡の地層を比較してみると、異なる点は、先ずアカホヤ火山灰層より上位の層厚と枚数である。古市遺跡が各層が厚く枚数が多い。次に灰コラの様相である。古市遺跡ではパミスが層としてみられ

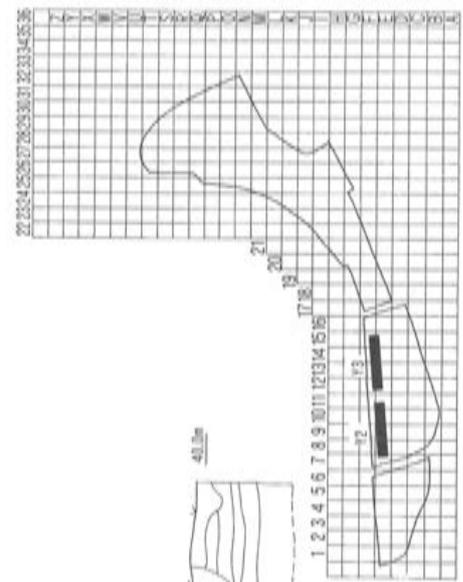
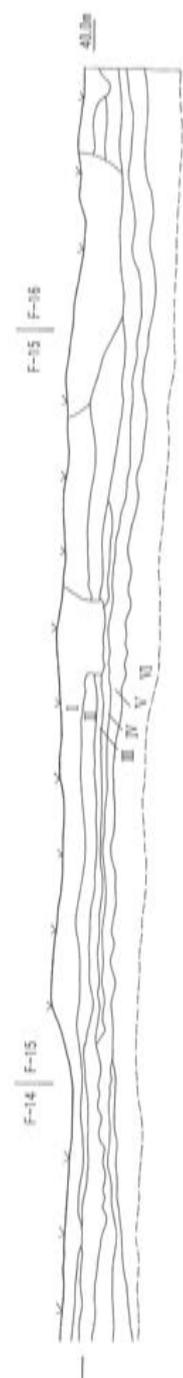
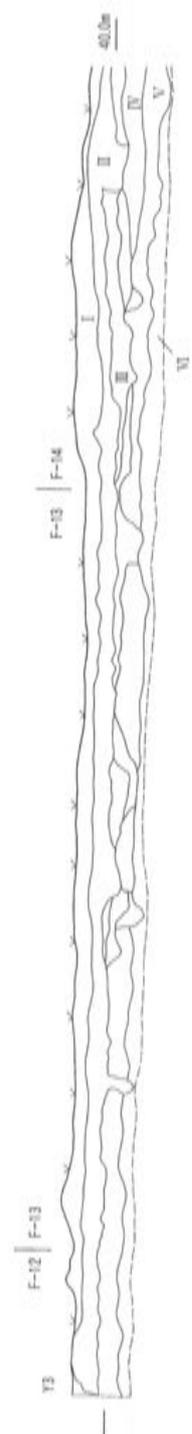
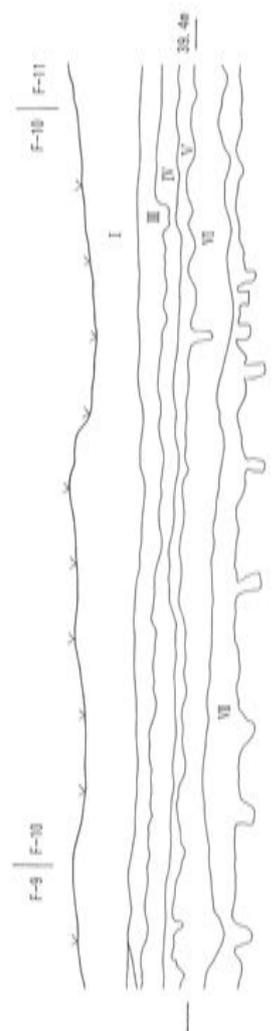
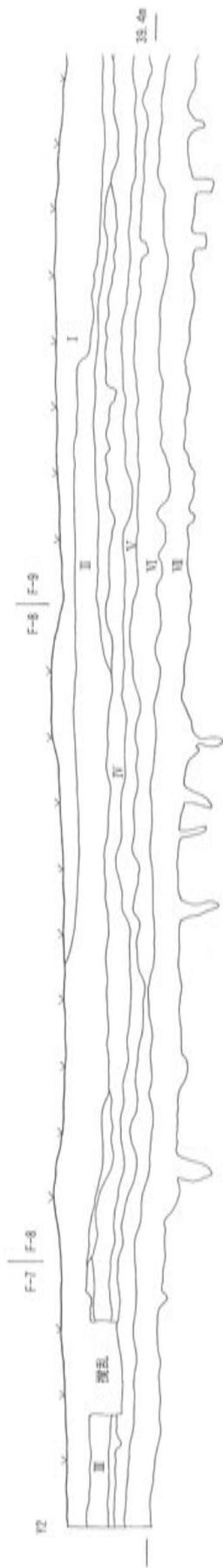
ることに対し、南田代遺跡では塊状で堅く締まり、青灰色を呈する。共通する点は、先に述べたようにアカホヤ火山灰層よりも下位の状況である。古市・南田代両遺跡共に地層は砂層を基盤にするか所と鹿児島県内の通常の台地状の地層を基盤にするか所がみられ、アカホヤ火山灰降灰後安定している。対岸に位置する南田代遺跡でも同様の現象がみられ、アカホヤ火山灰降灰前と後では洪水の起こり方に差があったことも読みとれる。また古市遺跡と南田代遺跡とではアカホヤ火山灰降灰後の層の堆積は異なっており、出土遺物の時期も異なる。川を挟んで対峙する2遺跡で地層や出土遺物に差のあることは、地形・自然条件などからくる遺跡形成の選択性など考えらる上で貴重である。

I	表層	I	表土
II	黒褐色シルト土 (中世・古代・古墳時代遺物包含層)	II a	赤褐色土 (近世～現代遺物包含層)
III	茶褐色シルト土 (古墳時代遺物包含層)	II b	黒褐色粘質土 (近世～現代遺物包含層)
IV	黒褐色シルト土 (弥生時代遺物包含層)	II c	明黒褐色粘質土 (中世遺物包含層)
V	灰褐色火山灰土 (開聞岳起源灰コラ)	II d	灰白色粘質土 (中世・古代遺物包含層)
VI	黒色シルト土 (縄文時代晩期、灰コラ)	II e	明黒褐色粘質土 (古代遺物包含層)
VII	黄橙色火山灰土 (アカホヤ火山灰)	III	茶褐色砂質土 (古墳時代・弥生時代遺物包含層)
VIII	黄白色粘質土	IV	黄褐色砂質土 (弥生時代遺物包含層)
IX	灰褐色粘質土	V	乳灰褐色砂質土 (河床)
X	茶褐色粘質土		
XI	黄色火山灰土 (サツマ火山灰)		

第2図 基本土層柱状模式図



第3図 土層断面実測図1 (1/100)



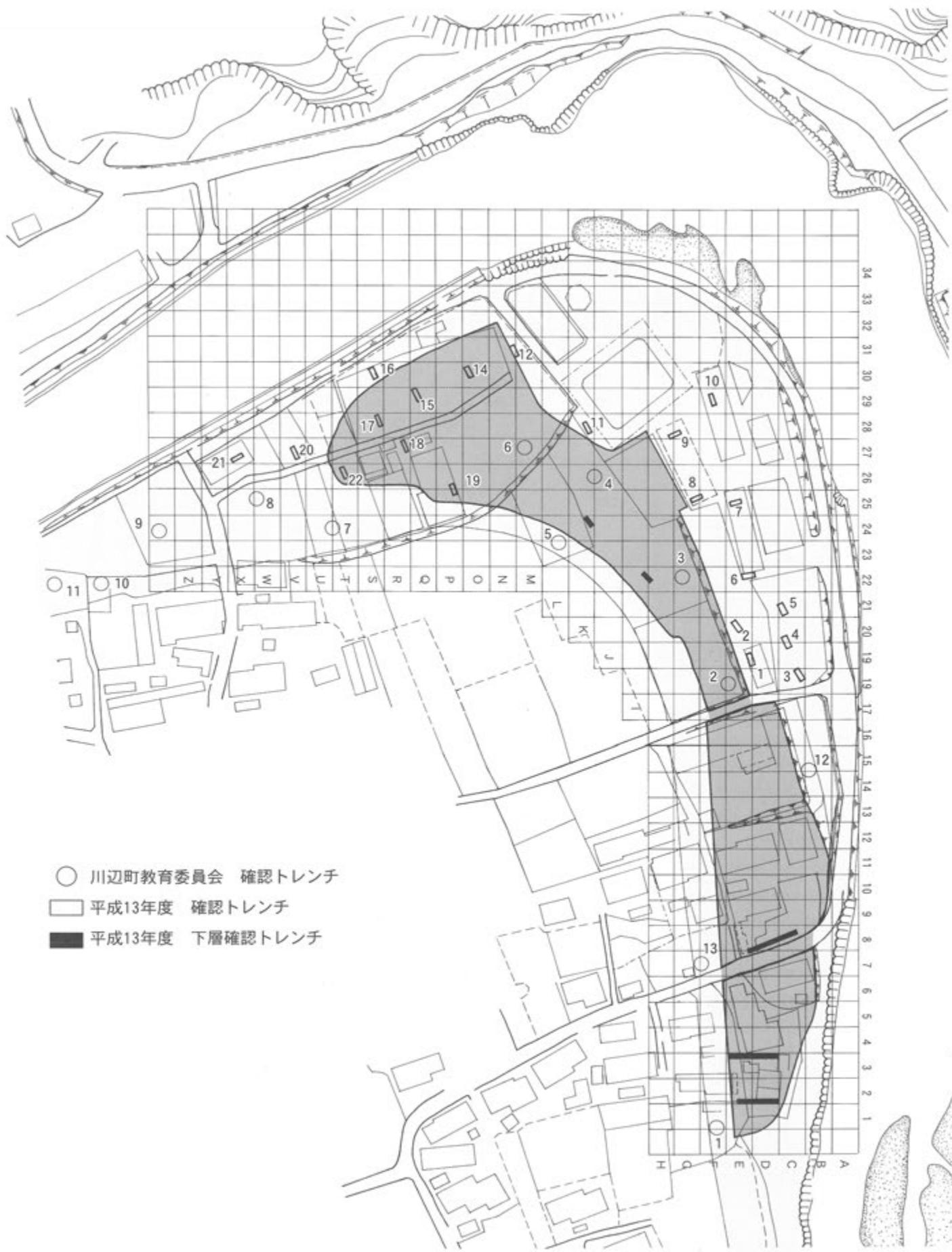
第4图 土层断面实测图2 (1/100)



第6図 古市遺跡周辺地形図(1/1000)

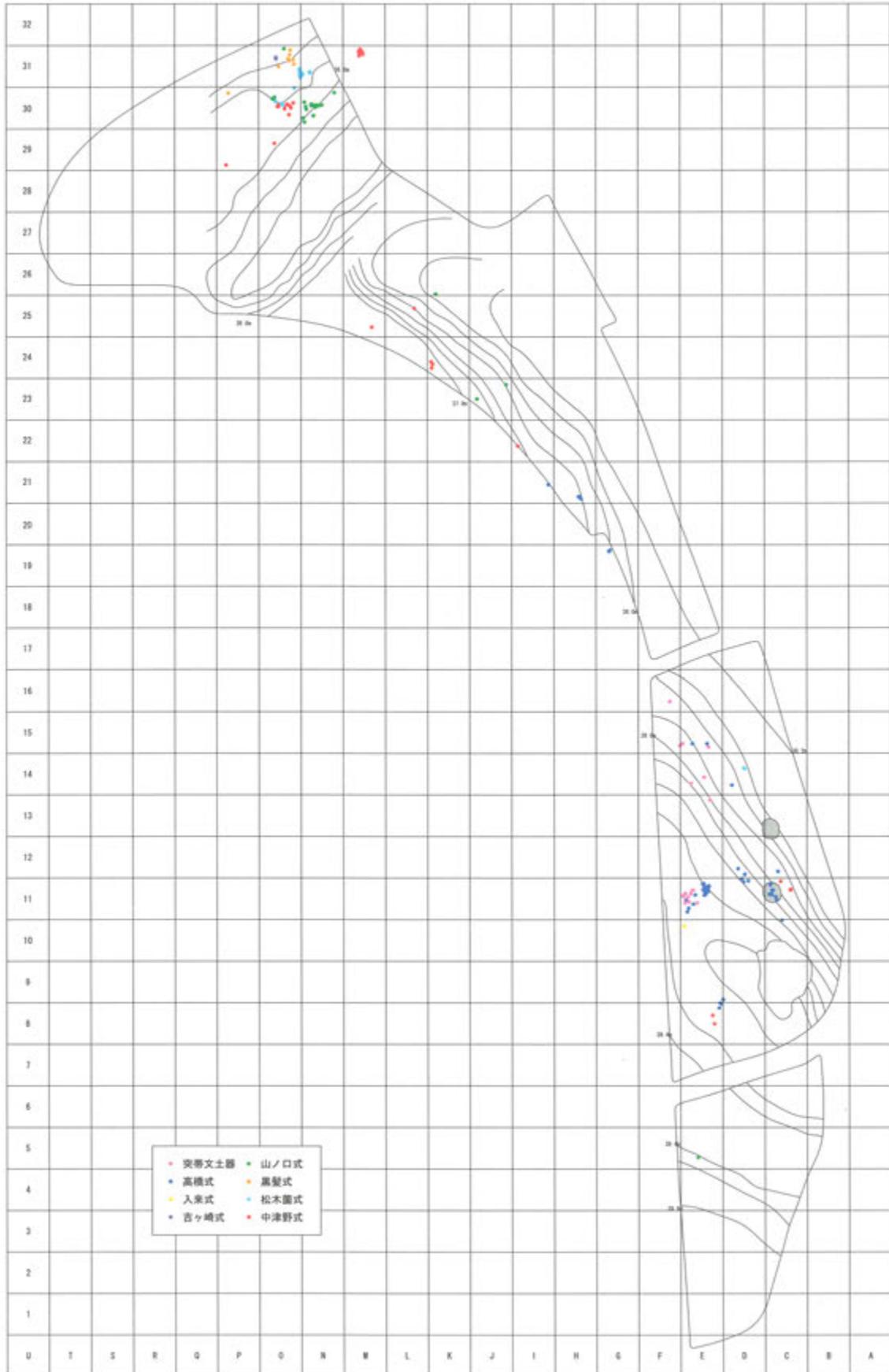


第7図 周辺地形及びコンタ図

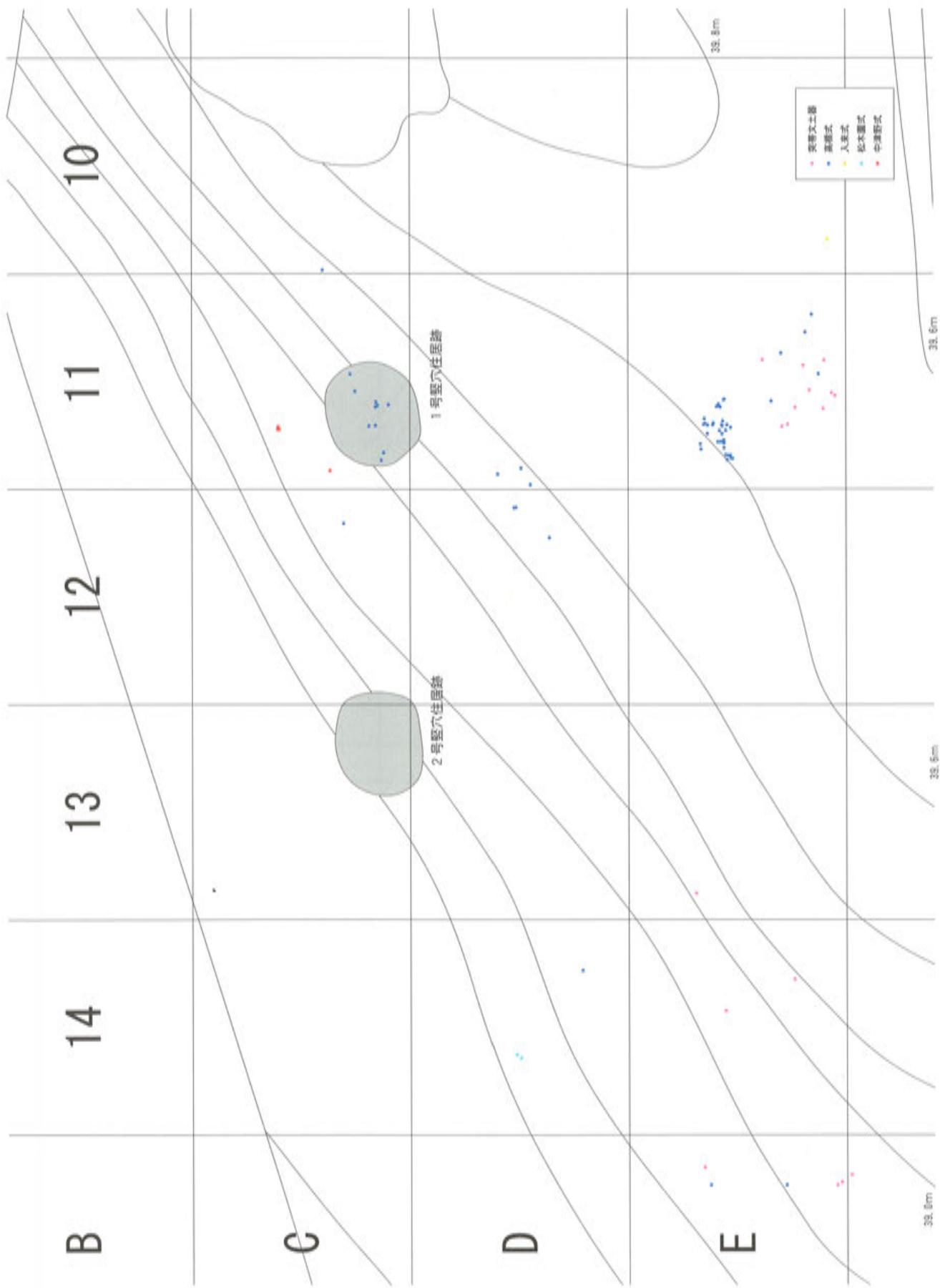


第8図 グリッド配置及びトレンチ配置図

第三章 発掘調査の成果



第9図 弥生時代遺物出土状況



第10図 弥生時代遺構位置図

第1節 弥生時代の調査

1 調査の方法と概要

調査は、国土座標軸IN39及びIN40を結ぶ線を基準に東西南北に10m×10mのグリッドを設定して実施した。調査区域の南側から北側へ1・2・3…、東側から西側へA・B・C…とし、D-2区・H-7区と表示した。全面発掘調査の表面積は、17,180㎡である。

弥生時代の調査は、遺物包含層であるIV層が残存するF-7区～E-18～F-19区、M～P-29～N～P-31区までを調査した。E-2区～DE-4区までは削平のために包含層はなかったが、遺構検出の可能なIV層が残存していたため調査を行った。だが、遺構は検出されなかった。

調査の結果、弥生時代の出土遺物は、刻目突帯文土器や高橋式土器、山ノロ式、入来式、吉ヶ崎式、黒髪式、松木菌式、中津野式土器や、石鏃、石斧、石包丁が出土し、2基の竪穴住居跡が検出された。高橋式土器の完形品が、2号竪穴住居跡より出土し、中津野式の大甕がO-31区より完形で出土した。

2 弥生時代の遺構

2基の竪穴住居跡が、C～D-11区～C-13区のVI層より検出された。1号竪穴住居跡は全形が検出され、2号竪穴住居跡は東西に掘られた近代の溝跡によって大半を欠損しており、残存するのは南側のみであった。2基の竪穴住居跡は、南北に流れる現河川に平行して位置し、1号竪穴住居跡から15mほど離れた北東側にやや下る地形に2号竪穴住居跡が位置する。

遺物の平面的な分布も遺構の位置に重なり、C-10区～E-12区に遺物が広がり竪穴住居跡周辺に多くが分布している。中でも、柱状片刃石斧が1号竪穴住居跡近くから出土している。また、2号竪穴住居跡からは、床面で弥生時代前期の甕型土器が完形で出土している。2号竪穴住居跡は、1号竪穴住居跡と近接し、柱穴の配置、埋土の状況、遺構内遺物、遺構周辺の遺物などが、1号竪穴住居跡と同じであるため1号竪穴住居跡と同時期の竪穴住居跡であると認定した。

1号竪穴住居跡（第12図、第13図）

C～D-11区、VI層で検出された。平面形は長軸線が南北方向で5.0m短軸線が東西方向で4.2mの楕円形を呈する。検出層と埋土が、検出面から底面までほぼ似通った黒茶褐色土であったため、検出は困難を極めた。検出面から底面までの深さは12cmと浅く、VII層まで掘り込んでいる。埋土は前述のとおり単一の黒茶褐色土である。遺構の床面で12基のピットと1基の土坑を検出した。ピットは、浅いP2号、P6号ピットがあるが、総じて底面から25cm以上の掘り込みで深い。また土坑は、掘り込みが約13cmで、中央ピットの可能性がある。ピット、土坑ともに埋土は、黒茶褐色土であった。

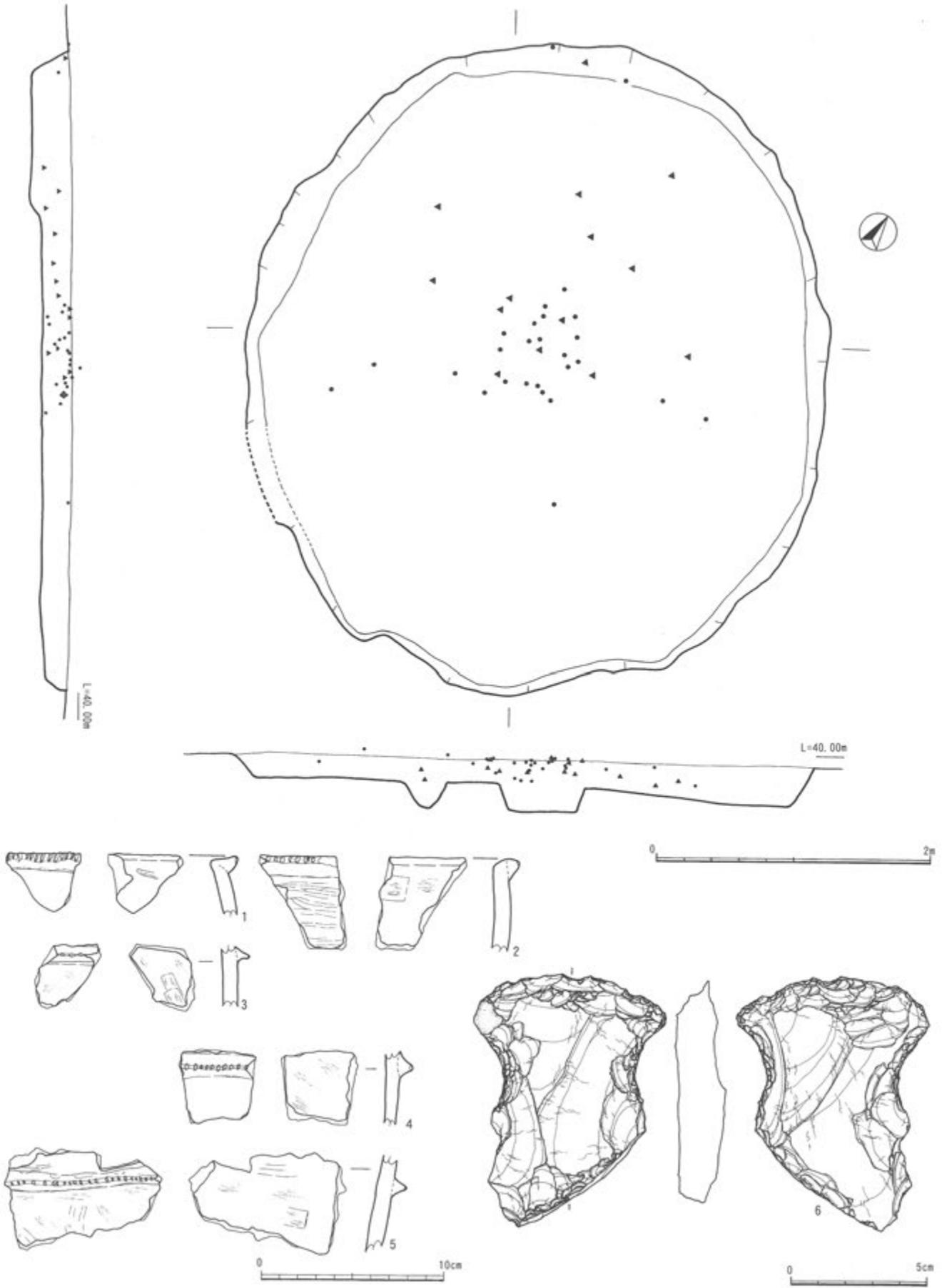
遺物の多くは、埋土中に散在して出土するが、土器の平面分布は住居跡の中心に集中して出土している。土器は、弥生時代前期の土器を中心に27点出土し、ホルンフェルス製の打製石斧6が1点出土している。

土器1～5は弥生時代前期の甕形土器である。1、2の口縁部突帯は断面三角形を呈し、ヘラ状工具による刻目を密に施す。2は黒色を呈し、外面にヘラミガキを施す。4、5は胴部片である。突帯にはヘラ状工具による浅い刻目を施している。他に壺型土器の胴部片が1点出土している。石斧6は、主剥離面を大きく残し頭部及び挾部に連続する整形剥離が入り、包含層より出土している他の石斧と石材、頭部の大きさ剥離が似る。

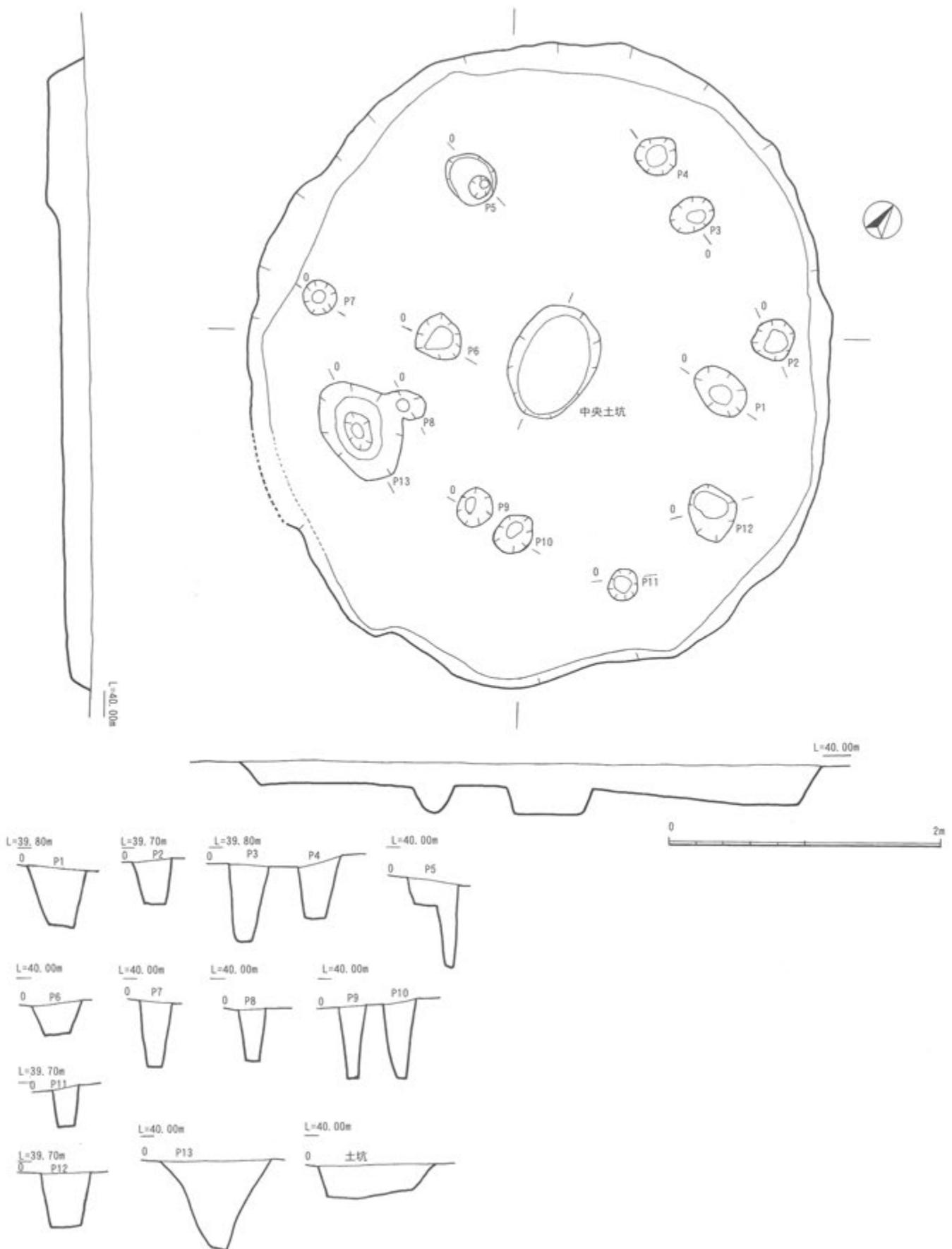
2号竪穴住居跡（第13図～第15図）

C～D-12～13区、VI層で検出された。竪穴住居跡は、VIII層まで掘り込まれた近代の溝跡によって大半を欠損し、残存するのは南側のみであった。平面形は、長軸線が東西方向で3.9mで1号竪穴住居跡と同じ楕円形を呈するものと推測できる。また、埋土は検出面から底面まで単一の黒茶褐色土で、ピットの位置と埋土より住居跡に伴うものと考えられる。検出面から底面までの深さは10cmと浅くVII層まで掘り込んでいる。ピットは、浅いP2号ピットがあるが、総じて底面から20cm以上で深い。

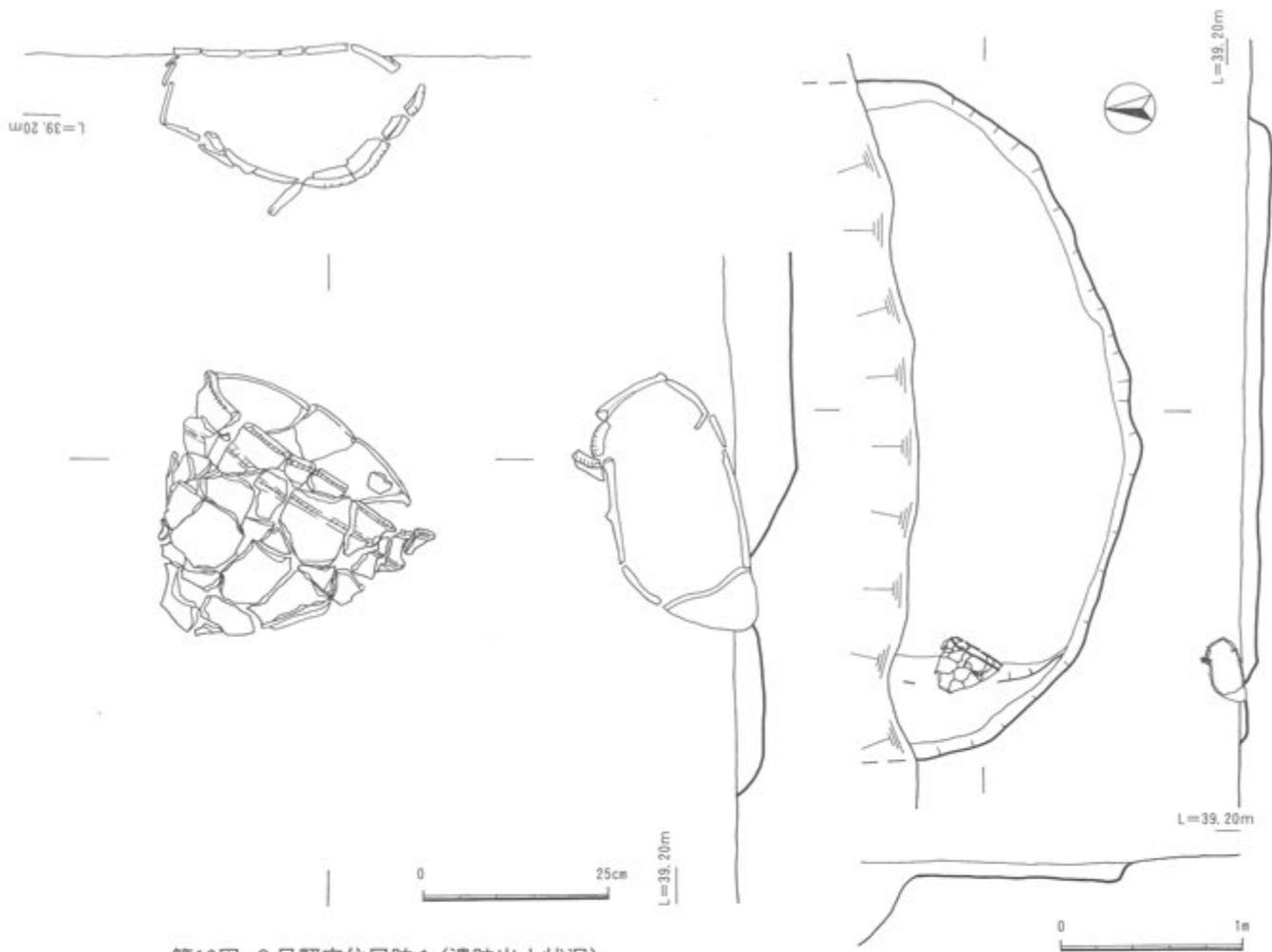
遺物は、住居跡の西端より住居側に倒れた状態で弥生時代前期の甕型土器7が1点出土した。土器7は、割れてはいたが、ほぼ完形の状態で出土した。甕形土器7は口径26.2cm、器高31.3cm、底径7.3cmの完形品である。胴部は張りのない砲弾形で、底部は平底である。口縁と上胴部にはシャープな作りの断面三角形の突帯文を巡らし、突帯端部にヘラ条工具による刻目を浅く密に施す。口縁部上面は平坦で、胴部突帯を縁部に近い位置に貼り付けている。内外面に煤の付着がみられ、下胴部外面は2次焼成のため赤褐色に変色している。また、内外面ともナデ調整である。



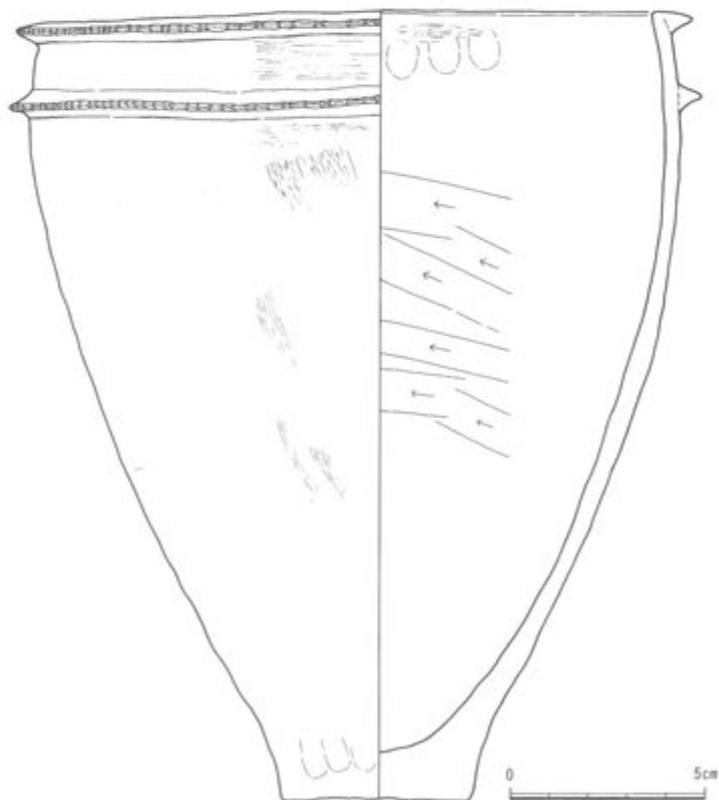
第11図 1号竪穴住居跡1 (出土遺物実測図)



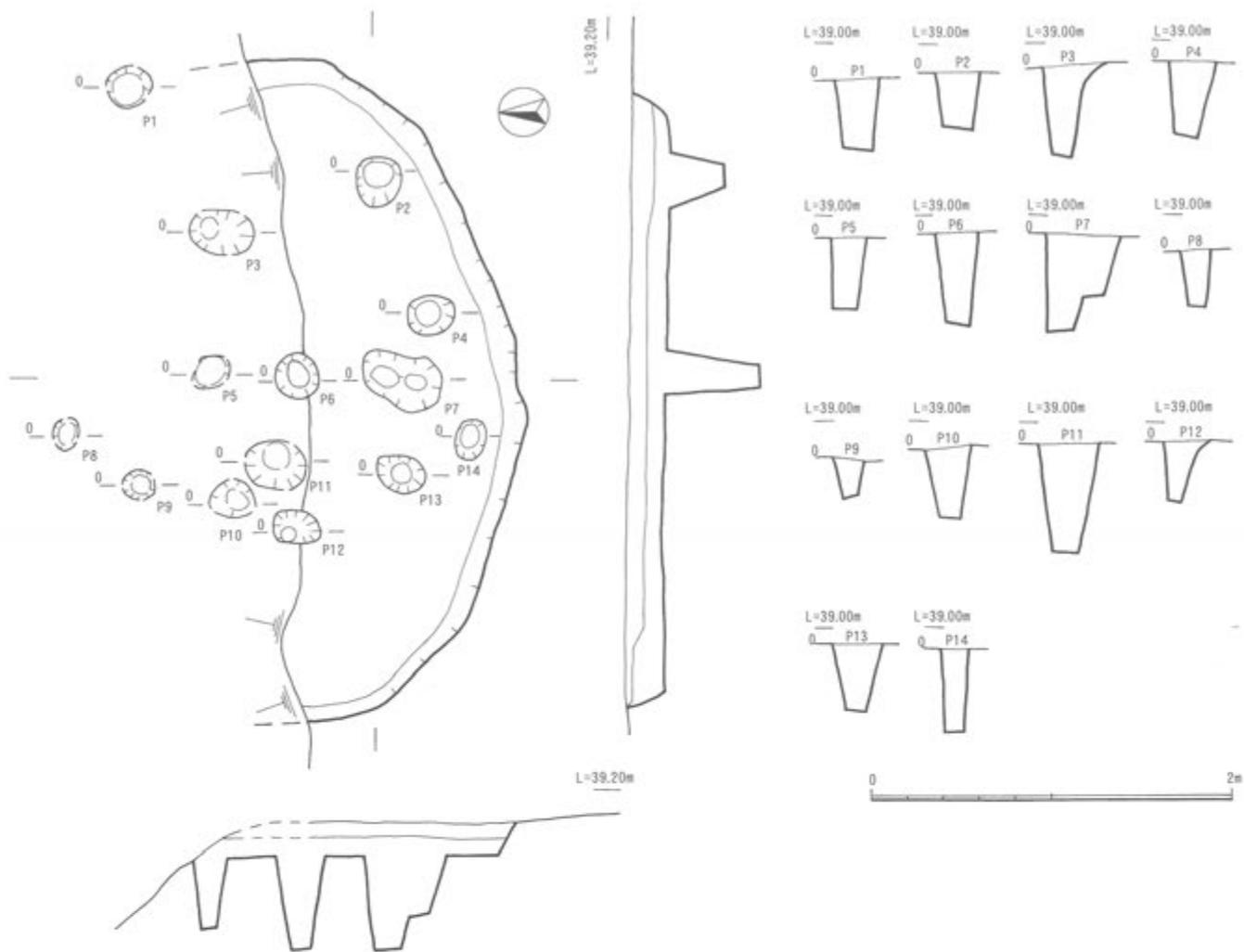
第12图 1号竖穴住居跡2



第13図 2号竖穴住居跡1 (遺跡出土状況)



第14図 2号竖穴住居跡2 (出土遺物実測図)



第15図 2号竪穴住居跡3

第2表 1号, 2号竪穴住居跡出土遺物観察表

押図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
11	1	704	1住	-	甕	口縁部	-	-	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	橙, 黒褐	橙, 淡橙	赤色砂粒, 砂粒混	(外面) 煤付着
	2	714	1住	-	甕	口縁部	-	-	-	ヘラミガキ, 刻目突帯	ナデ	良	黒褐	褐灰	石英, 白色砂粒, 小石少混	
	3	699	1住	-	甕	胴部	-	-	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	にぶい褐	にぶい黄橙	石英, 白色砂粒	
	4	711	1住	-	甕	胴部	-	-	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	明褐, 赤褐	暗赤褐	石英, 赤色小石, 白色細粒	
	5	488 698	D-11 1住	IV	甕	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	暗褐	にぶい褐	石英, 赤色小石	
14	7	一括	2住	-	甕	完形	31.3	26.2	7.3	ナデ, 刻目突帯 二条	ナデ	良	褐灰, 黒褐, 橙	暗赤灰, 橙, 黒褐	石英, 赤色砂粒, 白色細粒	煤付着

3 包含層出土土器

(1) 大甕, 甕形土器

弥生時代前期 (第16~18・20図)

8~13は弥生時代前期前半段階の刻目突帯文土器である。8, 9, 11~13は口縁部と胴部屈曲部に断面三角形を呈する低い刻目突帯を巡らす。口縁部突帯は口縁端部に接して貼り付け, 突帯には棒状工具のようなもので, 正面から深い刺突刻目を施す。外面は粗いヘラミガキ, 内面はナデ調整である。10は上胴部が直立気味に立ち上がる小型の甕形土器である。屈曲部の突帯には, 棒状工具による刺突刻目を施す。他の甕形土器に比べ, 比較的精製された胎土を使用している。

14~32の甕形土器は同時期である可能性が高いため, まとめて報告する。そのほとんどが, 胴部に膨らみをもたず, 口縁部と胴部に断面三角形の突帯を巡らす。胴部突帯は口縁部に近い位置に貼り付け, 突帯にはヘラ状工具による浅く密な刻目を施している。器面調整はナデを基本とするが, まれにミガキのものもある。17は上胴部に2条の刻目突帯を施す。刻目は突帯先端に浅く刻む。19は口縁部に丸く肥厚した小さな突帯を貼り付け, 胴部の屈曲部の上にヘラ描沈線文を1条施す。内外面ヘラミガキで, 鈍い横橙色を呈する。24は外面ヘラミガキで, 口縁部に板状工具による刻目を施す。29, 31, 32は突帯に刻目を施さないものである。29の外面調整は胴部突帯より上がナデ, 下がヘラミガキである。31の突帯は丸みを帯び, 外面にはヘラミガキを施す。

34は口縁部突帯が水平に張りだし, 平坦口縁を形成する。胴部突帯は口縁部突帯に比べ小さく, ヘラ状工具に

よる刺突刻目を施す。内外面ナデ調整である。弥生時代前期末~中期初頭の入来式土器である。

38~40は底部である。38は平底で, 外面ミガキ調整である。39, 40は浅い上げ底で内外面ナデ調整である。

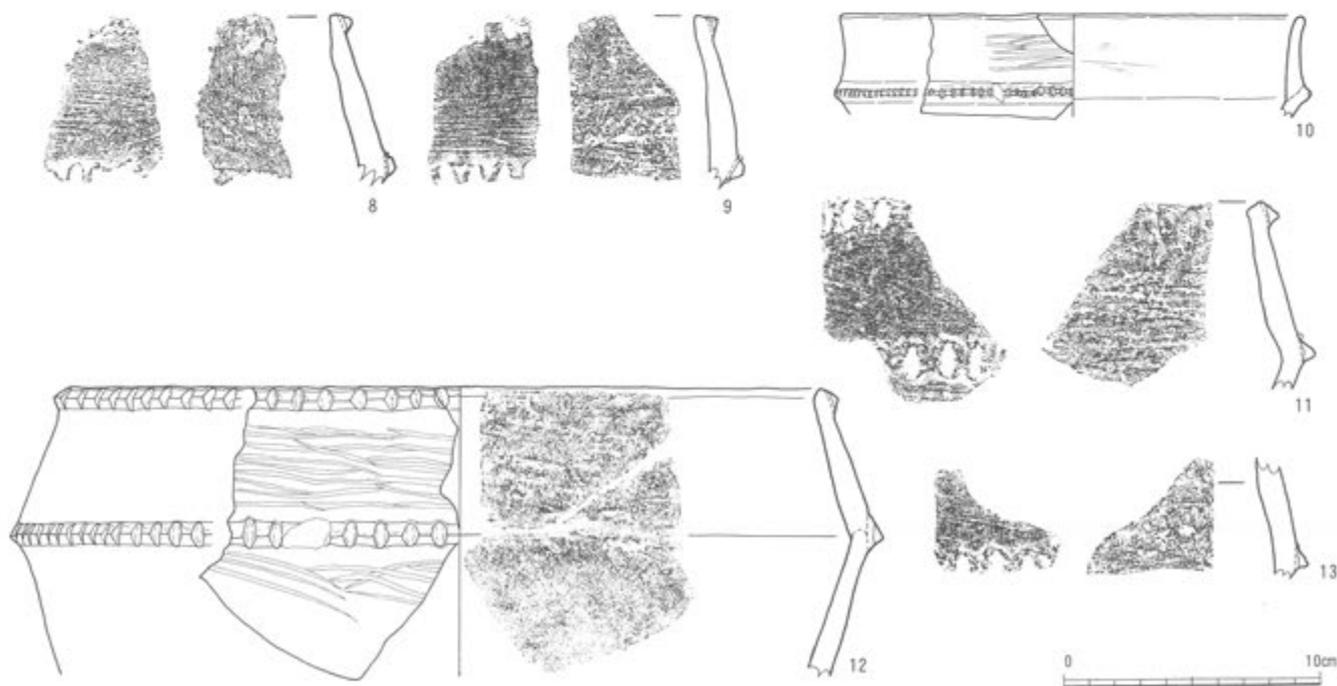
弥生時代中期 (第19~21図)

33の大甕は口径55.9cm, 器高50.6cm, 底径5.6cmの完形品である。厚みのある口縁部は「く」の字状を呈し, 上胴部には鉤状に折れ曲がった突帯を施す。胴部は膨らみがなく, 底部は厚みのある平底である。底部が小さいために土器の座りが不安定である。器面には輪積みの痕跡である緩やかな凹凸が, 幅4cm間隔で水平に認められる。外面は煤が付着し, ヘラミガキを施す。内面はナデ調整で部分的にヘラミガキがみられる。

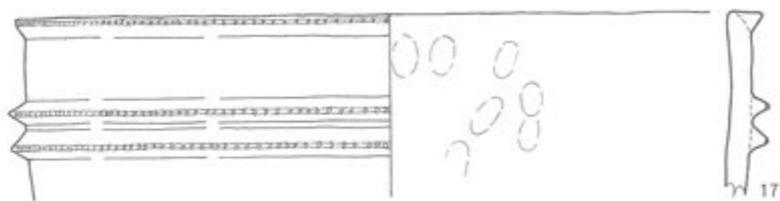
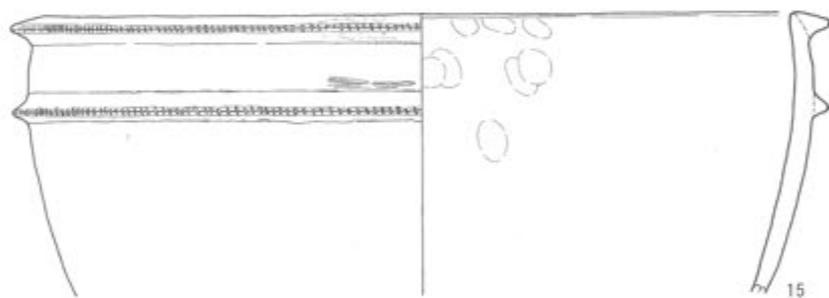
35は口縁部の立ち上がりが弱く, 口縁部上面が浅く凹んでいる。口唇部は丸みを帯び, 口縁部内面が部分的に弱く突出している。胴部は張りをもたず, 外面に煤が多量に付着している。

36は断面方形の分厚い口縁部が「く」の字状に起きあがる。口唇部は浅く窪み, 上胴部には突帯を1条施す。外面はヘラミガキ, 内面はナデ調整である。弥生時代中期後半の山ノ口式土器であると考えられる。

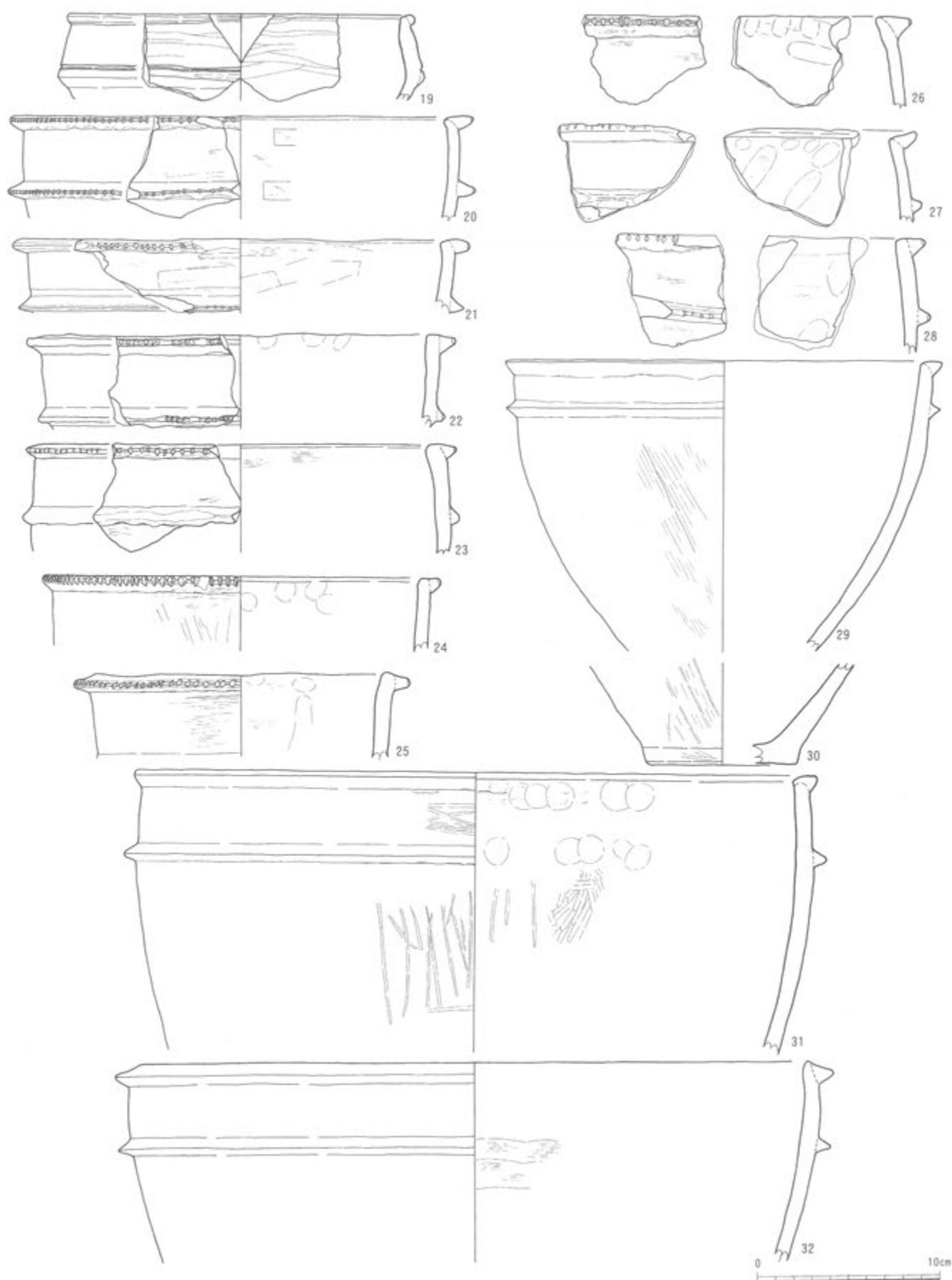
41~43は口縁部が上方へ起きあがり, 口縁部上面の反りが強い。口縁部内面の突出が顕著で口唇部を丸くおさめる。胴部は膨らみをもたず, 煤が多量に付着している。41, 42の外面調整は口縁部ナデ, 胴部ハケ目, 内面は口縁部ナデ, 胴部ハケ目である。弥生時代中期後半の黒髪式土器である。



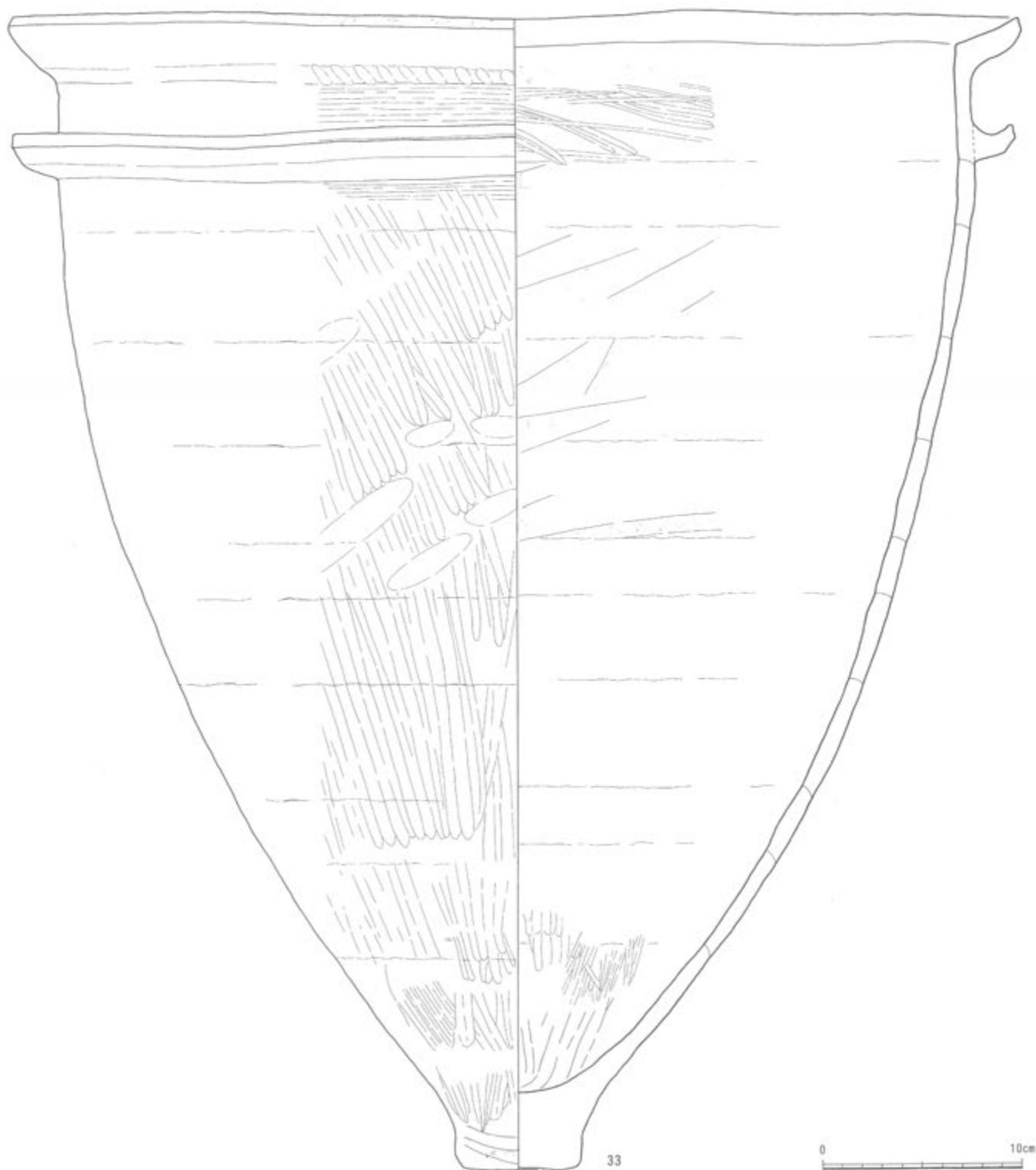
第16図 弥生時代出土遺物実測図2



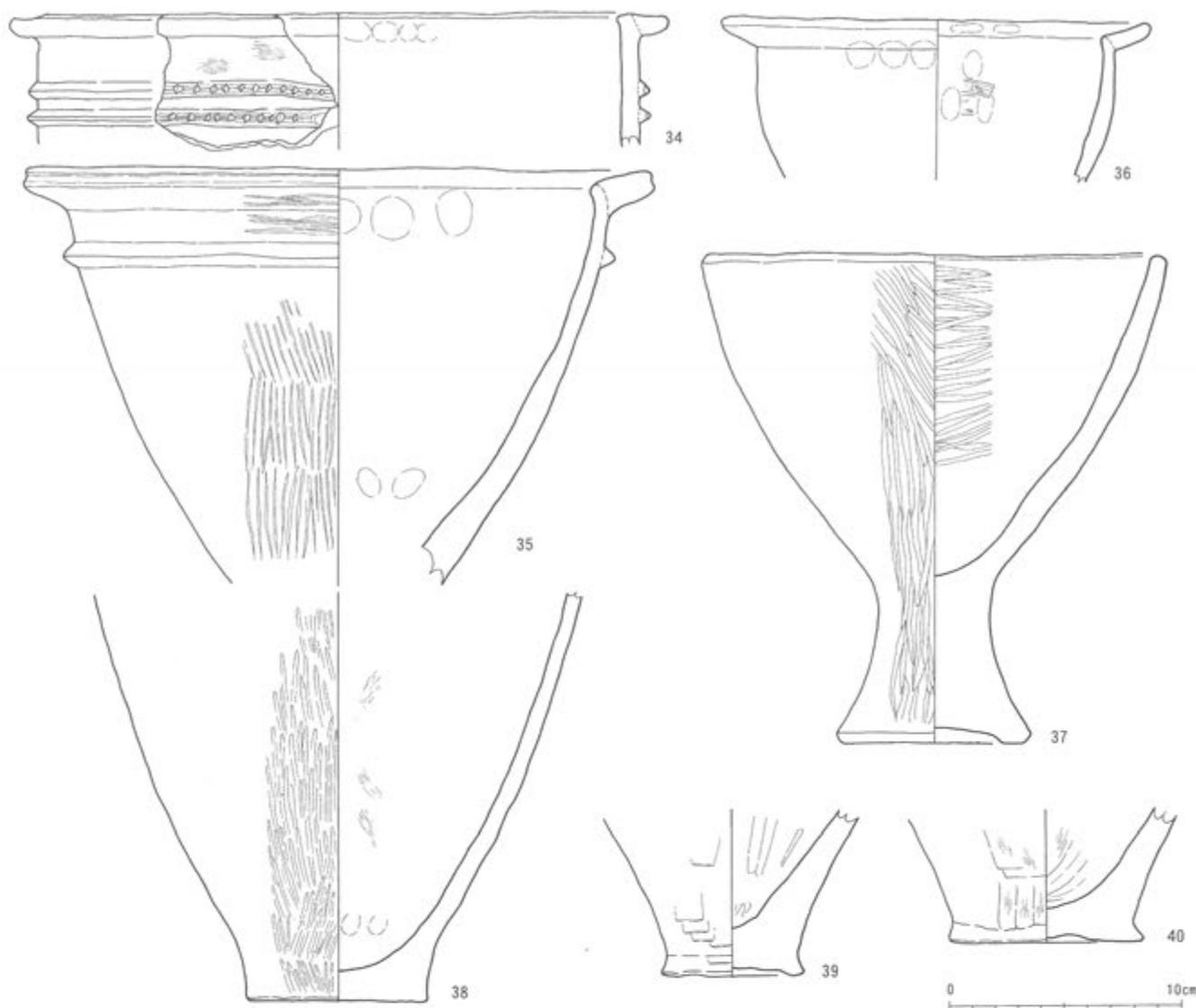
第17図 弥生時代出土遺物実測図2



第18図 弥生時代出土遺物実測図3



第19図 弥生時代出土遺物実測図4



第20図 弥生時代出土遺物実測図5

弥生時代後期 (第23~25図)

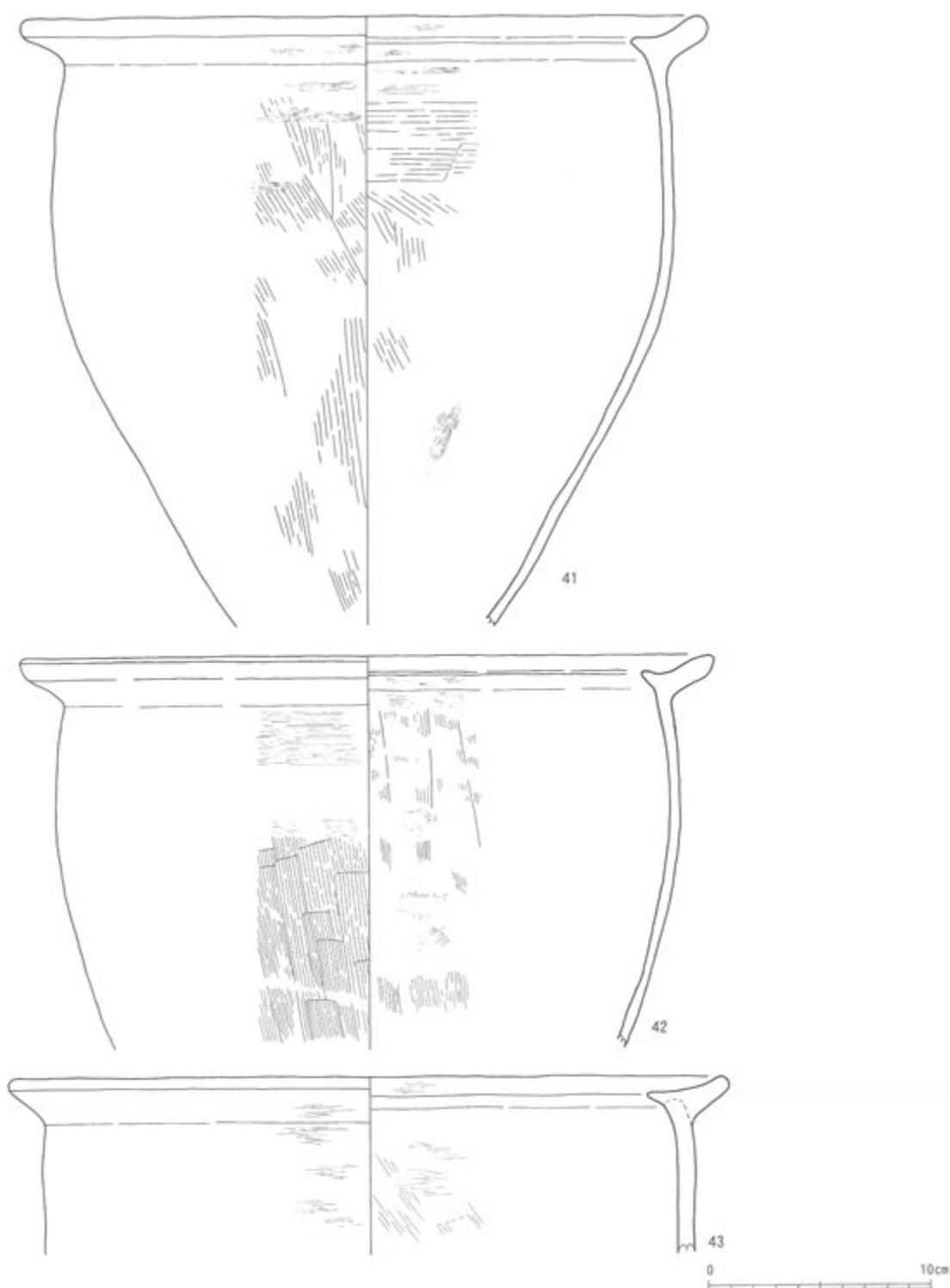
56は口縁部が「く」の字状を呈し、胴部は膨らみをもたず中空の脚部へと至る。口縁部の内面には弱い稜が残っている。外面調整は口縁部と下胴部が粗いハケ目、上胴部が粗いケズリである。内面は口縁部が粗いハケ目、胴部はナデ調整である。

57の口縁部は「く」の字状に屈曲し、口縁部の付け根から口唇部に向かって太くなる。口縁部内面には稜が形成され、胴部は膨らみをもつ。胴部外面は細かいハケ目を丁寧に施す。胴部内面は外面よりも粗いハケ目を施している。

58~60, 62~66は弥生時代後期後半~終末の中津野式土器と考えられる。58~60は口縁下に突帯を1条施すものである。58, 60は同一個体で、上胴部に弱い膨らみをもつ。外面調整は口縁部がナデ、胴部がケズリ後ナデである。60の胴部外面にはケズリ痕が残っている。

59は口縁下に形の整った三角突帯を1条施す。外面はハケ目後ナデ、内面は口縁部がナデ、胴部がハケ目である。62~65は胴部が無文のもので、このグループは、比較的薄い作りで重量が軽い。62~64は口縁部が弱く外傾し、上胴部に弱い膨らみをもつ。62の外面は口縁部ナデ、胴部ハケ目、内面はナデ調整である。63の下胴部外面はケズリ後ナデ調整である。65は口唇部が先細りする形態で、内外面ナデ調整である。

61は口縁部の立ち上がりが強く、胴部は膨らみをもたず底部へとすぼまる。口縁下にはヘラ状工具による1条の刻目突帯がみられる。外面は口縁部がナデ、胴部が粗いケズリである。内面は口縁部がハケ目、胴部には2~3cm間隔で粗いハケ目を縦方向に施す。器壁が厚く、重たい土器である。口縁部の屈曲が弱いことから、古墳時代に属する可能性がある。



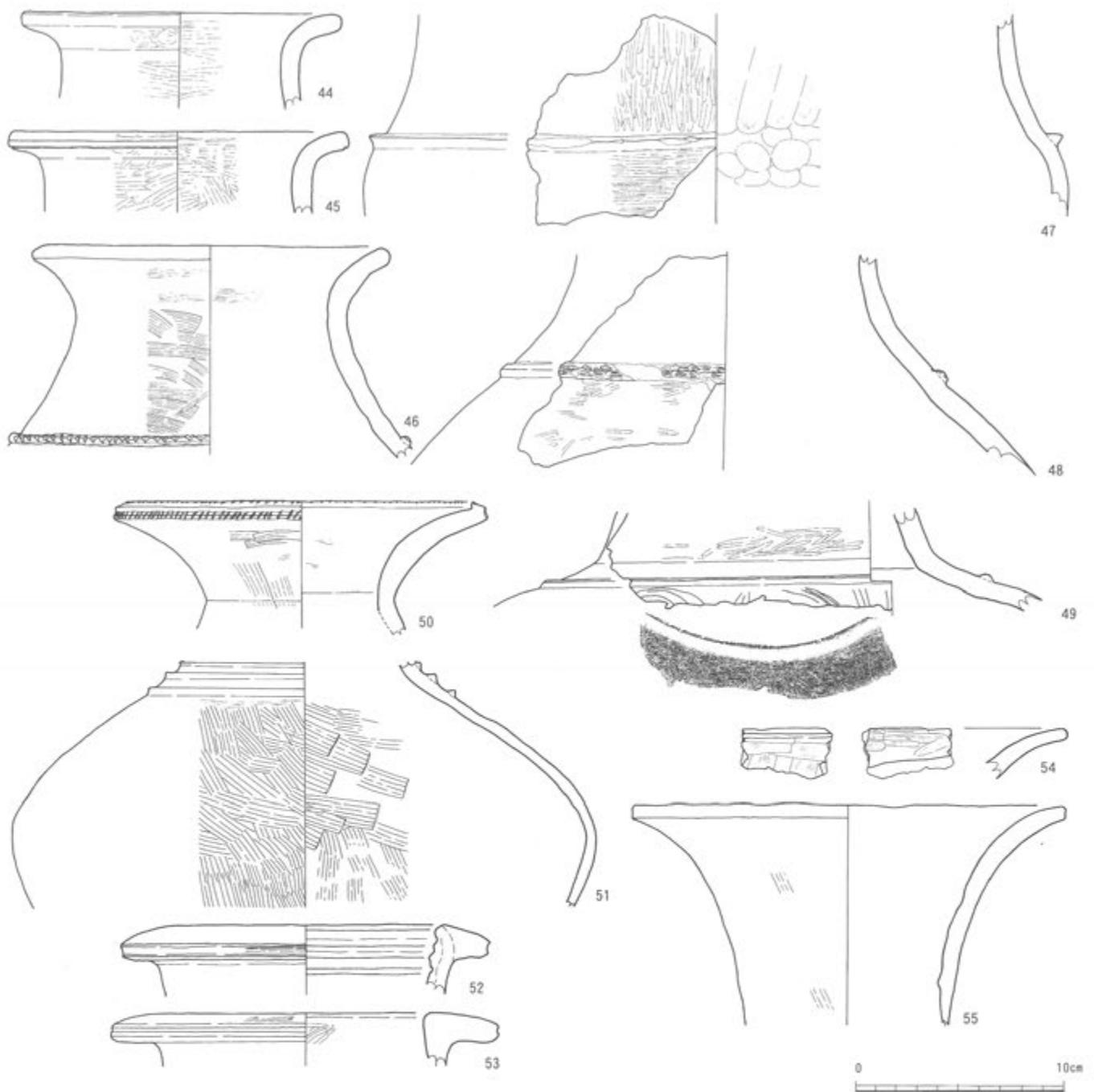
第21図 弥生時代出土遺物実測図6

(2) 壺型土器 (第22図)

44, 45の口縁部は厚みがあり, 内外面にヘラミガキを施す。45は口唇部の直下にヘラ描沈線文を1条施す。

46は頸部と胴部の境に小さな刻目突帯文を1条施し, 外面は口縁部がナデ, 頸部が細かいハケ目である。内面は剥落している。47は大型の壺型土器で, 肩部に断面三

角形の突帯を1条施す。外面はヘラミガキ, 内面調整は剥落しているため不明である。48は頸部の付け根に1条の刻目突帯を巡らす。突帯には刺突による上下2段の刻目を施す。49は上胴部にある突帯の下にヘラ描による線刻が残っている。線刻の意味は不明である。44~49の時期は弥生時代前期~中期初頭頃であると思われる。



第22図 弥生時代出土遺物実測図7

50は口唇部上面に小さな突帯を貼り付け口縁部を上方へ拡張している。口唇部は面取り後、浅い凹みを施す。拡張部と口唇部下端には細く鋭い刻目がみられる。51の胴部は玉葱型を呈し、頸部の付け根に突帯が3条残っている。器壁が薄く丁寧なつくりで、内外面に彫りの深いハケ目を施す。52、53は口縁部を外側へ拡張させている。52は口唇部が浅く凹み、内面に小さな貼付突帯が3条残っている。53は口縁部上面と内面がヘラミガキ、外面はナデ調整である。50～53の時期は弥生時代中期であると考えられる。

55は弥生時代後期の長頸壺であると思われる。色調は黄橙色で、胎土は砂粒の少ない精製されたものである。

(3) 鉢形土器 (第20図)

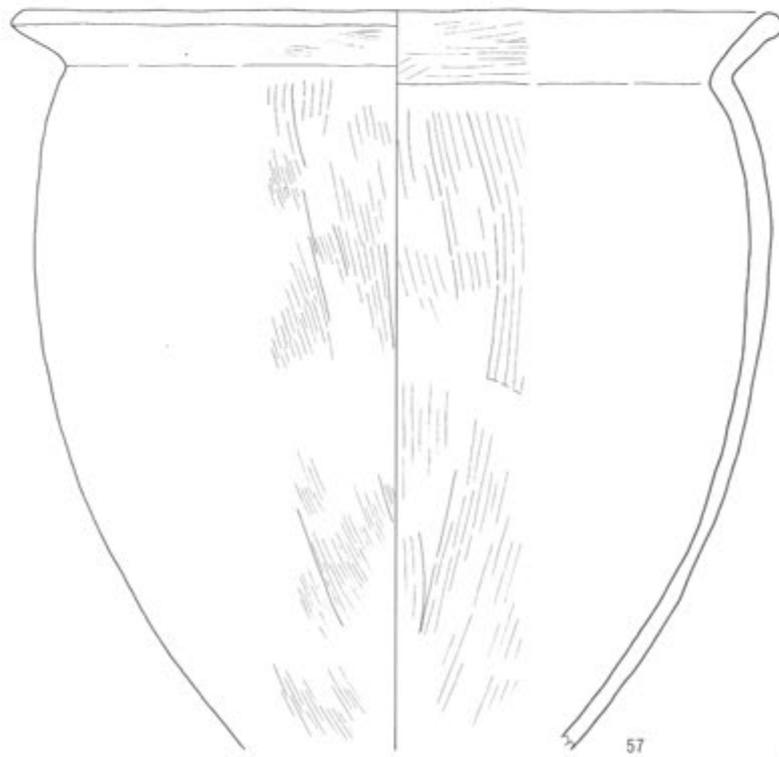
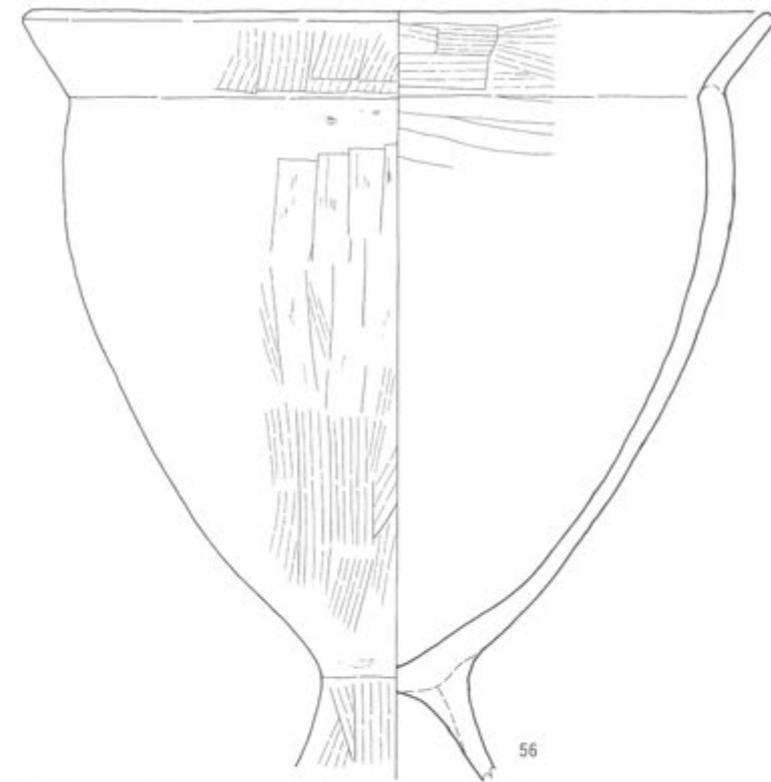
37は台付鉢である。深めの胴部に、浅い上げ底の充実高台がつく。にぶい赤褐色を呈し、器面調整は内外面ヘラミガキである。弥生時代中期のものと考えられる。

第3表 弥生時代出土遺物観察表1

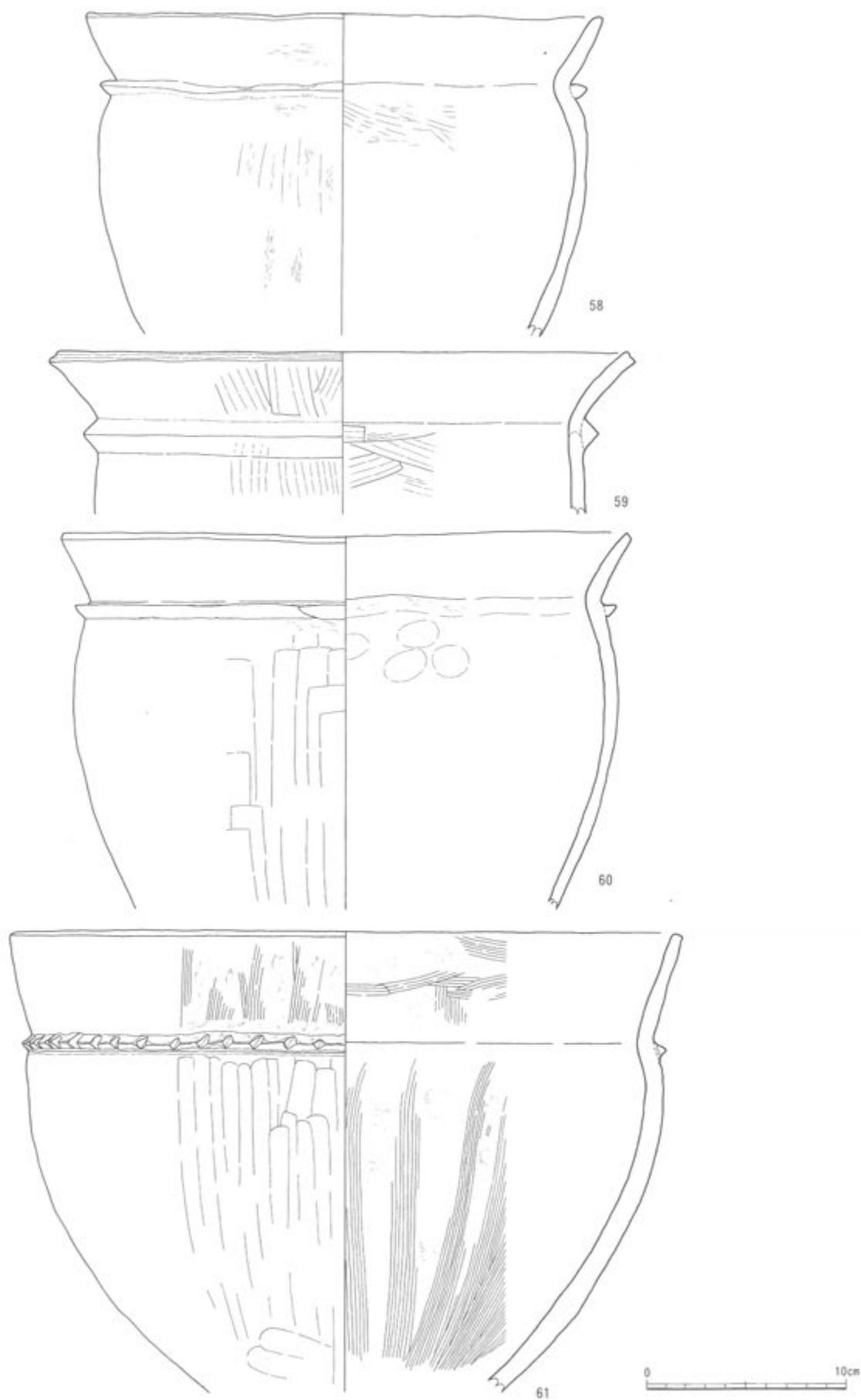
挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考	
16	8	3796	E-15	IV	甕	口縁部	-	-	-	ヘラミガキ, 刻目突帯	ナデ	良	明黄褐	明黄褐	長石, 細砂混		
	9	3832	E-13	II	甕	口縁部	-	-	-	ヘラミガキ	ナデ	良	黒褐	灰黄褐	石英, 長石, 黒雲母		
	10	3674	E-14	III	甕	口縁部	-	18.0	-	ヘラミガキ	ナデ	良	にぶい赤褐	明赤褐, 浅黄橙	石英, 細砂混		
	11	3816	E-14	IV	甕	口縁部	-	-	-	ヘラミガキ	ナデ	良	明黄褐, 黒褐	にぶい黄橙	石英, 長石, 細砂混		
	12	8846 8847 3459	6住	III	甕	口縁部	-	30.2	-	ヘラミガキ	ナデ	良	明黄褐, 黒褐	暗褐, にぶい黄橙	石英, 長石, 砂粒混		
	13	一括	E-14	III	甕	胴部	-	-	-	ヘラミガキ	ナデ	良	灰黄褐	明黄褐	長石, 細砂混		
17	14	8211 8186 8187 8189 8190 8191	4住	-	甕	口縁部	-	35.2	-	ナデ	ナデ	良	浅黄橙, 黒褐	黄褐, 褐灰	石英, 長石, 赤色砂粒	141, 142と同一個体(外面)一部器面剥離	
	15	8203 8197	4住	-	甕	口縁~胴部	-	31.6	-	ナデ	ナデ	良	赤橙, 黒褐	橙, 赤褐	長石, 赤色砂粒, 白色細粒	(外面) 煤付着	
		3403 3875 8200	E-11	IV													
	16	310 311	E-11	VI上													
		8206 8207 8208	4住	-	甕	口縁~胴部	-	32.0	-	ナデ	ナデ	良	浅黄橙, 黒褐	黄褐, 褐灰	石英, 長石, 赤色砂粒, 小石7mm	142, 145と同一個体(内・外面)一部器面剥離	
	17	3890 3895	E-11	IV													
	17	627	C-11	IV	甕	口縁部	-	28.8	-	ナデ	ナデ	良	浅黄橙, 灰褐	にぶい黄橙	石英, 長石, 角閃石, 白色砂粒	(外面) やや摩耗	
18	633 635	C-11	IV	甕	口縁部	-	27.6	-	ナデ	ナデ	良	にぶい褐, 黄橙	明黄褐, 赤褐	長石, 小石少混			
18	19	3454	E-15	III	深鉢	口縁部	-	(18.8)	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	にぶい黄橙	灰黄褐	長石, 白色砂粒		
	20	一括	F-13	溝	甕	口縁部	-	(25.2)	-	ナデ	ナデ	良	灰黄褐	灰褐	石英, 長石, 赤色小石, 砂粒混		
	21	648	D-12	IV	甕	口縁部	-	24.8	-	ナデ	ナデ	良	赤褐, 黒褐	赤褐	石英, 長石, 赤色砂粒		
	22	618	C-11	IV	甕	口縁部	-	20.2	-	ナデ	ナデ	良	灰褐, 褐	暗橙	石英, 赤色小石, 白色砂粒, 小石5mm		
	23	643	C-10	IV	甕	口縁部	-	23.4	-	ナデ	ナデ	良	赤褐, 黄橙	明赤褐, 褐	長石, 白色砂粒		
	24	649 650	E-11	VI	甕	口縁部	-	21.6	-	ヘラミガキ	ナデ	良	黒褐, 黄橙	褐	石英, 長石, 砂粒混		
	25	2343	D-14	II	甕	口縁部	-	18.3	-	ナデ	ナデ	良	浅黄橙, 淡橙	浅黄橙	石英, 長石, 砂粒混		
	26	6374	I-21	III	甕	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	暗赤褐	赤褐	石英, 長石, 角閃石	(外面) 一部器面剥離	
	27	一括	-	I	甕	口縁部	-	-	-	摩滅	ナデ	良	淡黄橙	橙	石英, 長石, 赤色砂粒, 砂粒多混		
	28	一括	E-16	III	甕	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	浅黄橙, 橙	灰褐	石英, 砂粒少混		
	18	29	8216 8213 8226 8232 8215	4住	-	甕	口縁~胴部	-	23.8	-	ヘラミガキ, ナデ	ナデ	良	赤黒, 暗赤褐	赤橙, 暗赤褐	粗い胎土, 小石多混	143と同一個体(外面) 煤付着
			308 313 318	E-11	VI上												
			680 681	E-11	VI												
3876 3879 3887 3888 3893			E-11	IV													
8217			4住	-													
30	8224	4住	-	甕	底部	-	-	8.2	ハケメ, ナデ	ナデ	良	褐, 褐灰	赤褐, 暗赤灰	粗い胎土, 小石多混	141と同一個体(内面) 一部摩滅		
31	8214 8204	4住	-	甕	口縁部	-	39.0	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	淡黄橙, 黒褐	黄褐, 褐灰	石英, 長石, 赤色砂粒	142, 145と同一個体(内・外面) 一部器面剥離		
	3880 3882	E-11	IV														
32	157	D-9	IV上	甕	口縁~胴部	-	(37.1)	-	ナデ	ナデ	良	黄褐, 明黄褐	暗褐, 明褐	粗い胎土, 砂粒多混			
	3865	E-4	VI														
19	33	7531	O-31	VI	大甕	完形	55.7	50.6	5.6	ヘラミガキ	ヘラミガキ, ナデ	良	褐灰, 明黄褐	黄褐灰	石英, 角閃石		
20	34	405	E-10	IV上	甕	口縁部	-	28.2	-	ナデ	ナデ	良	明黄褐	黄橙, 黒褐	石英, 角閃石, 小石4mm		
	35	7681 7215	O-31	IV	甕	口縁部	-	26.8	-	ヘラミガキ	ナデ	良	赤褐	黄橙, 暗褐, 黒褐	石英, 輝石, 白色砂粒		

第4表 弥生時代出土遺物観察表2

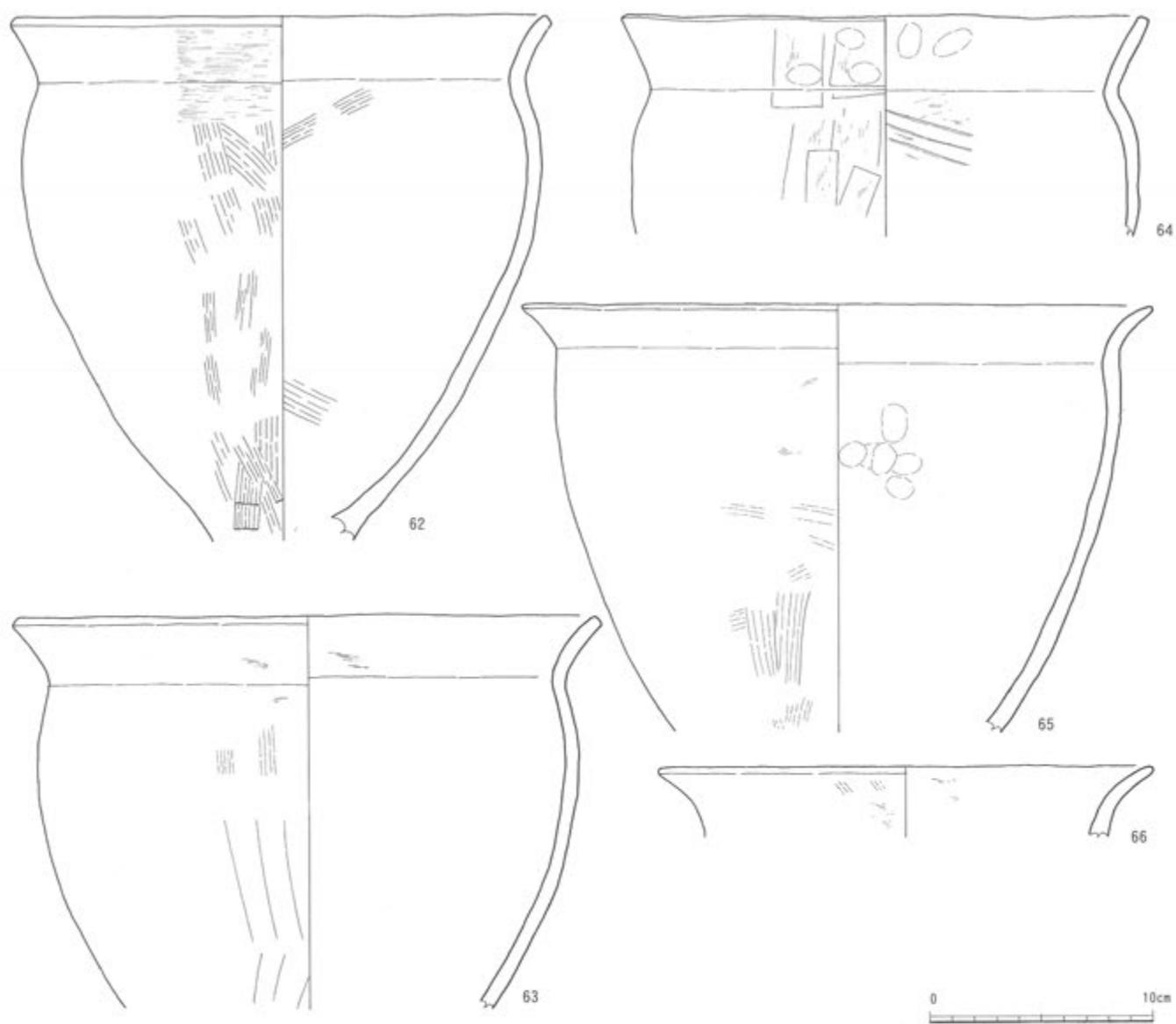
挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考																
20	36	7397 7386 7400 7502 7387 7317 7384 7306 7378 7370 7980 7509 7385 7360 7396 7394 7382 7508	N-30	IV	壺	口縁~胴部	-	18.4	-	ナデ	ナデ	良	黒褐, 黄橙	橙, 暗赤褐	長石, 砂粒混	(外面) 煤付着																
		954															E-5	III	台付鉢	口縁~底部	-	(20.0)	8.4	ハラミガキ	ハラミガキ	良	橙	にぶい赤橙, 黒褐	石英, 角閃石, 小石3mm			
		500 577															D-12	IV	壺	底部	-	-	7.7	ハラミガキ	ナデ	良	橙, 褐灰	黄橙, 黒褐	石英, 細砂混	(外面) 煤付着		
		1827															F-20	II	壺	底部	-	-	6.1	ナデ	ナデ	良	明赤褐	浅黄橙	石英, 角閃石, 砂粒混	(外面) 煤付着		
		452															D-10	VI	壺	底部	-	-	8.3	ナデ	ナデ	良	赤褐, 黒褐	黄橙, 暗褐	長石, 白色砂粒多混	(外面) 黒斑あり		
21	41	7177 7180 7678 7676 7669	O-31	IV	壺	口縁~胴部	-	30.6	-	ハケメ	ハケメ, ナデ	良	黄橙, 黒褐, 橙	橙, 灰褐	石英, 長石, 角閃石	(外面) 煤付着 (内面) 黒斑あり																
		7533 7679															O-31	IV	壺	口縁~胴部	-	31.0	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	灰白, 灰黄褐	淡黄橙, にぶい黄橙	石英, 長石, 角閃石	(外面) 煤付着		
		7340															P-30	IV	壺	口縁部	-	(22.2)	-	ナデ	ナデ	良	淡黄	浅黄橙	石英, 長石, 角閃石, 小石4mm	(外面) 煤付着		
22	44	484 485	D-11	IV	壺	口縁部	-	(15.4)	-	ハラミガキ	ハラミガキ	良	暗赤褐	赤褐	石英, 長石, 赤色砂粒																	
																	50	N-30	IV	壺	口縁部	-	18.0	-	ナデ	ナデ	良	明赤褐	赤褐	石英, 長石, 金雲母, 砂粒混		
	151 82	E-8	VI上	壺	頸部	-	-	-	ハラミガキ	ナデ	良	暗褐	黄褐	石英, 長石, 小石少混	(内面) 一部器面剥離																	
																E-9																II
		9608 9612 9614 9615 9617 9622 9625	14T	IV	壺	胴部	-	-	-	ナデ, 荒いハケメ	ハケメ	良	明赤褐, 暗赤褐	灰褐, 橙, 赤褐	長石, 白色砂粒																	
	一括																															15T
	一括	0-30	IV																													
	52	3862	K-26	II	壺	口縁部	-	(17.8)	-	ハラミガキ	ナデ	良	明赤褐	橙	石英, 長石, 砂粒多混																	
																																1575 5469
	一括	E-14	-	壺	口縁部	-	-	-	ナデ, ハラミガキ	ナデ	良	褐灰, 黄橙	浅黄橙, 橙	石英, 長石, 赤色砂粒, 白色細粒	(外面) 一部器面摩滅																	
	55	一括	596 597 588	C-11	III	壺	口縁部	-	10.8	-	摩滅	ナデ	良	浅黄橙	浅黄橙, 黄橙	精製された胎土																(内外面) 器面剥離



第23図 弥生時代出土遺物実測図 8



第24図 弥生時代出土遺物実測図9

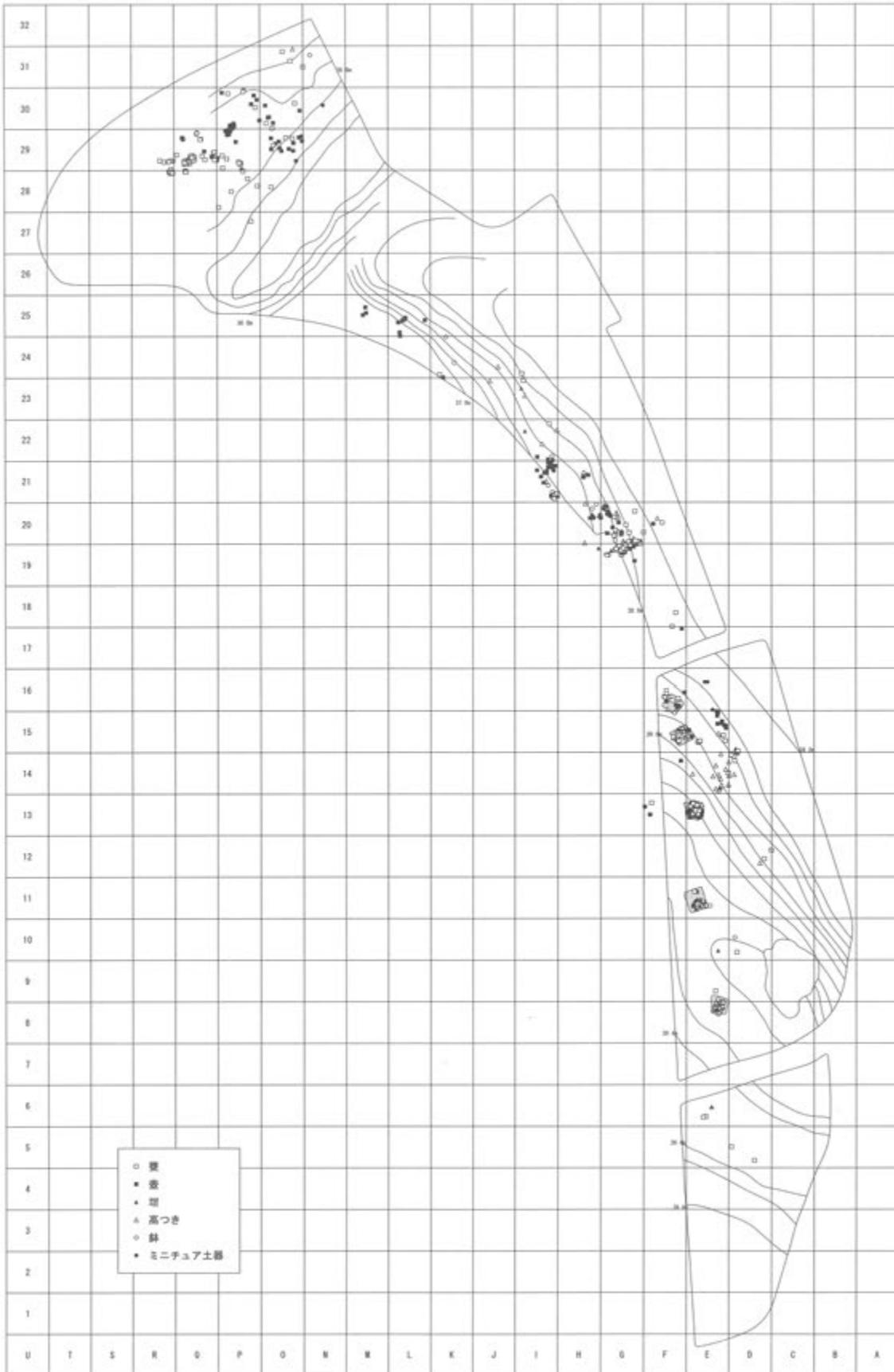


第25図 弥生時代出土遺物実測図10

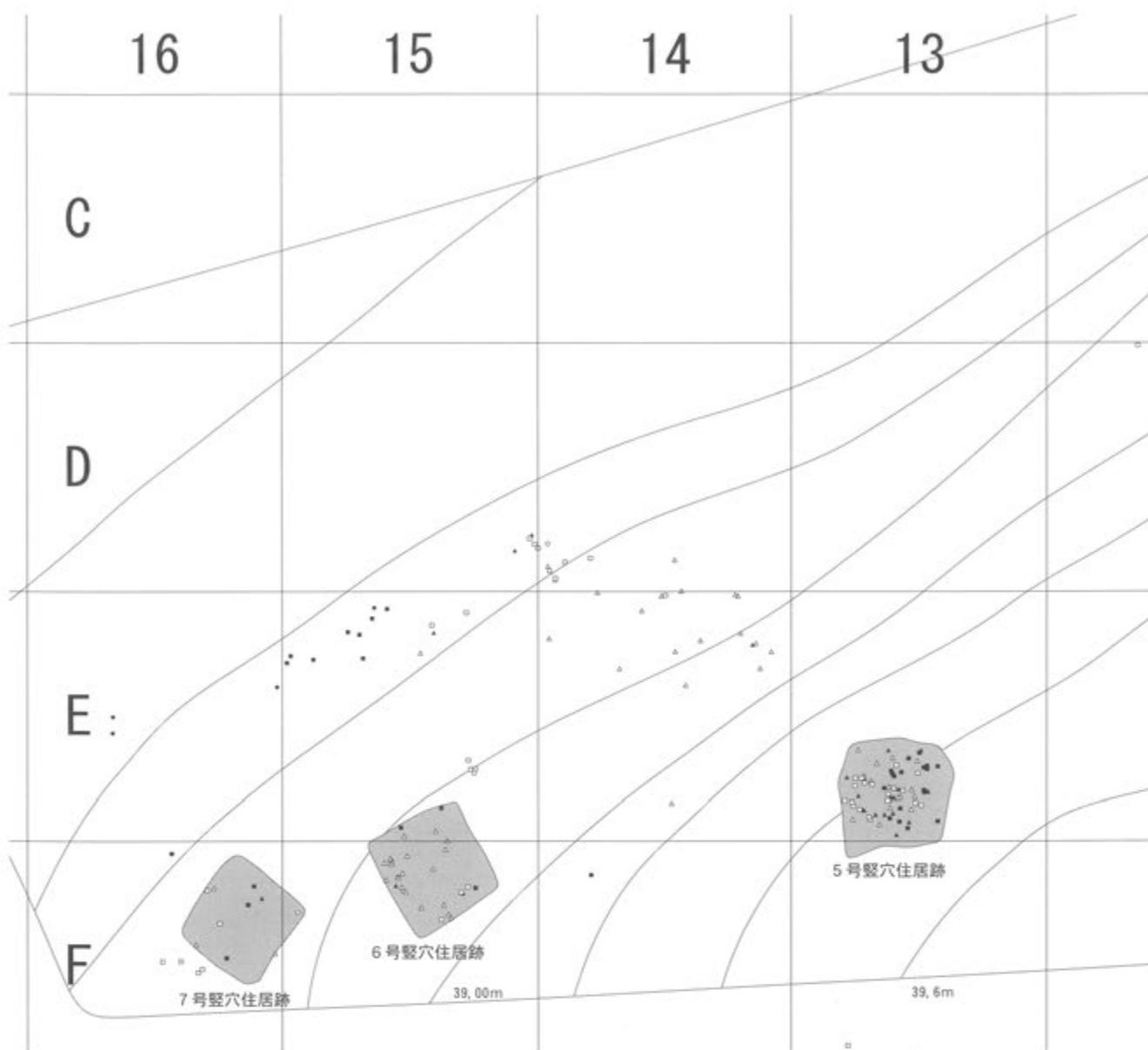
第5表 弥生時代出土遺物観察表 3

挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
23	56	7205 7236 7245	0-30	IV	甕	口縁～底部	-	28.8	-	ハケメ、ケズリ	ハケメ、ナデ	良	赤橙、褐灰、黒褐	浅黄橙、黒灰	石英、角閃石、砂粒少混	(外面) 煤付着
		7762	0-31	IV												
	57	7128 7129 7130 7162 7591 7592 7618 7619 7620 7713 7714	N-31	IV	甕	口縁～胴部	-	29.8	-	ハケメ	ハケメ	良	浅黄橙、暗褐	黄橙、褐、暗褐	石英、角閃石、砂粒混	(外面) 煤付着
		7127 7159 7164 7166 7167 7168 7207 7682	0-31	IV												
24	58	7206 7234	0-30	IV	甕	口縁部	-	(25.8)	-	ナデ、三角突帯	ナデ	良	橙、灰褐	黄橙	石英、長石、輝石、白色砂粒	
		5962 5860 5773 5923	K-24	III												
	59	5982		IV	甕	口縁部	-	(29.3)	-	ハケメ後ナデ、三角突帯	ハケメ、ナデ	良	橙、黒褐	浅黄橙、黒灰	石英、長石、角閃石、白色砂粒	(外面) 煤付着
		60	7206	0-30												
61	7500	0-29	IV	甕	口縁～胴部	-	33.7	-	ナデ、ケズリ	ハケメ、ナデ	良	暗赤褐、明褐、灰褐	赤褐、灰褐	赤色小石、砂粒多混		
	7836	P-29	IV													
25	62	7205 7479 7439 7519 7764	0-30	IV	甕	口縁～胴部	-	24.0	-	ハケメ、ナデ	ナデ	良	明赤褐、黒褐	黄橙、黒褐	石英、白色砂粒、小石5mm	(外・内面) 黒斑あり
		7764	0-31	IV												
	63	7235 7239 7243 7237 7241 7421 7245	0-30	IV	甕	口縁～胴部	-	26.2	-	ナデ、ケズリ後ナデ	ナデ	良	黒褐、赤褐	淡黄橙、暗褐	石英、長石、黒雲母	(外面) 煤付着 (内面) 黒斑あり
		64	6488	I-22												
65	9550 9580 9587 9592 9562 9582 9585 9553 9532 9581 9559 9552 9577 9546 9528 9539 9526 9543 9598 9544 9574 9603 9578 9591 9573 9571 9549 9586 9599 9529 9561 9533 9531 9556 9594 一括 9548	12T	III	甕	口縁～胴部	-	28.0	-	ナデ	ナデ	良	赤褐、暗赤灰、黒褐	橙、浅黄橙、黄褐	石英、長石、角閃石、白色砂粒	(外面) 煤付着 (内・外面) 黒斑あり	
	66	32, 44	E-8													II

第2節 古墳時代の調査



第26図 古墳時代遺物出土状況



第27図 古墳時代遺構位置図

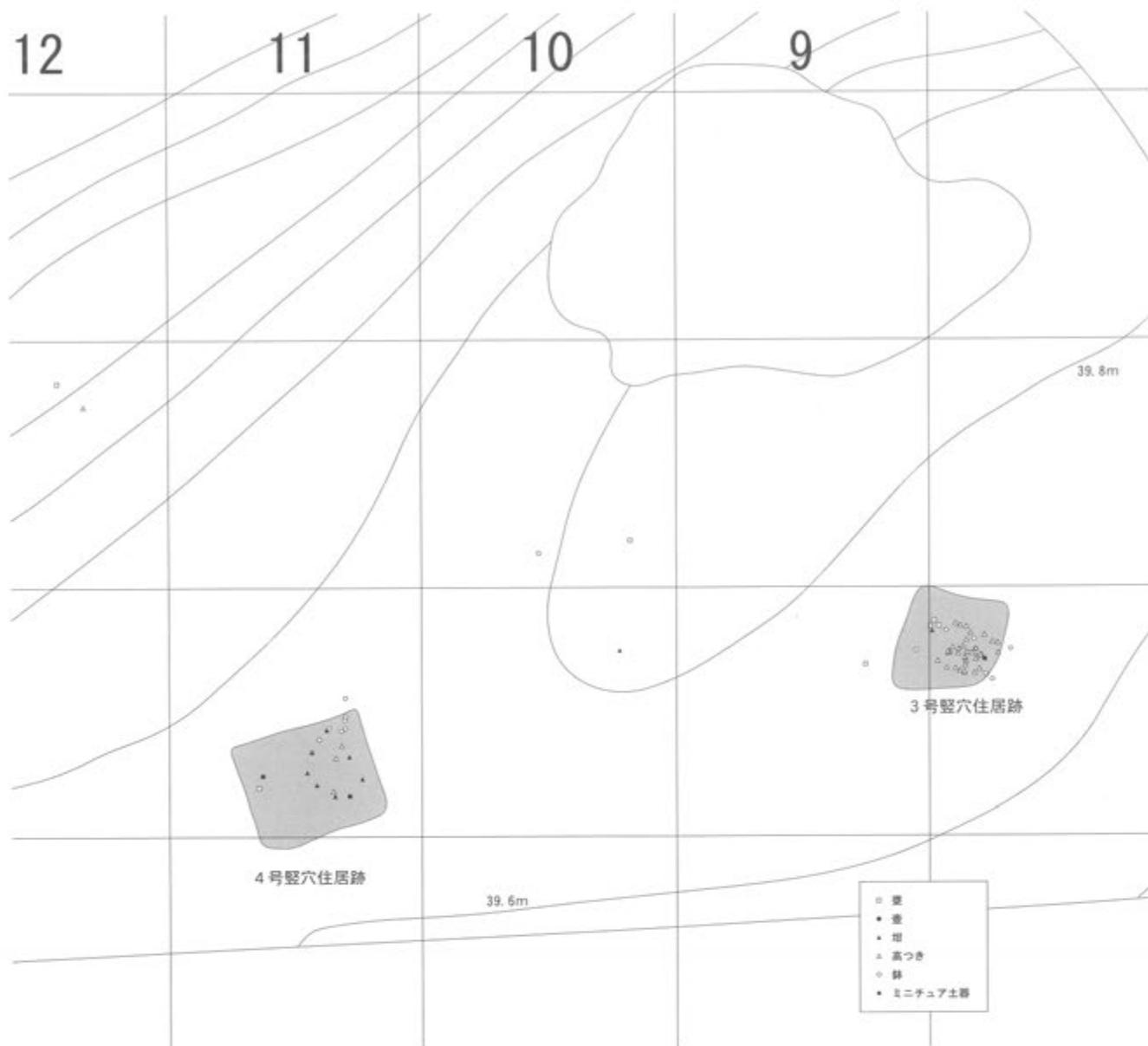
1 調査の方法と概要

古墳時代の調査は、遺物包含層であるⅢ層が残存するF-7区～E-18～F-19区、G-19～N～O-31区までを調査した。E-2区～DE-6区は、削平のために包含層はなかったが、遺構検出の可能な残存するⅥ層を調査した。だが、遺構は検出されなかった。

調査の結果、古墳時代では、東原式土器や辻堂原式土器、笹貫式土器、砥石、石製品が出土し、5基の竪穴住居跡と1条の溝状遺構が検出された。

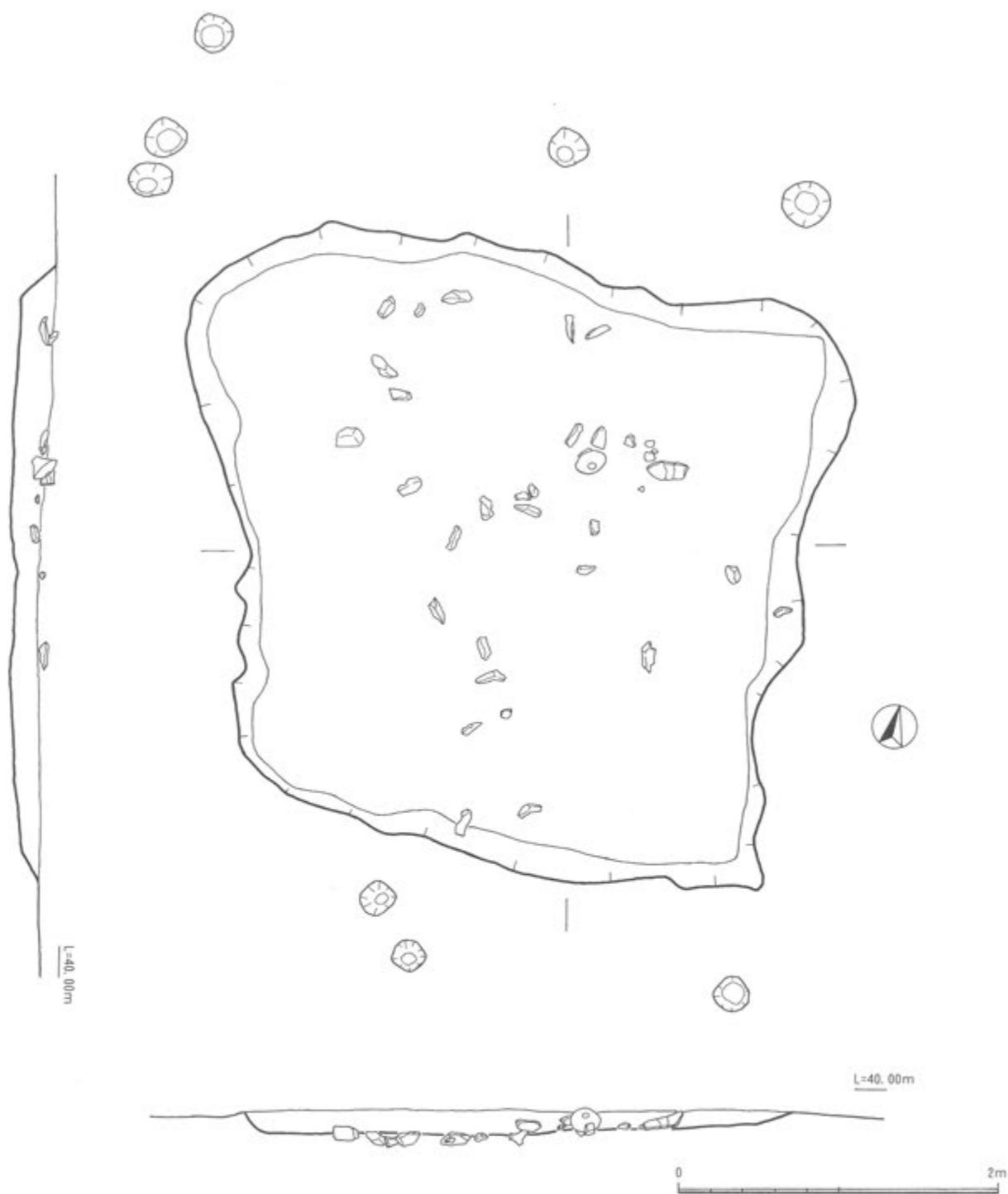
2 古墳時代の遺構

5基の竪穴住居跡が、E-8区～F-16区のⅥ層より検出され、南側の竪穴住居跡から順に3号～7号までの番号を付けた。5基の竪穴住居跡は、南北に流れる万之瀬川に平行して位置し、3号竪穴住居跡から約27m離れた北側平坦面に4号竪穴住居跡が、さらに北側緩斜面に20m離れて5号竪穴住居跡、5号竪穴住居跡から20m北側に6号竪穴住居跡、6号の北側に隣接して7号竪穴住居跡が位置する。平面の形状は、3号竪穴住居跡、5号竪穴住居跡が隅丸方形の形状を呈し、4号、6号、7号はともに方形である。また、3号、6号、7号竪穴住居跡からは、竪穴の周囲にピットが検出された。

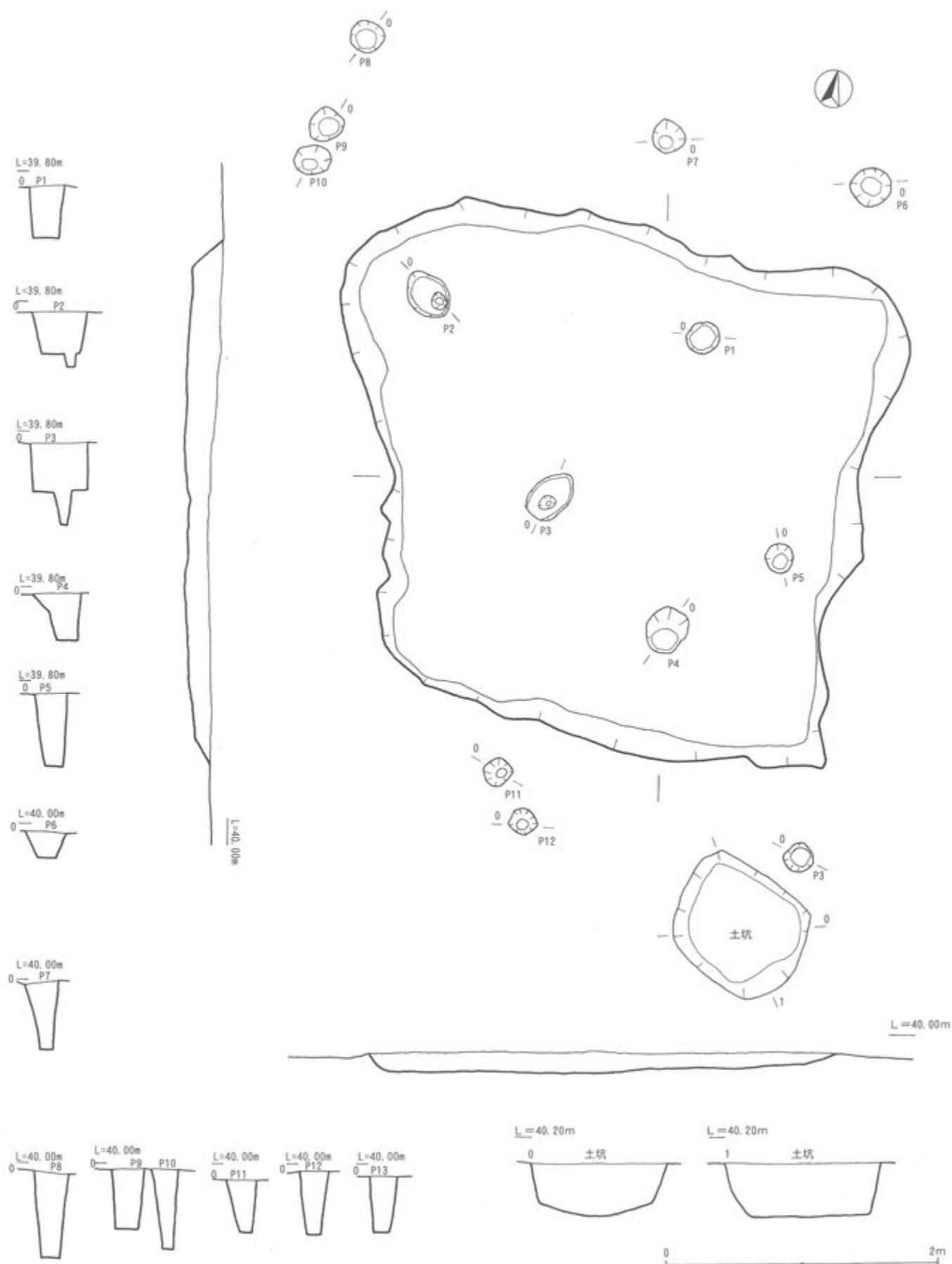


竖穴住居跡と出土遺物の関係は、遺物の平面的な分布と重なる。C-7区~F-12区にかけて遺物が広がり竖穴住居跡周辺に多くが分布する。竖穴住居内では、4号竖穴住居跡の床面で砥石が出土し、5号竖穴住居跡から石製品が出土している。

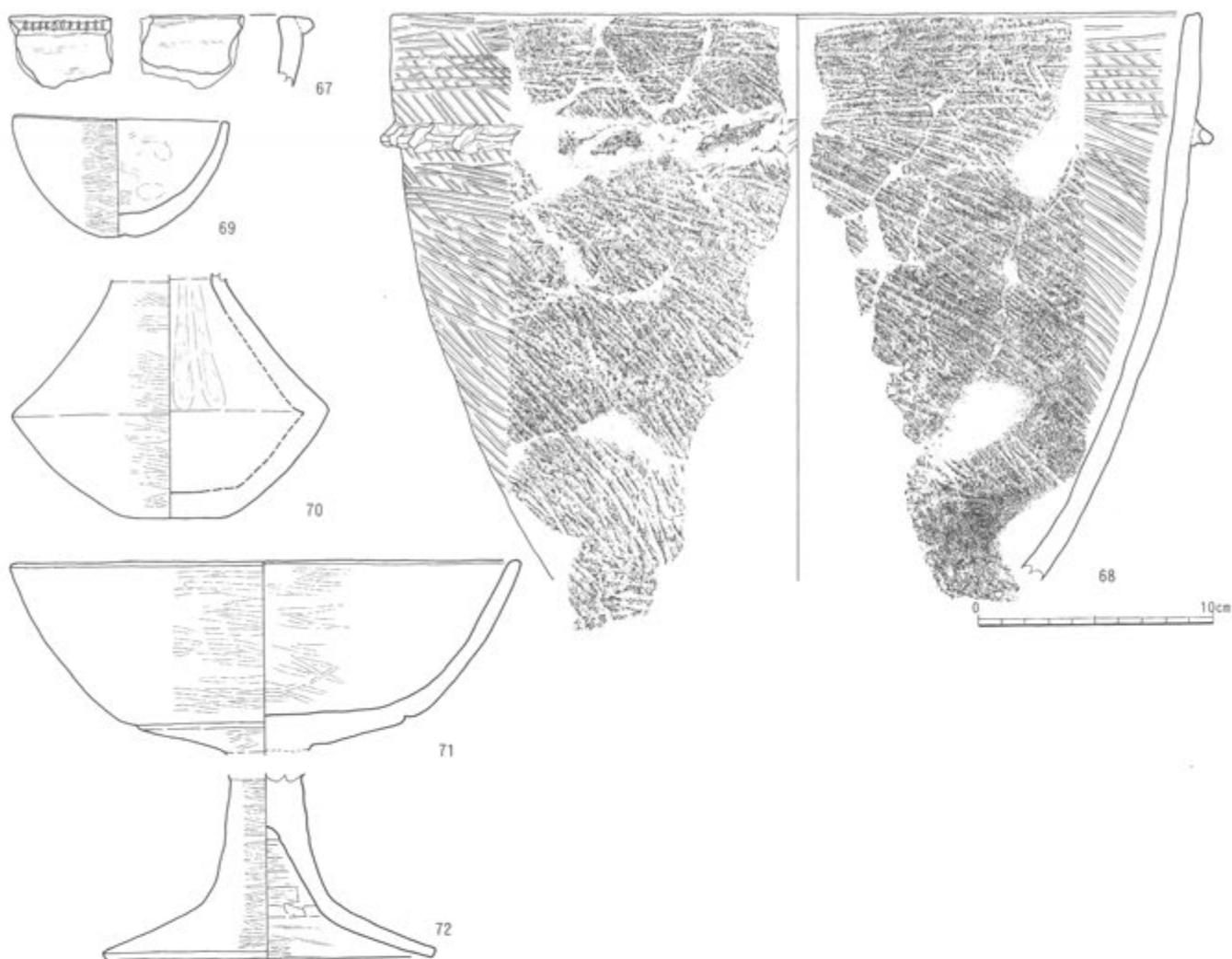
溝状遺構は、F-25区~K-23区間で1条検出された。掘り込みはしっかりとしており、溝の下面から古墳時代の土器片が出土した。



第28図 3号竖穴住居跡1



第29图 3号竖穴住居跡2



第30図 3号竪穴住居跡3（出土遺物実測図）

3号竪穴住居跡（第28図、第29図）

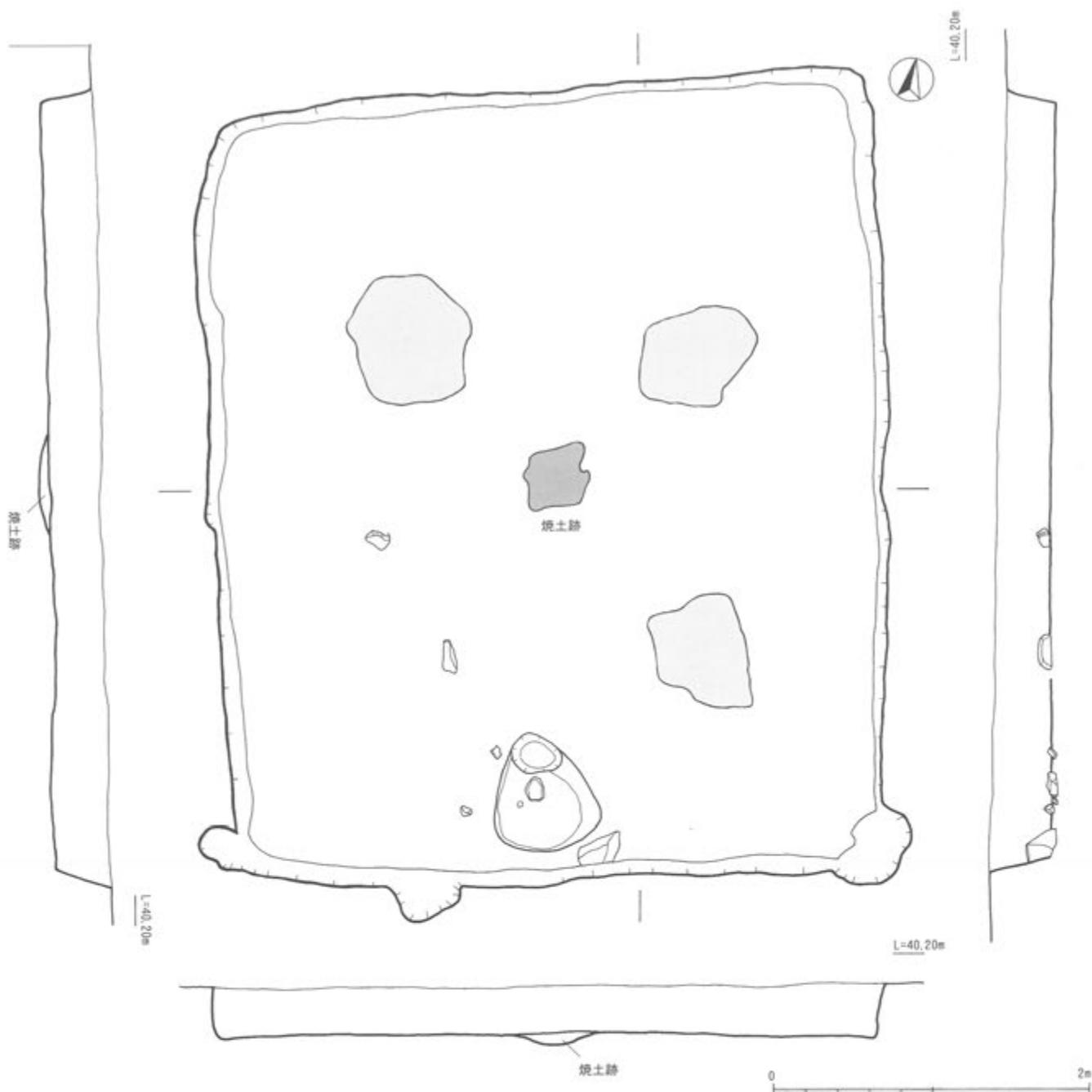
E-8~9区、VI層で検出された。平面の形状は、方形がやや崩れた隅丸方形の形状を呈し、長軸線が南北方向約4.0m、短軸線が東西方向で約3.4mで、検出面から底面までの深さが約10cmと浅くVII層まで掘り込まれている。埋土は単一の黒茶褐色土である。竪穴住居跡の床面で5基のピットを検出し、竪穴の周囲から8基のピットと1基の土坑を検出した。ピットは、P1、P2が床面から約40cmの深さで掘り込まれ、P2、P3は内部に小ピットを持つ。竪穴周囲のピットは、P6の深さが約20cmと浅く、他のピットは、約50cm以上の深さがある。竪穴周囲のピット、土坑はともに埋土が、黒茶褐色土であった。

遺物の多くは、埋土中に散在し土器の平面分布は住居跡の中心に集中して出土している。

3号竪穴住居跡出土遺物（第30図）

遺物は、埋土中に弥生時代前期の甕形土器67が1点出土し、古墳時代の甕形土器68と、丹塗りを施した鉢69、埴70、高坏71、72が出土している。

67は甕形土器の口縁部で断面三角形の突帯を巡らす。突帯には、ヘラ状工具による浅い刻目を施し、器面調整はナデである。68は胴部から口縁部にかけて湾曲に開く器形で、刻目のある突帯が1条巡り、内外面ともハケ目の器面調整である。69~72は丹が塗られ、ヘラ磨きで丁寧に器面を調整している。69は丸底の小鉢で形状は口径9cm、器高5cmである。埴形土器70は、胴部が「く」の字状に張る器形で、頸部にかけて内湾し底部は平底である。71はやや大きめの高坏の坏部で、坏部の下面で段を付け外側に丸みをもちながら開く。72は高坏の脚部で脚先が平坦面を成す。



第31図 4号竪穴住居跡1

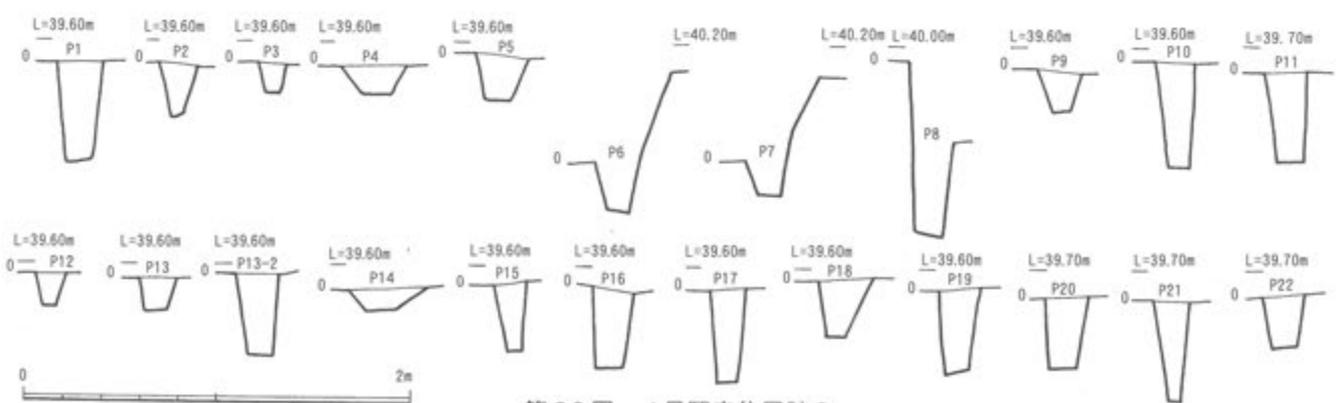
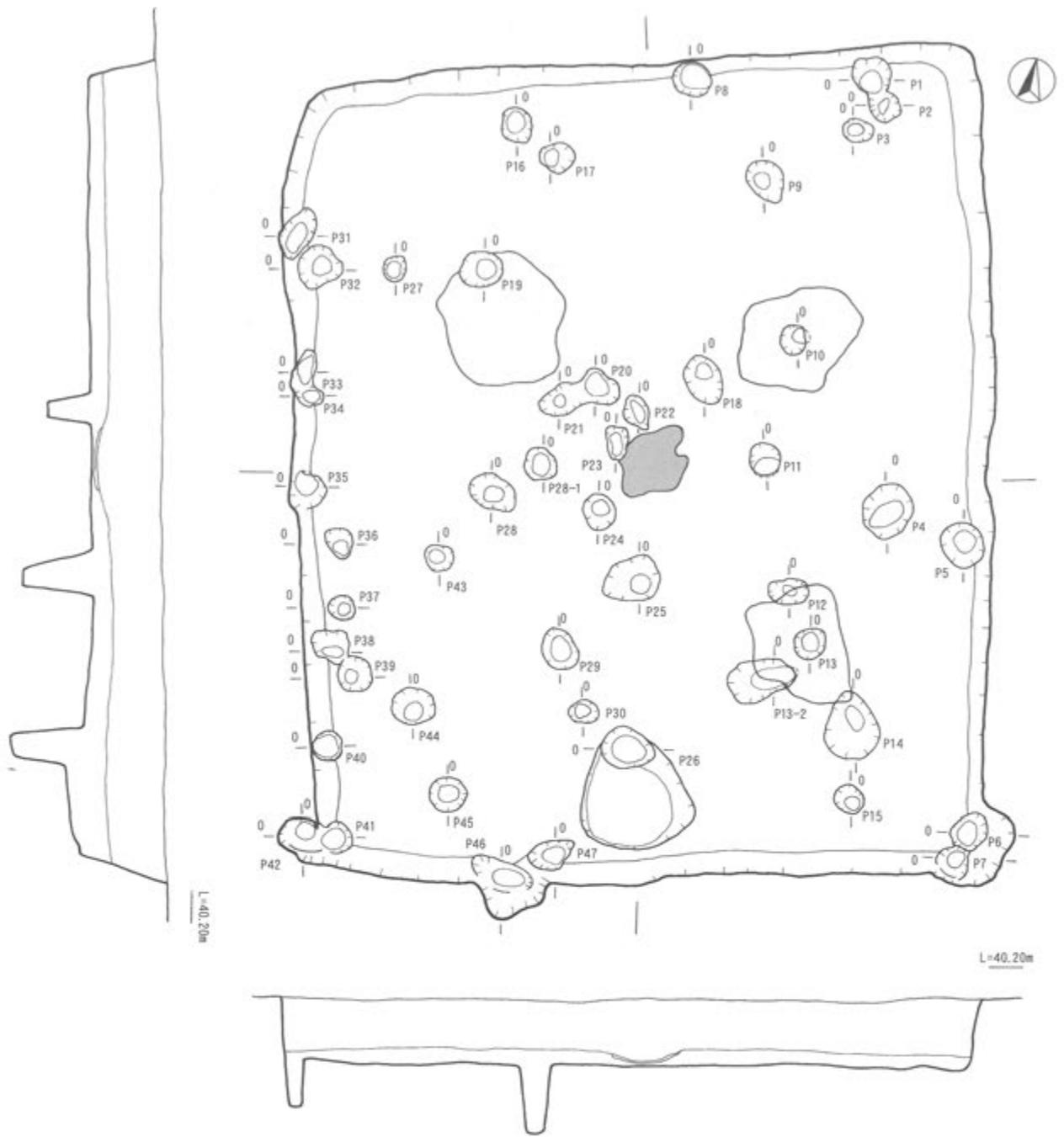
4号竪穴住居跡（第31図～第33図）

E～F-11区、VI層で検出された。平面の形状は、長軸方向が長い方形を呈し、長軸線が南北方向約5.1m、短軸線が東西方向で約4.3mで南側の隅に柱が張り出す形状である。検出面から床面までの深さは約30～38cmで、中央に炉跡と推測される焼土跡と、南壁中央に沿って床面から約20cm掘り込まれた土坑が検出された。この土坑内からは、土器片と礫が出土した。

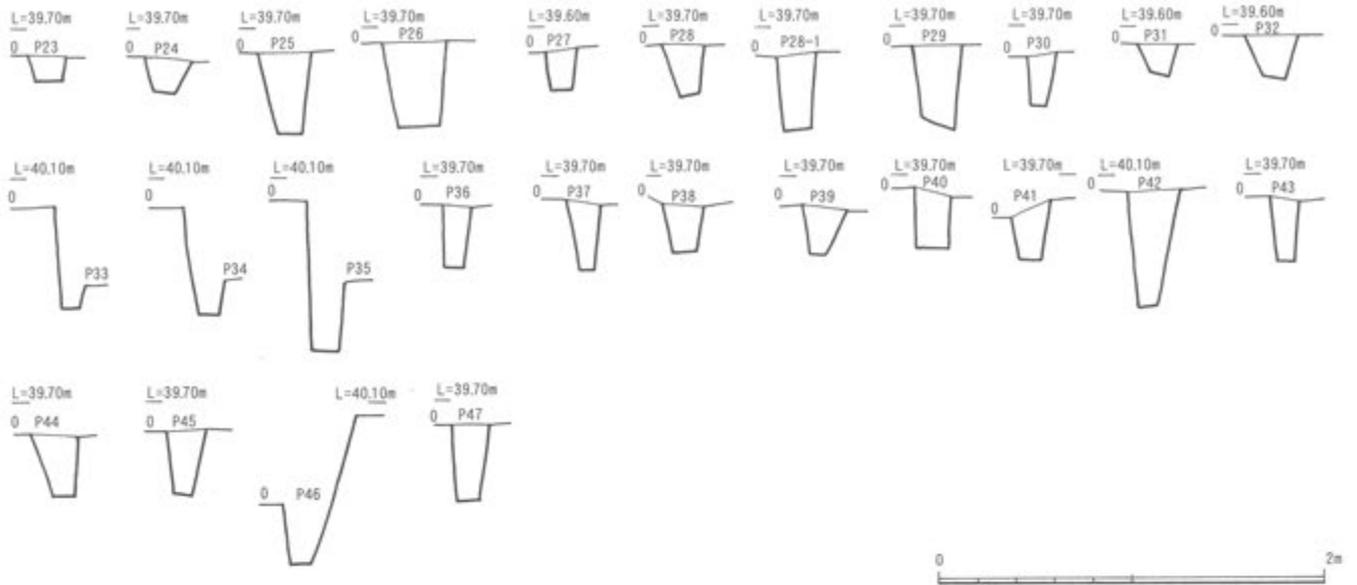
床面は堅くしまりがあり、VII層と黒色土が混ざった状態で、いわゆる貼り床で構築されている。床厚は約8～14cmで検出面からの掘り込みの深さは約40～60cmであり、VII層中まで掘りこまれていた。埋土は、単一の黒茶褐色土である。

竪穴住居跡の床面で3か所の軟弱な部分が検出され、その下面からピットが検出された。これらのピットは、検出された位置から主柱と捉えられるが、他に44基のピットが検出されている。ピットの埋土は、いずれも住居内の埋土と同じ黒茶褐色土であった。ピットの形状、深さなどから、竪穴住居跡に伴うピットは、P1、P6～P8、P10、P11、P13-2、P15～P21、P25、P26、P28-1、P29、P42、P44、P45、P46、P47と考えられ、P31～P41は、壁構造物に伴うものと考えられる。

竪穴住居跡に伴う遺物の多くは、埋土中に散在しており、床面から砥石103が1点出土している。



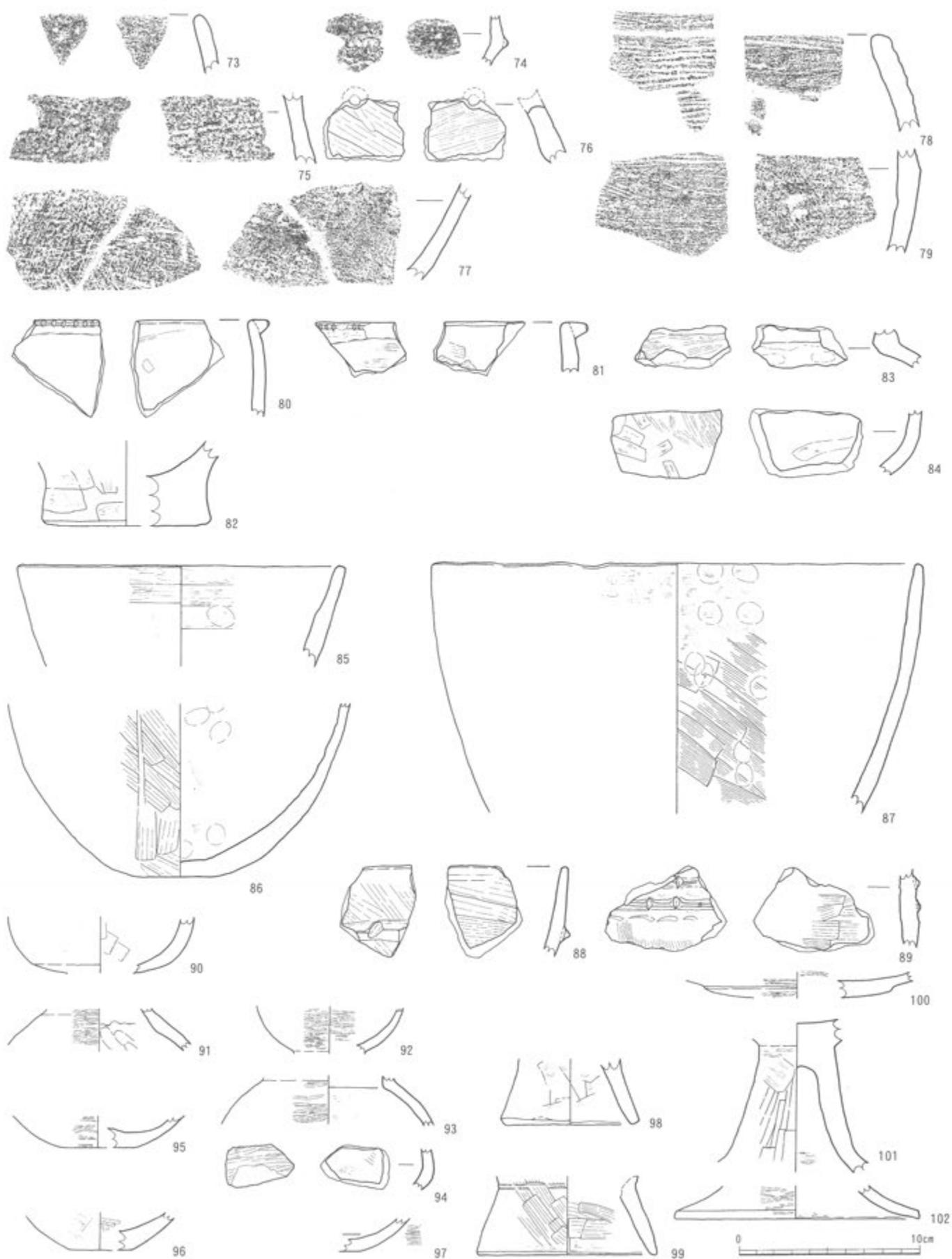
第32图 4号竖穴住居跡2



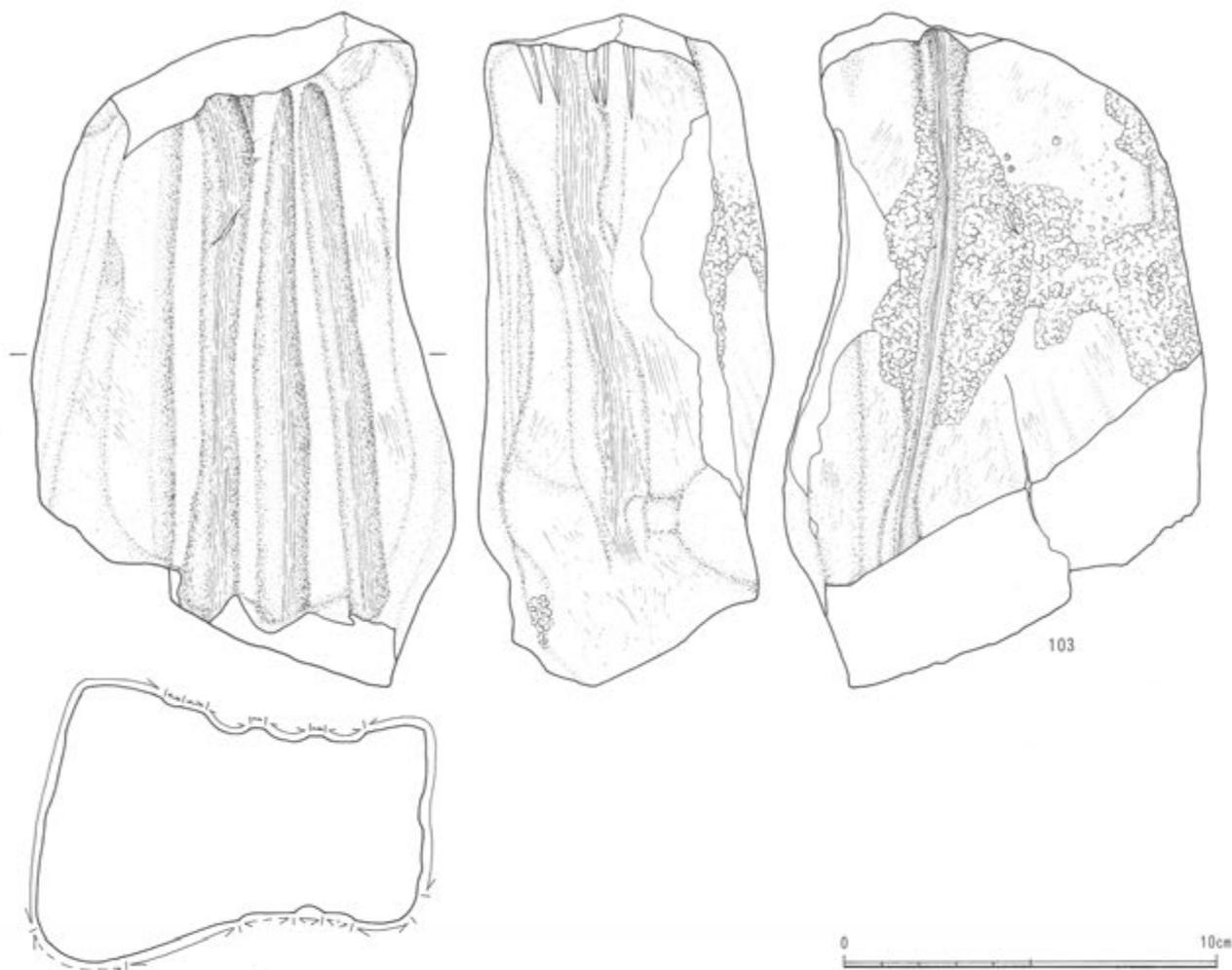
第33図 4号竪穴住居跡3

第6表 3号竪穴住居跡出土遺物観察表

碑図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考	
30	67	8275	3住	-	壺	口縁部	-	-	-	ヘラナデ, 刻目三角突帯	ナデ	良	黒褐	暗褐	石英, 長石, 白色砂粒, 砂粒多量		
	68	88 8277 8274	3住	II	壺	口縁~胴部	-	34.0	-	条痕文	条痕文	良	暗赤褐, 赤黒	黒褐, 赤褐	石英, 赤色砂粒, 白色小石		
	69	171	3住	-	鉢	口縁~底部	5.1	9.1	1.4	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラナデ, 口縁のみ丹塗り	良	赤褐, 黒褐	にぶい赤褐	精製された胎土	(外面) 煤付着	
		7, 21 27, 43 57, 58 69	E-8	II													
	70	8271	3住	-	埴	胴~底部	-	-	3.8	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ, 一部丹塗り	良	赤橙	橙	長石, 精製された胎土		
	71	8264 8265 8266 8281	3住	-	高坏	坏部	-	21.5	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤橙	赤橙	石英, 長石, 赤色小石, 白色細粒	
		12, 24 25, 45 48, 52 56, 63 96, 99 100 101 103 105 106 107 108 109 110 111 125 126 127 128 130 134 139 146 160 163 166 170	E-8	II													
		8270	3住	-													
		61, 70 72	E-8	II													
		8112 8114 8116 8118 8138 8161 8162	4住	-													



第34图 4号整穴住居跡4 (出土遺物実測図1)



第35図 4号堅穴住居跡5(出土遺物実測図2)

4号堅穴住居跡出土遺物(第34図, 第35図)

73~79, 82は埋土中から出土した縄文時代晩期の土器である。73は深鉢形土器の口縁部で内向した器形で口唇部は丸みを持つ。74は刻目突帯文土器の肩部で、断面三角形の低い刻目突帯を巡らす。75, 76は深鉢形土器の頸部で、76は穿孔を両面から施す。77は厚手の土器で外面は縦方向の調整である。78は内向した器形で内側には輪積による痕跡がみられる。79は深鉢形土器の肩部で「く」の字に折れる器形である。厚手の土器で器面調整は工具による横ナデである。

80~82は弥生前期の甕形土器である。80, 81は、口縁部に断面三角形の突帯を巡らす。突帯には、浅く密な刻目を施し、器面調整はナデである。82は、平底の底部でナデ調整である。

83~86は壺形土器で83は頸部、84は胴部、86は丸底の底部で、器面はヘラ状工具による調整を施している。

85は鉢形土器の口縁部で直線的に外に開く器形で、器面を指頭圧痕後ヘラ状工具で横方向に調整を施している。87は甕形土器で胴部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる器形で、口縁部は横方向に胴部は斜めにヘラ

状工具で器面調整を施す。外面は煤が多く付着している。

88は刻目突帯をもち直線的に立ち上がる甕形土器である。89は壺形土器の胴部で、2条の低い断面の刻目突帯が横位に施されている。

90~97は埴形土器で90は胴部がやや丸みをもつ。91はそろばん玉状の器形である。92は小型の丸みをもつ埴の口縁部、93は丸みをもつ肩部、94は胴部、95~97は底部で平底である。

98, 99は甕形土器の底部で、脚の内外面の調整はヘラ状工具で斜めや横方向に施している。

100~102は高坏で、100は坏部で外側は段をもち丹塗りである。101と102は脚部で、101は器面に縦方向のナデ調整を施し、器壁は厚い。

103は床面から出土した有溝の砥石(玉砥)である。表に4条、右側面に1条、裏面に1条の溝状の研ぎ面が明瞭に観察できる。溝の幅は、12mm~14mm、最深の深さが6mmであり、裏面は凹み、敲痕が中央部に明瞭に残る。

第7表 4号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
	73	8031	4住	-	深鉢	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	にぶい黄褐	にぶい黄褐	長石, 石英, 角閃石, 砂粒 (1~2mm)	
	74	8009	4住	-	深鉢	胴部	-	-	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	にぶい褐	橙	石英	
	75	8047	4住	-	深鉢	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	暗褐	灰黄褐	雲母, 角閃石, 石英, 長石	
	76	8008	4住	-	深鉢	胴部	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	良	灰褐	明褐	石英	穿孔あり
	77	8044 8005	4住	-	深鉢	胴部	-	-	-	貝殻条痕, ナデ	ナデ	良	にぶい黄褐, 黒褐	にぶい黄褐	雲母, 角閃石, 石英, 長石	
	78	8035 8068	4住	-	深鉢	口縁部	-	-	-	貝殻条痕	ナデ	良	褐	褐	雲母, 石英	
	79	8128	4住	-	深鉢	胴部	-	-	-	貝殻条痕	ナデ	良	橙	橙	石英, 長石, 角閃石, 砂粒 (1~5mm)	
	80	8100	4住	-	甕	口縁部	-	-	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	黒褐, 赤褐	赤褐	石英, 白色細粒, 小石8mm	(外面) 煤付着
	81	8161	4住	-	甕	口縁部	-	(12.8)	-	ハケメ, 刻目突帯	ナデ	良	灰褐	橙	長石, 石英, 赤色砂粒	
	82	260	E-11	-	深鉢	底部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	にぶい橙	灰黄褐	石英, 長石, 角閃石	
	83	8142	4住	-	壺	頸部	-	-	-	ハラミガキ	ナデ, 指頭圧痕	良	にぶい褐	明褐	石英, 白色砂粒	
	84	8025	4住	-	埴	胴部	-	-	-	ハラミガキ	ナデ	良	褐, 黒褐	暗灰黄	石英, 白色細粒	
	85	8063 8069	4住	-	甕	口縁部	-	(18.1)	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	明赤褐	明赤褐	角閃石, 長石, 石英, 赤色砂粒	
		294	E-11	VII上												
	86	一括	D-5	-	壺	底部	-	-	3.9	ハケメ, ナデ	指頭圧痕, ナデ	良	黄橙, 明褐	にぶい黄橙	石英	
	87	8076 8077 8078	4住	-	甕	口縁部	-	(27.2)	-	ナデ	ハケメ, ナデ	良	黒褐, 赤褐	赤褐	石英, 赤色砂粒, 小石5mm	(外面) 煤付着
		238 240	E-11	-												
		461	D-10	V上												
34	88	8157	4住	-	甕	口縁部	-	-	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ	良	橙	橙	石英	
	89	一括	4住	-	壺	胴部	-	-	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ, ナデ	良	にぶい黄橙	黄灰	精製された胎土	(内面) 剥離有り
	90	一括	-	-	埴	胴部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	黒褐, 明黄褐	浅黄橙	精製された胎土, 砂粒少混	(外面) 煤付着
	91	8097	4住	-	埴	胴部	-	-	-	ハラミガキ	ナデ	良	明赤褐	にぶい橙	精製された胎土	
	92	8063	4住	-	埴	胴部	-	-	-	ハラミガキ	ハラミガキ	良	褐	暗褐	精製された胎土	
	93	8172	4住	-	埴	胴部	-	(7.0)	-	ハラミガキ	ナデ	良	褐	にぶい褐	精製された胎土	
	94	-	-	-	埴	胴部	-	-	-	ハラミガキ	ナデ	良	明褐	にぶい褐	精製された胎土, 赤色砂粒	
		229	E-11	-												
	95	8124	4住	-	埴	底部	-	-	(4.2)	ハラミガキ	ナデ	良	黒褐	黒褐, 橙	精製された胎土	(外面) 丹塗りが火をうけている。 (内面) 器面剥離
	96	-	-	-	壺	底部	-	-	(3.4)	ナデ	ナデ	良	明褐	明赤褐	石英, 長石, 砂粒混	
		252	E-11	-												
	97	-	-	-	埴	底部	-	-	-	ハラミガキ, 丹塗り	不明	良	明黄褐	褐灰, 明褐灰	石英, 長石, 赤色細粒	(内面) 剥離有り
		242	E-11	-												
	98	8048	4住	-	甕	脚部	-	-	(7.6)	ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙	にぶい橙	石英, 赤色砂粒, 白色細粒	
	99	8136	4住	-	甕	脚部	-	-	(10.0)	ハケメ	ハケメ, ナデ	良	にぶい黄褐, 黄橙	黒褐, 灰黄褐	砂粒多混	
	100	8122	4住	-	高坏	坏部	-	-	-	ハラミガキ	ハラミガキ, ナデ	良	暗褐	褐, 赤褐	石英, 赤色砂粒	
	101	256	E-11	-	高坏	脚柱部	-	-	-	ハケメ, ナデ	ナデ	良	褐, 赤褐	黄褐	赤色砂粒	
	102	8166	4住	-	高坏	脚部	-	-	(13.6)	ハラミガキ	ナデ	良	明褐	にぶい橙	石英, 砂粒少混	
		234	E-11	-												



第36図 5号竪穴住居跡1

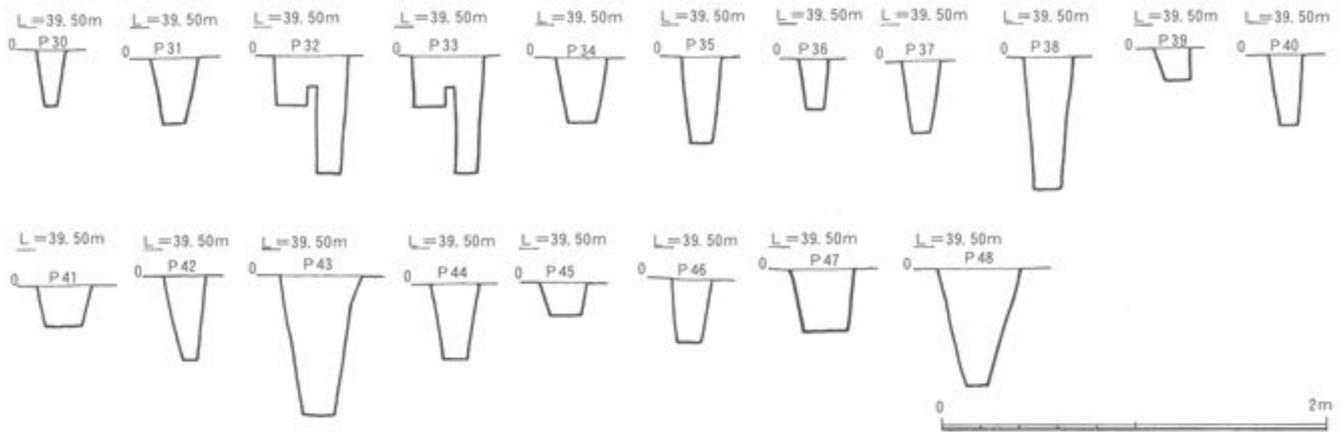
5号竪穴住居跡（第36図～第38図）

E～F-13区、VI層で検出された。平面の形状は、隅丸の略方形を呈し、長軸線が南北方向約4.4m、短軸線が東西方向で約4.2mで北側の隅に柱が張り出す形状である。北西の壁が近世の掘り込み(芋穴)によって一部削平されている。

検出面から床面までの深さは約28～40cmで、南壁中央に床面より高い段を1段もつ。また、西壁に沿って床面から約10cm掘り込んだ直径約1.1mの楕円形の土坑とその南側に8cm掘り込んだ直径約60～70cmの土坑P5が検出された。床面は、堅くしまりがありVII層と黒色土が混ざった状態で、いわゆる貼り床で構築されている。床厚は約6～15cmで、検出面からの掘り込みの深さは約50cmあり、VII層中まで掘りこまれていた。埋土は、壁に沿う初期的な堆積があり、その後黒茶褐色土を主体とした堆積がみられる。

竪穴住居跡の床面で48基のピットを検出した。ピットの埋土は、住居内の埋土と同じ黒茶褐色土であった。ピットの形状、深さなどから、竪穴住居跡に伴うピットは、P1、P3、P4、P14、P18、P21～P23、P26、P28、P29、P33～P35とP37、P40、P43、P48と推測される。

竪穴住居跡に伴う遺物の多くは、埋土中に散在しているが、床面から壺形土器115と高坏の脚127が出土した。壺形土器115は、口縁部が完全に床面に埋まり頸部から胴部に掛けて3分の1ほど欠け、欠けた部分が西壁に向きひっくり返った状態で出土した。この壺形土器115の出土した部分から土坑P5が検出されたが、土坑P5は、いわゆる工事面で検出されているため壺型土器との関連は定かではない。



第38図 5号竪穴住居跡3

5号竪穴住居跡出土遺物（第39図～第42図）

104～114は甕形土器である。104～106は口縁部が直に向き、胴の膨らみのない器形である。104は低く開いた脚をもった完形品である。頸部には、刻目の断面三角形の突帯を1条貼り付けてあり、106は器壁に刻目を施した縦長の工具痕が残る。器面調整は、ハケ目で脚部の外面はハケ目後ナデ調整し、内面は削り痕、ハケ目、ナデがみられ105の内面頸部には指頭圧痕がみられる。

107は頸部が縮まり、胴部が膨らむ器形で無突帯の土器である。外面の器面調整は頸部から上にヘラ状工具で行い、胴部は斜めに施している。内面には、指頭圧痕と板ナデがみられる。108はミニチュアの甕形土器である。口縁部が「く」の字に外反し、底部は平底を呈する。器面はハケ目調整後ナデ調整を施している。

109～114は甕形土器の底部である。109の外面はハケ目後ナデ調整を施し、内面は工具ナデの調整痕がみられる。110、111の脚は低く外側に大きく開き110は、脚先に稜を持つ。111の脚の先端は薄く尖り、断面の観察により、胴部との接合が明瞭で制作の状態が分かる。

112はやや内湾し先端は角張り平坦面をつくっている。113は低い脚部で器面はナデ調整である。114の脚先は角張っている。

115～120・136は壺形土器である。115は口縁部が大きく湾曲状に外反し、頸部では段をもつ、胴部は球状に張り4条の断面三角形の低い刻目突帯を横方向に施している。口唇部、頸部にはナデ調整がみられる。内面は頸部の輪積部で粘土の補強があり、工具痕と指頭圧痕がみられる。胴部の刻目は長い工具を使用しているため同列状にみられる。116は口縁部が外反し、「く」の字に折れた頸部をもつ土器である。器面調整はナデである。117は口縁部が外反し、「く」の字に折れた頸部をもち肩の張りが少ない器形である。内面には指頭圧痕がみられる。118は小型のもので口縁部は直に立ち上がっている。119はやや大型の壺形土器で頸部から底部に至る部位が出土した。頸部は段をもち胴部が大きく張り、尖底を呈する。胴部には幅広の断面の低い突帯に2列鋸歯状の刻

目を施している。外面はハケ目を横と縦方向に施し、内面には、ハケ目と指頭圧痕の調整がみられる。胎土は粗い土を用い焼成色は赤い。120の口縁部は外反し、頸部は段をもち、やや撫で肩で胴は球形に近い。外面はナデ調整で内面にはナデと指頭圧痕がみられる。

121～132は高坏である。121～123は下部に段をもち口縁部にかけて湾曲に立ち上がる。124・125は坏部の底で段をもつ。126の脚先の断面は尖る。127の内面は工具痕が観察できる。128の内側にはハケ目とナデ調整がみられる。129は器面にヘラ状工具の跡がみられる。

130～132は裏側に稜があり、123～125、130～132は、丹塗りである。

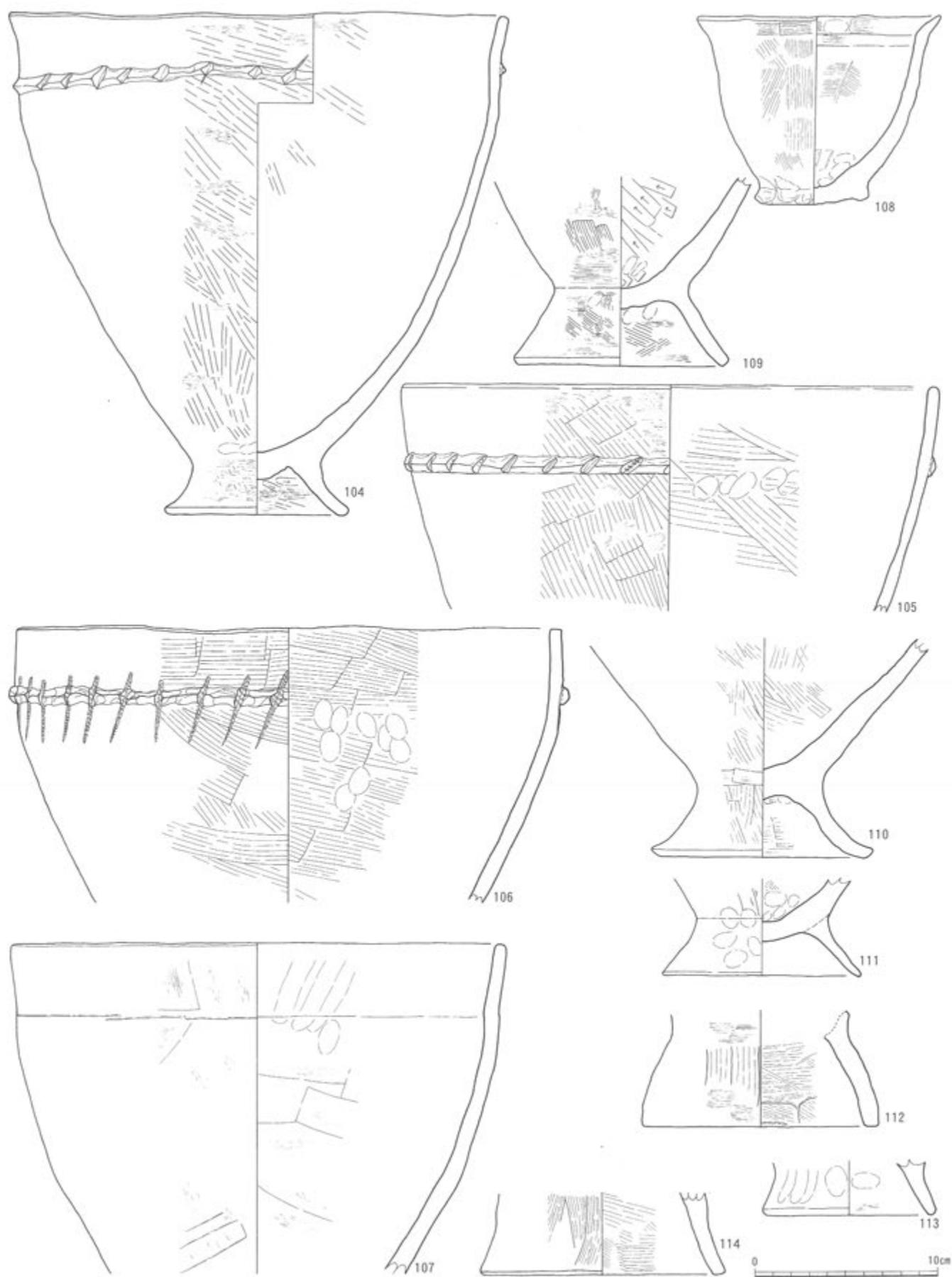
133～135、137、138、140～144は埴形土器である。133は埴の完形品で器形は口縁部が湾曲して開き、頸部が縮る、肩部は張りが少なく胴が球状に張り底部は平底である。底部外面に連続三角文状の刻書がある。134、135の口縁部は湾曲し開いている。137は頸部が縮まり肩部は張りがあり胴部が球状に張る器形で底部は平底である。138は頸部・肩部で球状の器形である。140、141は内湾した口縁部で140は、内面にヘラ状の工具痕がみられる。142は頸部が縮まり肩部は張りがなく胴部がそろばん玉状に張る器形で底部は平底である。

143、144は平底で、143は中央部が盛り上がる。133、135、140、142、144は丹塗りを施している。また、内面調整は指頭圧痕のある138・137・142や143にみられるハケ目もある。

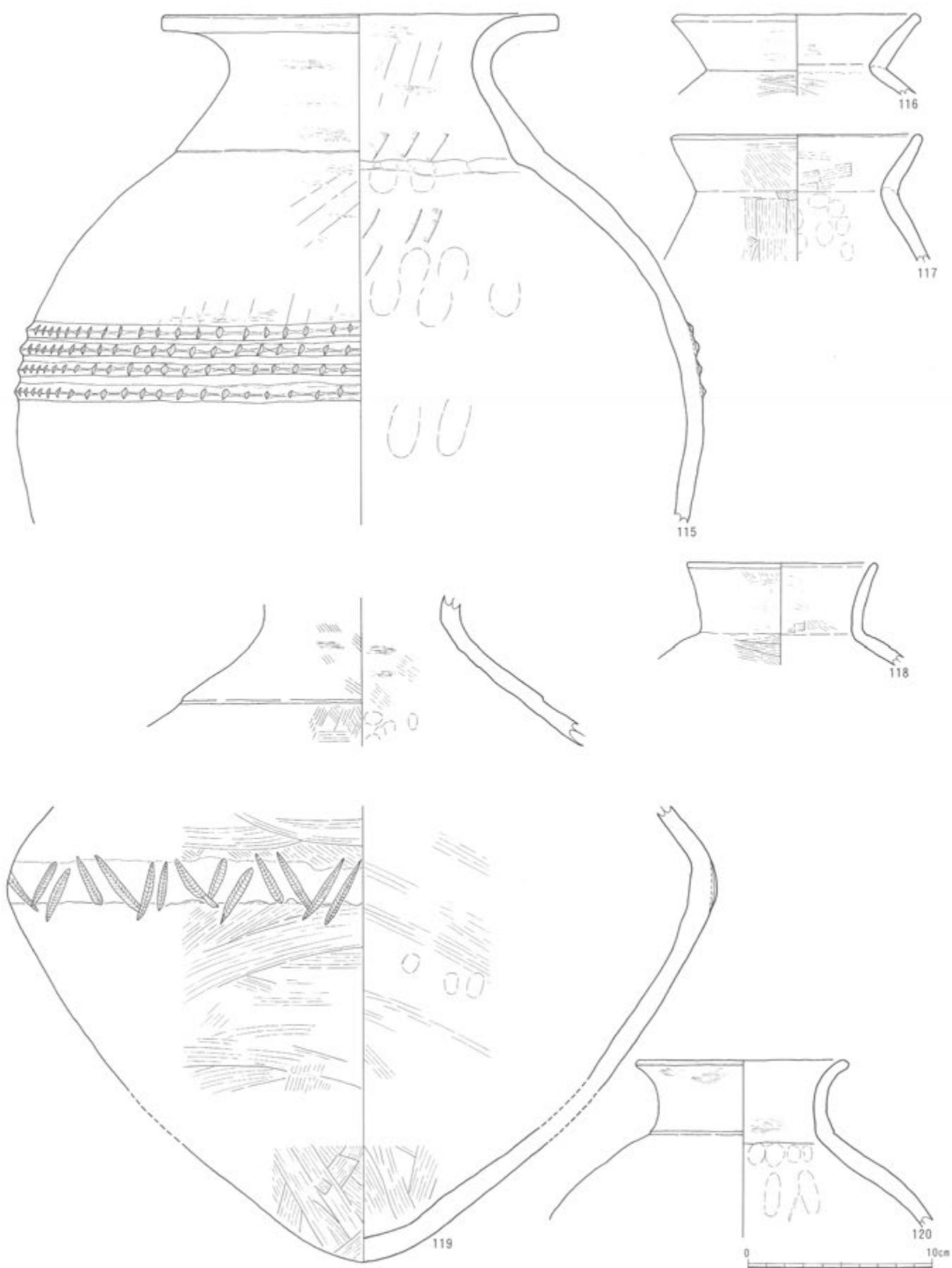
145は弥生時代前期の刻目突帯文土器の口縁部である。頸部に刻目のある突帯を施し、器面は工具によるナデ調整である。

136は壺形土器で口縁部は「く」の字に折れる。139は器形が球状を呈した鉢で、底部は平底である。器面はヘラ状工具で斜・横方向に調整を施している。

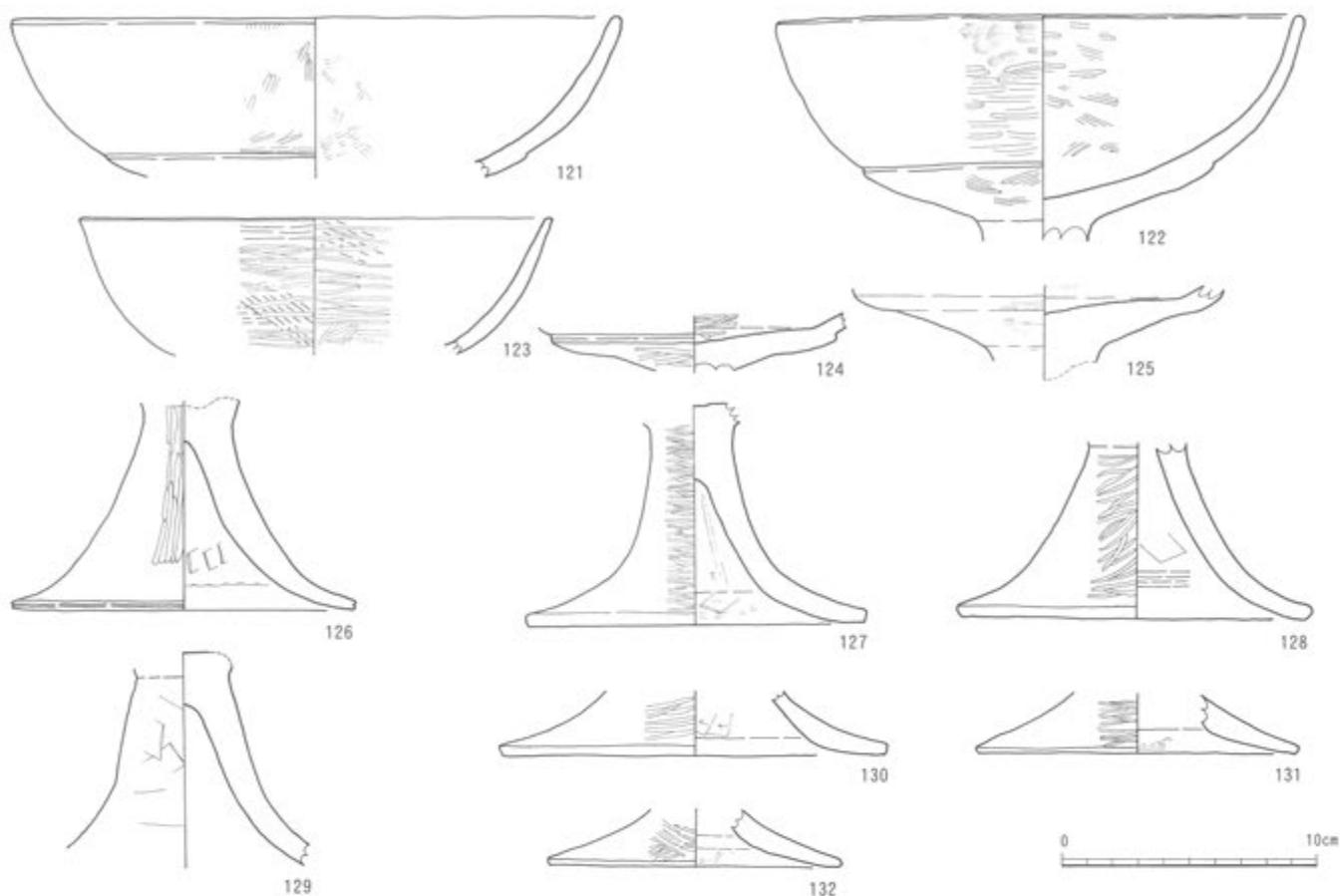
146は、柔らかい石材を使用した石製品であり、小径の2つの穿孔を両面から施す。



第39图 5号竖穴住居跡4(出土遺物実測図1)



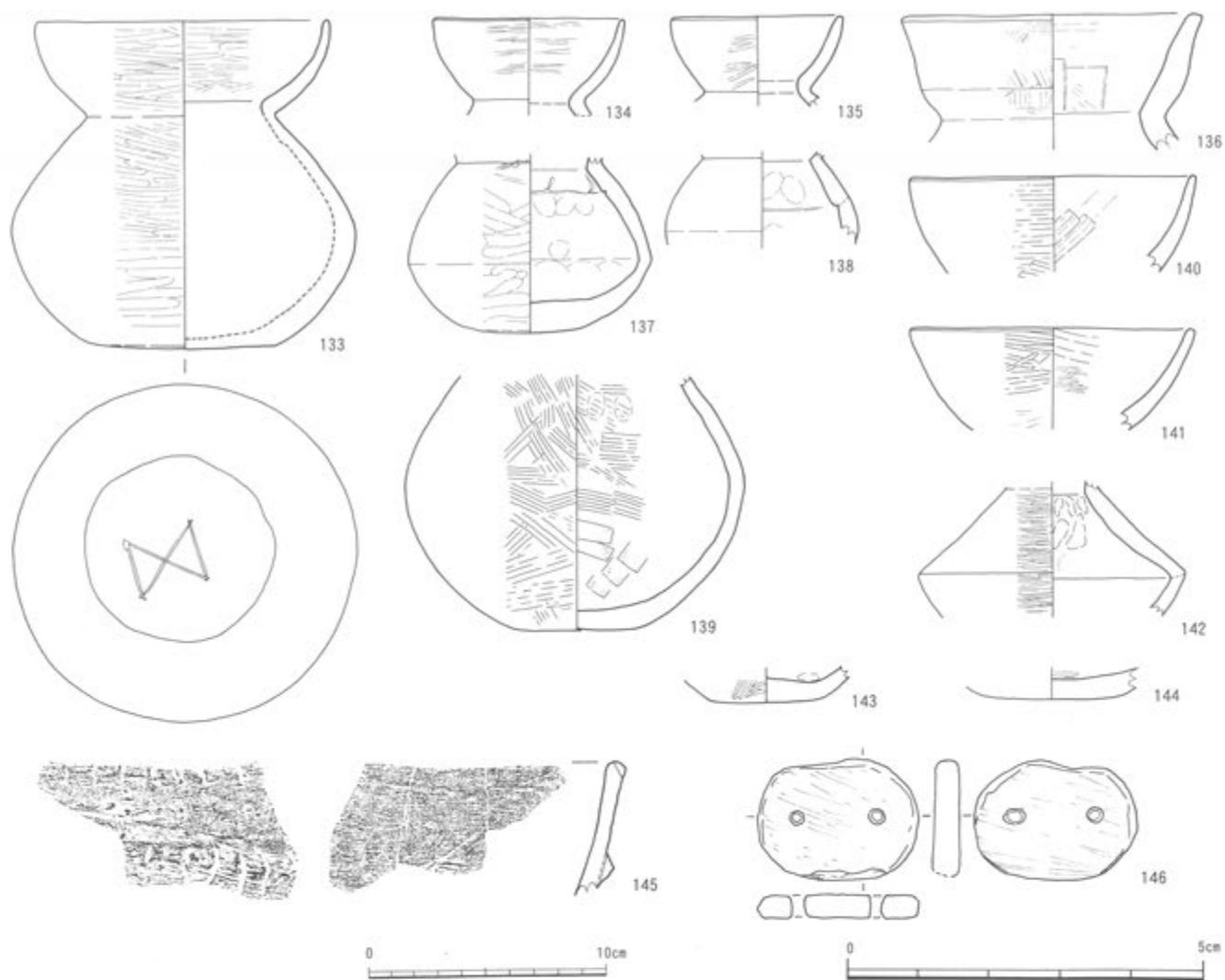
第40图 5号竖穴住居跡5(出土遺物実測図2)



第41図 5号竪穴住居跡6 (出土遺物実測図3)

第8表 5号竪穴住居跡出土遺物観察表(1)

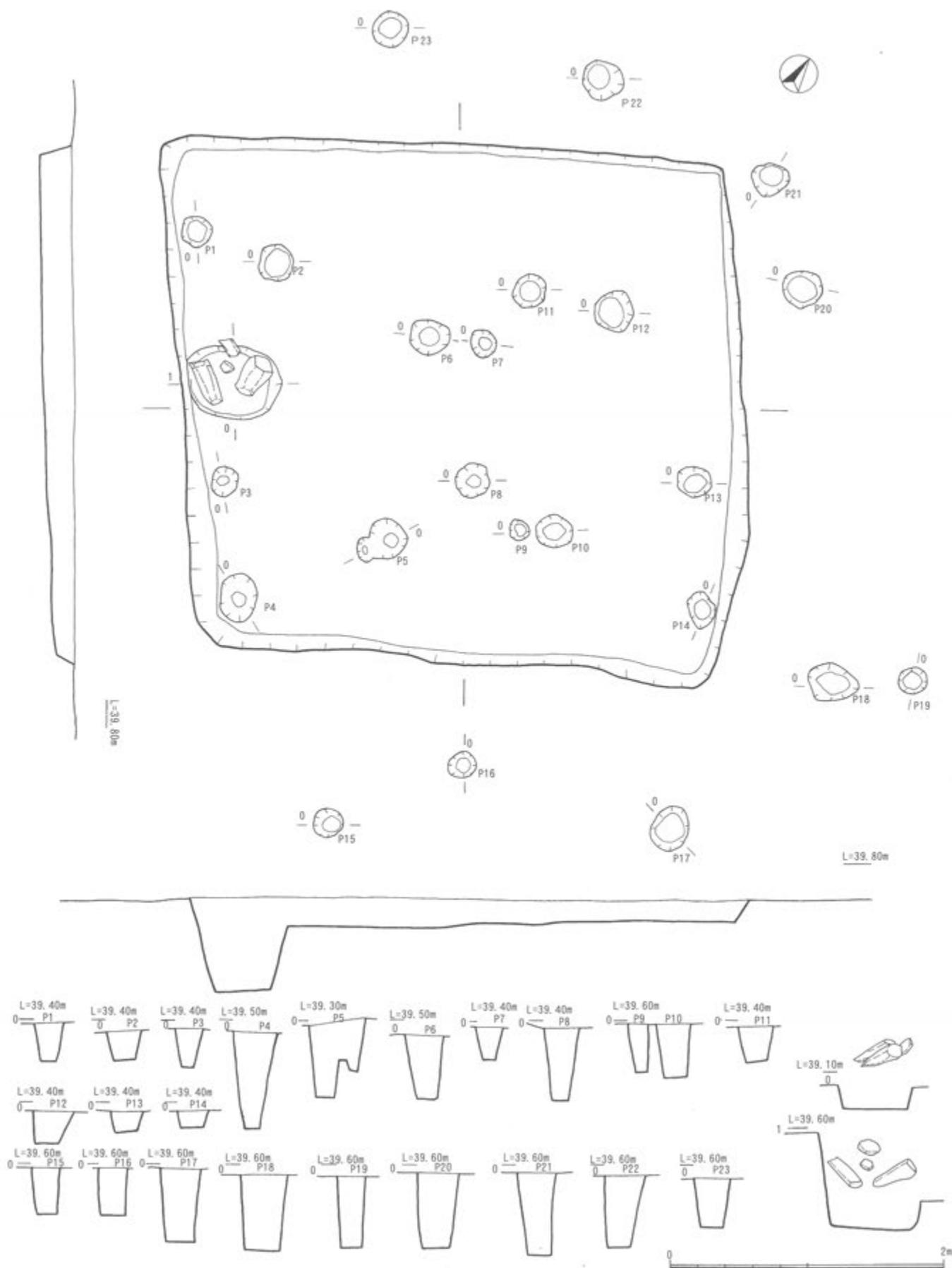
神田No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考	
39	104	8782 8781	5住	-	甕	口縁~底部	-	(27.0)	10.0	ハケメ、ナデ、刻目突帯	ハケメ、ナデ	良	黄橙、黒褐、浅黄橙	橙、浅黄橙	石英、長石、赤色砂粒、白色細粒	(外面) 黒斑あり	
	105	8363 8330 8572 8573 8452 8339 8335 8373	5住	-	甕	口縁~胴部	-	(29.2)	-	ハケメ、ナデ、刻目突帯	ハケメ、ナデ	良	黒褐、暗赤褐	橙、灰褐	石英、赤色砂粒、白色砂粒		
		2986	F-13	II													
	106	8401 一括	5住	-	甕	口縁~胴部	-	(29.6)	-	ハケメ、ナデ、刻目突帯	ハケメ	良	橙、明褐、暗褐	浅黄橙、橙	石英、輝石、白色細粒		
	107	一括	5住	-	甕	口縁~胴部	-	(26.9)	-	ヘラナデ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	明赤褐	赤褐	粗い胎土、砂粒混、小石多混	(外面) 煤付着	
	108	一括	5住	-	甕	完形	10.4	13.1	6.2	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	暗赤褐、暗赤灰	黄橙、暗赤褐	石英、赤色砂粒、小石5mm		
	109	8403	5住	-	甕	底部	-	-	(11.2)	ハケメ、ナデ	ナデ	良	淡黄橙、灰赤、黄橙	浅黄橙	石英、白色砂粒、小石5mm		
	110	8659 8771 8772	5住	-	甕	胴~脚部	-	-	12.0	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	黄橙、浅黄橙	黒褐、褐	石英、赤色砂粒、白色細粒		
	111	8742	5住	-	甕	脚部	-	-	(10.8)	ナデ	ナデ	良	浅黄橙	黒褐	石英、白色細粒、小石4mm		
	112	8441 8437 8432	5住	-	甕	脚部	-	-	(12.9)	ハケメ、ナデ	ハケメ	良	黄橙、灰黄褐	赤褐	粗い胎土、砂粒多混、赤色小石7mm		
	113	8428	5住	-	甕	脚部	-	-	(9.4)	ナデ	ナデ	良	褐	明褐、褐	白色砂粒多混		
	114	8385	5住	-	甕	脚部	-	-	13.4	ハケメ	ハケメ	良	暗赤褐	赤褐	白色細粒		
	40	115	8797	5住	-	甕	口縁~胴部	-	21.4	-	ヘラナデ、ナデ、刻目三角突帯四条	板ナデ、ナデ	良	浅黄橙、橙	橙	精製された胎土、赤色砂粒	
		116	8491	5住	-	甕	口縁部	-	13.6	-	ヘラミガキ、ナデ	ナデ	良	黄橙	褐灰	石英、砂粒混	
117		8599 8587	5住	-	甕	口縁部	-	12.0	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	橙、黄橙	黄橙、灰褐	長石、赤色小石、白色砂粒		
118		8679	5住	-	甕	口縁~胴部	-	10.3	-	ハケメ、ナデ	ナデ	良	浅黄橙	灰白、浅黄橙	精製された胎土		



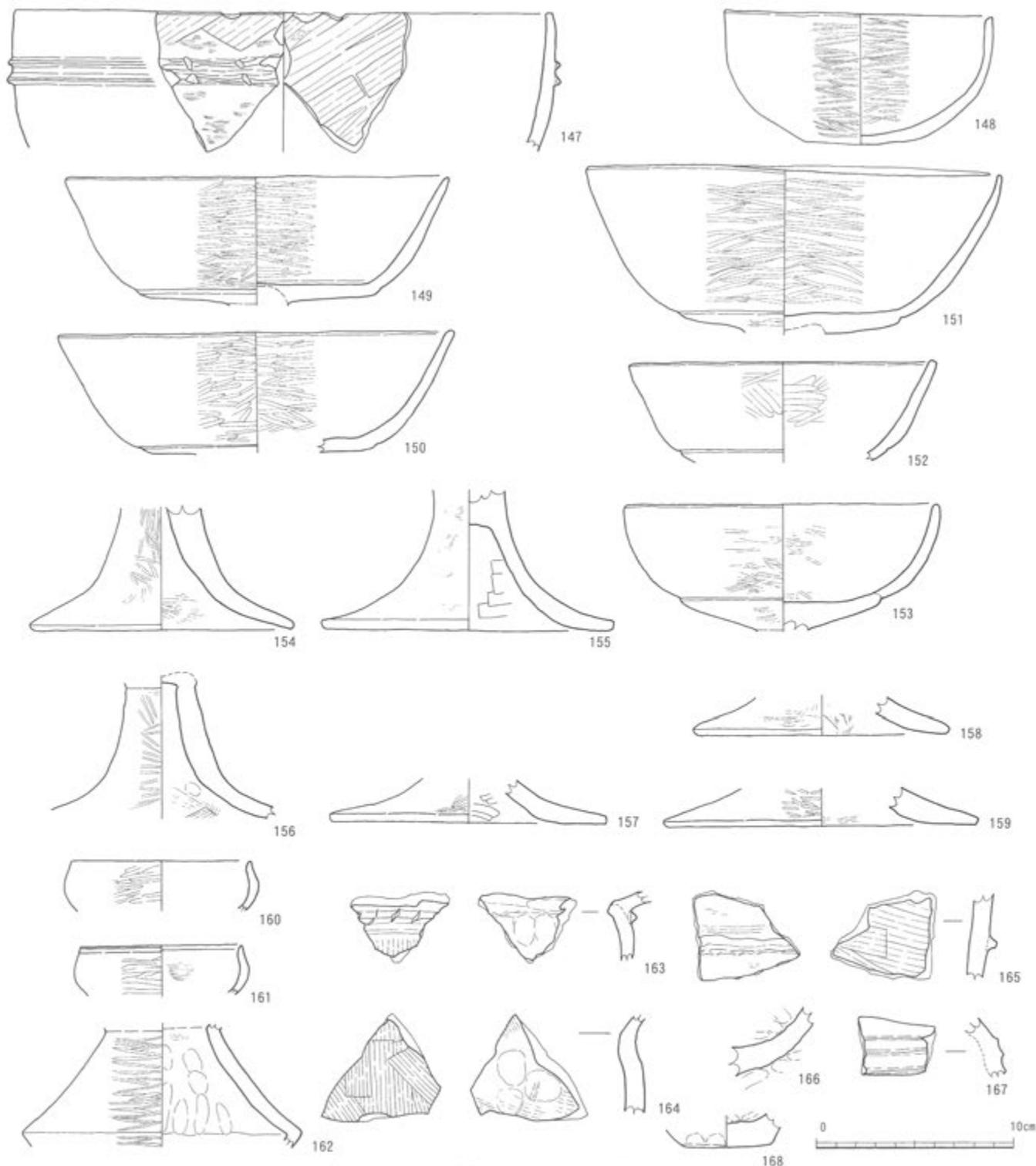
第42图 5号竖穴住居跡7 (出土遺物実測図4)

第9表 5号竪穴住居跡出土遺物観察表(2)

神田No	報告No	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考
40	119	8423 8476 8475 8473 8475 8454 8455 8466 表一括	5住	-	壺	頸~底部	-	-	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	黄橙、赤褐、暗赤	赤褐	粗い胎土、砂粒多量	(内面) 器面剥離
		3020														
	120	8763	5住	-	壺	口縁部	-	11.7	-	ナデ	ナデ	良	橙、浅黄橙	にぶい橙	粗い胎土、砂粒多量、小石(1.3mm)	
41	121	8701	5住	-	高坏	坏部	-	23.6	-	ナデ	ていねいなナデ	良	淡橙、橙	橙	石英、輝石、砂粒量	
	122	8767 8697 8774 一括	5住	-	高坏	坏部	-	20.4	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	黄橙	にぶい橙	長石、細砂少量	
	123	8609 8349 8376 一括	5住	-	高坏	坏部	-	18.4	-	ヘラミガキ、丹塗り	ヘラミガキ、丹塗り	良	暗赤褐、赤褐	暗赤褐、橙	赤色小石、砂粒量	
	124	8735	5住	-	高坏	坏部	-	12.0	-	ヘラミガキ、丹塗り	ヘラミガキ、丹塗り	良	赤橙、淡橙	橙、淡赤褐	石英、赤色小石、白色砂粒	
	125	8668 8341 一括	5住	IV	高坏	坏部	-	-	-	ヘラミガキ、丹塗り	ヘラミガキ、丹塗り	良	黄橙、浅黄橙	黄橙	赤色小石、白色細粒	(内面) 摩滅
	126	8751	5住	-	高坏	脚部	13.3	-	-	ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ	良	黄橙、浅黄橙	浅黄橙	石英、白色砂粒、小石4mm	
	127	8775	5住	-	高坏	脚部	-	-	-	ヘラミガキ、丹塗り	ヘラナデ、ナデ	良	橙、浅黄橙	浅黄橙	精製された胎土、赤色砂粒	
	128	8774 8638 一括	5住	-	高坏	脚部	-	-	13.8	ヘラミガキ	ハケメ、ナデ	良	黄橙	にぶい橙	長石、細砂少量	
	129	8788	5住	-	高坏	脚部	-	-	-	ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	黄橙、浅黄橙	黄橙	赤色小石、白色細粒	
	130	8784	5住	-	高坏	脚部	-	-	15.2	ヘラミガキ、丹塗り	ナデ	良	赤橙、黄橙	黄橙	石英、赤色小石、白色細粒	
	131	8708	5住	-	高坏	脚部	-	-	12.6	ヘラミガキ、丹塗り	ナデ、丹塗り	良	赤褐	赤橙、赤褐	精製された胎土	
	132	8789	5住	-	高坏	脚部	-	-	11.4	ヘラミガキ、丹塗り	丹塗り、ナデ	良	赤橙	淡橙、橙	赤色砂粒、精製された胎土	
	42	133	8790 8793	5住	-	埴	先形	14.1	12.4	7.8	丹塗り、器面剥離、ヘラミガキ	丹塗り、ヘラミガキ、ナデ	良	橙、赤橙	赤橙、黄橙	石英、赤色砂粒
134		3811 8782	5住	V	埴	口縁部	-	8.0	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	明赤褐、赤褐	橙、赤褐	精製された胎土、赤色砂粒	
135		8720	5住	-	埴	口縁部	-	7.3	-	丹塗り、ヘラミガキ	ナデ	良	赤褐、黄橙	橙、黄橙	精製された胎土、赤色砂粒少量	
136		8583 8745 一括	5住	-	壺	口縁部	-	12.7	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	赤褐、黄橙	暗赤褐	石英、長石、白色砂粒、砂粒量	
137		8704	5住	-	埴	頸~底部	-	-	4.0	ヘラミガキ	ナデ、指頸圧痕	良	灰白、褐灰	黄橙	精製された胎土	
138		8455	5住	-	埴	頸部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	灰白	浅黄橙	精製された胎土	
139		8565 8376 8389 8422	5住	-	鉢	胴~底部	-	-	6.4	ハケメ	ハケメ、ナデ	良	黄橙、黒褐	黄橙、橙	石英、長石、赤色砂粒、白色細粒	
140		8544	5住	-	鉢	口縁部	-	10.0	-	丹塗り、ヘラミガキ	ナデ	良	橙、黄橙	赤橙	石英、長石、白色細粒	
141		8511	5住	-	埴	-	-	11.6	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	暗赤褐、赤褐	黒褐、灰褐	石英、長石、砂粒少量	
142		8624 8502	5住	-	埴	胴部	-	11.2	-	ヘラミガキ、丹塗り	ナデ、指頸圧痕、丹塗り	良	赤褐、明赤褐	浅黄橙、灰褐	精製された胎土、赤色砂粒	
143	8767	5住	-	埴	底部	-	-	4.2	ヘラミガキ	ヘラナデ、ナデ	良	黄褐	黄橙	石英、赤色小石、白色細粒		
144	8393	5住	-	埴	底部	-	-	7.2	ナデ、丹塗り	ヘラナデ	良	赤褐、黄橙	浅黄橙、灰褐	精製された胎土		
145	8718	5住	-	壺	口縁部	-	-	-	貝殻条痕、刻目突帯	貝殻条痕、ナデ	良	黒褐	赤橙、灰褐	長石、輝石、砂粒少量		



第43图 6号竖穴住居跡 1



第44図 6号竪穴住居跡2 (出土遺物実測図)

6号竪穴住居跡 (第43図)

E~F-15区, VI層で検出され平面形は方形を呈し、長軸線が東西方向約4.1m、短軸線が南北方向で約4.0mである。遺構は近世の溝跡や工作によって削平を受けており、検出面から床面までの深さは約15~24cmと浅い。住居内からは、西壁に沿ってほぼ中央に床面から約20cm掘り込んだ土坑が検出された。土坑内から遺物の出土

はなかったが、上部に礫が集中して出土した。

床面の貼り床構築は検出されなかった。掘り込みはVII層中まで達し、埋土は単一の黒茶褐色土である。また、住居内からは14基のピットが検出された。検出されたピットは、P1~P3, P7, P11~P14が、床面からの深さが約12~30cmと浅く、P4, P5, P6, P8, P10は40cm以上と深いため、その位置関係から主柱

跡と考えられる。また、竪穴の外側に、北壁から東壁、南壁の周囲を巡るようにピットが9基検出された。これら竪穴周囲のピットは、埋土が住居跡と同じ黒茶褐色土が入っているため、住居跡に伴うものと推測される。

6号竪穴住居跡出土遺物（第44図）

147, 163～165は甕形土器である。147は口縁がやや外側に開く器形のもので、外面に2条の刻目突帯をもつ。器面は内側にハケ目調整を施す。

148は鉢形土器である。湾曲に立ち上がる器形で外面に丹が塗られている。

149～159は高坏である。149, 150, 152の器形は平坦な底部外側に段を有し、段から口縁部にかけて直線状に開く。151, 153は坏部の底部外側に段を有し、151は段から口縁部にかけて湾曲に開き口縁部に至っている。153は段からやや丸みを帯びる器形である。

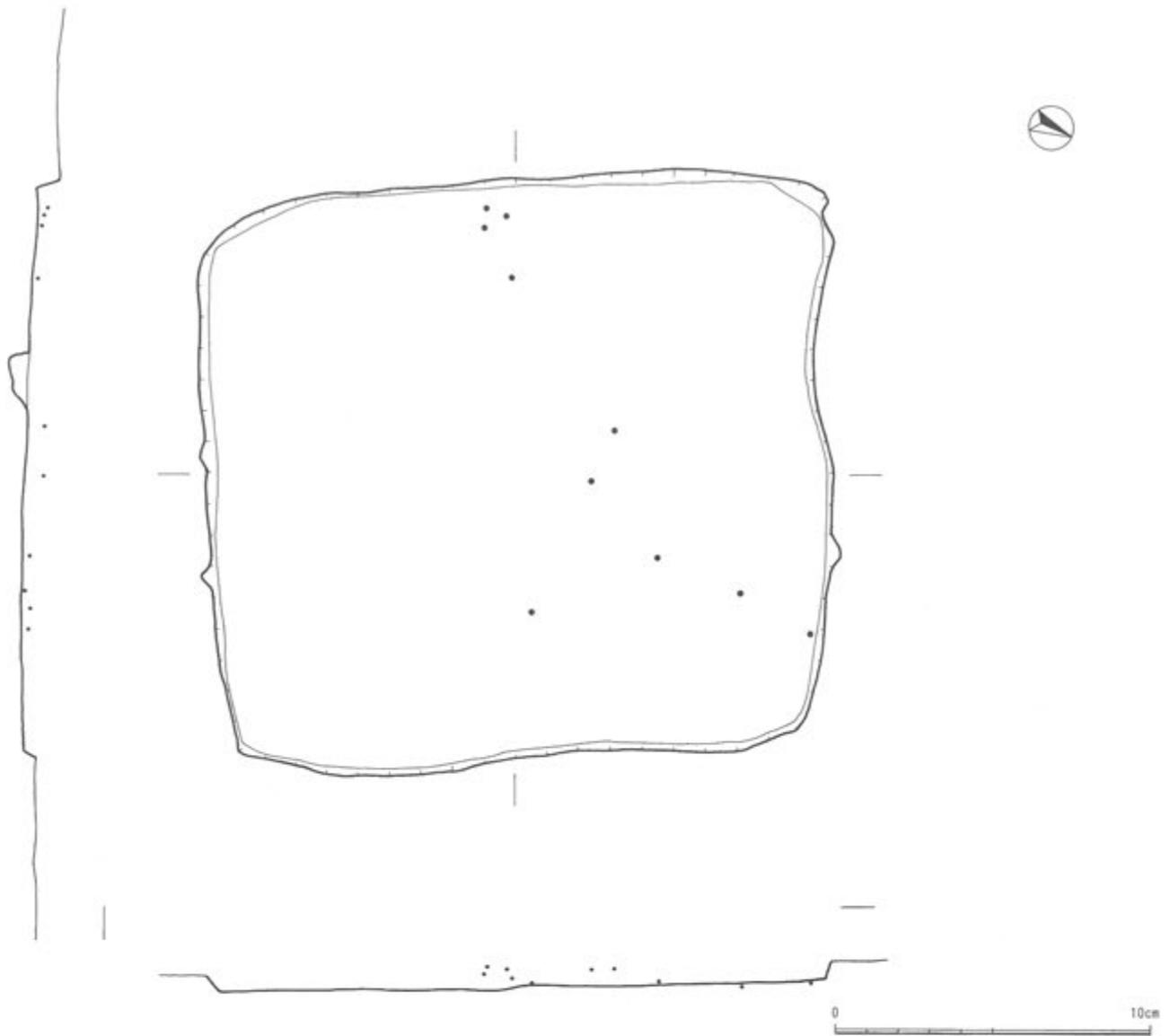
154の内側には縦方向、155は横方向の工具痕がみられる。156～158の内側にはヘラ状の工具痕が残る。159は外面に細かなヘラ磨きを施す。148～151, 153, 154, 156, 159の器面は丹塗りである。

160～162は埴形土器である。160, 161は袋状に内湾する口縁部である。162は胴部から頸部にかけて内湾し胴部で鋭角に屈折する形状をしている。161, 162は丹塗りを施す。163は頸部に断面三角形の刻目突帯を巡らし器面調整はハケ目である。164は口縁部が外反する土器の頸部で、器面はハケ目調整である。165は低い突帯を巡らし、器面はハケ目調整を施す。

166～168は壺形土器である。166は底部近くで球状を呈している。167は球状の肩部に位置し、低い断面三角形の突帯を施している。168は平底の底部である。

第10表 6号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考
44	147	8850	6住	-	甕	口縁部	-	(27.0)	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ	良	黒褐	にぶい黄褐	黒雲母, 赤色砂粒	
	148	8812	6住	-	鉢	完形	6.7	13.5	5.2	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ	良	橙	橙	石英	(外面) 煤付着
	149	8959 8984 8953	6住	-	高坏	坏部	-	(19.4)	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤褐	赤褐	精製された胎土	
	150	8934 8968 8963	6住	-	高坏	坏部	-	(20.0)	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤橙, 黄橙	赤褐	精製された胎土	
	151	8858 8865 8856 一括	6住	-	高坏	坏部	(8.0)	21.0	-	ヘラミガキ, 丹塗り	丹塗り(一部), ヘラミガキ	良	赤橙, 橙	黄橙	石英, 赤色砂粒	
	152	8979 8974 8812 一括	6住	-	高坏	坏部	-	(15.6)	-	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	明赤褐, 浅黄橙	黄橙, 橙	長石, 精製された胎土	
	153	8804 8838 8970 8971	6住	-	高坏	坏部	-	(16.0)	-	丹塗り, ヘラミガキ	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤橙, 黄橙	赤褐	白色砂粒, 赤色小石	
	154	8978	6住	-	高坏	脚部	-	-	13.4	ヘラミガキ, 丹塗り	ハケメ, ナデ	良	赤褐	黄灰	精製された胎土	
	155	8977	6住	-	高坏	脚部	-	-	(13.6)	ナデ	ヘラミガキ, ナデ	良	黄橙, 橙	浅黄橙	石英, 白色細粒, 赤色小石	
	156	一括	6住	-	高坏	脚部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ハケメ, ナデ, 丹(一部)	良	明黄褐	黄橙	長石, 砂粒混	
	157	一括	6住	-	高坏	脚部	-	-	14.1	ヘラミガキ	ヘラミガキ, ナデ	良	赤橙	灰白	石英, 白色砂粒	
	158	8937	6住	-	高坏	脚部	-	-	13.0	丹塗り, ヘラミガキ	ハケメ, ナデ	良	赤褐	明赤褐	石英, 白色砂粒	
	159	8880 2312	6住 E-14	- II	高坏	脚部	-	-	(16.0)	ヘラミガキ, 丹塗り	ハケメ, 丹塗り	良	赤褐	橙, 赤褐	白色砂粒, 赤色小石	
	160	8802	6住	-	埴	口縁部	-	(9.0)	-	ヘラミガキ	ナデ	良	赤褐	にぶい橙	黒雲母, 白色砂粒	
	161	8802	6住	-	埴	口縁部	-	(9.4)	-	丹塗り, ヘラミガキ	ナデ	良	明褐	にぶい黄橙	石英, 長石, 白・黒砂粒(1~2mm)	
	162	8806	6住	-	埴	胴部	-	-	(13.6)	丹塗り, ヘラミガキ	ナデ, 指頭圧痕	良	赤褐	にぶい黄橙	-	(外面) 器面摩滅多
	163	8855	6住	-	壺	口縁部	-	-	-	ハケメ, 刻目突帯	ナデ	良	明赤褐	明赤褐	長石, 白色小石多混	
	164	60	6住	-	甕	頸~胴部	-	-	-	ハケメ	ハケメ, 指頭圧痕, ナデ	良	赤褐	赤褐, にぶい赤褐	黒雲母, 赤色砂粒	
165	8895	6住	-	甕	胴部	-	-	-	ナデ, 突帯	ハケメ	良	橙	にぶい黄橙	石英, 長石, 白・赤・黒色砂粒(1~3mm)		
166	8801	6住	-	壺	底部	-	-	-	指頭圧痕, ナデ	ナデ	良	黒褐	褐灰, 黄橙	石英, 白・赤・黒色砂粒(1~2mm)		
167	8950	6住	-	壺	肩部	-	-	-	ナデ	-	良	橙	淡橙	石英, 赤色細粒	(内面) 器面剥離	
168	8958	6住	-	壺	底部	-	-	(4.8)	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	良	褐	にぶい赤褐	石英, 角閃石, 白色砂粒, 小石8mm		



第45図 第7号竪穴住居跡1

7号竪穴住居跡（第45図，第46図）

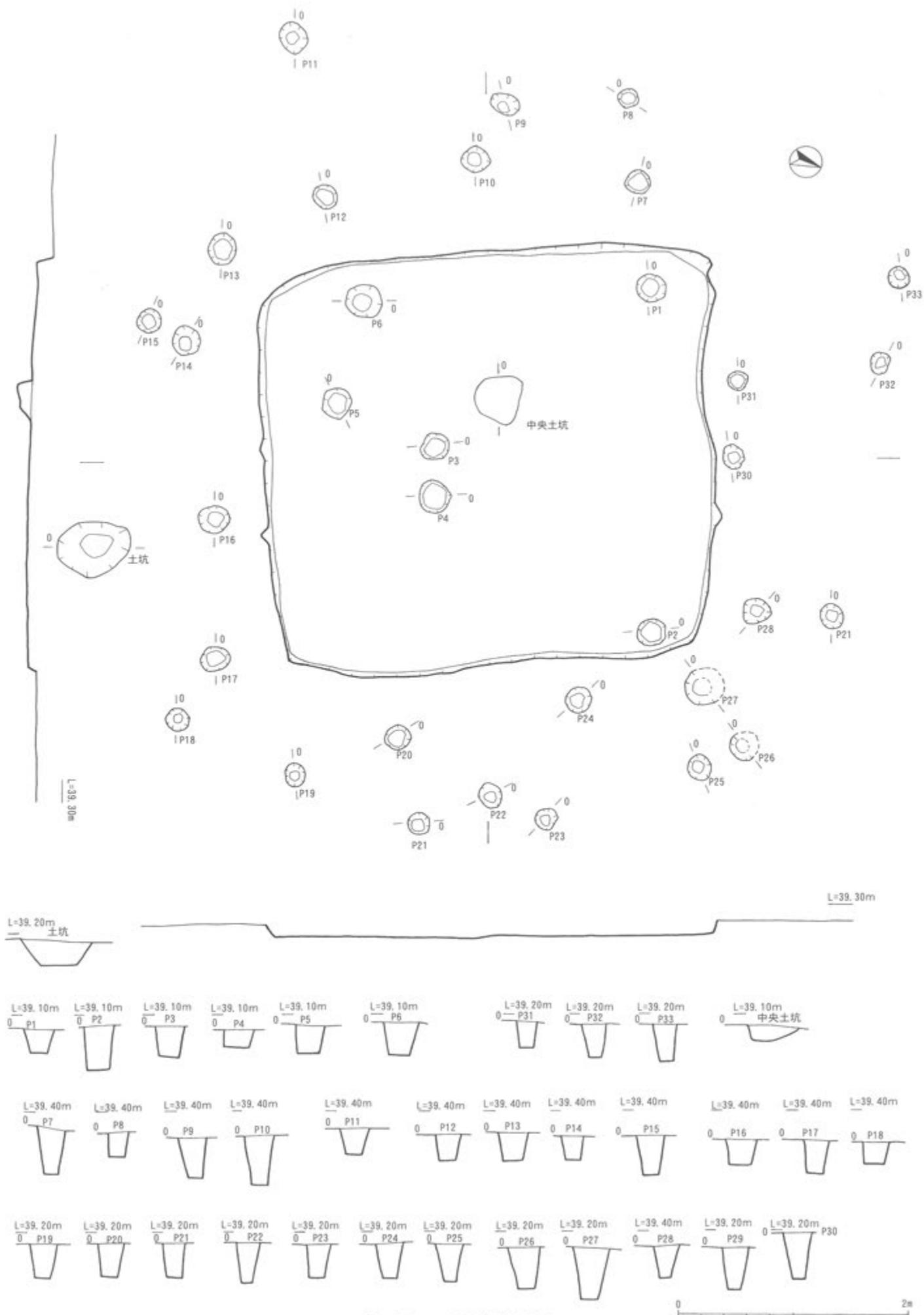
F-15~16区，6号竪穴住居跡北側に隣接しVI層で検出された。平面形は方形を呈し，長軸線が南北方向約4.0m，短軸線が東西方向で約3.7mである。

竪穴住居跡は，近世の溝跡や耕作によって削平を受けており，検出面から床面までの深さは約14cmと浅い。住居内からは，中央部に床面から約16cm掘り込んだ土坑が検出された。中央に土坑を有する竪穴住居跡は，本遺跡では，7号竪穴住居跡だけである。

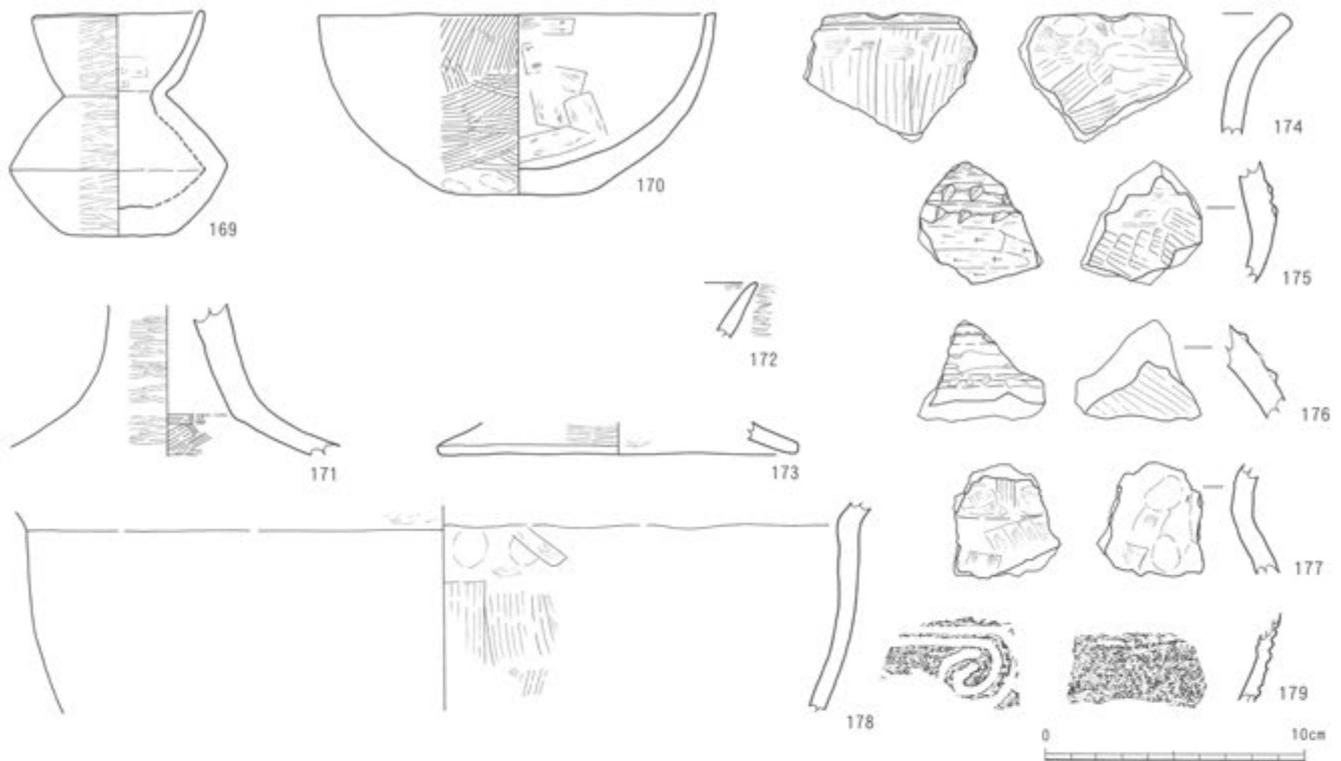
床面の貼り床構築は検出されなかった。掘り込みはVII層中まで達し，埋土は単一の黒茶褐色土である。

住居内からは5基のピットが検出された。これらの検出されたピットは，P1，P4，P5は，床面からの深さが約18~26cmと浅い。P2，P3，P6は，深さが約30~42cmあるが他の竪穴住居跡に比べ浅い。また，竪穴の外側にピットが24基検出された。竪穴周囲のピットは，埋土が住居跡と同じ黒茶褐色土が入っているため，

住居跡に伴うものと推測される。(P7，P8)と(P14，P15)(P17，P18)(P26，P27)(P28，P29)は，ピットが40~80cmの間隔で住居跡の中心に対して並ぶ状態で検出された。



第46图 7号竖穴住居跡2



第47図 7号竪穴住居跡3 (出土遺物実測図)

7号竪穴住居跡出土遺物 (第47図)

埴形土器169は小型の完形品である。口縁部はやや湾曲して開き、胴部は「く」の字に張り出すそろばん玉状の形状で、底部は平底で外面は丹塗りである。170は鉢形土器である。径の小さい平底の底部で口縁部にかけて湾曲に立ち上がる器形である。

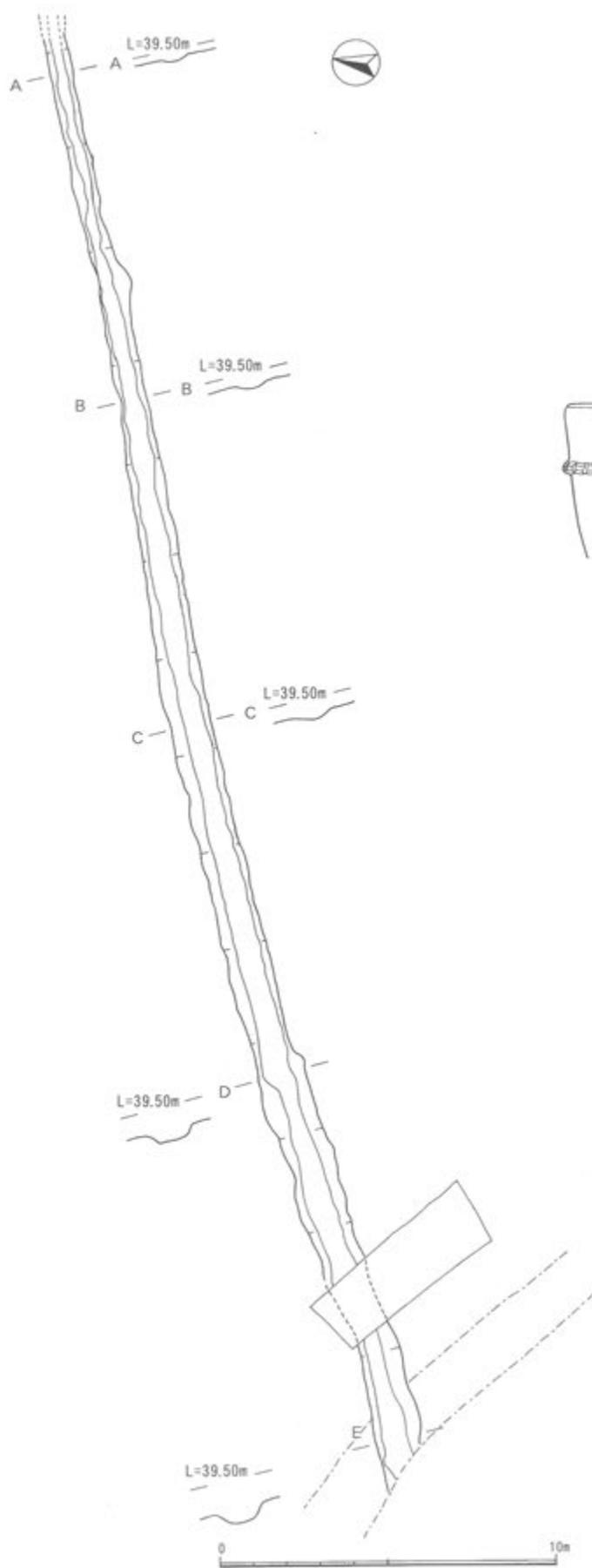
171~173は高坏である。171は内側に稜があり「く」の字に折れた整形を施す。172は外に開く口縁部である。173は脚部であり、171の先端部の可能性がある。

174は甕形土器の口縁部である。器形は外反し、器面調整は粗いハケ目である。175~178は壺形土器で175は2条の、176は3条の低い断面三角形の突帯を貼り付けており、175は刻目を施す。177は頸部で器面調整はハケ目である。

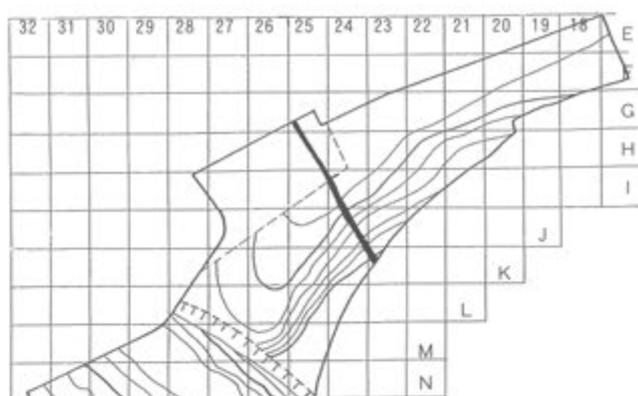
178は甕形土器で口縁が大きく外反する器形である。179は、埋土中から出土した縄文時代後期の深鉢の胴部である。

第11表 7号竪穴住居跡出土遺物観察表

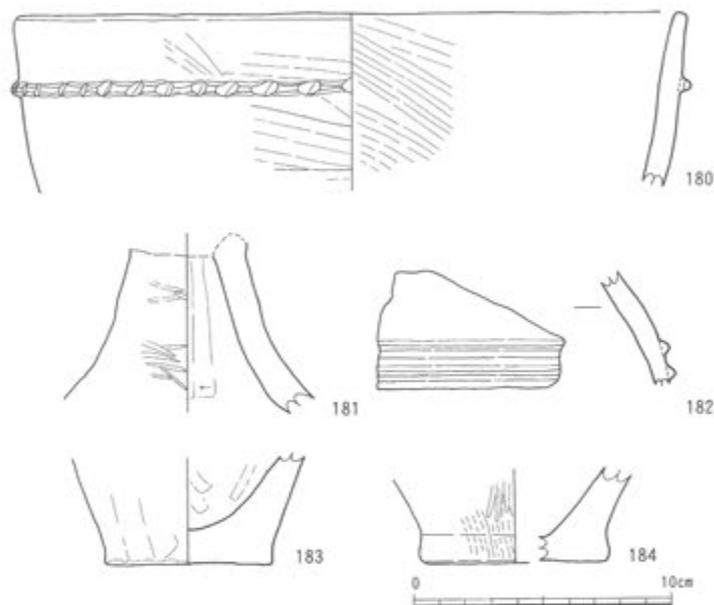
検出No	報告No	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
47	169	8997	7住	-	埴	完形	8.9	6.7	4.0	丹塗り、ヘラミガキ	ナデ、ヘラナデ	良	赤橙、黄褐	黄橙	精製された胎土	煤付着
	170	9053	7住	-	鉢	口縁~底部	7.5	15.4	5.8	ハケメ	ヘラナデ、ナデ	良	にぶい赤褐	明赤褐	石英、赤色砂粒、白色小石	
	171	9125	7住	-	高坏	脚部	-	-	-	ヘラミガキ、丹塗り	ハケメ、ナデ	良	橙	明赤褐	石英、長石、砂粒混	(外面) 器面剥離
	172	9070	7住	-	高坏	口縁部	-	-	-	ヘラミガキ、丹塗り	丹塗り、ヘラミガキ	良	赤、黒褐	赤褐、黄橙	精製された胎土	(内面) 一部摩滅
	173	9091	7住	-	高坏	脚部	-	-	14.0	ヘラミガキ、丹塗り	ナデ	良	赤褐	にぶい黄橙	精製された胎土	
	174	9045	7住	-	甕	口縁部	-	-	-	ハケメ	ハケメ	良	暗赤褐、赤橙	にぶい黄褐、赤褐	石英、長石、白色細粒、赤色砂粒	
	175	9122	7住	-	壺	胴部	-	-	-	ヘラナデ、別目突帯二条、次輪	ハケメ、ナデ	良	橙、黄褐	褐灰	石英、長石、白色砂粒	
	176	9004	7住	-	壺	胴部	-	-	-	ナデ、三角突帯三条	ナデ	良	橙、灰褐	明赤褐	石英、赤色砂粒	
	177	9001	7住	-	壺	胴部	-	-	-	ヘラナデ、ナデ	ナデ、指頭圧痕	良	褐	にぶい褐	石英、長石、白色砂粒	
	一括	F-15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	178	9043	7住	-	甕	胴部	-	-	-	ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	黄褐、灰褐	橙、浅黄橙	石英、白色細粒、小石7mm	
		2579	F-16	II	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	179	-	7住	II	深鉢	胴部	-	-	-	磨消縄文	ヘラナデ	良	にぶい褐	褐灰	角閃石、長石、雲母、砂粒多混	



第48図 溝状遺溝



第49図 溝状遺溝位置図 (1/1000)



第50図 溝状遺溝(出土遺物実測図)

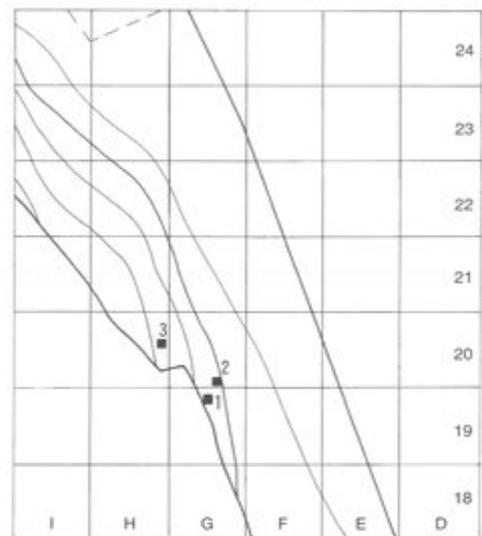
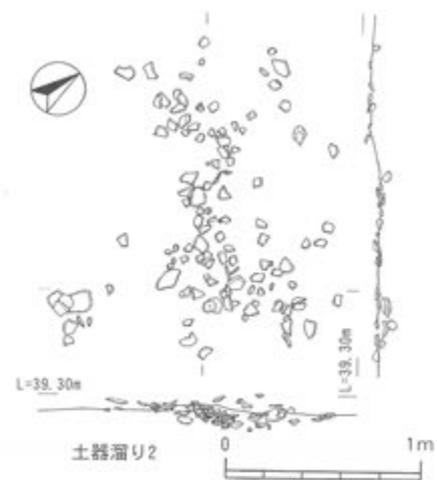
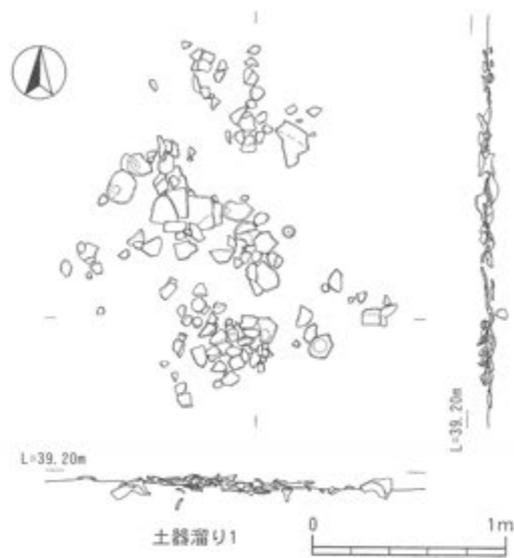
溝状遺溝 (第48図～第50図)

溝状遺溝は、F-25区～K-23区間で検出された。掘り込みはしっかりとしており、検出面からの深さは約18～50cmであり、遺溝の下面のレベルは、河川側F-25区～内陸側K-23区にかけて下がる。溝の下面からは、古墳時代の土器180～184が出土した。

180は甕形土器で外開きの口縁で、刻目突帯を横位に施している。器面調整は内外面とも粗いハケ目である。

181は高杯の脚部で坏部と接する面が広い。

182は壺形土器の肩部で、断面三角形の突帯が2条あり器面を研磨している。弥生時代のものと思われる。183、184は弥生時代の甕形土器の底部で183の器面は工具調整痕が残り、184の器面は研磨が施されている。



第51図 土器溜り

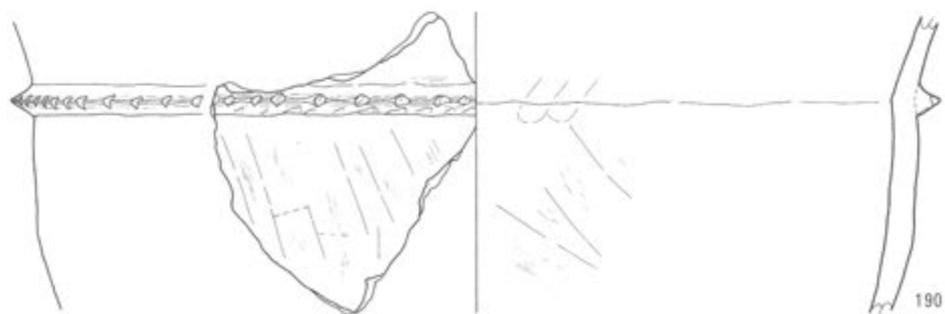
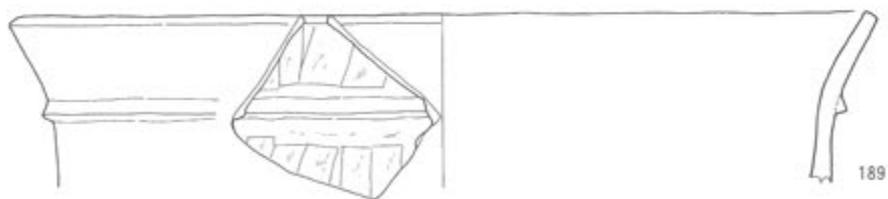
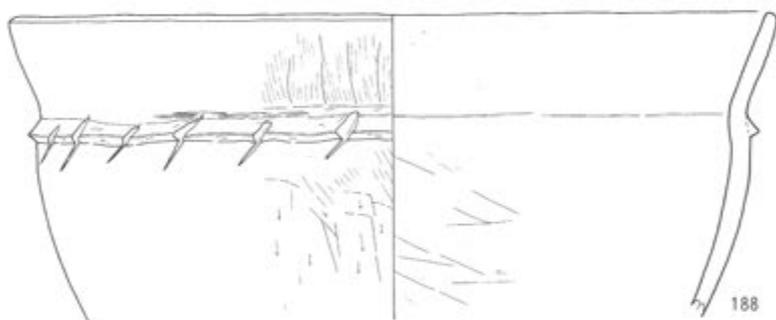
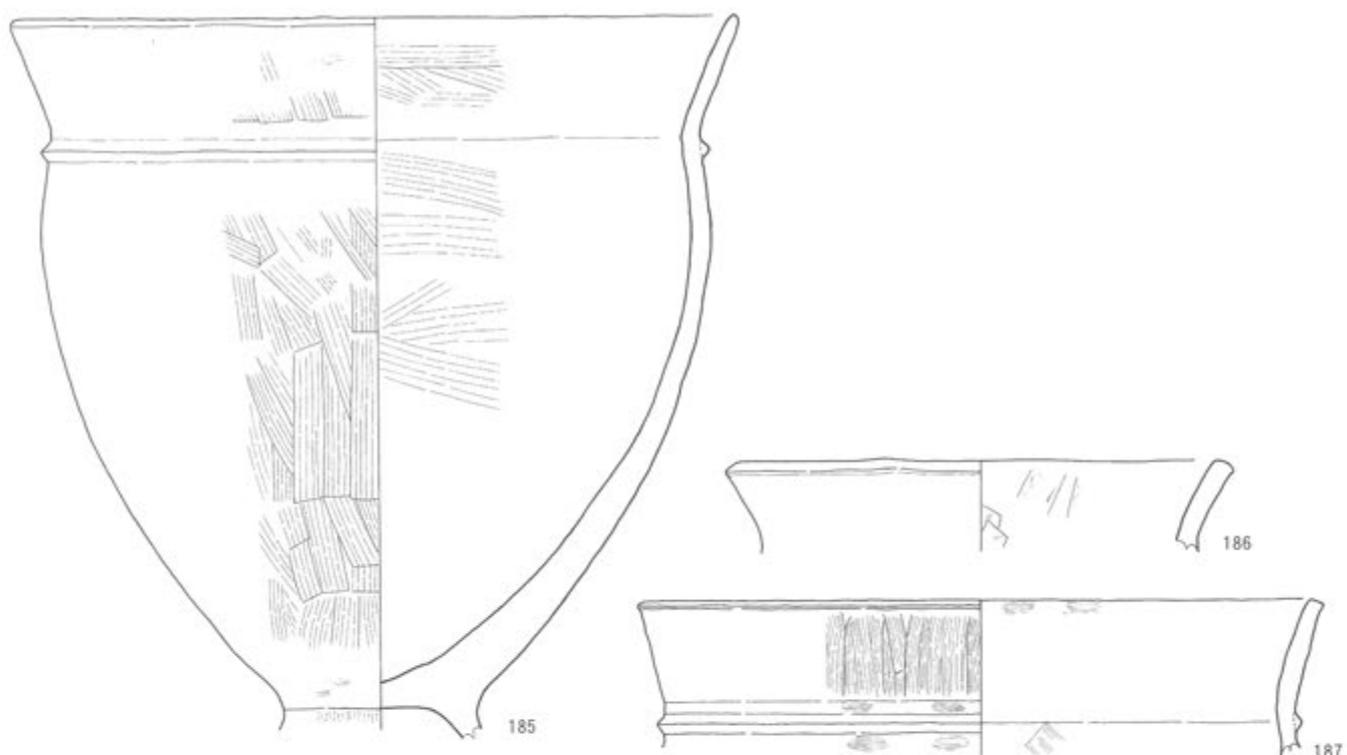
土器溜り (第51図, 第52図)

遺跡からは、3ヶ所の土器溜り (捨て場・土器集中廃棄所) の他、遺構と関わりなく多量の遺物 (土器片) が出土している。土器溜りは、G-19, 20区H-20区で検出している。土器溜り1, 2は甕形土器を主体とし、土器溜り3では、大型の甍形土器を主体としている。

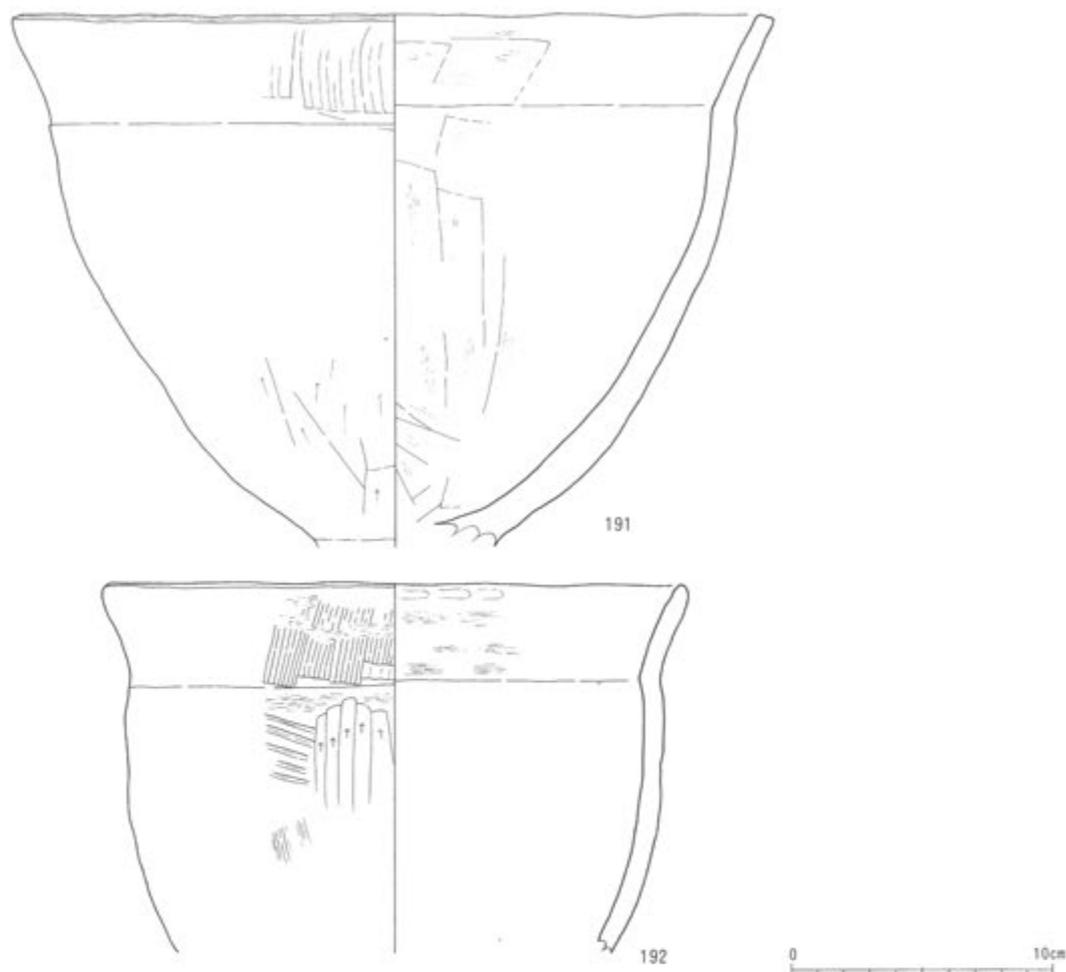
第52図 土器溜り位置図(1/500)

第12表 溝状遺構出土遺物観察表

押込No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
50	180	2373	D-14	II	甕	口縁部	-	26.0	-	ハケメ, 割目突帯	ハケメ, ナデ	良	黄橙	淡黄橙	石英, 長石, 角閃石, 砂粒混, 小石5mm	
		2377	E-14	溝												
	181	一括	C-12	溝	高坏	脚部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラナデ	良	明赤褐, 淡黄橙	灰白	石英, 長石, 角閃石, 白色小石, 赤色小石	
	182	-	C-12	溝	甍	胴部	-	-	-	ナデ, 突帯二条	ナデ	良	橙	黄橙	精製された胎土	(内面) 器面剥離
	183	一括	F-13	溝	甍	底部	-	-	6.4	ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	明赤褐	橙	石英, 長石, 白色細粒, 黒雲母	
184	-	C-12	溝	甍	底部	-	-	7.4	ハケメ	ナデ	良	赤褐	赭灰	石英, 長石, 角閃石, 砂粒多混		



第53図 古墳時代出土遺物実測図1



第54図 古墳時代出土遺物実測図2

3 包含層出土土器

遺跡からは、3ヶ所の土器溜りの他、遺構と関わりなく多量の遺物（土器片）が出土している。

甕形土器（第53図～第63図）

185～192は口縁部が外反し胴部がやや膨らむ器形である。185、187、189は、刻みのない突帯が1条巡り、185は外面にハケ目が施され、内面は口縁部が横方向のハケ目で胴部はナデ仕上げである。187は外面が縦のハケ目、内面がナデ仕上げである。188は、ヘラ状の工具を用い斜めに刻目を施した断面三角形の突帯を巡らす。器面調整は外面が縦方向のハケ目を施した後ナデ仕上げで、内面は横方向のハケ目である。190は、菱形に刻んだ断面三角形の突帯を巡らし、器面調整は縦方向の板ナデ仕上げである。

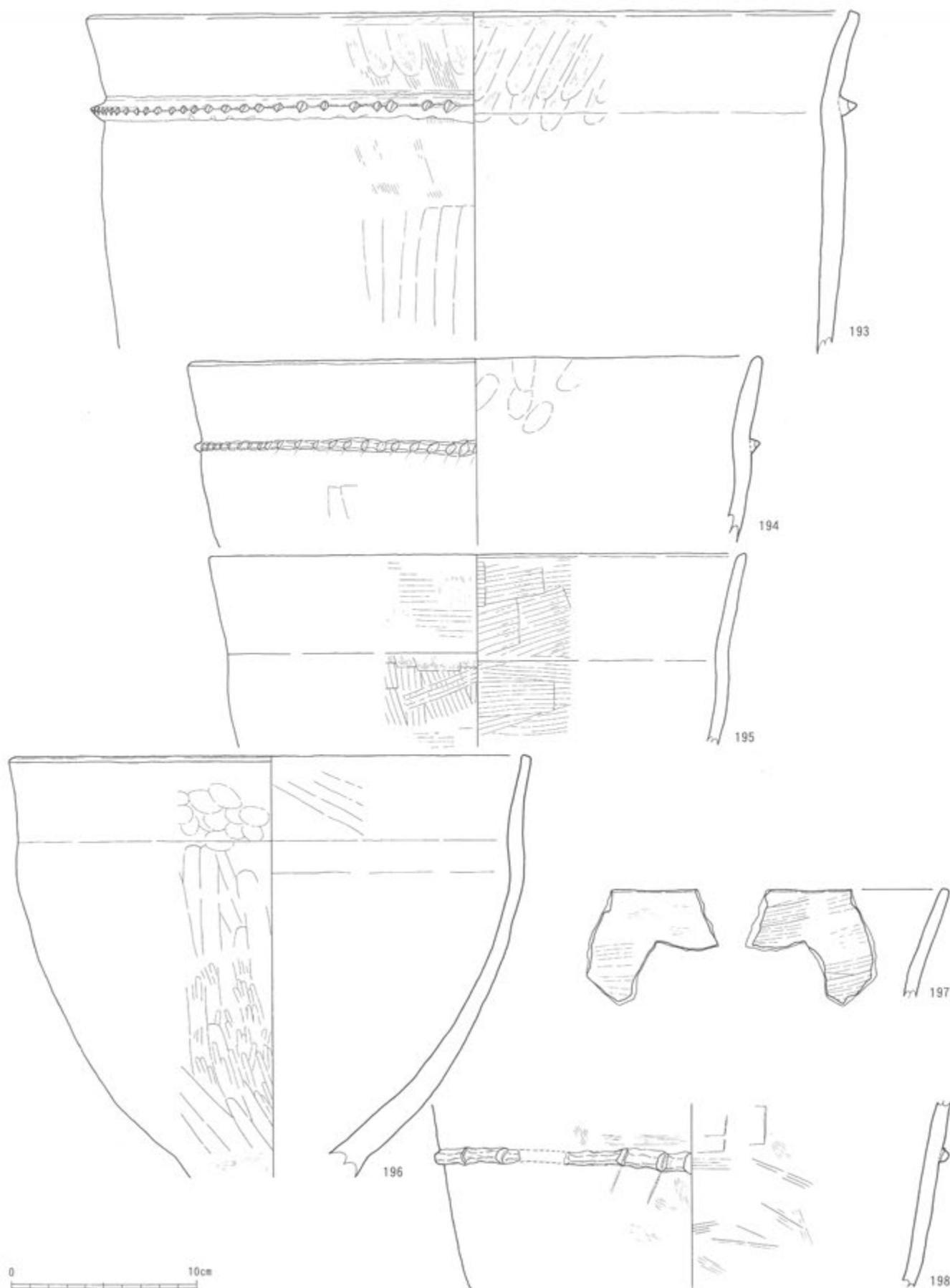
191、192は突帯がつかず、口縁部と胴部の境に稜がみられる。191、192の器面調整は口縁部の外面が工具によるハケ目で、胴部は削り痕が縦方向に施されている。内面は口縁部が横方向のハケ目、胴部は工具ナデ仕上げである。192の胴部の調整は摩滅している。

193～198は、185～192に比べ口縁部が起きて直行

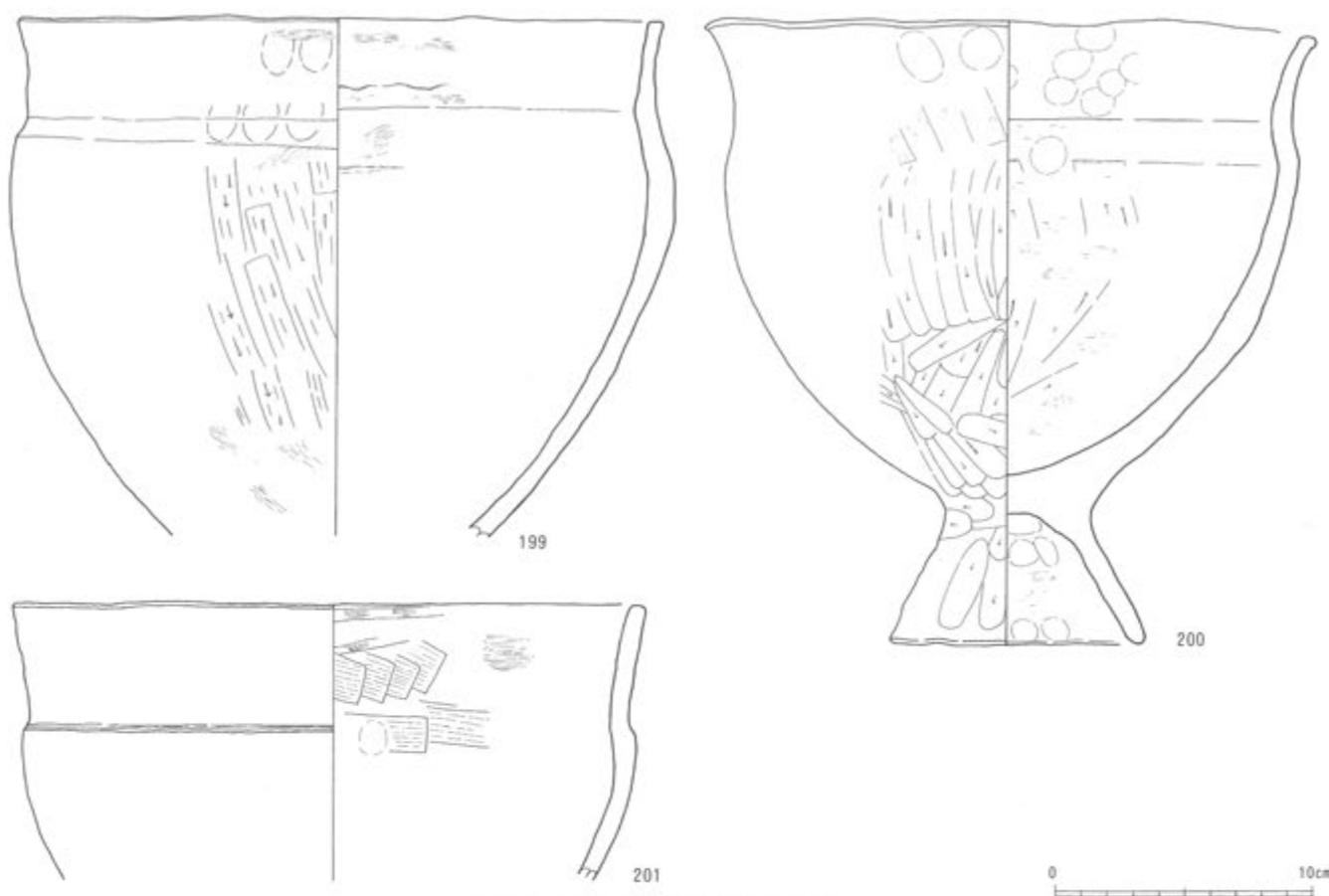
し、胴部がやや膨らむ器形である。193は、細かな刻目を施した断面三角形の突帯を巡らす。器面調整は内外面ともにハケ目である。194は刻目を施した断面三角形の突帯を巡らす。195、196は突帯がつかず口縁部と胴部の境に稜がみられる。196の器面調整は、削りの後に磨きを施し、内面は工具ナデ調整である。198は、刻目を施した突帯を巡らしている。器面調整は外面が縦方向のハケ目後ナデ仕上げ、内面は横方向のハケ目である。

199～206は口縁部が193～198よりもさらに起き、胴部の張る器形である。199は口縁よりも胴部が張り出す。器面調整は、外面が縦方向の削りで、内面はハケ目後ナデ仕上げである。200は口縁部が外反し、底部は、薄く仕上げた高い脚が付く器形である。口縁部の外面に板状工具痕が残り、胴部から脚部にかけて縦方向の削り痕が残る。内面には指頭圧痕もみられる。201は、口縁部と胴部が同じ径で、口縁部から胴部にかけて稜を持つ。

202～204は、口縁部より胴部の張る器形で、1条の断面三角形の突帯を巡らす。202の器面調整は、外面が縦方向の工具による削り痕、内面は斜めや横方向のハケ目後ナデ仕上げである。203は口縁部が直に向き、口縁



第55図 古墳時代出土遺物実測図3



第56図 古墳時代出土遺物実測図4

部から胴部にかけて縮まり、突帯を小波状に巡らす。器面調整は、両面とも板ナデ仕上げである。204は口縁部が外反し、間隔の広い刻目の突帯を巡らしている。器面調整は、外面口縁部が縦方向のハケ目、胴部は縦方向の削りが施されている。内面はハケ目である。

205, 206は、口縁部がやや外反し、胴部の張る丸底の器形である。205の器面調整は外面がハケ目、内面はナデ仕上げである。206は、刻みのある断面三角形の突帯を1条巡らす。185~206は、東原式土器である。

207~221は、胴部から口縁部にかけて直行する器形である。207, 208は、胴部と脚部の境に断面三角形の突帯を巡らす。器面調整は外面がハケ目、内面がハケ目後ナデ調整をし、207は、刻目に工具痕の残る断面三角形の突帯を巡らす。209, 210は器壁が薄く、焼成も良く、間隔の広い刻目の突帯を巡らす。211は口縁部に歪みが残る。外面には縦方向の工具痕が残り、内面は横方向の削り痕が残る。212は、間隔を詰めた刻目の突帯を巡らし、胴部の下面を厚く平に仕上げる。

213, 214は小型の甕形土器で、213の口唇部は平坦面を成す。214は低い脚のある底部から直線的に外向しているが、形が整っていない。小波状の突帯を巡らし、底面には指抑えがみられる。

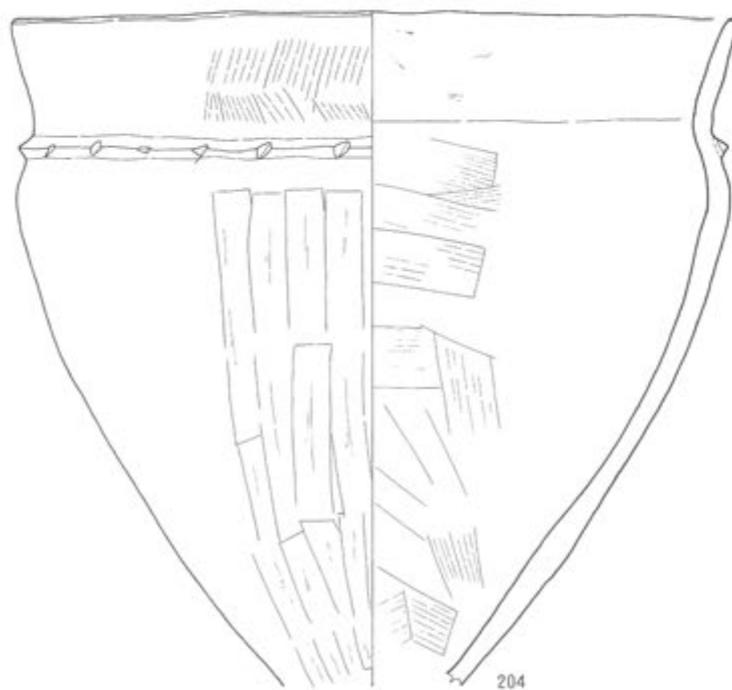
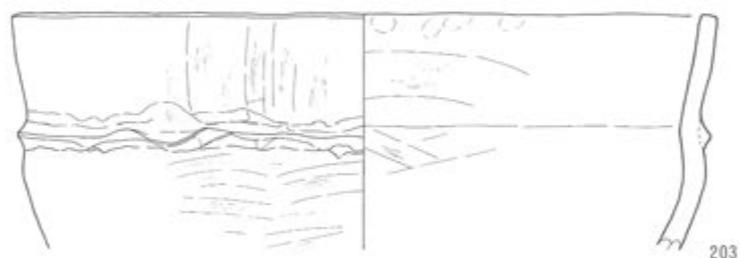
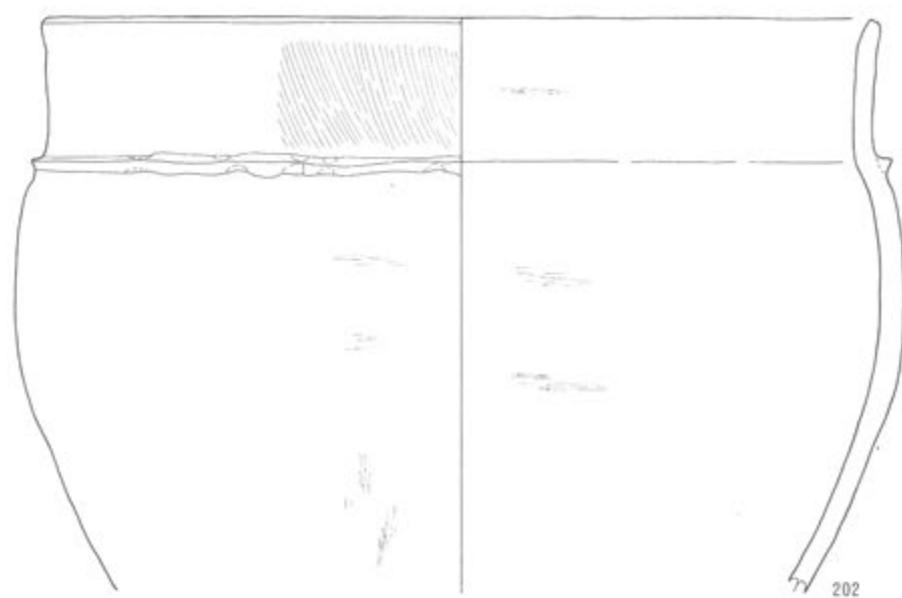
216は器壁が薄く焼成が良い。刻目のない指つまみの突帯を巡らす。217は、口縁部がやや内湾し、ヘラ状の工具で斜めに刻んだ突帯を巡らす。器面調整は、外面がハケ目後ナデ仕上げ、内面は工具ナデ仕上げである。218は、間隔の広い刻目を施した突帯を巡らし、煤が多量に付着している。219~221は、刻目のある突帯を巡らし、219の口唇部は平坦面を成している。220の口唇部は丸みを帯びる。207~221は、辻堂原土器である。

222~224は、口縁部が内湾する器形であり、器壁が薄く焼成が良い。これらは、古墳時代の笹貫式土器である。全て1条の断面三角形の突帯を巡らし、222は指つまみ、他は刻目を施す。器面調整は、内外面が斜方向のハケ目である。

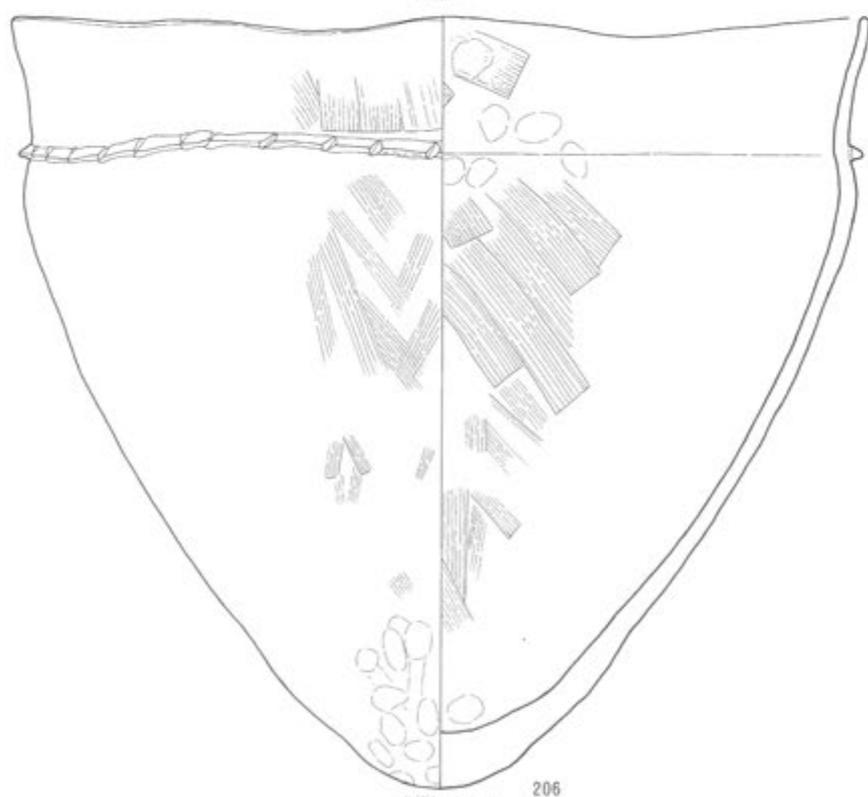
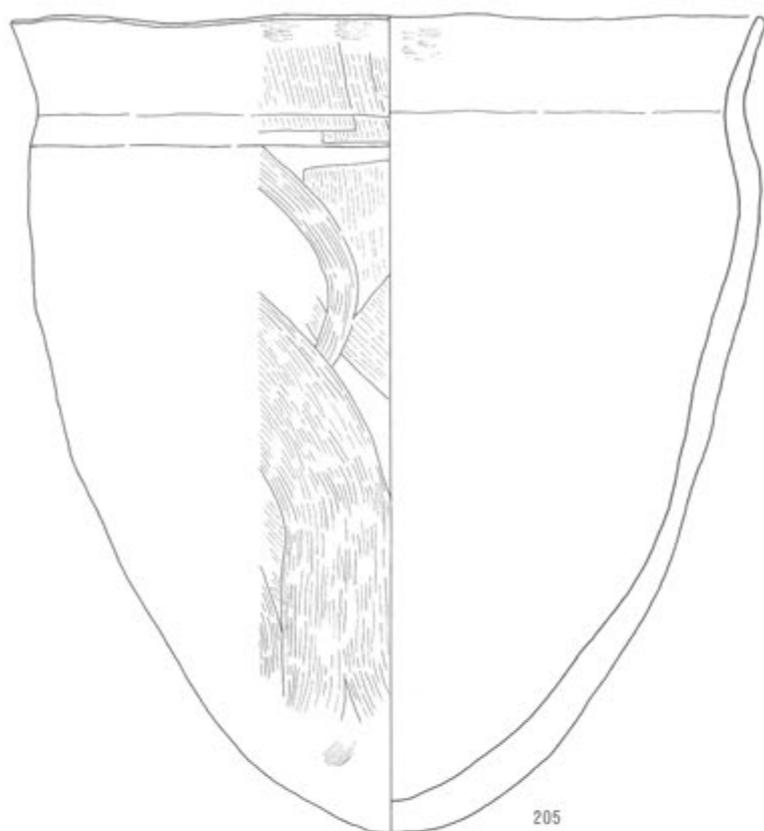
225~243は、甕形土器の底部（脚部）である。出土した物の中から形状のわかる物のみ図化した。

225, 229~231, 238は、外反しながら開く低い脚である。225, 229の端部は外を向き丸くおさまり、脚台の内面は丁寧にナデ仕上げがなされ、225の天井部が下方に膨らみ、229は平坦である。

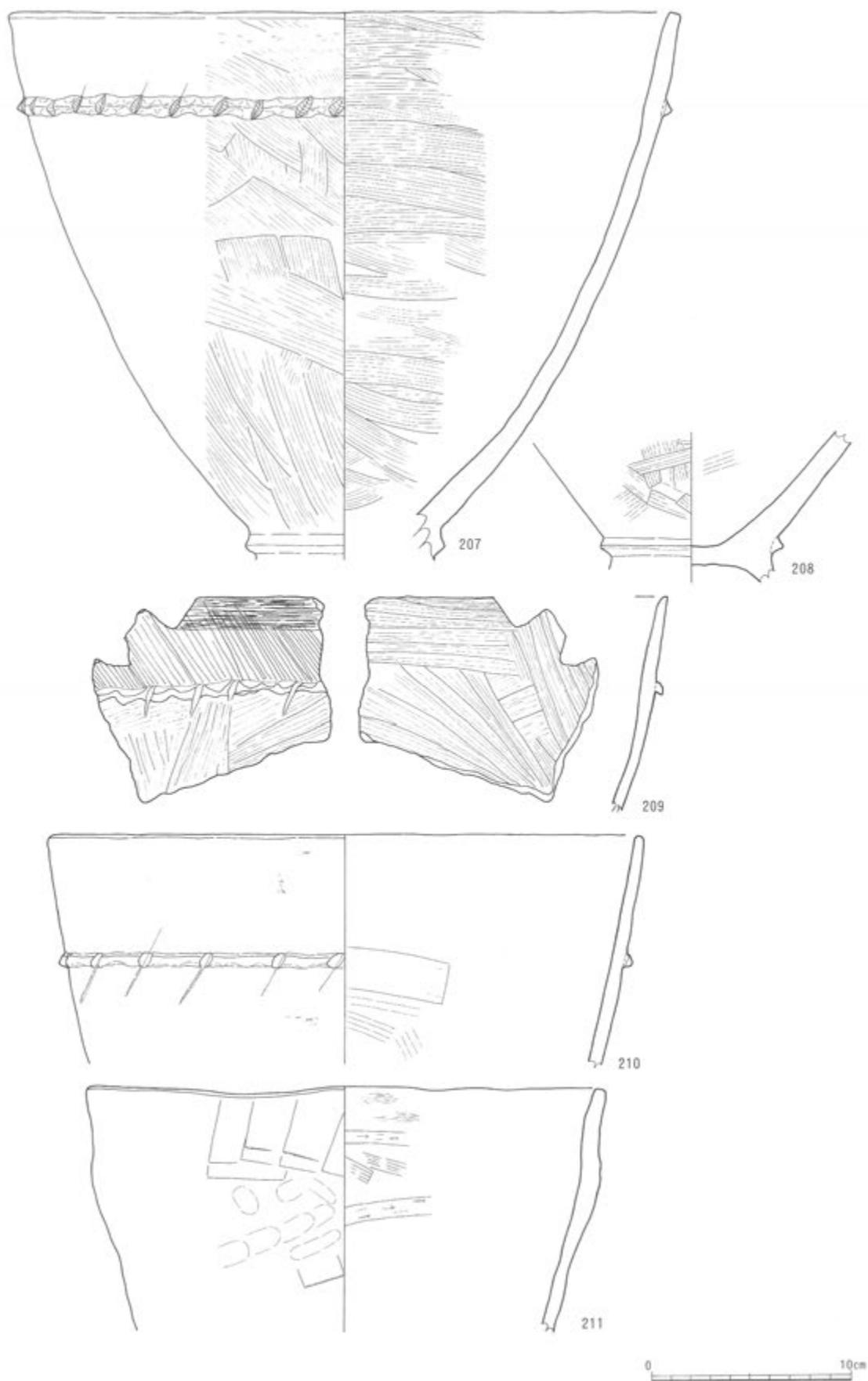
226, 232~234, 236, 237, 239, 241は、脚先にかけて直線的にのびながら開く脚で、脚先は平坦面を成す。233と236の脚先は薄く尖る。



第57図 古墳時代出土遺物実測図5



第58図 古墳時代出土遺物実測図6



第59図 古墳時代出土遺物実測図 7



第60図 古墳時代出土遺物実測図 8

227, 228, 242, 243は、直線的に立ち開かない。227, 242の脚先は平坦面を成し、243は薄く尖る。228は、胴部の張りに比べ底径も小さく脚も小型である。

235, 240は、脚先が外向きに外反し、235の脚先は平坦面を成す。240の端部は丸くおさまり、外面に凹線が入る。226, 230~232, 234, 237, 239, 243の脚台内面の天井部は、胴部の形状が生き、尖底のまま膨らみをもつ。227, 228, 240の天井部は丸みをもつ。

壺形土器 (第64図~第71図)

壺形土器は、出土数が他の遺物に比べ少なく分類が不可能であったため弥生時代のものも含め本節に掲載した。

244~246は、口縁部が頸部から直立気味に外反し、口唇部は丸みをおび、肩部と胴部が球状に張り、胴部から底部にかけてすぼまる丸底の器形である。

244は、内面に指頭圧痕のあるナデ調整を施している。245の底部は厚手で少し尖り、球状になる胴部をもつ。器面調整は、口縁部が横方向のナデで、内面には指頭圧

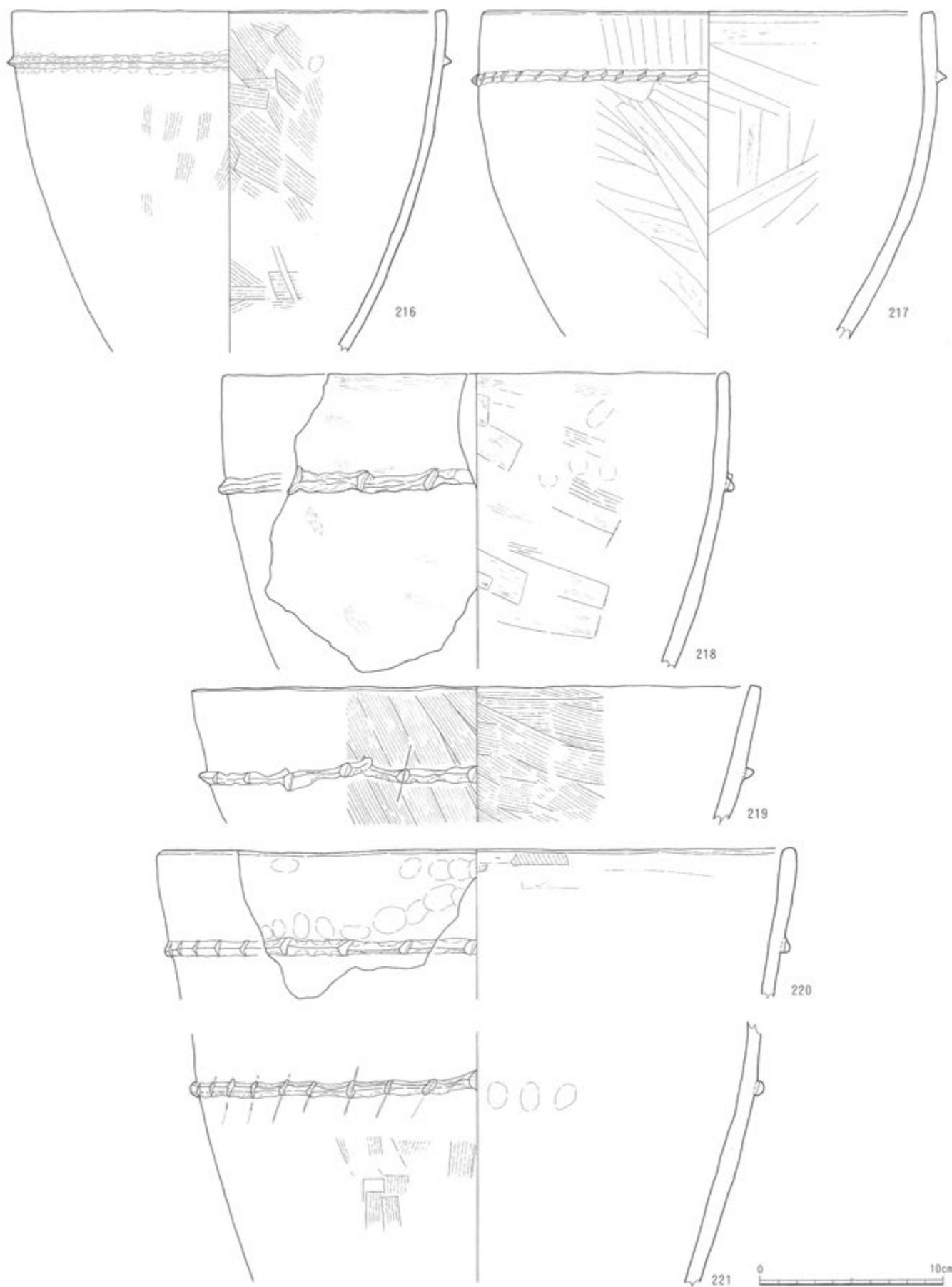
痕がみられる。胴部は斜めにハケ目を施し、底部外面には磨きがみられる。また、外面には大きな黒斑がある。

246は大型の壺で、胴長で尖り気味の底部である。器面調整は、内外面ともにハケ目後ナデ仕上げである。なお、内面の頸部、肩部、底部には指頭圧痕がみられる。

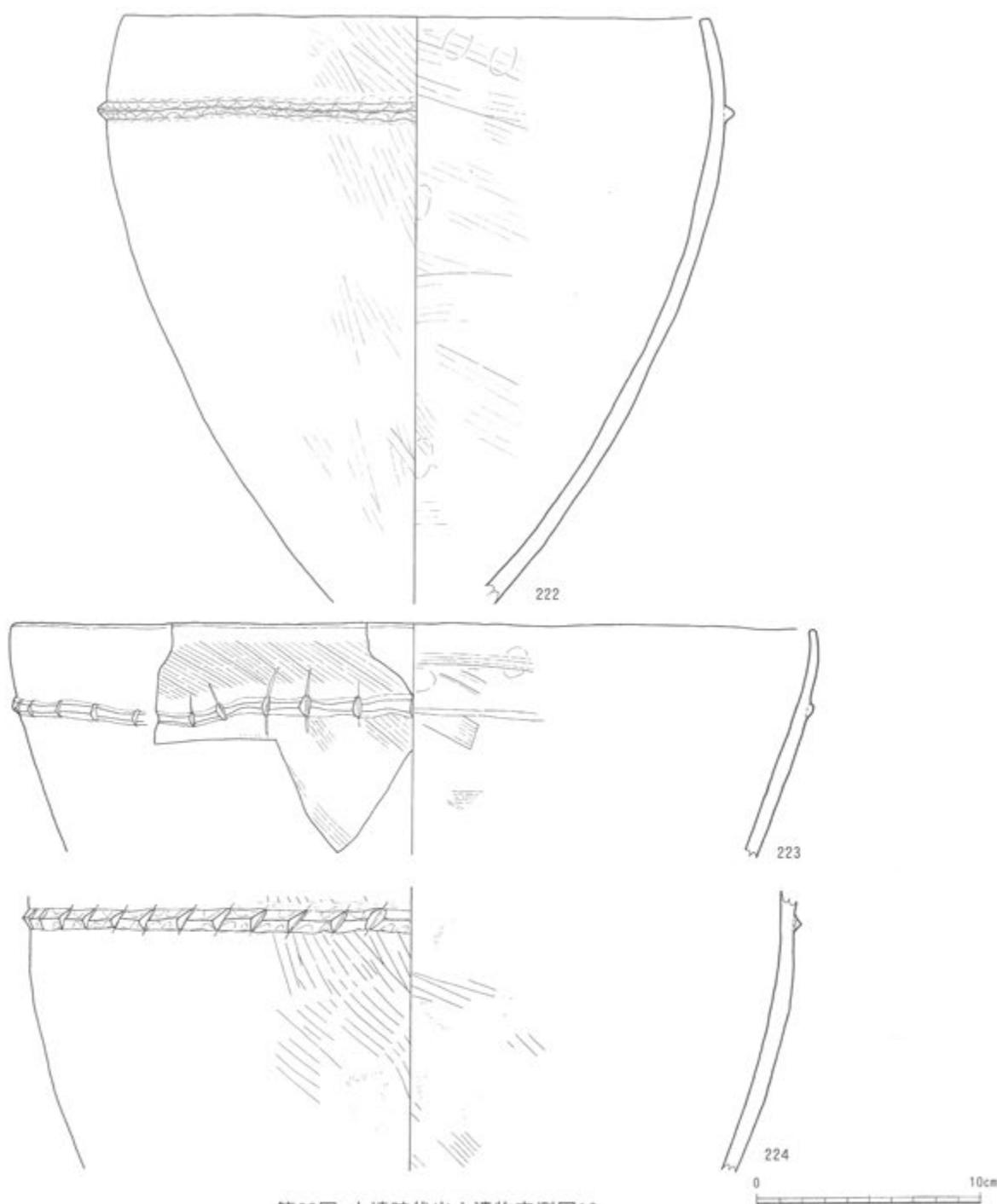
247は口縁部が頸部から直立気味に外反し、中程から内側に傾き、胴部が張り、厚い平底の底部をもつ器形である。幅広で刻目の突帯が、胴部の最大幅を測る部位に巡る。器面調整はナデ仕上げである。

248は接合できなかったが、頸部と胴部が同一の個体である。頸部が大きく外反し、肩部は直線的に長く伸び、なで肩で胴部が張る菱形状の器形である。文様は肩部に一本の沈線、胴部には、幅広の突帯に2列の刻目を施している。器面調整は外面がハケ目で、内面は剥落が多く観察できない。

249の口縁と胴部は、直接接合するものではないが、出土地点・焼成色・胎土・器形より同一個体と判断した。器形は頸部から「く」の字状に口縁部が外反し、口縁外



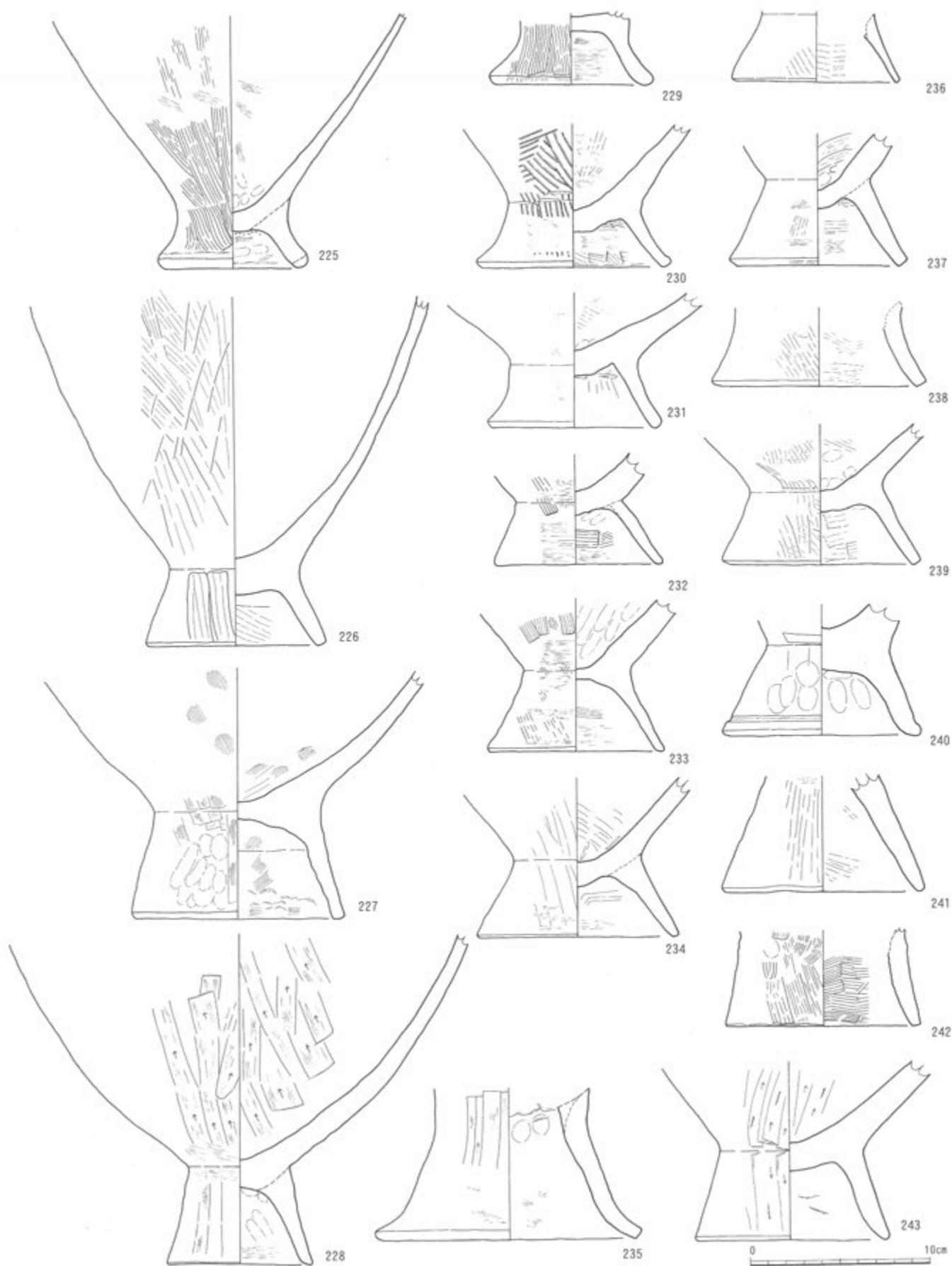
第61図 古墳時代出土遺物実測図9



第62図 古墳時代出土遺物実測図10

面で肥厚している。胴部も「く」の字状に折れ丸底の底部である。胴部の最大幅を測る部位に刻目突帯を巡らす。器面調整は口縁部が横方向のハケ目後ナデ仕上げで、胴部から底部にかけてはハケ目が観察できる。250は、口縁部が頸部から直立気味に外反し、口唇部は丸みをおびている。器面調整は、外面がハケ目後ナデ仕上げで、内面に指頭圧痕がある。251～253は頸部が「く」の字状に折れて口縁部が外反する器形である。251、253の口唇部は丸みをおび252は、口唇部が尖る。

254は、5号竪穴住居跡から出土した壺型土器115と同じ器形と胎土、大きさである。器形は、頸部からの立ち上がりが若干内傾し、口縁は外反し、胴部との境に段を有し、胴部が球状になる器形である。胴部には2条の刻目突帯を巡らしている。器面調整は外面の口縁部、頸部、胴部がナデ仕上げで、肩部にハケ目が観察できる。内面はハケ目を斜めに施している。255、256は、肩部に最大幅をもつ器形で幅広の突帯が最大幅を測る部位より上位に巡る。突帯には、ハの字状に刻目を施す。



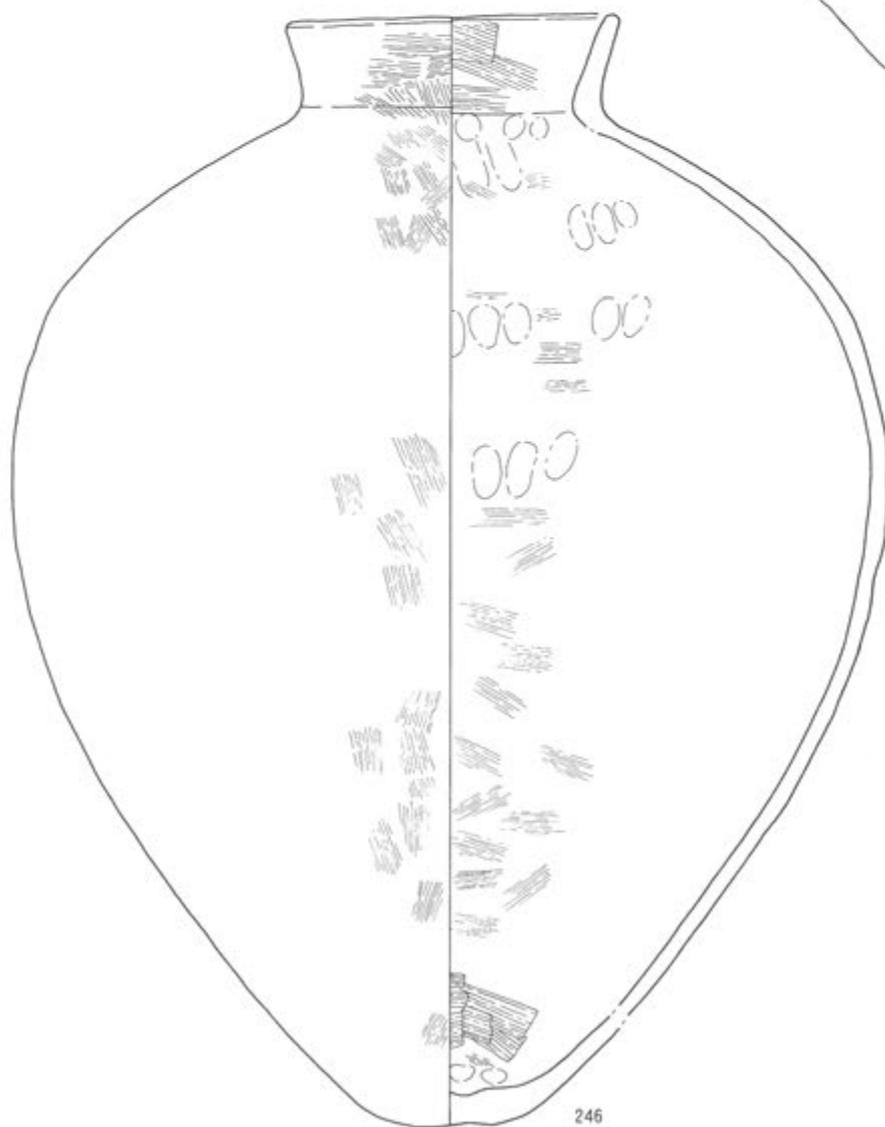
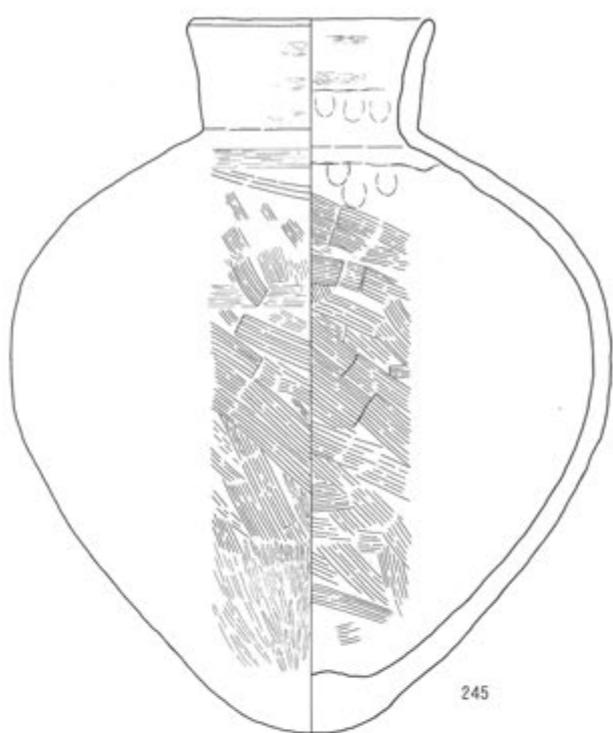
第63図 古墳時代出土遺物実測図11

第13表 古墳時代出土遺物観察表 1

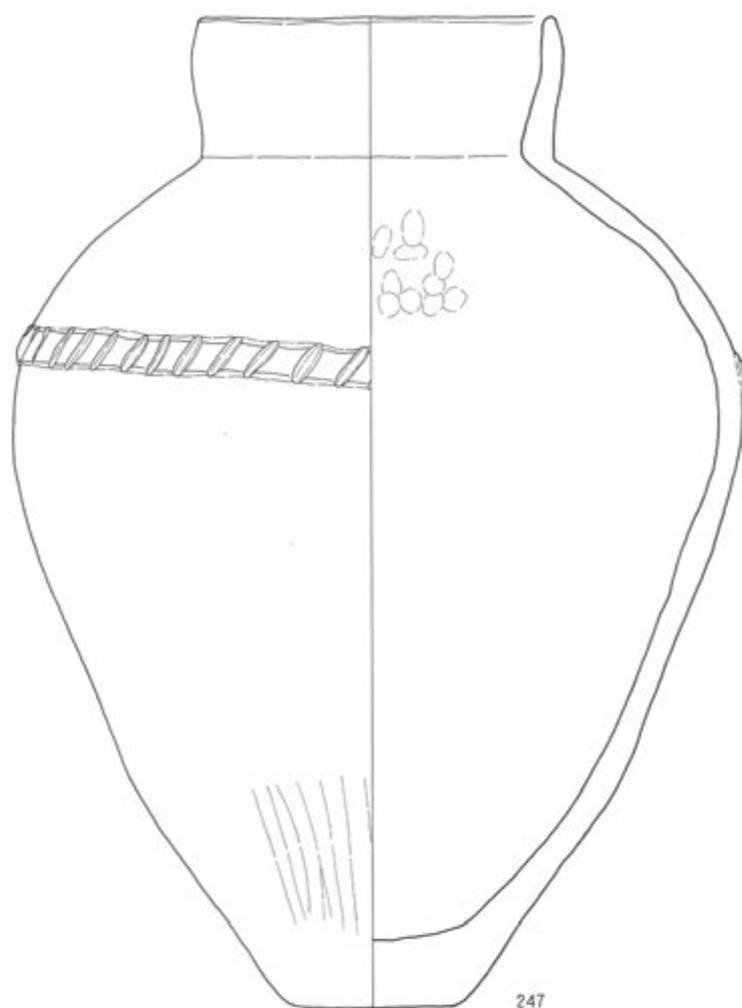
揮図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考
53	185	7501	0-29	IV	壺	口縁~底部	-	28.0	-	ハケメ、ナデ、三角突帯	ハケメ、ナデ	良	橙、灰褐、黄橙	赤橙、暗赤	石英、赤色小石多混、小石7mm	(外面) 煤付着 (内面) 黒斑あり
	186	-	F-19	II	壺	口縁部	-	(19.6)	-	ナデ	ナデ	良	暗褐、褐	浅黄橙	石英、長石、白色砂粒	
	187	1270一括	F-18	II	壺	口縁部	-	(26.4)	-	ナデ、三角突帯	ナデ	良	黒褐、灰褐	赤褐、褐	石英、赤色砂粒、小石1.2mm	
	188	7055	R-28	IV	壺	口縁~胴部	-	29.4	-	ハケメ、ヘラナデ、刻目突帯	ヘラナデ、ナデ	良	明褐、淡黄橙、黒褐	黄褐、灰黒	石英、長石、赤色砂粒、小石5mm	
	7319	P-30	IV													
	189	2075	F-18	III	壺	口縁部	-	(33.4)	-	ナデ、ヘラナデ、三角突帯	ナデ	良	赤褐、黒褐	赤褐	石英、長石、小石4mm	
	190	1987	G-19	II	壺	胴部	-	-	-	ナデ、ヘラナデ、刻目突帯	ナデ、指頭圧痕	良	赤褐	浅黄橙	粗い胎土、小石多混	
54	191	6775 7036 7037 7038 7041 7043 7047	R-29	IV	壺	口縁~胴部	-	29.3	-	ヘラカキ上げ、ヘラ削り	ヘラナデ	良	明褐、黄褐、暗褐	暗褐、黒褐	石英、長石、輝石、砂粒混	
	9632 9633	15T	-													
	192	4954	I-22掘立柱P3	III	壺	口縁部	-	22.6	-	ヘラナデ、ハケメ	ナデ	良	黄橙、灰褐	浅黄橙、褐	石英、長石、赤色小石	(外面) 煤付着 (内面) 器面摩滅
55	193	9221	G-19	III	壺	口縁~胴部	-	41.4	-	ナデ、ヘラナデ、刻目突帯	ナデ、指ナデ	良	黄橙、黒褐、淡黄橙	橙	石英、長石、輝石、赤色砂粒	(外面) 黒斑あり 土集
	194	2687	E-15	II	壺	口縁部	-	31.0	-	ナデ、刻目突帯	ナデ	良	褐、黒褐	明黄褐、褐灰	砂粒混、小石5mm	(外面) 煤付着
	3196	E-15	III													
	195	3565 3566	F-16	III	壺	口縁部	-	(29.0)	-	ハケメ、ナデ	ハケメ	良	黒褐、褐	灰褐、黄褐	石英、白色細粒	(外面) 煤付着
	196	7054 7057 7319	R-28	IV	壺	口縁~胴部	-	28.2	-	ヘラナデ、ナデ	ナデ	良	赤橙、橙、黒灰	赤橙、黒褐	石英、長石、小石8mm	(外面) 煤付着 (内面) 黒斑あり
	197	3560 3563	F-16	III	壺	口縁部	-	-	-	ハケメ、ナデ	ハケメ	良	黒褐	暗褐、明黄褐	石英、白色砂粒	(外面) 煤付着
	198	1995 2444	G-19	II	壺	胴部	-	-	-	ハケメ、ナデ、刻目突帯	ハケメ、ナデ	良	橙、灰褐	黄橙、黒褐	石英、長石、砂粒混	227と同一個体 (外面) スズ付着 (内面) 黒斑あり
56	199	7206	0-30	IV	壺	口縁~胴部	-	25.0	-	ヘラケズリ、ナデ	ナデ	良	赤橙、赤黒	淡赤橙、灰赤	石英、長石、砂粒混、小石8mm	
	7340	P-30	IV													
	200	6582	H-21	III	壺	完形	25.1	23.8	9.9	ナデ、ヘラケズリ	ナデ、ヘラナデ	良	黄褐、灰褐	暗褐、褐	石英、長石、砂粒混	
	7448 7796 7798	0-30	IV													
	7767 7773	P-30	IV													
	201	一括	E-15	IV	壺	口縁部	-	24.6	-	ナデ	ハケメ、ナデ	良	灰褐、黒褐	明赤褐	石英、長石	(外面) 煤付着
3409 3406 3405 3404	E-15	III														
57	202	7848 7886 7885 7915	P-28	IV	壺	口縁部	-	32.2	-	ハケメ、ナデ、三角突帯	ナデ	良	灰黄褐、黄橙、黒褐	黄橙、暗褐	石英、赤色砂粒多混	
	7824 7835 7825	P-29	IV													
	203	816	D-5	III	壺	口縁部	-	27.3	-	ヘラナデ、突帯	ナデ	良	赤褐、黄橙	赤褐、黒褐	石英、白色砂粒、小石7mm	(外面) 煤付着 (内面) 黒斑あり
	204	7053 7059 7319	R-28	IV	壺	口縁~胴部	-	28.0	-	ハケメ、ナデ、ヘラナデ、刻目突帯	ハケメ、ナデ	良	赤橙、黄橙、灰褐	灰褐、黄橙	石英、角閃石、赤色砂粒、小石5mm	
58	205	6559 7116 6975 7117 6961 6816 7115	0-29	IV	壺	口縁~底部	(32.4)	(29.0)	-	ハケメ、ナデ	ナデ、ヘラナデ	良	赤橙、黄橙、黒褐	暗赤褐、黄橙、黒褐、灰褐	石英、輝石、白色細粒、小石4mm	
	7061 7064	0-28	IV													

第14表 古墳時代出土遺物観察表 2

挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考	
58	206	7022	Q-29	IV	壺	完形	29.6	33.1	6.0	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	赤褐, 褐灰	黄橙, 黒褐	石英, 輝石, 赤色砂粒, 小石5mm	底部に布痕	
		7027															
		7113															
		7007															
		7107															
		7323															
		7010															
		7008															
		7112															
		7012															
		7024															
		7102															
		7111															
		7011															
		7323															
		7010															
		7008															
		7112															
		6820															
		6817															
		6972															
		6853															
		6972															
7019																	
7016																	
7013																	
7008																	
5784																	
6820																	
6817																	
6972																	
6853																	
6792																	
7019																	
7016																	
7013																	
7008																	
5784																	
7824																	
6017																	
6785																	
7018																	
59	207	一括	G-19	II	壺	口縁~胴部	-	33.6	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ	良	黄褐, 黒褐, 橙	赤褐, 灰赤, 黒褐	石英, 赤色砂粒, 砂粒混	煤付着 土集	
		9418	G-19 - 20	III													
		1819	G-20	II													
		一括	G-20	III													
	208	-	I-21	-	壺	胴部	-	-	-	ハケメ	ナデ	良	赤褐色	暗赤褐色	石英, 赤色砂粒		
	209	9206 9207 9231 9235	G-19	III	壺	口縁部	-	31.8	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ, ナデ	良	暗赤褐, 黄橙	暗赤褐	石英, 長石, 輝石, 赤色砂粒, 白色砂粒	(外面) 黒斑あり 39と同一個体? 土集	
	210	1998 2002 2435 一括	G-19	II	壺	口縁部	-	30.0	-	ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	橙, 黒褐	浅黄橙	石英, 長石	(外面) 煤付着	
	211	6980 6821 6824 6982 6985	Q-29	IV	壺	口縁部	-	26.0	-	ヘラナデ, ナデ, 指頭圧痕	ナデ, ヘラナデ	良	黄橙, 褐灰	浅黄橙, 黒褐	石英, 長石, 白色細粒, 小石少混	(内面) 黒斑あり	
	60	212	2791 2793 2796	D-15	II	壺	口縁~胴部	-	(21.8)	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ, ナデ	良	黄橙, 浅黄橙	黄橙, 灰褐	石英, 長石, 砂粒混	(内面) 黒斑あり
			一括	E-14	溝												
一括			O-25	II a													
213		9213 9300 9323	G-19	III	壺	口縁部	-	(19.8)	-	ナデ, ヘラナデ, 刻目突帯	ナデ	良	明赤褐, 暗赤灰	橙	石英, 長石, 砂粒混	土集	
214		9226 9227 9228 9262 9263 9264 9265 9266 9285 9295	G-19	III	壺	胴~脚部	-	-	8.2	ハケメ, ナデ, 指頭圧痕	ヘラナデ	良	橙, 暗赤灰	黄橙, 橙, 褐灰	石英, 長石, 輝石, 赤色砂粒, 白色砂粒	煤付着 土集	
215	-	I-21	-	壺	口縁部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	浅黄橙	明褐	石英, 長石, 白色砂粒			
61	216	9274 9275 9276 9277 9279 9280 9281	G-19	III	壺	口縁~胴部	-	(23.5)	-	ハケメ, ナデ, 三角突帯	ハケメ	良	黄橙, 黒褐	にぶい黄橙, 赤褐	石英, 長石, 赤色小石, 白色細粒	土集	
		-	D-5	III	壺	口縁部	-	24.4	-	刻目三角突帯	ハケメ, ナデ	良	赤褐, 黒褐	明赤褐	石英, 長石, 角閃石, 白色砂粒	(外面) 黒斑あり	
	950	D-5	III														
217	990	D-5	IV	壺	口縁部	-	24.4	-	刻目三角突帯	ハケメ, ナデ	良	赤褐, 黒褐	明赤褐	石英, 長石, 角閃石, 白色砂粒	(外面) 黒斑あり		



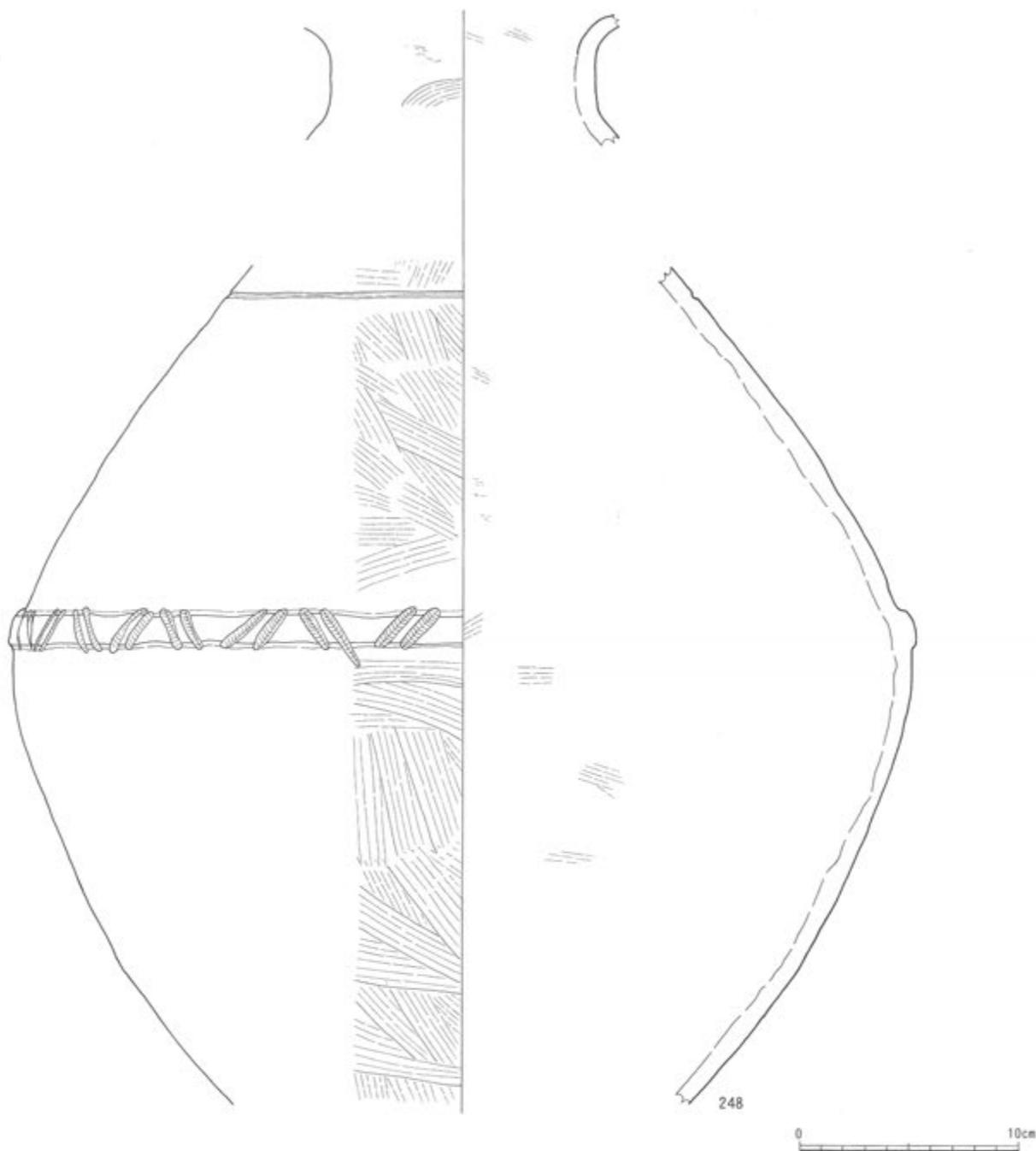
第64図 古墳時代出土遺物実測図12



第65図 古墳時代出土遺物実測図13

第15表 古墳時代出土遺物観察表 3

標図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
61	218	2001	G-19	II	壺	口縁部	-	27.4	-	ナデ, 刻目突帯	ヘラナデ, ナデ	良	黄橙, 黒褐	橙	石英, 輝石, 白色砂粒	(外面) 煤付着229と同一個体?
	219	9331 9332 9333	G-19	III	壺	口縁部	-	(30.0)	-	ハケメ, 刻目突帯	ハケメ	良	赤褐, 灰赤	赤褐	石英, 赤色砂粒, 白色細粒	土集
	220	9304 9305	G-19	III	壺	口縁部	-	(34.6)	-	ナデ, 指頭圧痕, 刻目突帯	ナデ	良	黒褐, 褐	にぶい赤褐	石英, 長石, 輝石, 白色小石	土集
	221	9303 9215 9216 9217 9254 9253 9252	G-19	III	壺	胴部	-	-	-	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	暗赤褐, 黄橙, 黒褐	明赤褐	石英, 長石, 輝石, 赤色砂粒, 白色砂粒	煤付着 (内面) 器面摩耗 土集
62	222	7498	O-29	IV	壺	口縁~胴部	-	26.0	-	ハケメ, ナデ, 突帯	ハケメ, ナデ	良	浅黄橙, 灰褐	黄橙, 灰白	長石, 白色細粒, 赤色小石7mm	(外面) 黒斑あり
	223	2468 2479 一括	G-19	II	壺	口縁部	-	35.8	-	ヘラナデ, ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ハケメ, ナデ	良	淡黄橙, 黒褐	黄橙	石英, 長石, 細砂混	(外面) 煤付着
	224	1	G-19	II	壺	胴部	-	-	-	ハケメ, ナデ, 横ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	灰白, 黒褐	黄橙, 黒褐	石英, 砂粒混, 小石5mm	(内面) 黒斑あり
		一括	G-20	II												
	2381	G-20	II													
63	225	7842 7653 7678	0-30	IV	壺	胴部	-	-	8.2	ハケメ, ナデ	ナデ	良	橙, 明褐, 黄橙	黒褐, 黄橙	石英, 長石, 砂粒混	
	226	一括 2379	D-14	II	壺	胴~底部	-	-	9.9	ハケメ	ナデ	良	黄橙, 暗赤褐	黄橙, 暗赤褐	長石, 赤色小石	
	227	6920 7826 7834	P-29	V	壺	底部	-	-	11.7	ヘラナデ, ナデ, 指頭圧痕	ヘラナデ, ナデ	良	浅黄橙	にぶい黄橙	粗い胎土, 赤色小石多混	

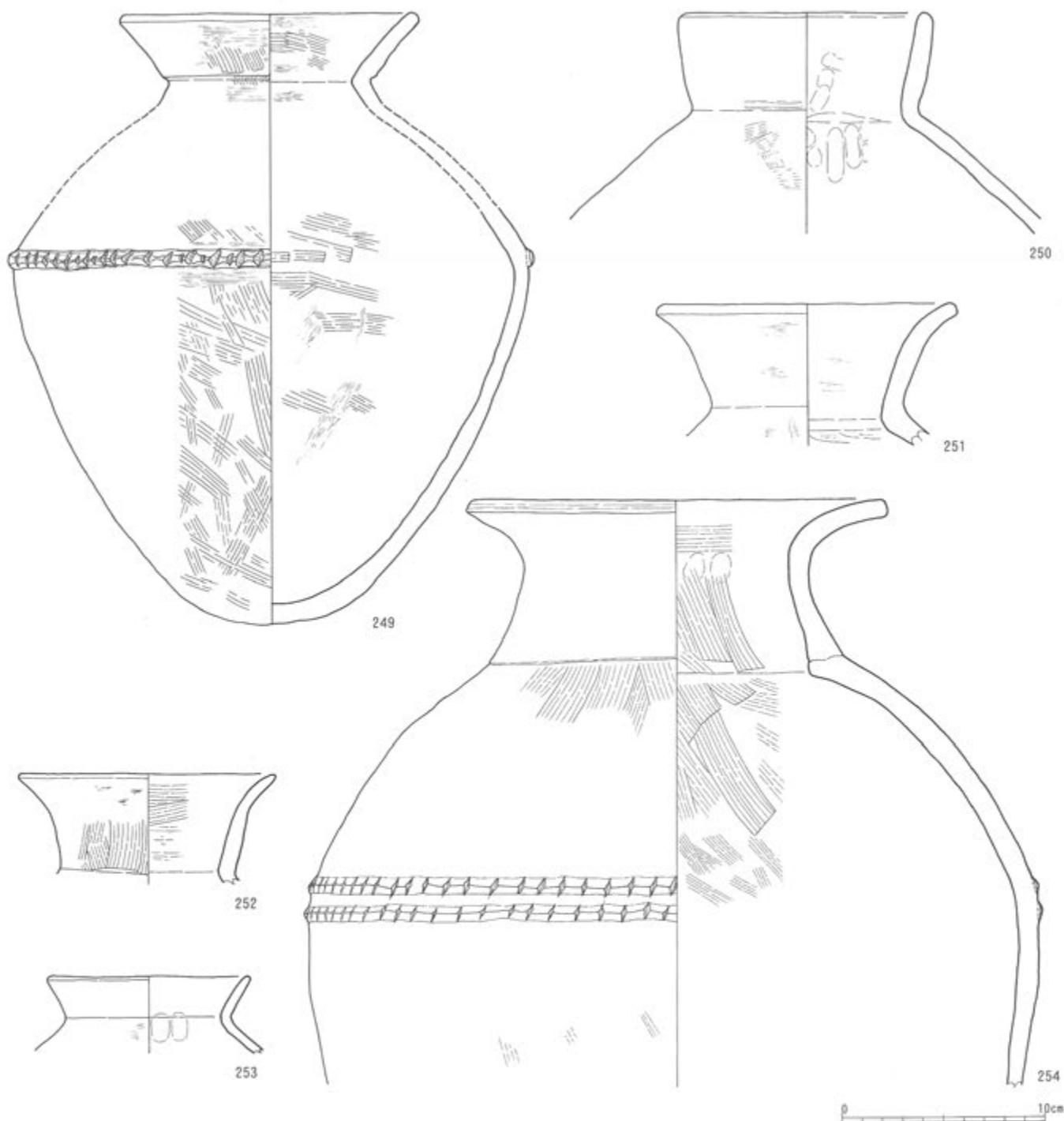


第66図 古墳時代出土遺物実測図14

257～260は、刻みのない断面三角形の突帯を2条から3条巡らす。259は、胴部の最大幅を測る部位に突帯を巡らしている。他はその上位に巡らす。257は胴部が球状に張り、やや尖り気味の底部をもつ卵形の器形である。器面調整は、外面がハケ目で内面は指押さえがみられる。なお、この土器は胎土、焼成、調整痕等より251と同一個体の可能性がある。

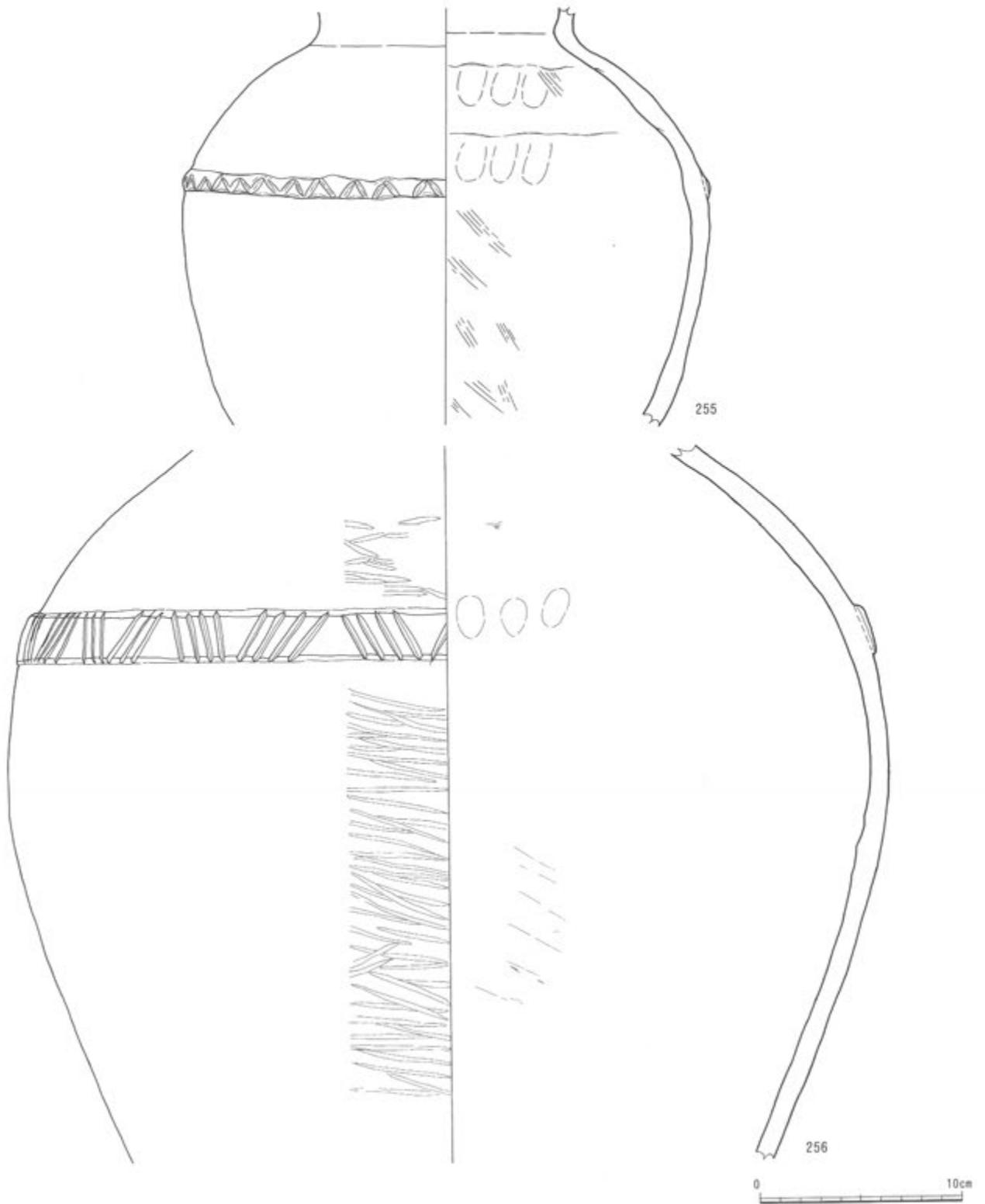
258は、口縁部が頸部から外反するなで肩の器形である。259は厚手の丸底をもち、器面調整は外側が板ナデ

で、内側がナデ仕上げである。260は球状の胴部で、器面調整は、ナデ仕上げと頸部内側に指頭圧痕がみられる。261は、胴部が「く」の字状に張り丸底の器形で、肩部に1条の突帯を巡らしている。器面調整は、外面がナデ調整をしたあと磨きを施し、内面はナデ仕上げである。262は、刻目をもつ突帯が巡る壺形土器片である。263は、頸部から肩部が球状になる器形で、器面調整はハケ目後ナデ仕上げをしている。

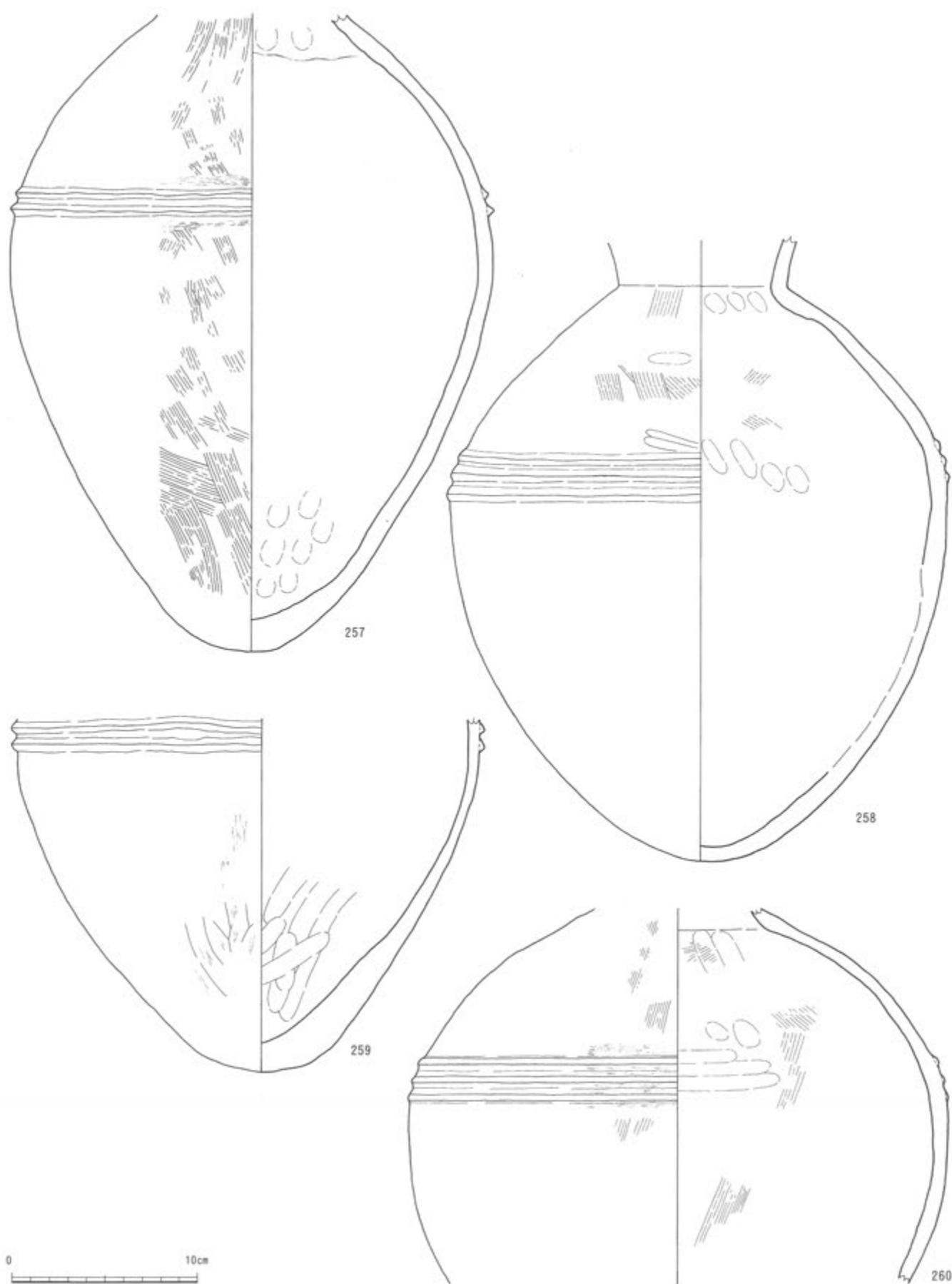


第67図 古墳時代出土遺物実測図15

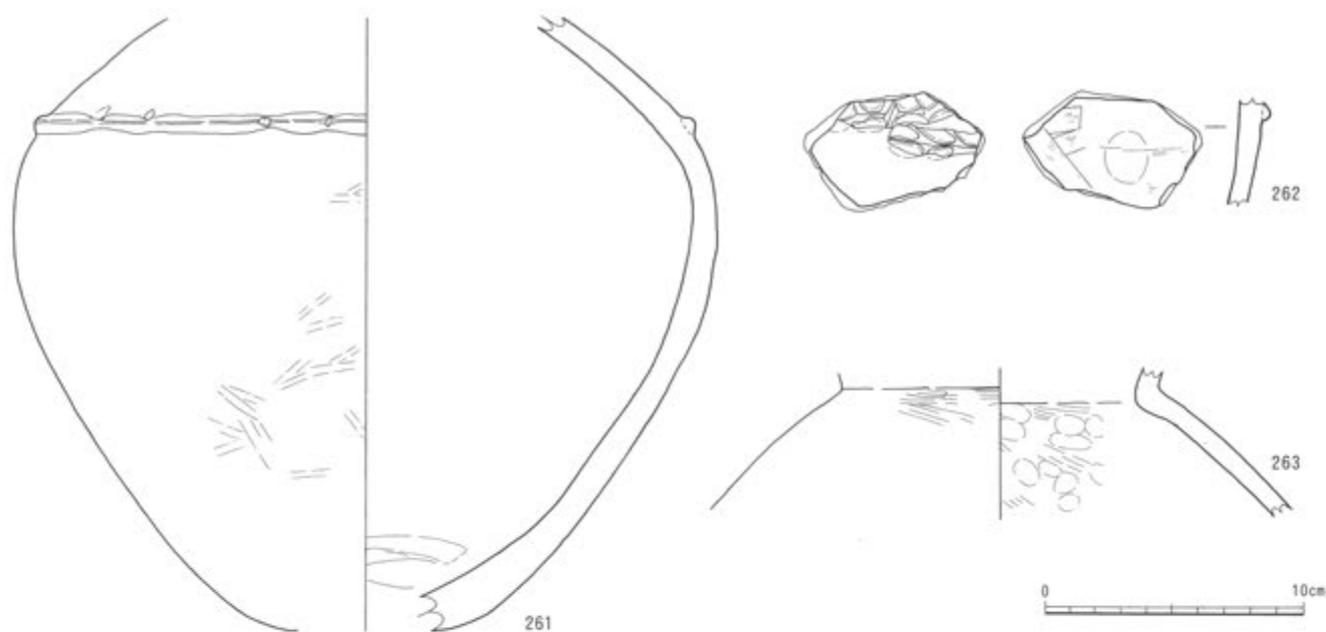
264～277は壺形土器の底部である。264, 268, 269, 273, 274は平底で、他は丸底の底部である。275は、小型の壺形土器で胴部が張り、厚手の丸底の器形である。全て器面調整はハケ目が主であり、内側に指頭圧痕が観察できる物もある。



第68図 古墳時代出土遺物実測図16



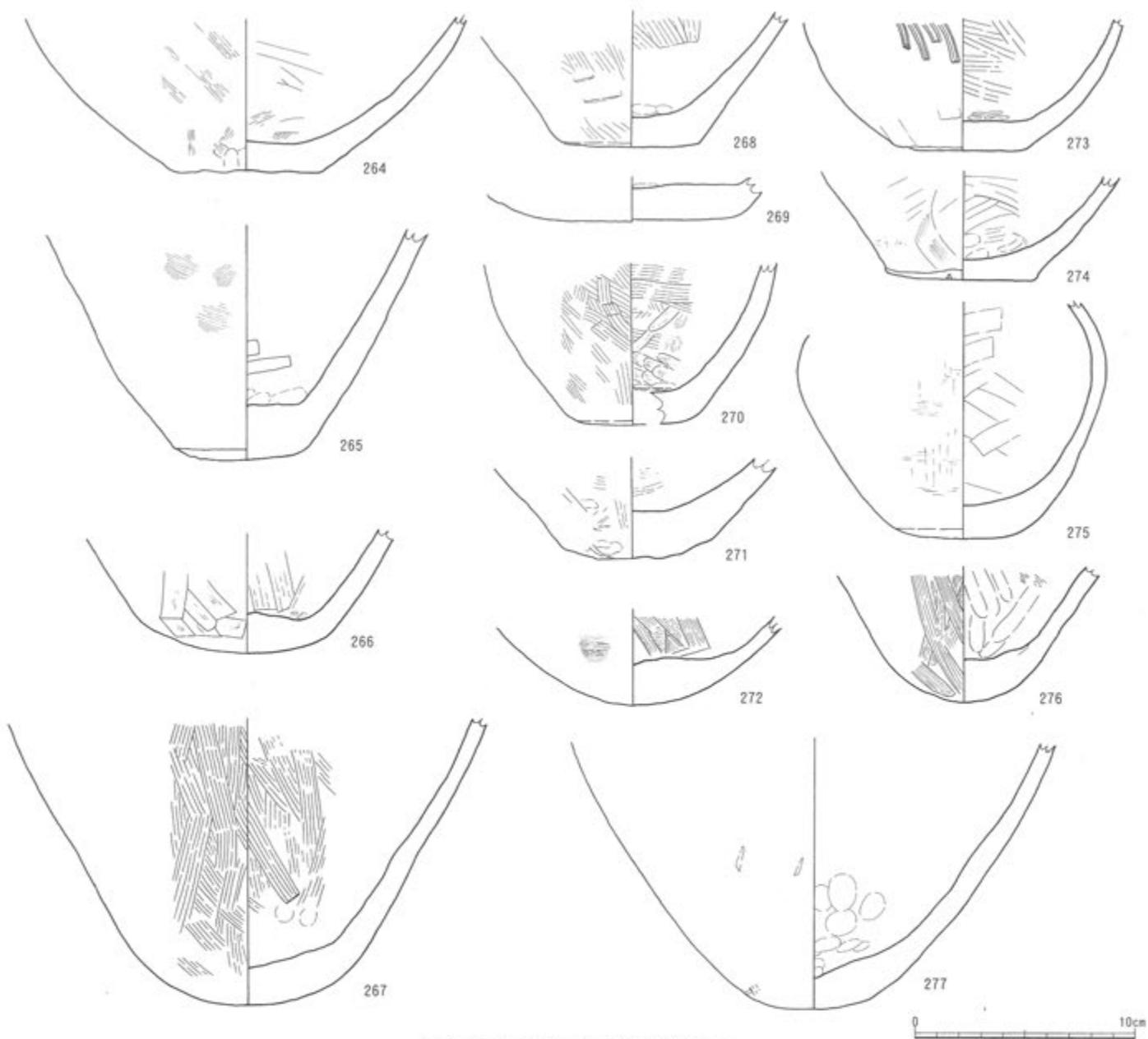
第69図 古墳時代出土遺物実測図17



第70図 古墳時代出土遺物実測図18

第16表 古墳時代出土遺物観察表 4

検出No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
63	228	7856	O-28	IV	壺	胴~脚部	-	-	8.0	ヘラナデ, ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	黄橙	橙	石英, 輝石, 砂粒混	
		7852 7862	P-28	IV												
	229	7685	O-31	IV	壺	脚部	-	-	9.0	ハクメ	ナデ	良	黄橙, 灰褐	明黄褐, 黒褐	石英, 長石, 白色細粒	
	230	2284	E-14	II	壺	脚部	-	-	10.7	ハクメ, ナデ	ハクメ, ナデ	良	赤褐, 橙	暗赤褐	石英, 長石, 輝石, 白色砂粒	(内面) 器面摩滅
	231	9293	O-19	III	壺	底部	-	-	9.6	ナデ	ナデ	良	橙, 赤褐	灰褐	石英, 砂粒混	土集
	232	1790	G-20	II	壺	底部	-	-	(9.3)	ハクメ, ナデ	ハクメ, ナデ, 指ナデ	良	黄橙	浅黄橙	白色砂粒	
	233	2382	G-20	II	壺	底部	-	-	9.7	ハクメ, ナデ	指ナデ, ナデ	良	橙, 暗赤橙	暗灰黄	石英, 長石, 白色砂粒	
	234	3397 1533 1902 一括	G-20	II	壺	底部	-	-	11.2	ヘラナデ, ナデ	ハクメ, ナデ	良	赤褐, 暗赤灰	黄橙	石英, 砂粒混	
	235	2019 3373 一括	G-19	II	壺	底部	-	-	14.7	ナデ, ヘラナデ	ナデ	良	赤褐	赤褐	石英, 赤色砂粒	(外面) 煤付着
			G-20	II												
	236	2568	G-20	II	壺	底部	-	-	(9.3)	ナデ	ハクメ, ナデ	良	浅黄橙, 橙	橙, 黄橙	石英, 長石, 砂粒混	
	237	9345 9428	H-20	III	壺	底部	-	-	9.8	ハクメ, ナデ	ナデ	良	黄橙, 橙	橙	石英, 角閃石, 赤色砂粒, 白色細粒	土集
	238	521 532	D-12	III	壺	脚部	-	-	11.8	ハクメ, ナデ	ハクメ, ナデ	良	淡黄, 黒褐	浅黄橙	赤色砂粒, 白色細粒	
	239	1935	G-20	II	壺	底部	-	-	10.9	ハクメ, ナデ	ハクメ, ナデ, 指頸圧痕	良	橙, 灰赤	暗赤褐	石英, 長石, 砂粒混	
	240	5478	I-24	IV	壺	脚部	-	-	11.0	ナデ, 指頸圧痕	指ナデ	良	明褐, 黄橙	明赤褐, 黄橙	石英, 長石, 角閃石, 砂粒混	
		1576	I-23	II												
	241	一括	E-14	-	壺	底部	-	-	(11.2)	ハクメ, ナデ	ハクメ, ナデ	良	橙, 灰黄	灰黄褐, 暗褐	粗い胎土, 小石少混, 白色砂粒	
	242	2369	D-14	II	壺	底部	-	-	(10.8)	ハクメ, ナデ	ハクメ	良	灰褐, 黄褐	にぶい橙	石英, 長石, 赤色小石, 白色砂粒	
	243	927	E-6	III	壺	脚部	-	-	10.8	ヘラケズリ, ナデ	ヘラケズリ, ナデ	良	暗赤褐	赤褐	石英, 長石, 砂粒混	
		928	E-6	IV												
64	244	一括	G-19	II	壺	口縁~胴部	-	10.6	-	ナデ	指ナデ, ナデ	良	灰白	浅黄橙, 黄橙	石英, 長石, 砂粒混	土集
		3335	G-20	II												
		3336														
		5336														
9338 9353	H-20	III														
245	1629	H-21	II	壺	-	29.0	(10.0)		ハクメ, ナデ	ハクメ, ナデ	良	明赤褐, 黄橙, 黒褐	黄橙, 黄褐	石英, 砂粒混	(外面) 黒斑あり	



第71図 古墳時代出土遺物実測図19

第17表 古墳時代出土遺物観察表5

挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考														
64	246	9603	12T	III	壺	完形	43.3	12.7	6.0	ハケメ、ハケメ→ナデ	ハケメ、ナデ、指頭圧痕	良	浅黄橙、灰褐、橙	明褐、橙、浅黄橙	石英、長石、赤色小石、白色砂粒															
		1645 1294 一括	I-21	II																										
		6350 4793 6345 4792 4774 1128	I-21	III																										
		1078	北1T	III																										
		5422 一括	I-22	IV																										
		4923	I-22	III																										
		4783 4784 4791 4786 6358	I-21	III																										
		6047	I-21	II																										
		一括	I-22	II																										
		65	247	1463 1461 一括													H-20	II	壺	完形	38.2	13.5	7.0	ハケメ、ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙、黄橙	黄橙、褐、灰褐	粗い胎土、輝石、白色砂粒多混、赤色小石、小石1.1mm	
1711 土集	III																													
66	248	9346 9347 9359 9423 9409 9336 9396	G-19 ・20	-	壺	胴部	-	-	-	ハケメ、ナデ、刻目突帯	ハケメ、ナデ		-	-	-															
		2450 2010 2011 2462 2021 2015	G-19	-																										
		2045 一括	F-17	III																										
		1822	F-20	-																										
		67	249	2105 1496													G-20	II	壺	口縁部～底部	(30.0)	14.6	6.0	ハケメ、ナデ、刻目突帯	ハケメ、ナデ	良	黄橙、浅黄橙	橙、黄橙	石英、赤色小石	土集
				一括													G-20	-												
				一括													G-20	III												
2563	G-20			II																										
3305 3298	G-20			III																										
67	250	9210	G-19	II	壺	口縁部	-	-	12.4	ナデ	ハケメ、ナデ	良	黄橙、浅黄橙	黄橙、浅黄	石英、角閃石、赤色砂粒	土集														
		7839 7840 7841 7842 6899 6973	P-29	IV																										
		6831 6833 6834	Q-29	IV																										
		1762	G-20	II																										
		254	E-15	II																										
		254	E-15	II																										
		254	E-15	II																										
68	255	2007 2011 一括	G-19	II	壺	頸～胴部	-	-	-	ナデ、刻目突帯	指頭圧痕、ハケメ、ナデ	良	浅黄橙、橙	黄橙	石英、長石、輝石、小石少混	土集														
		9381 9382 9383 9385	G-19 ・20	III																										
		9305 9218 9255 9289 9307 9319 9321 9322 9325 9326 9327 9328 9330 9335	G-19	III																										
		8440	5住	-																										
		一括	G-19	II																										
	256	9305 9218 9255 9289 9307 9319 9321 9322 9325 9326 9327 9328 9330 9335	G-19	III	壺	胴部	-	-	-	-	丁寧なナデ	ナデ	良	浅黄橙、灰褐	暗赤褐	石英、赤色砂粒、白色細粒	(外面) 黒斑あり 土集													
		8440	5住	-																										
		一括	G-19	II																										

鉢形土器（第72図，第73図）

278～287は，脚をもつ鉢形土器である。278～280は口縁がやや薄くなり内湾する。281は口縁が胴部から直行し口唇部は薄くなる。282～284は，口縁部がゆるやかに外反し，器壁は厚い。脚部は外反しながら開き，端部は外を向き丸くおさめるもの(278, 280, 281)と，287のように，同じく外反しながら開き，端部が平坦面を呈する物がある。また，282の脚部は，脚先にかけて直線的にのびながら開き，脚先は平坦面を成す。285, 286は，低い脚で，外に開き端部を丸くおさめる。脚台の内面は，天井部の平坦な物が278, 287で，天井部の丸い物が280, 281である。また，天井部が下方に膨らむ物は，279, 282～286で，286は下方に尖る。

288～294は，脚の付かない鉢形土器である。288, 289は高杯の坏部を，脚をつけずに鉢として制作している。ともに底部に段を有し，段より口縁部にかけてゆるやかに内湾する。288はヘラナデ，289はヘラ磨きによって丁寧な作られている。289は，内面外面ともに丹が塗られる。290は球状の器形で，口縁が内湾する狭い平底の器形である。

291の口縁は，やや内湾し器壁が厚い。292～294は，厚手の平底で，器壁が厚く口唇部が平坦面を成す。292, 294は口縁部が内湾し，293は口縁部が外反する。292の底部には，煤が付着している。

295～302は，ミニチュアの土器で，295は内湾する口縁で尖底である。297は口縁が「く」の字に折れて内湾し丸底である。298は，口縁部が外反する。299は刻目の突帯を1条巡らした甕形土器で，胴部から口縁部にかけて直行し，低く短い脚を持つ。

300は，球状の器形で刻目突帯を巡らす。301は，縦と横に線状の刻みを入れた手づくね土器で，指頭圧痕が明瞭である。302は，棒状の粘土の固まりに，工具で外面に面取りを施し，底部を平底にして親指大の凹みをつけている。

高杯（第74図，第75図）

303は大型の高杯で，器形は底面から外方向に直線的に開き，屈折部から斜め上方に大きく外反し，口唇部は丸くおさめる。全体に描き上げるようにヘラナデの調整が入り器壁を薄く仕上げる。胎土は，砂粒が目立ち粗い。

304～306, 308は屈折部から斜め上方に直線的に伸び口唇部は薄く尖る。308の脚部の内面は，天井が坏部に達する。307, 309～312は，中途に段をもち口縁にかけて内湾する。310の器壁は厚く，311は薄く仕上げる。313～315は，坏部の外面に段を持つ。

316～342は，脚部である。318～320, 323～326, 328, 329, 331は，「く」の字状に外反しながら外方向

に開く脚で端部は平坦面を成す。330の脚先は，外方向に開き丸くおさめる。305～308, 309, 312, 317, 326, 331～333, 335, 336, 338は丹塗りを施す。

342は，脚の上部に鉄分が付着することから鞆の羽口に転用されたものと推測される。

埴形土器（第76図，第77図）

343と346は埴形土器の完形品である。343, 344は頸部から口唇部にかけてやや内湾し，343の底部は平底で胴部に最大幅がある。345は口縁部の外面に稜を持ち，346は短い口縁が外に直線上に開き，胴部はフラスコ状に下部が膨らみ最大幅を計る部位である。348～351は口縁部で，348, 349は口縁が長く起き上がり外面に櫛描文が施される。350は突帯を巡らして2段状に作り，口縁端部は大きく外反する。352～357は，そろばん玉状の肩部をもつ器形で，352～354は肩部が直線的で，355～359は胴部の稜が丸みをおびる。355の肩部と胴部は，器壁の厚さが異なり，上部と下部が別々の製作であったことを裏付ける。345, 347, 350～353, 356, 358, 359は，外面に丹が塗られる。

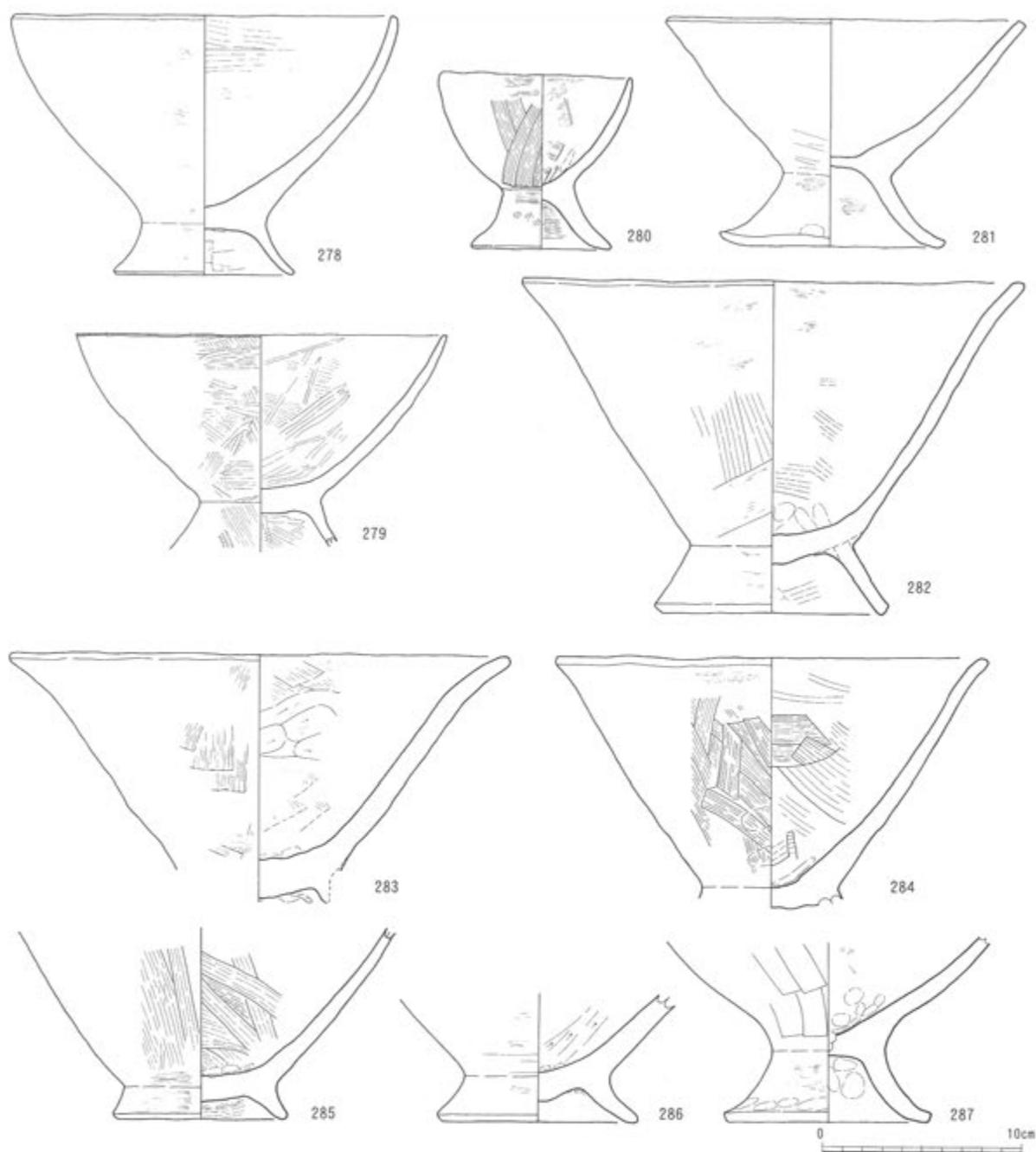
361は，完形品で単体で出土した（第77図）。頸部から口縁にかけてやや外反し，口唇部は平面を成し，器壁が厚い。胴部が大きく張り最大幅を保ち丸底である。

杓子形土器（第79図）

362は，スプーン状に匙部がへこむ。

埴埋納壺（第78図，第79図）

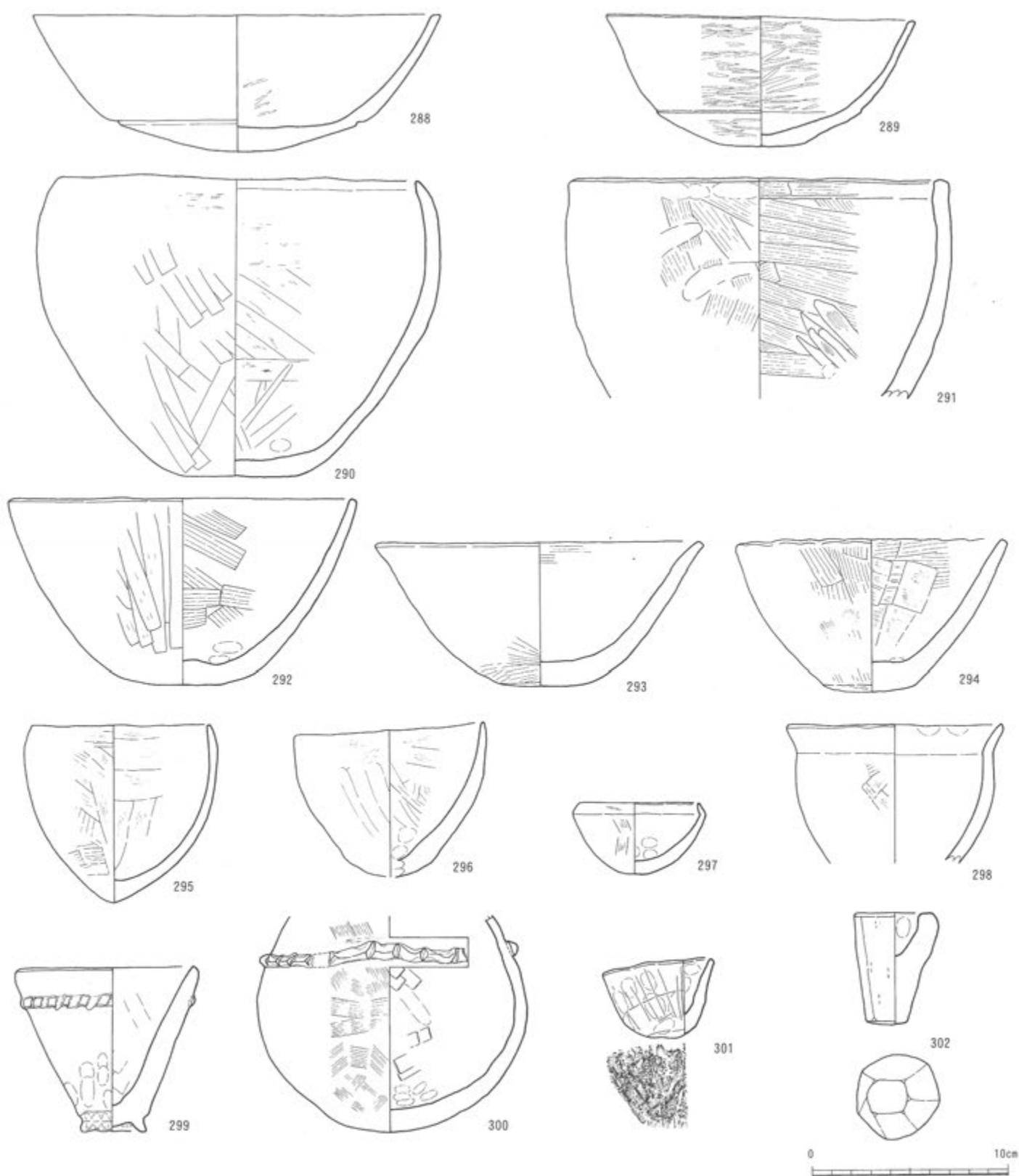
この土器（364）は，平底の壺形土器で，F19区のVI層で樹痕が絡み，やや傾いた状態で出土した。頸部から上位は，打ち欠きによって欠損し外面にひびが入る。364の器面は，丁寧なヘラナデによって整えられ平底である。また，364内の埋土除去作業中に小型の埴形土器363がひっくりかえった状態で出土した。363は，器高に対し口縁部の大きい形状で，口縁は内湾し，胴部は丸みを帯びて稜がなく，埴内部に上げ底である。外面はヘラ磨きの丁寧な調整である。



第72図 古墳時代出土遺物実測図20

第18表 古墳時代出土遺物観察表 6

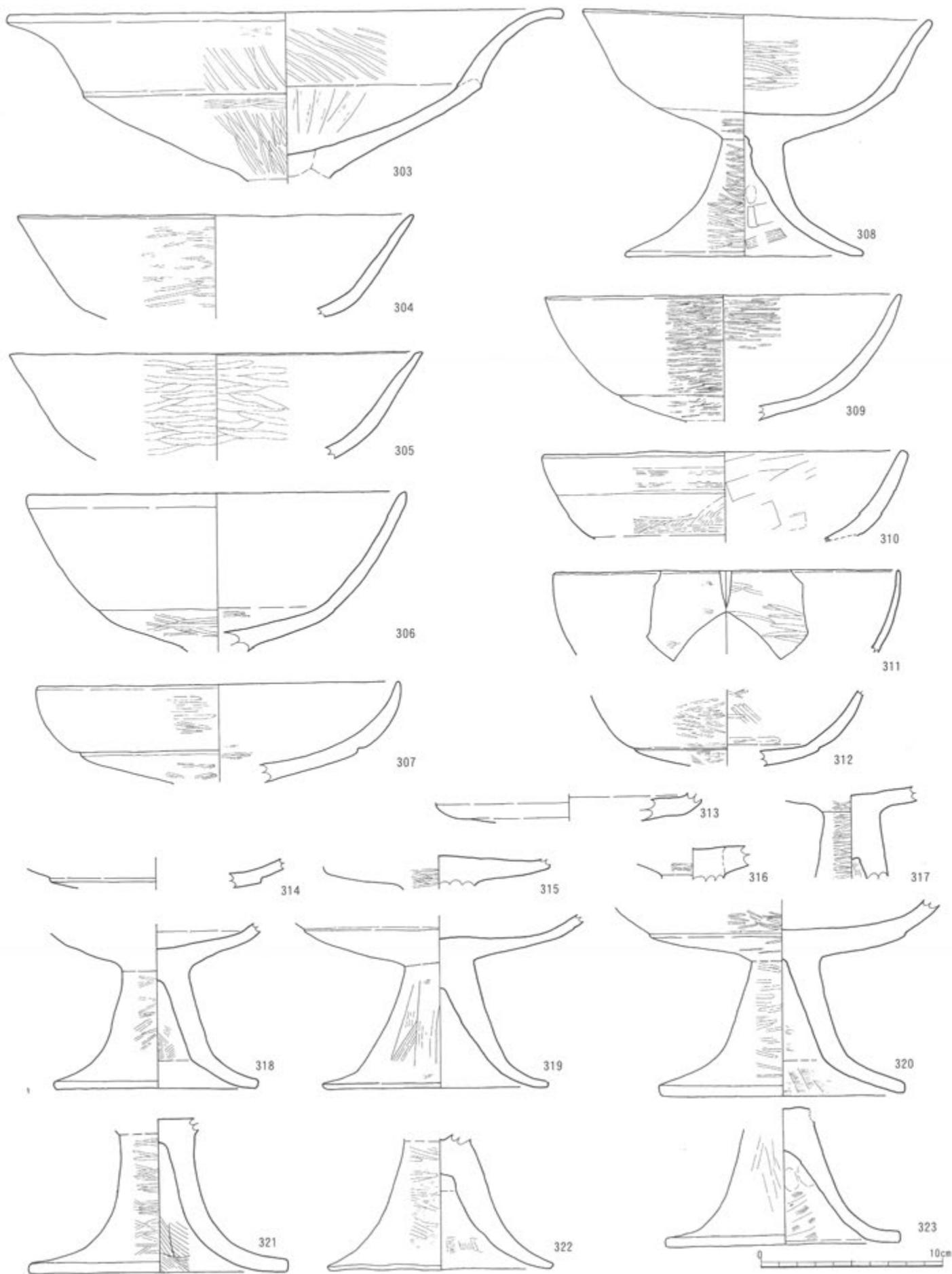
検出No	報告No	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
69	257	7339 7446 7474 7459 7444 7455 7479 7500 7445 7459 7497	0-29	IV	壺	胴~底部	-	-	2.1	ハケズ、ナデ、三角 突帯二条	ナデ	良	淡黄橙、灰白、補 灰	淡黄橙、黒褐、灰 褐	石英、輝石、白色細粒	(外・内面) 黒斑 あり



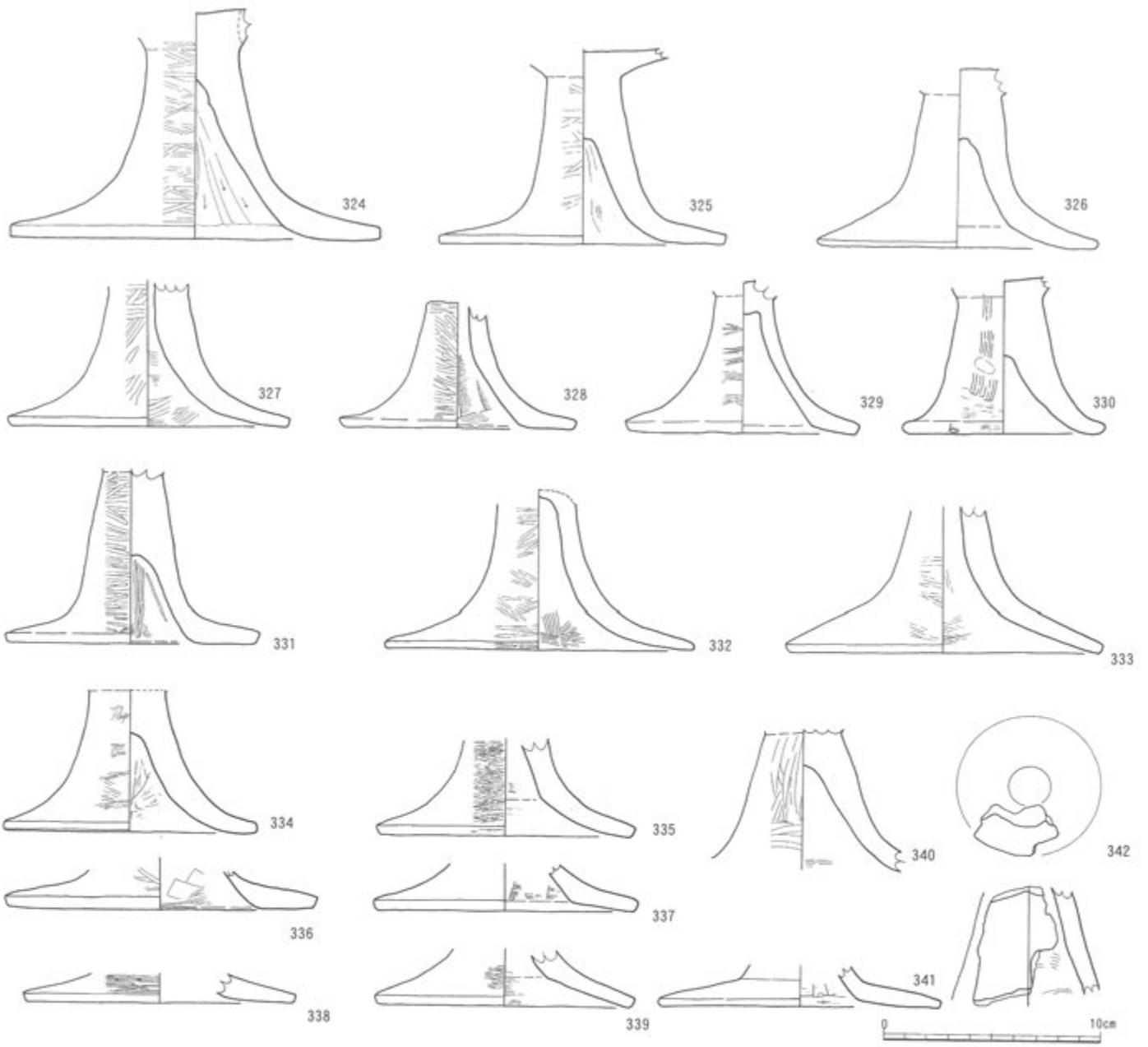
第73図 古墳時代出土遺物実測図21

第19表 古墳時代出土遺物観察表7

挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考		
69	258	6900 6904 6907 6913 7082 7092 7821 6902 6905 6908 6914 7085 7093 6903 6906 6912 7081 7087 7791	P-29	IV	壺	頸~底部	-	-	-	ハケメ、ナデ、三角突帯二条	ナデ、指頭圧痕	良	淡黄橙、灰褐	褐灰	石英、角閃石			
		6923 7067 7069															P-30	IV
		7225															O-30	IV
		7066 7068															F-30	IV
	259	7789 7787	P-30	IV	壺	胴~底部	-	-	4.2	ヘラナデ、指ナデ、突帯二条	指ナデ	良	橙、黒褐	黄橙、暗褐	石英、砂粒混、小石5mm			
	260	7449 7471 7489 6862	O-29	IV	壺	頸~胴部	-	-	-	ハケメ、ナデ、突帯三条	ハケメ、ナデ	良	淡黄橙、橙	淡黄橙、褐灰	精製された胎土			
		7795															O-30	IV
		7768 7769 7771 7772 7774 7780 7816	P-30	IV														
	70	261	5211 5274 5275 5276 5279 5286 5599 5918	L-25	III	壺	胴部	-	-	-	ヘラナデ、刻目突帯	ナデ、ヘラナデ	良	暗赤褐、赤褐	黒褐、暗赤褐	石英、長石、赤色砂粒、砂粒混		
262		一括	I-21	-	胴部	-	-	-	ナデ、刻目突帯	ナデ、ヘラナデ	良	黒褐	褐	粗い胎土、小石多混				
263		一括	F-14	I	壺	肩部	-	-	-	ハケメ、ヘラナデ	ハケメ、ナデ	良	明褐、黒褐	黄橙、橙	石英、砂粒混			
71	264	2983	F-13	II	壺	底部	-	-	(6.6)	ハケメ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	黄橙	橙	石英、長石、角閃石、白色砂粒			
		3592	F-14	III														
	265	9230 9205	G-19	III	壺	胴~底部	-	-	5.7	ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	黄橙、灰褐	赤褐、灰褐	石英、長石、角閃石、赤色砂粒、砂粒混	(外面) 煤付着土集		
	266	9201	G-19	III	壺	底部	-	-	6.5	ヘラナデ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	赤褐、黄橙	橙、黄橙	石英、長石、白色砂粒	土集		
	267	9294	G-19	III	壺	底部	-	-	-	ハケメ	ハケメ	良	淡黄橙、橙	黄橙	石英、赤色砂粒、白色細粒	土集		
	268	1486	G-20	II	壺	底部	-	-	6.2	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	灰黄褐、黒褐	暗赤褐、黒褐	石英、長石、角閃石、赤色砂粒			
	269	6631	I-21	III	壺	底部	-	-	9.0	ヘラナデ、ナデ	ナデ	良	浅黄橙	浅黄橙	石英、長石、角閃石、赤色細粒			
	270	-	G-19	II	鉢	胴~底部	-	6.0	-	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	赤褐、黒褐	赤褐、橙	石英、長石、赤色砂粒、砂粒多混	(外面) 黒斑あり		
	271	2143	G-20	II	壺	底部	-	-	6.4	ヘラナデ、ナデ	ナデ	良	にぶい黄橙、黒褐	褐	粗い胎土、砂粒多混	(外面) 黒斑あり		
	272	3094	G-20	III	壺	底部	-	-	-	ナデ	ハケメ、ナデ	良	浅黄橙	橙	石英、長石、角閃石、小石6mm			
	273	1489	G-20	II	壺	底部	-	-	6.0	ハケメ、ナデ	ハケメ、ナデ	良	明赤褐	浅黄橙、黒褐	石英、白色小石			
	274	3298	G-20	III	鉢	底部	-	-	6.8	ナデ、ヘラナデ	ハケメ、ナデ	良	赤褐、黄橙	浅黄橙、灰褐	石英、輝石、小石7mm			
	275	一括	G-20	II	鉢?	胴~底部	-	-	3.6	ハケメ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	浅黄橙、黄橙、黒褐	にぶい橙	石英、輝石、赤色砂粒	(外面) 黒斑あり一部摩滅		
	276	1887	G-20	II	壺	底部	-	-	-	ハケメ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	黄橙、赤褐、暗赤褐	赤褐	石英、長石、細砂混			
277	一括 2224	G-20	II	壺	胴~底部	-	-	-	ナデ	指頭圧痕、ナデ	良	黒褐	浅黄橙、暗灰黄	粗い胎土、小石多混	(外面) 黒斑あり			
72	278	2827	D-14	II	鉢	口縁~底部	13.1	(19.3)	(9.0)	ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	浅黄橙、黄橙	浅黄橙	石英、砂粒混			
	279	2414	G-20	II	鉢	口縁~底部	-	(18.6)	-	ハケメ、ヘラミガキ(一部)	ハケメ、ナデ	良	浅黄橙、黄橙	黄橙、橙	石英、長石、赤色細粒	(外面) 黒斑あり		
		3338	-	III														
	280	7158	N-31	III	鉢	完形	8.9	9.5	7.0	ハケメ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	明橙、黒褐	橙	石英、砂粒混	(外面) 黒斑あり		
281	1702	H-20	II	鉢	口縁~底部	11.5	(18.1)	11.3	ナデ	ナデ	良	浅黄橙、橙	浅黄橙、黄橙	石英、長石、砂粒混				
	-	-	E-16	-														



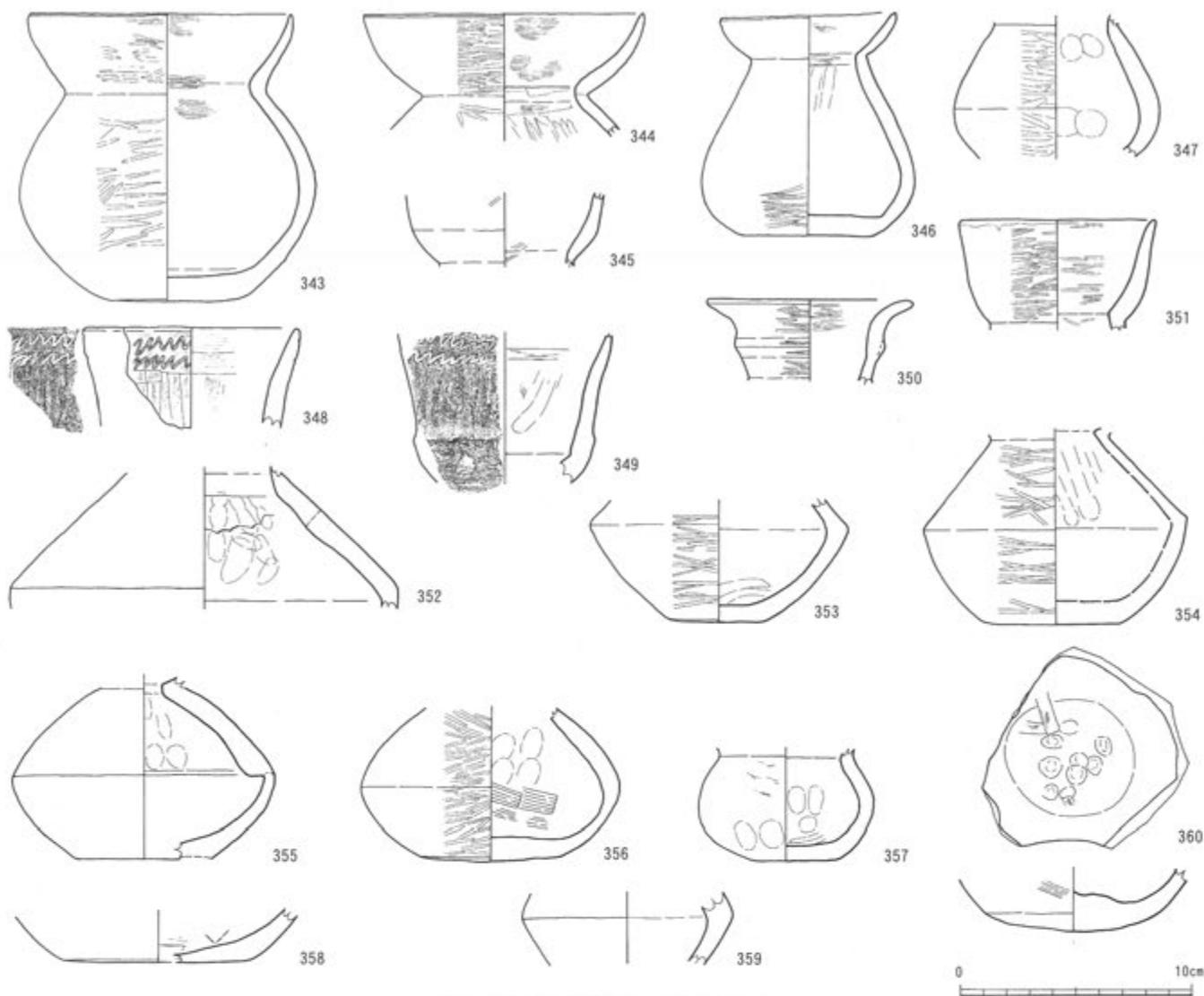
第74図 古墳時代出土遺物実測図22



第75図 古墳時代出土遺物実測図23

第20表 古墳時代出土遺物観察表 8

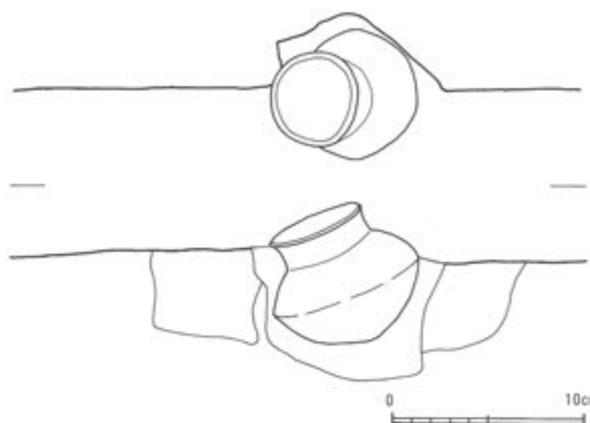
挿図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考
72	282	2504 2929 1875 一括	G-19	II	鉢	口縁～底部	16.9	25.2	11.8	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	浅黄橙, 黄橙	浅黄橙, 黄橙	石英, 白色細粒	
		3366 2928 一括	-	III												
	283	6139 6155	I-21	II	鉢	口縁～底部	-	24.9	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	浅黄橙, 黄橙	黄橙, 橙	石英, 白色細粒, 小石7mm	
		6379 6616 6649	I-21	III												
	284	1289	I-22	II	鉢	口縁～底部	-	(21.6)	-	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	浅黄橙, 黄橙	明赤褐	石英, 白色砂粒, 小石6mm	
	285	一括 1709	H-20	II	甕	底部	-	-	8.7	ハケメ	ハケメ	良	にぶい黄橙, 橙	黄橙, 灰褐	長石, 白色細粒, 小石6mm	
			H-20	III												
286	1629	H-21	II	甕	脚部	-	-	10.0	ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	明赤褐	橙	石英, 角閃石		
287	4662 5872	K-24	III	甕	脚部	-	-	10.2	ナデ, ヘラナデ	ナデ, ヘラナデ, 指頭圧痕	良	暗赤褐, 黒褐, 黄橙	赤褐, 黒褐	白色砂粒多混, 赤色小石		
		K-24	IV													
73	288	1984 1985 1989	G-19	II	鉢	口縁～底部	7.0	(20.6)	2.2	ヘラナデ, ナデ	ナデ	良	浅黄橙	浅黄橙, 黒褐	精製された胎土	
	289	1745 1753 2564 1751 一括	G-20	II	鉢	口縁～底部	-	15.7	3.8	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤褐, 浅黄橙	赤褐, 浅黄橙	精製された胎土 (小空洞含む)	煤付着
	290	7327 6994 6996 6995 6936	Q-29	IV	鉢	口縁～底部	15.3	(18.3)	6.8	ヘラナデ, ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	暗褐, 黒褐, 橙	赤褐, 赤灰	石英, 輝石, 赤色小石多混	
	291	9324 一括	G-19	II, III	鉢	口縁部	-	-	19.2	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	灰褐, 橙	赤褐	石英, 赤色砂粒, 砂粒混	
	292	1784	G-20	II	鉢	口縁～底部	(9.5)	(17.6)	-	ヘラナデ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	明赤橙	橙	石英, 長石, 黒雲母, 砂粒混	(外面) 煤付着
	293	9260	G-19	III	鉢	口縁～底部	7.3	16.6	4.5	ハケメ, ナデ	ハケメ, ナデ	良	赤褐	黒褐, 暗褐	石英, 白色砂粒多混, 小石6mm	(内面) 黒斑あり
	294	1891	G-20	II	鉢	口縁～底部	-	13.8	4.7	ハケメ, ナデ	ヘラナデ, ハケメ	良	橙	橙	石英, 白色砂粒, 小石6mm	
	295	6554 6955 6958	Q-29	IV	鉢	口縁～底部	9.1	(9.0)	0.1	ナデ	ナデ	良	明赤褐, 暗赤褐	赤褐	石英, 長石, 角閃石	
	296	一括	E-6	IV	鉢	口縁～胴部	-	(9.6)	-	ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	赤褐, 黒褐	明赤褐, にぶい赤褐	石英, 長石, 赤色小石, 細砂混	(外面) 黒斑あり
	297	7310	N-30	IV	小鉢	口縁～底部	3.7	(6.5)	1.3	ナデ	ナデ	良	黄橙, 淡黄橙	橙	石英, 長石, 赤色砂粒	
	298	一括	C-12	I	鉢	口縁～底部	-	(11.0)	-	ナデ	ナデ	良	褐	褐	石英, 長石, 砂粒混	(内面) 器面摩滅
	299	6584	H-21	III	鉢	口縁～底部	8.4	(9.3)	3.4	ナデ, 指頭圧痕, 刻目突帯	ハケメ, ナデ	良	淡黄橙	淡黄橙	石英, 長石, 角閃石	
	300	2738 2739 一括	E-16	II	壺	胴～底部	-	-	丸底	ハケメ, ナデ, 刻目突帯	ナデ	良	にぶい黄橙	浅黄橙, 褐	精製された胎土	(外面) 赤色顔料付着
	301	3257	E-16	III	小型土器	完形	3.6	6.1	1.4	ナデ, 線刻, 指頭圧痕	ナデ	良	暗褐, 黒褐	灰褐, 黒褐	粗い胎土, 小石多混	
302	2700	E-15	II	土製品	完形	5.8	2.1	4.2	ナデ	ナデ	良	赤褐, 赤黒	赤褐	石英, 長石, 細砂混		
74	303	7201	O-31	III	高坏	环部	-	31.6	-	ナデ, ヘラナデ	ナデ, ヘラナデ	良	浅黄橙, 灰褐, 赤褐	浅黄橙, 赤橙	石英, 長石, 赤色砂粒	
	304	1942	G-20	II	高坏	环部	-	(21.8)	-	ヘラミガキ	ナデ	良	浅黄橙, 橙	浅黄橙, 橙	精製された胎土	
	305	一括	H-14	II	高坏	环部	-	(22.6)	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	明赤褐, 暗赤褐	橙, 灰褐	精製された胎土, 赤色砂粒	
	306	1913 1914 一括	G-20	II	高坏	环部	-	(20.9)	-	ナデ, ヘラミガキ	ヘラミガキ	良	黄橙, 浅黄橙	にぶい黄橙, 橙	石英, 長石, 赤色小石	
			G-19	II												
	307	1553 1552	J-23	II	高坏	环部	-	(20.0)	-	ヘラミガキ	ナデ	良	橙, 浅黄橙	橙	精製された胎土	
	308	1589 一括 2972	G-19	II	高坏	口縁～脚部	(14.9)	(19.6)	(13.0)	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, ハケメ	良	明赤橙	明褐灰	石英, 長石, 角閃石	(外面) 坏部摩耗
			H-20	II												
	309	9376 2433 2447 一括	G-19 - 20	III	高坏	口縁～胴部	-	(19.6)	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤褐, 淡赤橙	橙, 浅黄橙	精製された胎土, 砂粒少混	土集
			G-20	II												
	310	1783 一括 3348 3760	G-20	II	高坏	环部	-	10.0	-	ハケメ, ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	浅黄橙, にぶい黄橙	橙	石英, 砂粒混, 小石6mm	
G-20			III													
311	一括	F-14	I	鉢	口縁部	-	19.0	-	ナデ	ヘラミガキ	良	淡黄橙, 黒褐	黄橙	石英, 細砂混	(外面) 黒斑あり	
312	一括	E-14	II	高坏	胴部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ, ヘラミガキ	良	明赤褐	浅黄橙, 褐灰	精製された胎土, 細砂混		
313	1831	F-20	II	高坏	环部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	橙	浅黄橙	石英, 長石, 赤色小石, 白色細粒	(外面) 器面摩滅	



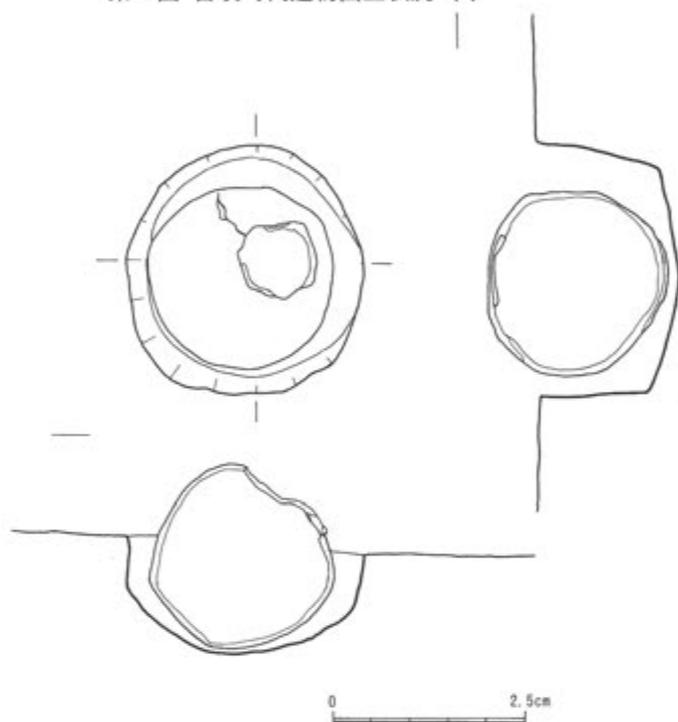
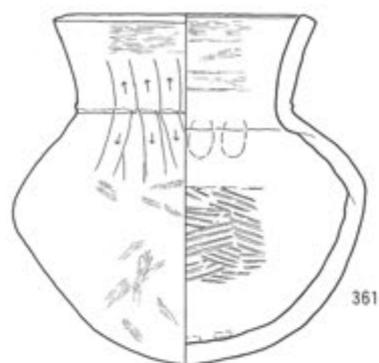
第76図 古墳時代出土遺物実測図24

第21表 古墳時代出土遺物観察表9

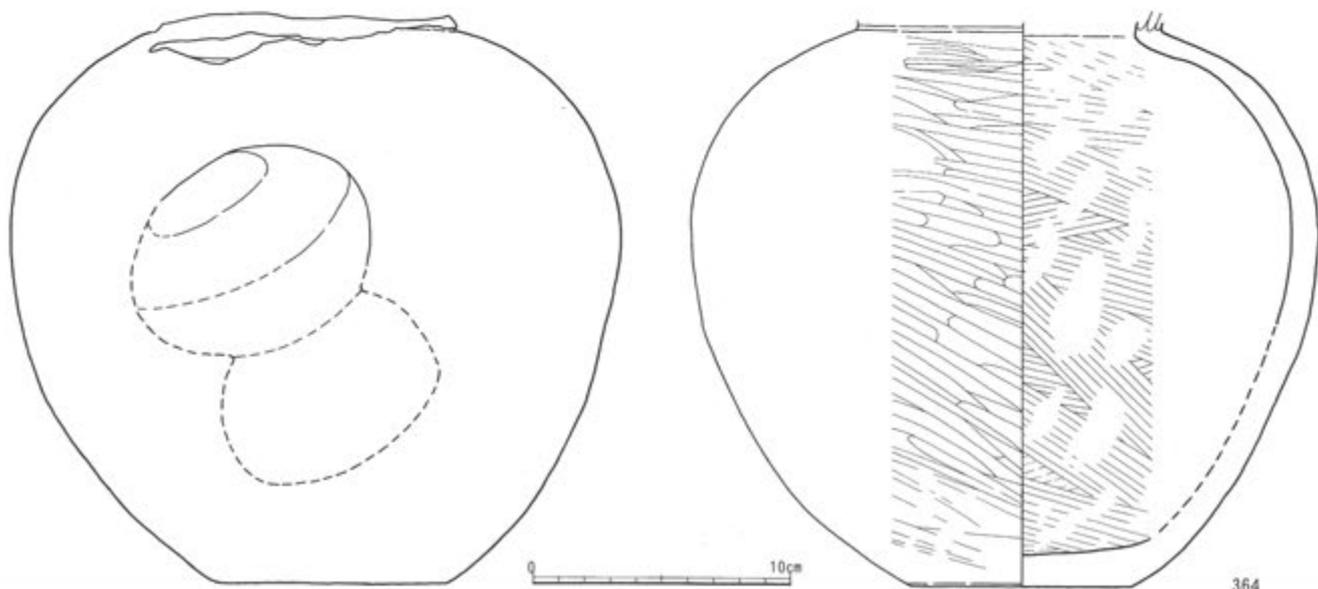
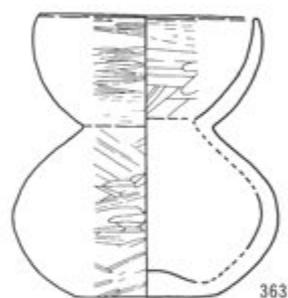
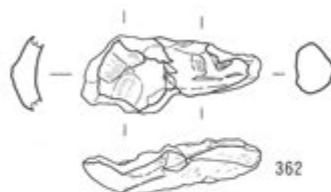
押図No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高 (cm)	口径 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調 (外)	色調 (内)	胎土	備考
74	314	一括	E-14	II	高坏	坏部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	橙	橙	精製された胎土, 赤色砂粒少混	
	315	2333 2334	E-14	II	高坏	坏部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	明赤褐, 黄橙	赤褐	石英, 赤色砂粒, 白色細粒	
	316	一括	E-4	-	高坏	坏部	-	-	-	ナデ	ナデ	良	明褐	赤褐	石英, 長石	
	317	2838	D-14	II	高坏	脚部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ	良	赤褐	黄橙	白色細粒, 赤色砂粒	
	318	1705 2696	H-20	II	高坏	脚部	-	-	11.2	ナデ	ハケメ, ナデ	良	黄橙, 橙	赤褐, 浅黄橙	赤色砂粒多混	
	319	一括	G-20	II	高坏	坏~脚部	-	-	(12.3)	ナデ	ナデ	良	浅黄橙, 黄橙	浅黄橙, 橙	石英, 角閃石, 赤色小石, 砂粒少混	(内・外面) 器面摩滅
	320	2379 2380 2825	D-14	II	高坏	脚部(ED)	-	-	13.4	ナデ, ヘラミガキ	ヘラナデ, ナデ	良	黄橙	浅黄橙	精製された胎土	
	321	2261	D-14	II	高坏	脚部	-	-	14.1	ナデ, ヘラミガキ	ハケメ	良	黄橙, 淡橙	浅黄橙, 黄橙	石英, 赤色砂粒	
	322	524	D-12	III	高坏	脚部	-	-	12.3	ヘラミガキ	ヘラナデ, ナデ	良	浅黄, 黄灰	浅黄, 暗黄	精製された胎土	
	323	4743 4747	H-21	III	高坏	脚部	-	-	12.8	ナデ, ヘラナデ	指頭圧痕, ナデ	良	浅黄橙, 橙	黄橙, 橙	石英, 長石, 角閃石	
	324	1884 1894	G-20	II	高坏	脚部	-	-	17.0	ヘラミガキ	ヘラナデ, ナデ	良	浅黄橙, 明灰褐	浅黄橙	精製された胎土, 赤色砂粒	
	325	1317	I-22	II	高坏	脚部	-	-	13.2	ミガキ	ヘラナデ, ナデ	良	浅黄橙, 赤褐	黄橙, 浅黄橙	精製された胎土, 赤色小石少混	
	326	6362	I-21	III	高坏	脚部	-	-	13.0	丹塗り, ヘラミガキ	ナデ, ヘラナデ	良	赤橙, 黄橙	にぶい黄橙	石英, 細砂混	
	327	1781	G-20	II	高坏	脚部	-	-	13.0	ヘラミガキ	ハケメ, ナデ	良	暗褐, 暗赤褐	褐	石英, 赤色砂粒, 砂粒少混	



第77図 古墳時代遺物出土状況 (1)



第78図 古墳時代遺物出土状況 (2)



第79図 古墳時代出土遺物実測図25

第22表 古墳時代出土遺物観察表10

挿入No.	報告No.	注記番号	出土区	層	器種	部位	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	外面調整	内面調整	焼成	色調(外)	色調(内)	胎土	備考	
75	328	2842	D-14	II	高環	脚部	-	-	11.0	ヘラミガキ	ヘラナデ, ナデ	良	黄橙	黄橙, 明褐	石英, 赤色砂粒, 砂粒少混		
		3805 3813	E-14	IV													
	329	9219	G-19	III	高環	脚部	-	-	10.8	ヘラミガキ	ナデ	良	灰白, 淡黄橙	橙	石英, 長石, 赤色砂粒	土集	
	330	2308	E-14	II	高環	脚部	-	-	9.3	ハケメ, ナデ	ナデ	良	赤褐	灰褐, 黄橙	石英, 赤色砂粒, 小石8mm		
	331	1318	I-22	II	高環	脚部	-	-	11.7	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラナデ, ナデ	良	赤橙	浅黄橙	精製された胎土, 赤色砂粒少混		
	332	3386 3399	G-20	III	高環	脚部	-	-	14.3	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ, ハケメ	良	赤褐	明褐	精製された胎土		
	333	-	-	-	高環	脚部	-	-	14.7	ヘラミガキ, 丹塗り	ハケメ, ナデ	良	橙, 灰白	浅黄橙, 灰白	石英, 砂粒混		
	334	3803	E-14	V	高環	脚部	-	-	11.7	ヘラミガキ	ヘラナデ, ナデ	良	暗赤褐, 橙	赤褐	石英, 角閃石, 赤色砂粒		
	335	3634 3671	E-14	III	高環	脚部	-	-	12.0	丹塗り, ヘラミガキ	ヘラナデ, ナデ, 丹塗り	良	明褐, 赤橙	赤褐, 黄橙	精製された胎土		
	336	2269	E-14	II	高環	脚部	-	-	14.4	ヘラミガキ, 丹塗り	ハケメ, ナデ	良	暗褐, 暗赤褐	黒褐	精製された胎土		
	337	2889	E-14	II	高環	脚部	-	-	12.2	ナデ	ヘラナデ, ナデ	良	黄橙	黄橙, 褐灰	石英, 赤色砂粒	(外内面) 器面摩減	
	338	2245	E-14	II	高環	底部	-	-	12.6	丹塗り, ミガキ	ハケメ, ナデ	良	赤褐	橙	石英, 輝石, 砂粒混		
	339	3814	E-14	IV	高環	脚部	-	-	12.0	ヘラミガキ	ハケメ, ナデ	良	明褐, 黄橙	赤褐, 黄橙	精製された胎土, 赤色砂粒少混		
	340	2338	E-14	II	高環	脚部	-	-	-	ヘラミガキ	ナデ	良	浅黄, 灰白	浅黄橙	精製された胎土		
	341	2426	G-20	II	高環	脚部	-	-	(13.2)	ナデ	ナデ, ヘラナデ	良	橙	暗赤褐	精製された胎土 (気泡含む)		
	342	一括	F-19	II	羽口	脚部	-	4.1	-	ナデ	ハケメ, ナデ	良	黄橙, 黄灰, 褐灰	黄橙, 褐	精製された胎土, 細砂混	孔径2.0cm	
76	343	2692 2797	D-15	II	埴	完形	12.5	11.3	5.7	丹塗り, ヘラミガキ	ナデ, ヘラミガキ	良	明赤褐, 橙, 黄灰	にぶい黄橙, にぶい橙	石英, 長石, 赤色砂粒		
	344	1893	G-20	II	埴	口縁部	-	(12.0)	-	ヘラミガキ	ナデ	良	橙, 黄橙	浅黄橙	精製された胎土, 赤色砂粒		
	345	-	G-19	II	埴	頸部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ヘラミガキ, 丹塗り	良	明赤褐, 橙	赤褐	石英, 赤色砂粒, 小石4mm	(内・外面) 一部 器面摩減	
	346	3074	H-21	II	埴	完形	9.6	7.5	5.5	丁寧なナデ	ナデ	良	黄橙	黄橙	石英, 角閃石, 小石4mm		
	347	3771	H-19	III	埴	胴部	-	-	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ, 指頭圧痕	良	赤褐, 黄褐	黄橙	精製された胎土, 赤色砂粒少混		
	348	一括	F-18	II	埴	口縁部	-	(9.2)	-	ナデ, ヘラナデ, 横鋸歯状文二条	ナデ, ヘラナデ	良	暗褐	褐	赤色砂粒, 白色砂粒	96と同一個体	
	349	一括	G-18	II	埴	胴部	-	-	-	ヘラナデ, ナデ, 横鋸歯状文二条	ナデ, ヘラナデ	良	赤褐, 黒褐	赤褐, 黒褐	赤色砂粒, 白色砂粒	99と同一個体	
	350	1202 1203	E-6	IV	埴	口縁部	-	(8.8)	-	ヘラミガキ, 丹塗り, 突帯	ヘラミガキ, 丹塗り	良	赤褐	赤褐, にぶい黄橙	精製された胎土, 細砂少混		
	351	3282 3283	H-20	III	埴	口縁部	-	(8.4)	-	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ, ヘラミガキ, 丹付着	良	暗赤褐	黄橙	石英, 長石, 赤色小石		
	76	352	-	H-20	II	埴	胴部	-	-	-	ナデ, 丹塗り (ヘラミガキの可能性もあり)	ナデ, 指頭圧痕	良	橙, 赤褐, 浅黄橙	黄橙, 浅黄橙	精製された胎土	(外面) 器面摩減
			6551 6567	H-21	III												
			一括	I-21	-												
			6609	I-21	III												
		353	3282	H-20	II	埴	胴~底部	-	-	4.1	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ	良	赤褐, 黄橙	にぶい黄橙	赤色小石, 白色細粒	
			3284	H-20	III												
			一括	-	II												
354		1979	G-19	II	埴	胴~底部	-	-	5.9	ヘラミガキ, 丹塗り	ナデ, 指ナデ	良	赤褐, 明赤褐	浅黄橙, 黒褐	精製された胎土		
355		1742	G-20	II	埴	頸~底部	-	-	(5.8)	ナデ	ナデ	良	浅黄橙	褐灰, 灰白	精製された胎土	内面に粘土の輪積み跡あり	
356		2805	D-15	II	埴	胴部	-	-	6.0	ヘラミガキ, 丹塗り	指頭圧痕, ハケメ, ナデ	良	明赤褐, 赤黒	橙	精製された胎土, 赤色細粒		
357	1577	I-23	II	埴	胴~底部	-	-	3.6	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	良	黄橙, 灰褐	黄橙	石英, 輝石, 白色砂粒			
358	-	H-19	II	埴	底部	-	-	(7.8)	ナデ, 丹塗り	ナデ, ヘラナデ	良	赤褐, 浅黄橙	灰褐	石英, 赤色砂粒	(外面) 器面摩減		
359	1306	I-22	II	埴	胴部	-	-	-	ナデ, 丹塗り	ナデ	良	暗赤	灰褐	精製された胎土, 細砂混			
360	一括	G-20	II	壺	底部	-	-	7.6	ナデ	ナデ, 指頭圧痕	良	浅黄橙, 淡橙	灰褐	石英, 長石, 小石少混			
79	361	347	13T	IIa	埴	完形	-	10.1	13.7	ナデ, ヘラナデ	ハケメ, ナデ, 指頭圧痕	良	赤褐, 黒褐	赤褐	精製された胎土, 砂粒混	(外面) 黒斑あり	
	362	一括	G-19	II	柄杓型土器	匙部	最大厚 1.7	最大長 6.9	最大幅 2.9	指頭圧痕, ナデ	指頭圧痕, ナデ	良	黒褐, 赤褐, 暗赤褐	黒褐, 赤褐, 暗赤褐	石英, 白色砂粒, 砂粒混		
	363	-	E-19	III	埴	完形	11.1	8.5	5.4	ミガキ	ミガキ, ナデ	良	黄橙, 浅黄橙	黄橙, 灰白	精製された胎土, 白色砂粒		
	364	-	E-19	III	壺	胴~底部	-	-	8.6	ヘラナデ	ハケメ, ナデ	良	黄橙, 浅黄橙, 黒褐, 灰褐	浅黄橙	石英, 砂粒混		

4 石器

弥生時代から古墳時代にかけて24点の石器が出土している。その中には、竪穴住居内出土の石器3点を含むため、本稿の観察表には、その3点を併せて掲載した。

石鎌(第80図365~369)

合計5点の出土を確認している。

365は平基の三角形鎌で、全体に細かな整形剥離を施す。366は浅い抉りの鎌で、裏面に素材剥離面を残し脚先は尖る。365、366はともに安山岩を素材にしている。

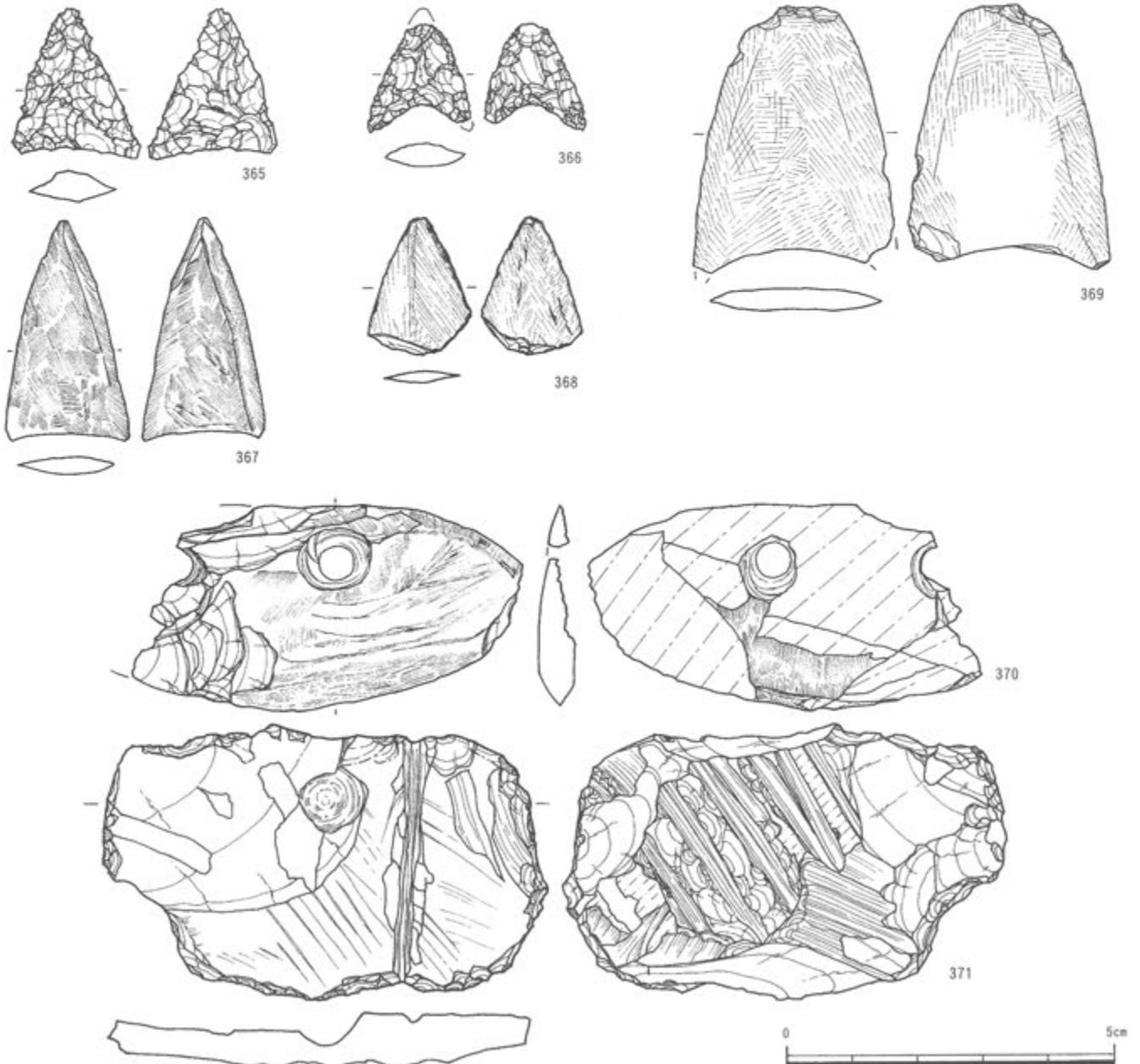
366~369は頁岩製の磨製石鎌で、全面磨製で薄く仕上げている。367、368の両側縁部は、斜めに研磨され

鋭く尖り、367の基部は緩やかに内弯し磨かれる。368の基部は欠損している。

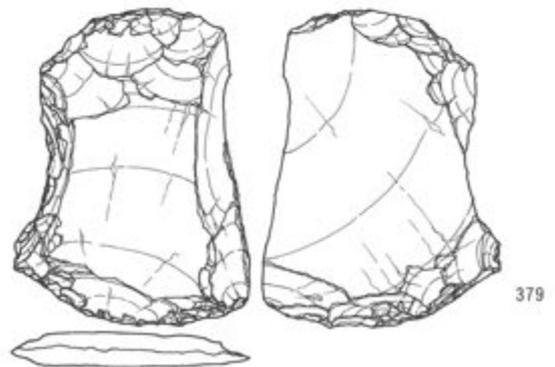
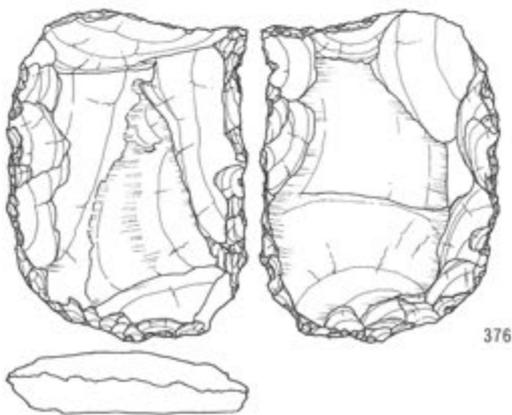
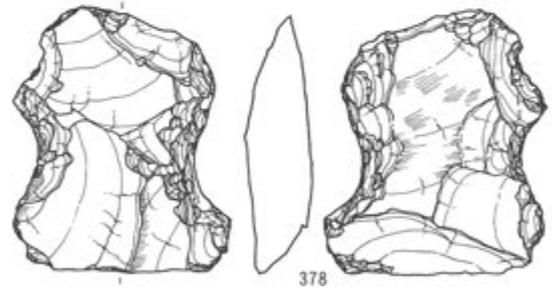
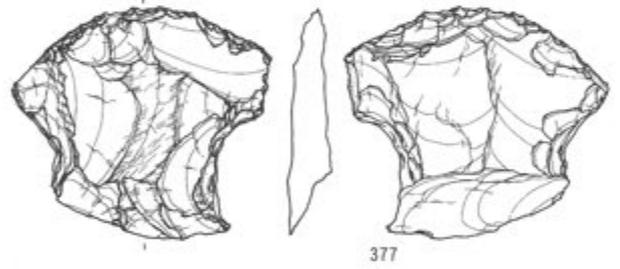
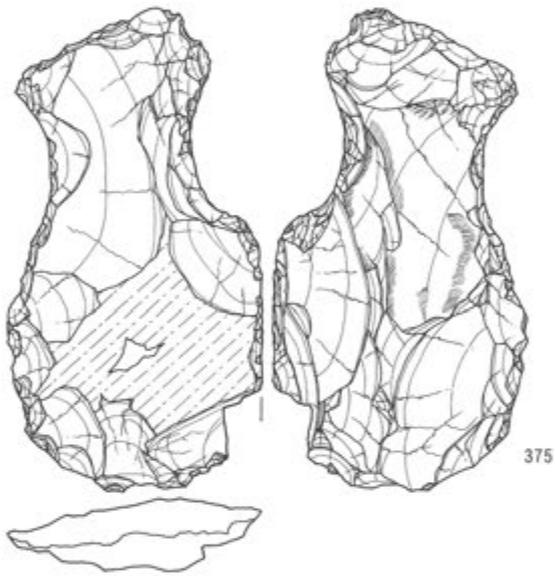
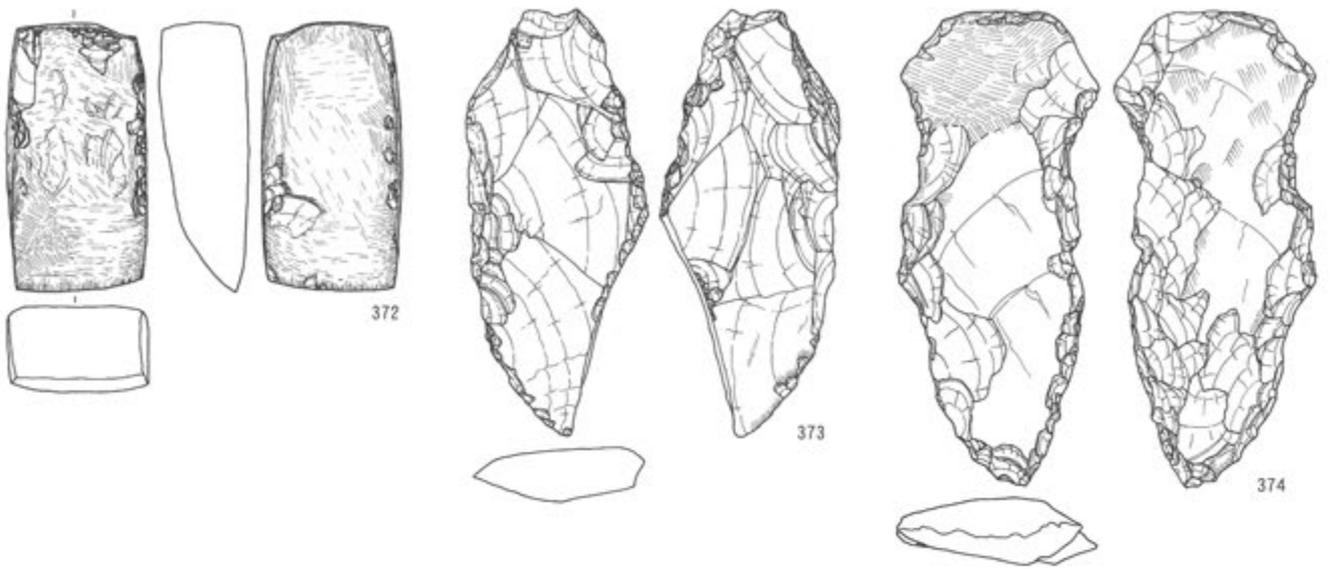
369は、大型の鎌で薄い素材を用い両側縁部を斜めに研磨し、基部は内弯し磨かれている。先端部と脚先が欠損する。

石包丁(第80図370)

弥生時代の石包丁が1点出土した。370は頁岩製の石包丁で、残存する形状から半月形の形状を呈するものと思われる。握りの部分に両面から2つの孔を穿す。裏面は風化のため節理にそって剥離している。



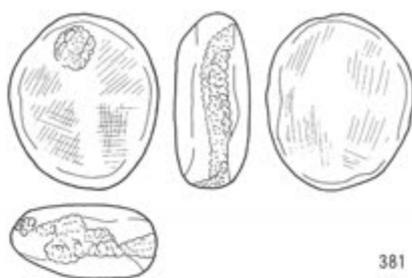
第80図 古墳時代出土遺物実測図26



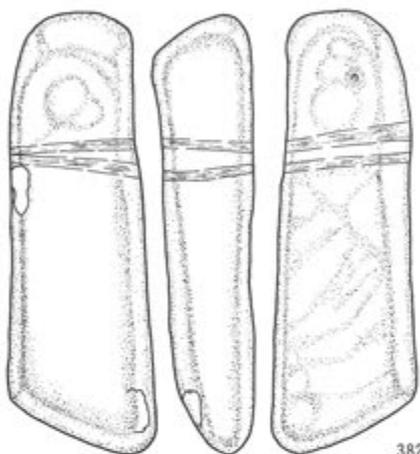
第81図 古墳時代出土遺物実測図27



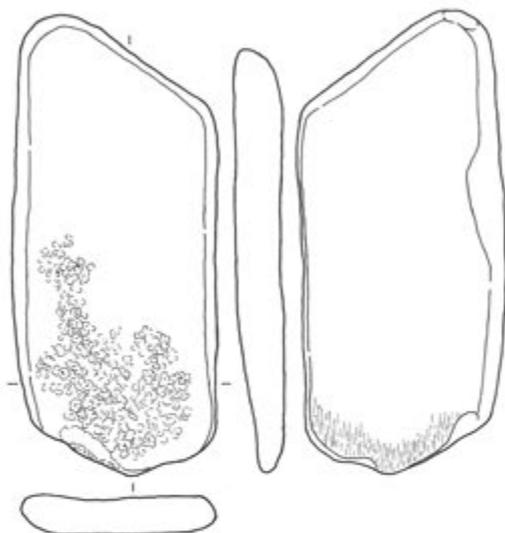
380



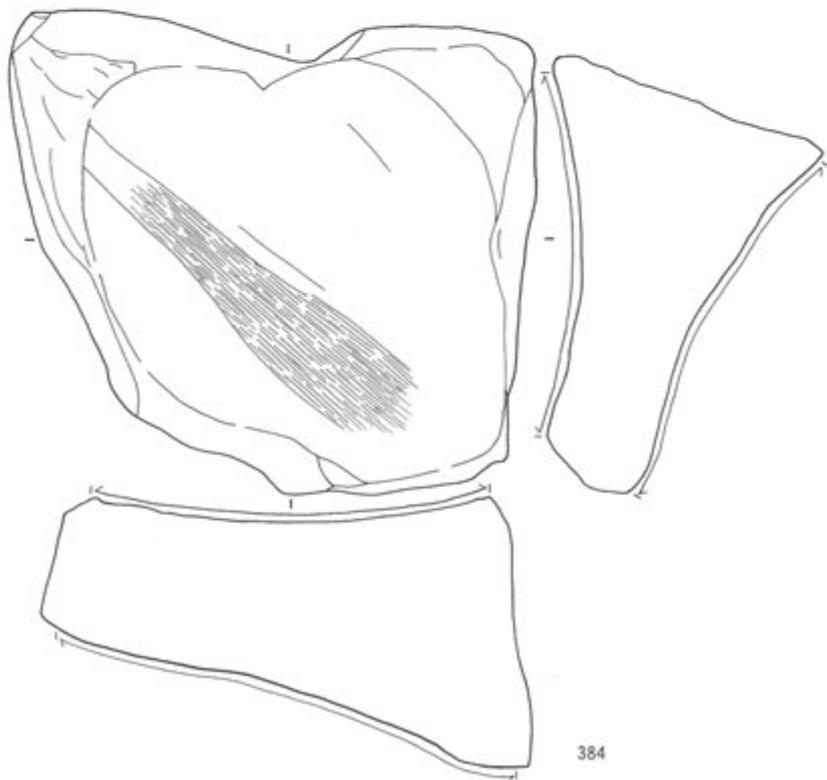
381



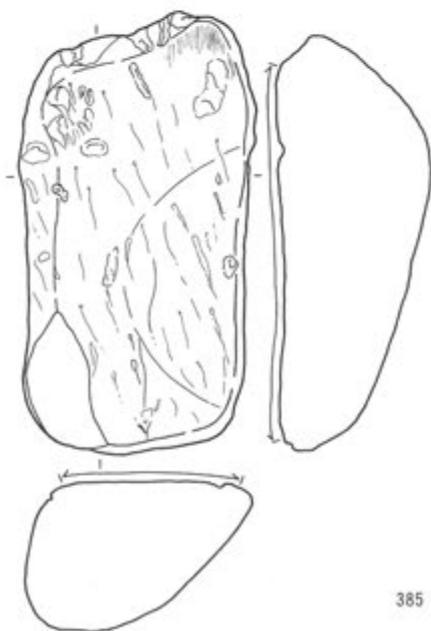
382



383



384



385



第82図 古墳時代出土遺物実測図28

有溝砥石(第80図371)

遺跡内から2点出土している。砂岩製の有溝砥石103は、4号竪穴住居跡の床面から出土している。

371は、4号住居上部の表土中から採集された。頁岩の薄い剥片を用いた単状有溝砥石である。砥面には細かな擦痕が観察でき研磨作業に使用した跡が残る。1条の深い断面三角形を呈する溝をもち、穿孔を施すが、貫通していない。裏面には、同一方向に7条の溝が残る。

片刃石斧(第81図372)

372は、シルト質頁岩を素材に用いた柱状片刃石斧で、全面入念な研磨仕上げで方柱状に面取りが施され、片平刃でノミ形を呈し横断面は長方形である。器幅に対し器長が短いため、器長の長い石斧を再生した可能性がある。

打製石斧(第81図373～379)

遺跡内から8点の出土を確認している。打製石斧6は、弥生時代の1号竪穴住居跡から出土している。

373は、両面とも先行する幅広の整形剥離によって厚みを減じている。刃部は丸く尖り、裏面に擦痕が観察できる。374、375、377、378は基部に挟りが入り、節理面や主剥離面が大きく残る。また、基部に着装痕らしい擦痕が観察でき、374は縦方向、375～378は横方向に付いている。374は刃部が鋭角に尖り、裏面に使用痕

が観察できる。379は扁平な素材を用い、右側縁は折断による挟り、左側縁には整形剥離による挟りが入る。

使用される石材は、373、374、377～379が、ホルンフェルスで、375、376が頁岩である。

ハンマーストーン(第82図380、381)

380、381ともに小判形の扁平礫を用い、明瞭な敲打痕あるいはリタチャー痕を残す。380は表に、381は両面に磨跡が観察できる。

石錘(第82図382)

382は、砂岩の礫の上部に2条の細い横方向擦り痕が観察できる。紐状の物を巻き付けた痕と見られる。

砥石(第82図383、384)

383は扁平な砂岩の礫の表面に、細かな敲打痕が残り、両面に細かな擦痕が観察できる。手持ちの砥石として使用した可能性がある。384は砂岩の両面が深く大きく凹み擦痕が見られる。

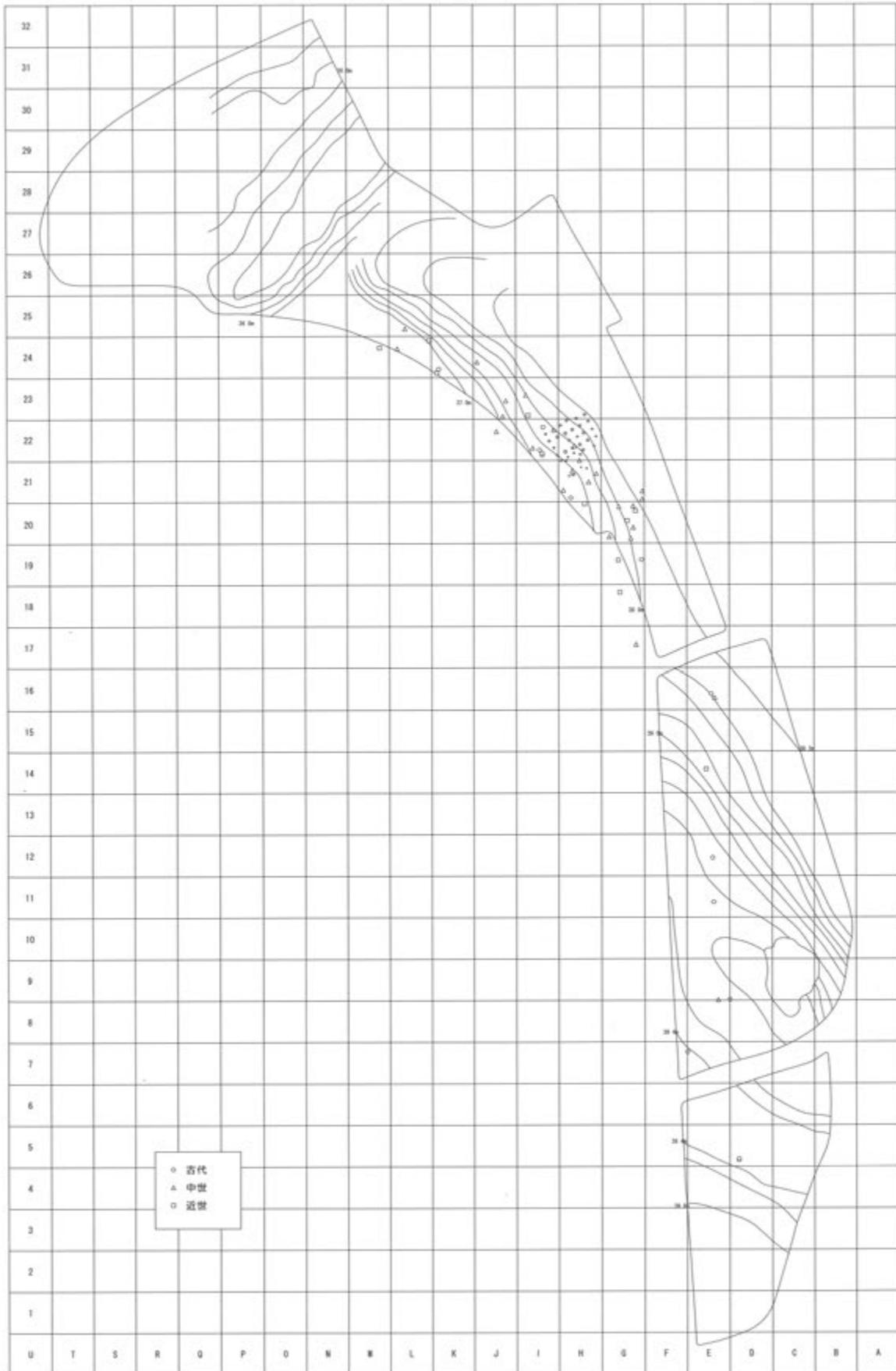
軽石製品(第82図385)

平坦面を磨面に用い、やや船底状の底面を持つ。

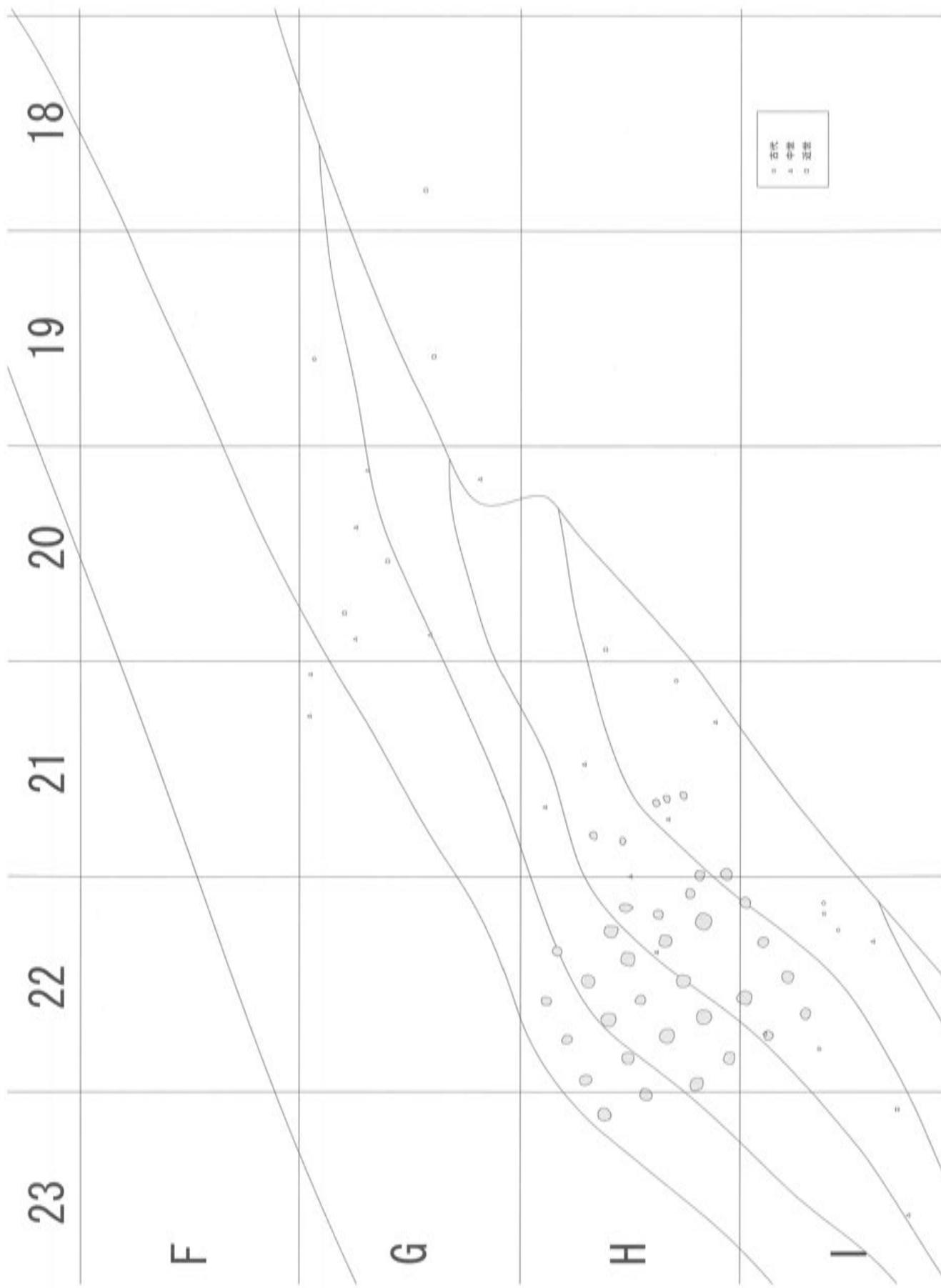
第23表 石器観察表

挿図No.	報告No.	器種	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	取上番号	層位L1	層位L2	出土区	備考
11	6	打製石斧	H F	(94.3)	(70.6)	18.5	(127.5)	11	3号住	-	-	
35	103	砥石	S S	184.0	112.9	77.8	1698	7	1号住	-	-	
42	146	石製品	S E	17.0	22.8	3.5	2.55	378	6号住	-	-	
80	365	石鏃	A N	23.8	19.8	5.6	1.45	一括	6	上	D-10	
	366	石鏃	A N	(17.0)	15.7	3.3	(0.63)	5748	3	-	L-24	
	367	磨製石鏃	S H	34.6	18.5	2.3	1.66	7531	4	-	O-31	
	368	磨製石鏃	S H	(21.7)	15.4	2.1	(0.70)	3607	3	-	F-14	
	369	磨製石鏃	S H	(42.5)	30.6	2.6	(4.67)	1475	2	-	H-20	
	370	石包丁	S H	32.1	(61.0)	5.4	(11.53)	7906	4	-	P-30	
	371	砥石	S H	67.5	43.6	8.5	28.37	表一括	表	-	-	
81	372	片刃石斧	S H	71.2	36.1	23.0	109.84	665	4	-	C-11	
	373	打製石斧	H F	113.0	46.5	17.4	(81.10)	5443	4	-	J-23	
	374	打製石斧	H F	126.5	52.0	18.0	115.13	1556	2	-	J-23	
	375	打製石斧	S H	127.9	65.9	18.9	(153.69)	溝42	溝	-	J, K-24	
	376	打製石斧	S H	(90.5)	62.8	16.5	(111.68)	一括	2	-	H-20	
	377	打製石斧	H F	(61.1)	(68.1)	13.2	(44.58)	2627	2	-	F-15	
	378	打製石斧	H F	(70.3)	(56.6)	18.2	(78.78)	表一括	表	-	-	
	379	打製石斧	H F	83.7	60.3	9.5	64.86	一括	2	b	P-26	
82	380	ハンマーストーン	P A	65.5	36.5	24.0	90.08	68	3	-	1 2 T	
	381	ハンマーストーン	S S	46.8	39.0	20.1	47.00	5754	3	-	K-24	
	382	石錘	S S	117.1	37.7	25.6	171.97	4955	3	-	I-22	
	383	砥石	S S	122.4	54.0	14.2	145.60	一括	2	-	E-16	
	384	砥石	S S	128.5	137.5	92.0	1372	6790	4	-	Q-28	
	385	軽石製品	軽石	116.8	62.0	39.6	61.71	7006	4	-	Q-29	

第3節 古代～中世の調査



第83図 古代以降遺物出土状況



第84図 古代～中世遺構位置図

1 調査の方法と概要

古代～中世の調査は、遺物包含層であるⅡ層が残存するF-7区～E-16区、G-19区～L-25区までを調査した。E-2区～DE-6区は削平のために包含層はなかったが、遺構検出の可能なⅥ層が残存していたため調査を行った。だが、遺構は検出されなかった。

調査の結果、古代～中世では、土師器、須恵器、白磁、青磁、染付、瓦質土器、中世須恵器（東播磨系須恵器、常滑焼、備前焼）、褐釉陶器、滑石製品、鉄器が出土し、H～I-22～23区で掘立柱建物跡が1棟検出された。

2 古代～中世の遺構

掘立柱建物跡（第85図、第86図）

H～I-21～23区、Ⅵ層上面で検出された。総柱の掘立柱建物跡で、主軸方向はN-73°-Wである。建物の規模は3間×5間で、桁行約9.0m、梁行約5.4m、面積は約48.6㎡であり、梁行の北東側がわずかに狭いほぼ長方形を呈している。柱間の平均は、桁行柱間1.80m、梁行柱間1.79mで、未確認のものやP9やP11のように柱穴中心部がわずかにずれるものもあるが、ほぼ等間隔の碁盤の目状に整然と配置されていた。柱穴規模は、平均値で上面での大きさが長径55.3cm、短径49.6cmの円形を呈し、深さが55.2cmである。柱穴の断面形状はやや不規則であり、P10、P14、P18では柱痕跡が確認されたが、その他については確認されず、抜き取られたかどうかも含めて不明である。P18とP19の間に柱穴は認められなかった。建物内の配置において必要とされなかった場所と思われる。

建物の南東側には、ほぼ同レベルにおいてやや小さめのピットが9個検出されている。ピットの規模は、上面での大きさが長径35.8cm、短径32.0cmで、深さが52.3cmであり、3個ずつ直線状に並び、3つのまとまりに分けられる。（第86図）特にP24～26は建物跡の桁行方向に平行して並んでおり、庇や塀など建物に関連する可能性が高い。P27～29、P30～32についても、方向や柱間は異なるが何らかの関連も考えられる。

掘立柱建物跡の柱穴から遺物が数点出土した。出土した2点中、P5から出土した糸切り底の土師器の皿1点について図化した。（第104図397）

なお、掘立柱建物跡の桁行、梁行、各柱間の長さ、各柱穴ごとの規模については第24表に、出土遺物については第104図に示した。

3 古代以降の遺物

古代以降の遺物は、掘立柱建物跡の検出されたH-22区付近と三日月湖状を呈するか所のⅡ層から多く出土した。特に、掘立柱建物跡の検出された付近からは427が出土している。

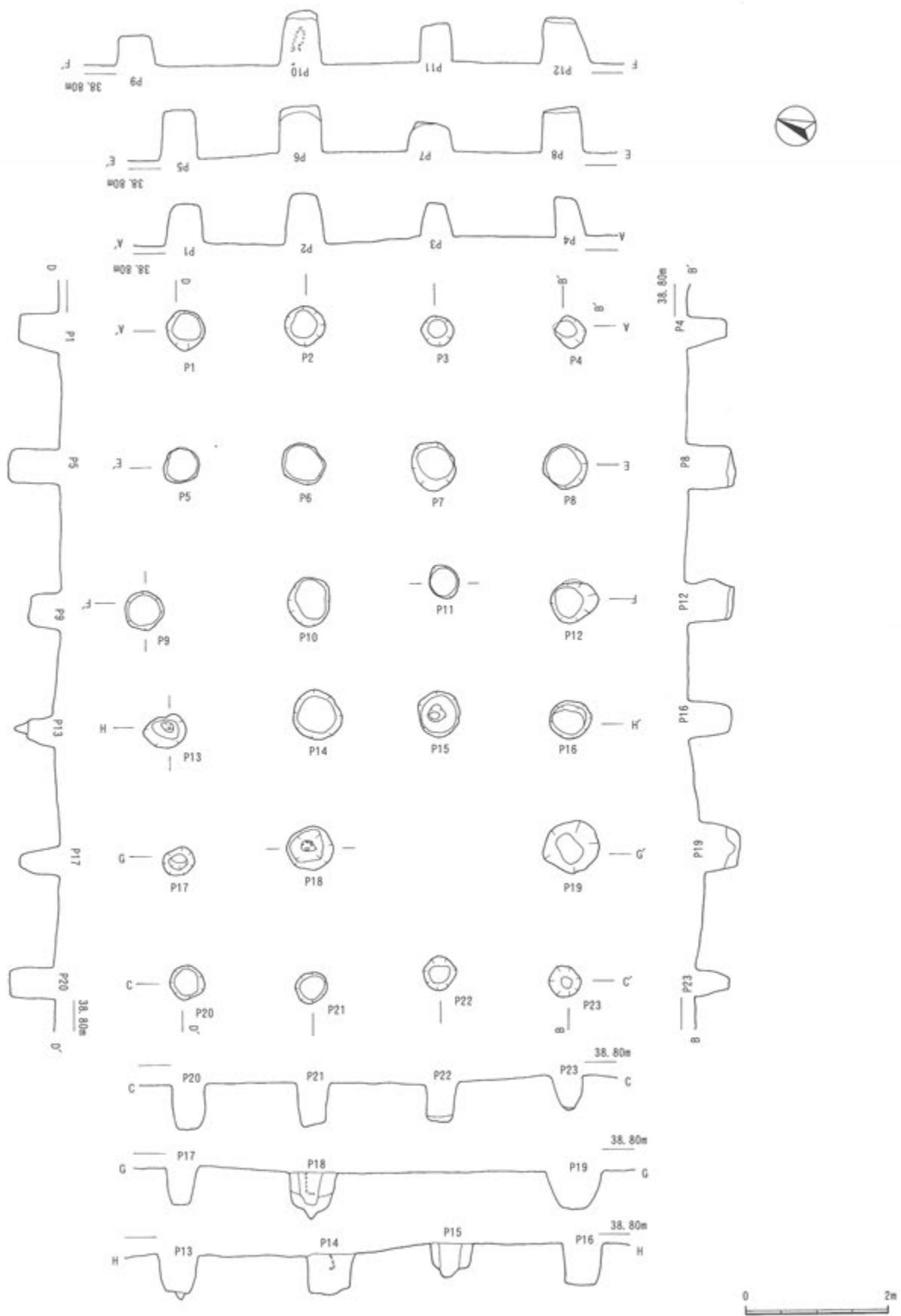
1 土師器（第84図 386～416）

甕形土器（386～389）

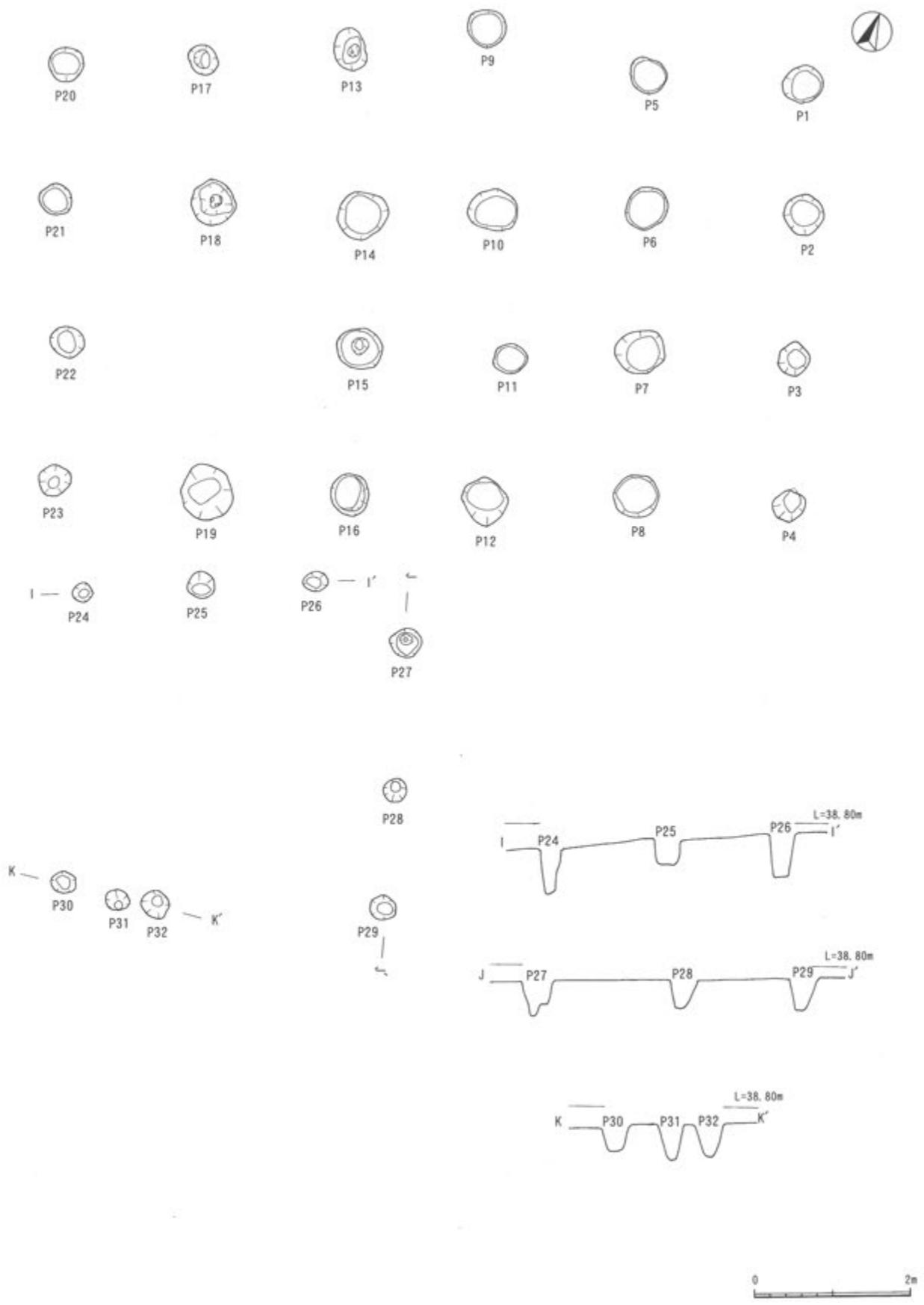
386～389は甕形土器である。底部を欠いているがおそらく丸底であろう。外面調整はハケもしくはナデであり、内面は下から上もしくは斜位にケズリが施される。

第24表 掘立柱建物跡柱穴計測表（単位：m）

主軸方向			略東西 N-73°-W				No.	長径	短径	深さ	No.	長径	短径	深さ
桁行	桁行柱間		梁行	梁行柱間		その他	P1	0.52	0.51	0.55	P21	0.44	0.55	0.58
P1-P20	P1-P5	P3-P7	P1-P4	P1-P2	P13-P14	P24-P26	P2	0.55	0.52	0.69	P22	0.45	0.38	0.68
9.02	1.91	1.88	5.26	1.64	2.05	3.24	P3	0.44	0.41	0.47	P23	0.42	0.42	0.47
P2-P21	P5-P9	P7-P11	P5-P8	P2-P3	P14-P15	P24-P25	P4	0.44	0.42	0.52	P24	0.30	0.24	0.64
9.11	2.05	1.55	5.14	1.79	1.70	1.64	P5	0.50	0.44	0.66	P25	0.38	0.36	0.39
P3-P22	P9-P13	P11-P15	P9-P12	P3-P4	P15-P16	P25-P26	P6	0.60	0.55	0.63	P26	0.34	0.28	0.60
8.88	1.70	1.85	5.85	1.79	1.76	1.60	P7	0.67	0.58	0.41	P27	0.44	0.40	0.48
P4-P23	P13-P17	P15-P22	P13-P16	P5-P6	P17-P18	P27-P29	P8	0.61	6.57	0.60	P28	0.32	0.32	0.46
8.97	1.79	3.58	5.47	1.61	1.76	3.76	P9	0.52	0.51	0.41	P29	0.36	0.32	0.44
	P17-P20	P4-P8	P17-P19	P6-P7	P18-P19	P27-P28	P10	0.67	0.44	0.73	P30	0.36	0.32	0.34
	1.67	1.88	5.32	1.79	3.52	2.08	P11	0.45	0.41	0.50	P31	0.34	0.30	0.70
	P2-P6	P8-P12	P20-P23	P7-P8	P20-P21	P28-P29	P12	0.67	0.61	0.63	P32	0.38	0.34	0.66
	1.88	1.82	5.14	1.79	1.70	1.68	P13	0.58	0.41	0.51				
	P6-P10	P12-P16		P9-P10	P21-P22	P30-P32	P14	0.70	0.58	0.55				
	1.88	1.67		2.26	1.76	1.32	P15	0.61	0.55	0.47				
	P10-P14	P16-P19		P10-P11	P22-P23	P30-P31	P16	0.57	0.50	0.55				
	1.61	1.70		1.85	1.70	0.80	P17	0.44	0.35	0.50				
	P14-P18	P19-P23		P11-P12		P31-P32	P18	0.61	0.58	0.50				
	1.82	1.88		1.76		0.52	P19	0.79	0.67	0.48				
	P18-P21						P20	0.47	0.44	0.61				
	1.91													



第85図 掘立柱建物跡 1



第86图 掘立柱建物跡 2

碗形土器 (390~393)

393のみが完全な形を復元できた。他は底部3点を除き図下できる破片はなかった。392を除き高台高が高い。皿形土器 (394~397)

395以外は糸切り底である。395のみが底部に段を有し、ヘラ切り底である。口径は4点共に8~9cmである。398~405は皿形土器もしくは坏形土器の底部である。判別しがたい面もあるため皿形土器と坏形土器の間に掲載した。400・401はおそらく皿形土器であると思われるが、底径が10cmを越えるものである。また、径の違いは時期差であると思われる。

坏形土器 (406~416)

多く出土したが11点のみを掲載する。406~408の3点は口径14cm、底径10cm、器高3cmを越えるもので、どれも糸切り底である。他は口径10cm、底径8cm、器高2.5cmを下回るもので、どれも糸切り底である。また、径の違いは時期差であると思われる。

2 須恵器 (第88図 417~426)

甕 (417・418・421・422)

多く出土したが4点のみを掲載した。4点共に内面外面共にタタキがみられ、417以外は部位の特定ができなかった。

壺 (420・423~426)

420が肩部で423~426が底部である。424にはタタキが認められるが、他は回転ナデ・回転ケズリ、ナデ・ケズリにより調整されている。

鉢 (419)

419は鉢であり、注口が付いている。全面ナデにより調整されている。

3 白磁 (第88図 427~444)

427~434までと435~444までの2時期に分けられる。427から429までは玉縁の碗である。427からはケズリの様子をよく見て取れる。430・431は口禿の碗と坏である。435は碗の口縁部を打ち欠き更に割れ口をケズリ、よく磨いて若干飛び出した部分を作り出している。他は坏・皿である。

4 青磁 (第88・89図 445~467)

445~450までと451~467までの2時期に分けられる。445~449は、碗である。連弁の一つ一つがしっかりと描かれ、幅広である。450は幅の狭いものであるが、連弁の一つ一つがしっかりと描かれる。454も同じ連弁碗であるが、簡略化された描き方のものである。451~453は碗で連弁は施されず、456は雷帯文の描かれた碗である。457は稜花皿で、460~467は碗の底部である。

5 染付 (第89図 468~473)

468が碗、他が皿である。469は全体が黄色みをおび呉須の色調も異なっている。

6 瓦質土器 (第89図 474~479)

474は、壺形土器である。肩部に沈線を巡らし、その下に櫛書沈線の波状文が施される。475~479は、播鉢である。475・477には注口がある。全てハケ目とナデにより調整され、単位間の広い櫛書きが施されている。

7 中世須恵器 (第89・90図 480~492)

東播磨系須恵器 (480~487)

480は甕である。外面の肩部から下にタタキを施し、その他はナデにより調整されている。480の同一個体と思われる破片も掲載した。かなり歪んでおり、大きく歪んだ製品であったようである。

481~487は捏鉢である。

常滑焼 (488)

488は壺の肩部と思われる。緑色の自然釉がかかっている。外面内面共にナデで調整され、粘土の継ぎ目が目立っている。

備前焼 (489~492)

489・490は壺である。外面内面共にナデで調整され、粘土の継ぎ目が目立っている。491・492は播鉢である。単位間の広い櫛書きが施されナデにより調整されるが、492は工具によるナデがみられる。

8 褐釉陶器 (第90図 493・494)

493・494共に壺である。493には耳が付くが個数は不明である。

9 滑石製品 (第90図 495)

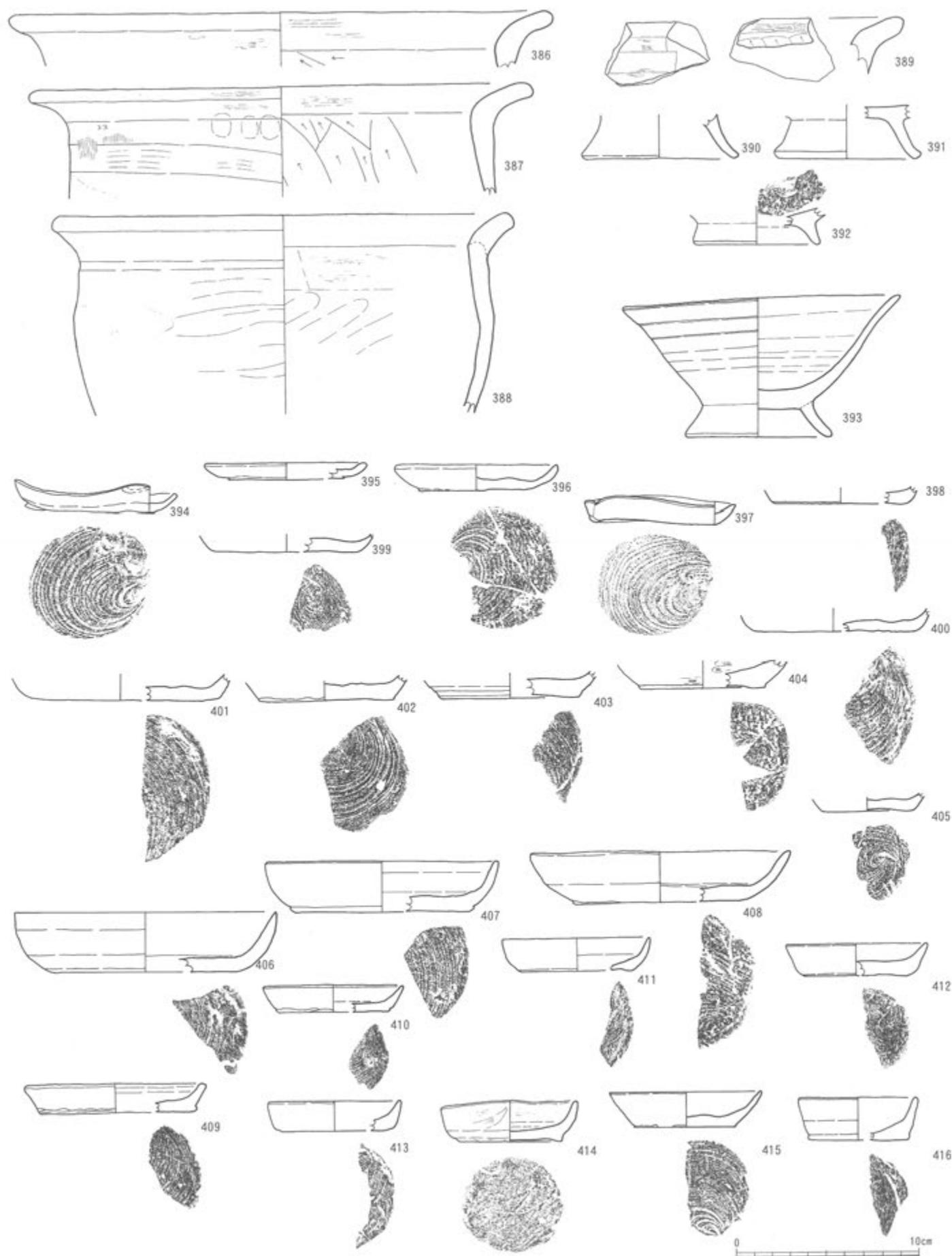
495が1点出土した。孔が穿たれ、紐ズレの跡のような所もみられることから垂飾と思われる。茶褐色を呈し、石鍋などに一般的な石材よりは質が悪い。

10 鉄器 (第90図 496)

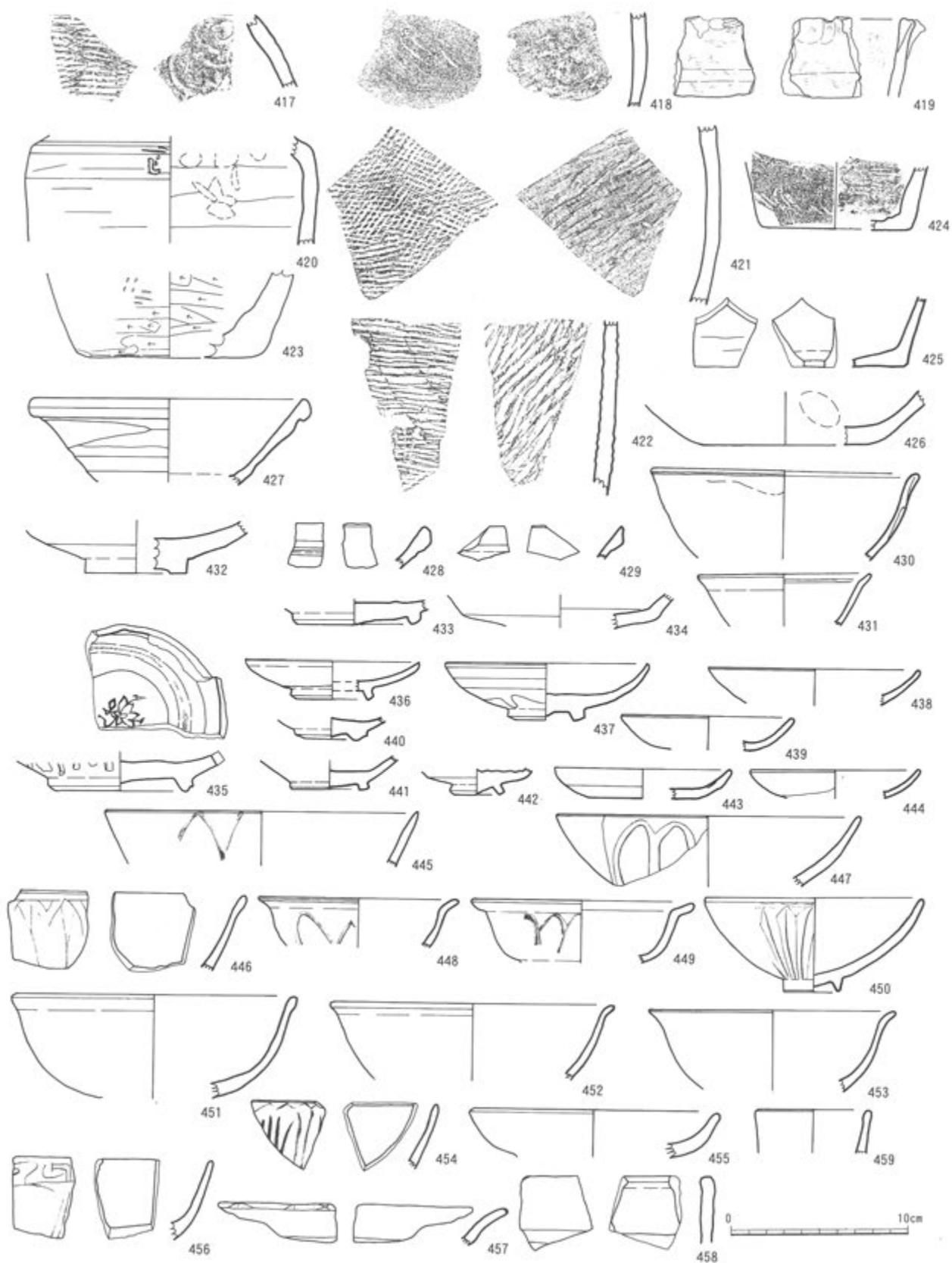
496の1点のみ出土した。鉄鎌もしくは刀子の中子と思われる。帰属時期は不詳である。

11 土製品 (第90図 497)

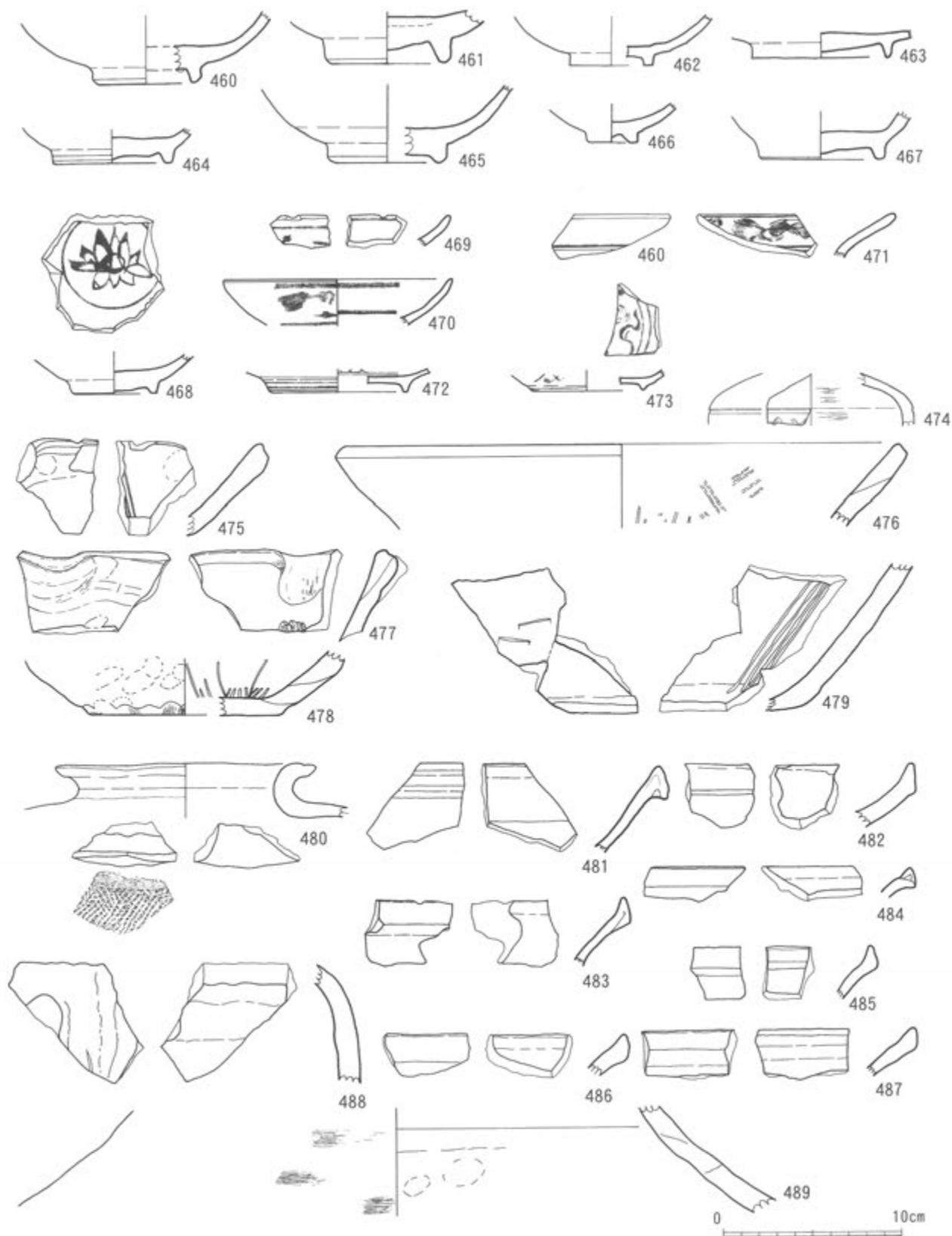
497は魔除けの鈴である。土製で表に顔が描かれている。帰属時期は不詳である。



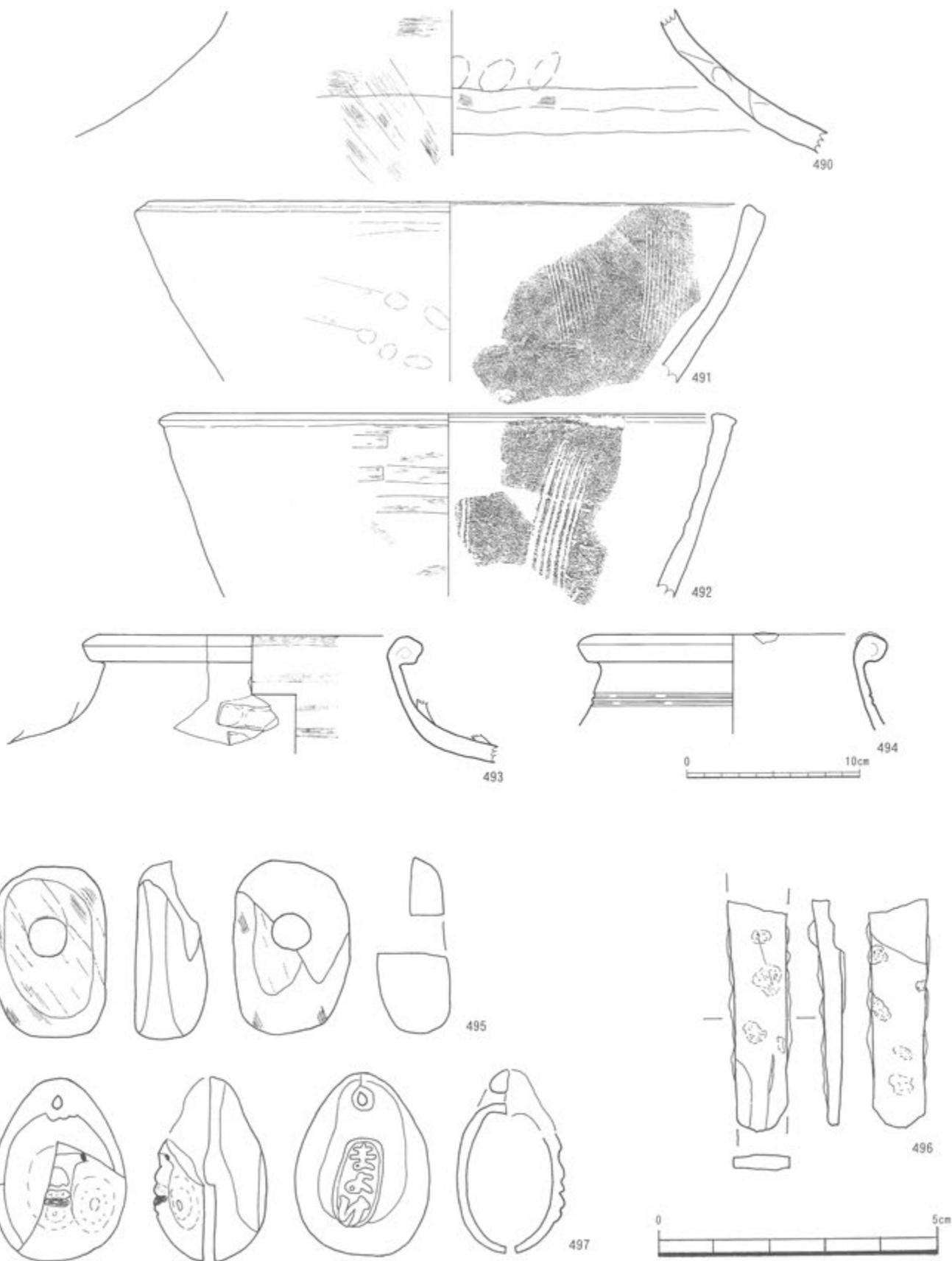
第87図 古代以降出土遺物実測図 1



第88图 古代以降出土遺物実測図2



第89圖 古代以降出土遺物実測図 3



第90図 古代以降出土遺物実測図 4

第25表 古代以降出土遺物観察表1 (土師器, 須恵器)

挿図No	報告No	出土区	層	注記番号	器種	部位	焼成	胎土	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面色調	内面色調	外面調整	内面調整	備考	
87	386	-	-	一括	甕	口縁部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	30.0	-	-	赤褐色	赤褐色	ナデ	ハケ, ナデ, ケスリ	精製粘土	
	387	-	II	一括	甕	口縁部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	27.7	-	-	茶褐色	茶褐色	ハケ, ナデ	ケスリ, ナデ	スス付着	
	388	I-22	II	1296 1297 1299	甕	口縁部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	25.4	-	-	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	スス付着	
	389	P-27	II a	一括	甕	口縁部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	-	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ケスリ, ナデ		
	390	E-6	IV	一括	碗	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	8.8	黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	精製粘土	
	391	P-26	II b	一括	碗	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	8.0	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ミガキ	精製粘土	
	392	O-31	II a	一括	碗	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	7.1	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	精製粘土	
	393	E-7	III	995	碗	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	15.3	7.8	8.2	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	精製粘土	
	394	I-22	II	1313	耳皿	完全品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	9.1	1.8	7.0	明褐色	明褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	395	F-18	II	一括	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	9.0	0.9	6.2	明黄褐色	明黄褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	396	L-25	II	4009	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	9.0	1.4	6.0	赤灰褐色	赤褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	397	-	-	-	掘立柱P5	皿	完全品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	8.3	1.7	6.4	黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土
	398	D-5	III	811	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	7.0	黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	399	-	II	一括	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	7.8	明褐色	明褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	400	G-19	III	3380	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	9.0	乳白色	乳白色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	401	O-27	II a	一括	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	9.0	明灰褐色	明灰褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	402	O-27	II a	一括	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	7.2	乳白色	乳白色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	403	H-21	II	3095	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	7.8	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	404	O-31	II a	一括	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	7.0	明灰色	明灰色	ナデ	ナデ	へら切り底	
	405	G-22	II	一括	皿	底部	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	-	-	5.0	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	406	D-5	III	811	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	14.4	3.4	10.2	明黄褐色	明黄褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	407	127	II	79	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	12.9	2.9	9.6	淡明褐色	明褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	408	ブレハブ前溝状	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	14.4	2.8	9.6	赤褐色	赤褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土			
	409	H-22	II	1338	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	10.0	1.6	9.0	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	410	G-21	II	1701	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	7.8	1.5	5.9	明褐色	明褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	411	L-25	II	一括	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	8.2	1.9	6.4	乳白色	乳白色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	412	H-21	II	一括	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	7.9	1.8	6.0	明赤褐色	明赤褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	413	L-24	II	一括	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	7.5	1.7	5.8	明黄褐色	明黄褐色	ナデ	ナデ	へら調整, 精製粘土	
	414	H-21	II	1627	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	7.5	2.3	5.6	黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土	
	415	J-23	II	1571	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	8.4	2.1	5.6	明褐色	明褐色	ナデ	ナデ	糸切り底, 精製粘土, 口縁すず付着	
	416	H-22	II	1327	坏	完形復元品	良好	石英, 長石, 輝石, 赤色石粒	6.8	2.4	5.2	明灰色	明灰色	ナデ	ナデ	へら調整底, 精製粘土	
	88	417	-	-	一括	甕	肩部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	-	明赤褐色	黄灰色	タタキ	ナデ	-
		418	I-21	II	一括	甕	胴部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	-	明赤褐色	赤灰色	タタキ, ナデ	ナデ	-
		419	F-18	II	一括	鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	-	灰色	灰色	ナデ	ナデ, 指頭	片口, 石粒多し
		420	F-16	II	2781	壺	肩部	堅緻	石英, 長石, 輝石	15.9	-	-	黄灰色	黄灰色	ケスリ, ナデ	ナデ	-
		421	G-17	II	1257	甕	底部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	-	赤褐色	明灰色	ケスリ, ナデ	ナデ	自然釉
		422	P-29	II a	一括	甕	底部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	-	赤褐色	明灰色	タタキ	タタキ	-
		423	E-12	II	210	壺	底部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	10.6	明褐色	明褐色	ケスリ, ナデ	ナデ	-
		424	P-26	II b	一括	壺	底部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	-	灰色	暗灰色	ナデ	ナデ	-
		425	H-21	II	1209	壺	底部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	8.4	明赤褐色	赤灰色	タタキ, ナデ	ナデ, 指頭	-
		426	k-24	II	3838 3848	壺	底部	堅緻	石英, 長石, 輝石	-	-	9.8	灰色	暗灰色	ナデ	ナデ, 指頭	-

第26表 古代以降出土遺物観察表2 (白磁1)

挿図No	報告No	出土区	層	注記番号	器種	部位	焼成	胎土	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考	
88	427	E-16	III	一括	碗	口縁部	堅緻	気泡	14.6	-	-	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	-	
	428	G-19	II	一括	碗	口縁部	堅緻	継ぎ目	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
	429	E-16	II	2750	碗	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
	430	D-5	III	一括	碗	口縁部	堅緻	継ぎ目	15.1	-	-	ナデ	ナデ	口壳	
	431	N-28	II a	一括	杯	口縁部	堅緻	-	9.8	-	-	ナデ	ナデ	口壳	
	432	G-21 G-20	II	3768 1507 1515	碗	底部	堅緻	気泡	-	-	5.8	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	見込み, 高台ケスリダシ	
	433	-	-	一括	碗	底部	堅緻	-	-	-	6.5	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	見込み	
	434	G-20	II	1521	胴部	堅緻	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	435	N-29	II a	一括	-	-	堅緻	-	-	-	8.0	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	蛇1目ゆうはぎ	
	436	G-18	II	1281	皿	完形復元品	堅緻	-	9.8	2.2	4.6	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	切高台	
	437	O-27	II a	一括	皿	完形復元品	堅緻	外面黒色	11.4	3.3	4.3	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	-	
	438	G-20	II	1819	皿	口縁部	堅緻	-	11.9	-	-	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	-	
	439	L-24	II	3847	皿	-	堅緻	-	9.6	1.9	4.6	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	-	
	440	N-25	II a	一括	杯	底部	堅緻	-	-	-	3.0	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	-	
	441	I-23	II	1599	杯	底部	堅緻	-	-	-	4.4	ヘラケスリ, ナデ	ナデ	-	

第27表 古代以降出土遺物観察表3 (白磁2, 青磁)

挿図No.	報告No.	出土区	層	注記番号	器種	部位	焼成	胎土	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考	
88	442	N-29	II a	一括	杯	底部	堅緻	-	-	-	3.2	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	八角	
	443	M-27	II a	一括	皿	完形復元品	堅緻	-	-	1.7	6.2	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	-	
	444	K-24	II	3837	皿	口縁部	堅緻	-	9.6	-	-	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	-	
	445	Q-28	II a	一括	碗	口縁部	堅緻	-	17.6	-	-	ナデ	ナデ	連弁	
	446	L-28	II a	一括	碗	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	連弁	
	447	D-5	III	一括	碗	口縁部	堅緻	小石粒, 気泡	17.2	-	-	ナデ	ナデ	連弁	
	448	Q-28	II a	一括	杯	口縁部	堅緻	小石粒	11.2	-	-	ナデ	ナデ	連弁	
	449	H-21	II	1674	杯	口縁部	堅緻	気泡	12.4	-	-	ナデ	ナデ	連弁	
	450	H-21	II	1241	杯	口縁部	堅緻	-	12.2	5.4	3.0	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	連弁, 高台内に釉薬	
	451	H-20	II	1706	碗	口縁部	堅緻	小石粒	16.0	-	-	ナデ	ナデ	-	
	452	P-29	II a	一括	碗	口縁部	堅緻	小石粒	16.0	-	-	ナデ	ナデ	-	
	453	H-21	II	1249 3076	碗	口縁部	堅緻	-	13.8	-	-	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	-	
	454	H-21	II	一括	碗	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	連弁	
	455	O-30	II a	一括	碗	口縁部	堅緻	小石粒	14.1	-	-	ナデ	ナデ	-	
	456	M-24	II	4065	皿	口縁部	堅緻	小石粒	-	-	-	ナデ	ナデ	雷帯文	
	457	G-19	II	1878	皿	口縁部	堅緻	小石粒	-	-	-	ナデ	ナデ	稜花皿, 粘土継ぎ目	
	458	C-12	II	溝内	-	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
	459	E-14	II	2266	-	口縁部	堅緻	-	6.5	-	-	ナデ	ナデ	-	
	89	460	L-26	II	一括	碗	底部	堅緻	気泡	-	-	6.0	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	重ね焼付着物, 見込み
		461	-	-	一括	碗	底部	堅緻	-	-	-	6.5	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	重ね焼付着物, 見込み
462		-	-	一括	杯	底部	堅緻	-	-	-	4.7	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	見込み釉はぎ	
463		N-28	II a	一括	碗	底部	堅緻	-	-	-	7.8	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	見込み	
464		G-22	II	1361	碗	底部	堅緻	小石粒	-	-	6.8	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	見込み釉はぎ	
465		O-27	II a	一括	碗	底部	堅緻	小石粒	-	-	5.8	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	見込み釉はぎ	
466		L-28	II a	一括	杯	底部	堅緻	-	-	-	2.8	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	-	
467		-	-	一括	碗	底部	堅緻	小石粒	-	-	7.0	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	連弁, 見込み	
468		-	-	一括	碗	底部	堅緻	-	-	-	4.8	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	見込み, 底部外面橙色	
469		L-25	II	一括	皿	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
470		G-20	II	1526	皿	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	蛇の目ゆうはぎ	
471		G-22	II	一括	皿	口縁部	堅緻	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	
472		G-22	II	一括	皿	底部	堅緻	-	-	-	7.6	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	全面に釉薬	
473		O-30	II a	一括	皿	底部	堅緻	小石粒	-	-	-	ヘラケズリ, ナデ	ナデ	見込み	

第28表 古代以降出土遺物観察表4 (瓦質土器, 東播磨系須恵器, 常滑焼, 備前焼)

挿図No.	報告No.	出土区	層	注記番号	器種	部位	焼成	胎土	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面色調	内面色調	外面調整	内面調整	備考	
89	474	E-14 F-14	II	一括	壺	肩部	-	石英, 長石	-	-	-	暗灰色	灰色	ナデ	ナデ	-	
	475	I-22	II	一括	播鉢	口縁部	良好	石英, 長石	-	-	-	黄褐色	黄褐色	ハケ, ナデ	ナデ	沈線, 波状文, 肩部径11.5cm	
	476	L-25	II	一括	播鉢	口縁部	良好	石英, 長石	31.0	-	-	乳白色	乳白色	ハケ, ナデ	ナデ	-	
	477	-	-	一括	播鉢	口縁部	良好	石英, 長石	-	-	-	黄褐色	灰色	ハケ, ナデ	ハケ, ナデ	片口	
	478	P-25	II a	一括	播鉢	底部	良好	石英, 長石, 輝石	-	-	11.0	乳白色	乳白色	ハケ, ナデ	ナデ	-	
	479	G-19	II	一括	播鉢	底部	良好	石英, 長石, 石粒	-	-	-	暗褐色	灰色	ハケ, ナデ	ナデ	-	
	480	K-24 J-24 D-24	II	16	壺	口縁部	堅緻	石英, 長石, 輝石	14.6	-	-	灰	灰	タタキ, ナデ	ナデ	ゆがみ大きい	
	481	N-27	II a	66	捏鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石, 輝石, 石粒	-	-	-	暗灰色	暗灰色	ナデ	ナデ	-	
	482	-	II	一括	捏鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石, 輝石, 石粒	-	-	-	灰色	灰色	ナデ	ナデ	-	
	483	O-28	II a	一括	捏鉢	底部	堅緻	石英, 長石	-	-	-	青灰色	青灰色	ナデ	ナデ	-	
	484	O-29	II a	一括	捏鉢	底部	堅緻	石英, 長石	-	-	-	明灰色	明灰色	ナデ	ナデ	-	
	485	I-24	II	4055	捏鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石	-	-	-	灰色	灰色	ナデ	ナデ	-	
	486	M-29	II a	一括	捏鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石	-	-	-	明灰色	明灰色	ナデ	ナデ	-	
	487	-	-	一括	捏鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石	-	-	-	乳白色	乳白色	ナデ	ナデ	-	
	488	-	-	一括	壺	肩部	堅緻	石英, 長石, 黒色石粒	13.3	-	-	暗赤灰	灰	ナデ	ナデ	緑色自然釉	
	489	N-27	II	一括	壺	頸部	堅緻	石英, 長石, 石粒	-	-	-	明灰色	明灰色	ナデ	ナデ	-	
	90	490	I-22	-	一括	壺	頸部	堅緻	石英, 長石, 角閃石	-	-	-	明灰色	赤灰色	ナデ	ナデ	-
		491	H-20	-	9374	播鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石	-	-	36.1	黄褐色	黄褐色	ナデ	ナデ	-
		492	F-19	II	一括	播鉢	口縁部	堅緻	石英, 長石	-	-	33.2	灰色	灰色	ナデ	ナデ	-

第29表 古代以降出土遺物観察表5 (褐釉陶器)

挿図No.	報告No.	出土区	層	注記番号	器種	部位	焼成	胎土	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	外面調整	内面調整	備考
90	493	J-22 J-23	II	1589 6211	壺	口縁部	堅緻	白, 赤, 黒色石粒	-	-	-	ナデ	ナデ	四耳壺 内面黄褐色の釉
	494	J-23	II	1566	壺	口縁部	-	白, 赤, 黒色石粒	-	-	-	ナデ	ナデ	外面沈線二条

第IV章 自然科学分析報告

古市遺跡の放射性炭素年代測定

パリーノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

鹿児島県川辺郡川辺町に所在する古市遺跡は、万之瀬川の左岸に立地する。発掘調査により確認された遺構・遺物より、縄文時代・古墳時代・古代・中世の遺跡と考えられている。今回の分析調査では、掘立柱建物跡から出土した炭化物の放射性炭素年代測定と樹種同定を実施し、年代資料を得る。

1. 試料

試料は、H-22区掘立柱建物跡のpit13の埋積土から採取された炭化材1点である。発掘調査所見によれば、炭化材に接する埋積土に変化はなく、柱根の可能性は低いと考えられている。本試料を対象に、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施する。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

測定は、株式会社加速器分析研究所の協力を得た。なお、 $\delta^{13}C$ の値は加速器を用いて試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}C/^{12}C$)を測定し、標準試料PDB(白亜紀のベレムナイト類の化石)の測定値を基準として、それからのずれを計算し、千分偏差(‰;パーミル)で表したものである。今回の試料の補正年代は、この値に基づいて補正をした年代である。

(2) 樹種同定

木口(横断面)・柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面の切断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表1に示す。試料の測定年代値は、約600年前の14世紀中頃に相当する値を示す。

(2) 樹種同定

結果を表1に示す。炭化材は、常緑広葉樹のスタジイに同定された。以下に主な解剖学的特徴を記す。

- ・ スタジイ (Castanopsis cuspidata var. sieboldii(Makino) Nakai) ブナ科シイノキ属

環孔性放射孔材で、孔圏部では大型の道管が接線方向に2列幅で放射方向に3~4列配列した後、急激に管径を減じて、年輪界に向かって漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1~20細胞高。

4. 考察

放射性炭素年代は、測定法自体が持つ誤差や、測定の前条件である大気中の ^{14}C の濃度が過去において一定でなかったことなどから、年輪などから測定されたいわゆる暦年代とは一致しない。これらのことから、年輪年代による暦年代既知の年輪についての放射性炭素年代測定を実施することで、暦年代と放射性炭素年代を両軸とする補正曲線が作られている(Stuiver, M. et al, 1998)。この補正曲線によれば、補正された暦年代のばらつきが大きい場合がある。今回測定された試料の暦年代は、ややばらつくが、放射性炭素年代との差は前後20~40年程度であり、暦年代は放射性炭素年代値と概ね一致する。このことから、pit13の構築年代は14世紀頃の可能性がある。ただし、発掘調査所見より、測定試料は柱根の可能性が低いと考えられていることから、pit13埋積時に古材または後代の炭化材が混入した可能性もある。今回の測定点数は1点であり、得られた年代値についてより詳細な検証を行うには、同一遺構内や周辺遺構でより多くの分析調査を実施するとともに、試料の出土状況や由来、共伴遺物など考古学的所見と総合評価することが望まれる。

引用文献

Stuiver, M., Reimer, P.J., Bard, E., Beck, J.W., Burr, G.S., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., van der Plicht, J. and Spurk, M. (1998) INTCAL98 radiocarbon age calibration, 24,000-0 cal BP. Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

表1 古市遺跡の放射性炭素年代測定および樹種同定結果

出土遺構	試料の質	樹種	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	測定年代 BP	Code.No
掘立柱建物跡(H-22区) pit13	炭化材	スタジイ	600±30	-30.00±0.99	650±30	I A A A - 10922

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減値5568年を使用。
- 2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

放射性炭素年代測定

山形 秀樹 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

古市遺跡より検出された土器付着物の加速器質量分析法 (AMS法) による放射性炭素年代測定を実施した。

2. 試料と方法

試料は、O-31区IV層より出土した土器の外側部分から採取した付着物1点である。

試料は、酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨(グラファイト)に調整した後、加速器質量分析計(AMS)にて測定した。測定された¹⁴C濃度について同位体分別

効果の補正を行なった後、補正した¹⁴C濃度を用いて¹⁴C年代を算出した。

3. 結果

表1に、試料の同位体分別効果の補正值(基準値-25.0%)、同位体分別効果による測定誤差を補正した¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を示す。

¹⁴C年代値(yrBP)の算出は、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差(±1σ)は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差(One sigma)に相当する年代である。これは、試料の¹⁴C年代が、その¹⁴年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

表1 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号 (測定法)	試料データ	δ ¹³ C _{PDB} (%)	¹⁴ C年代 (yrBP±1σ)	¹⁴ C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正值	1σ暦年代範囲
PLD-1929 (AMS)	土器付着物 O-31区 IV層 No.7531	-26.0	2060±30	cal BC 50	cal BC 110-40 (83.8%)

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期5,730±40年)を較正し、より正確な年代を求めるために、¹⁴C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と¹⁴C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて¹⁴C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて¹⁴C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

¹⁴C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3 (CALIB 3.0のバージョンアップ版)を使用した。なお、暦年代較正值は¹⁴C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、1σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその1σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略した。1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に影付け部分で示した。

4. 考察

試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した1σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、O-31区IV層より出土した土器の外側部分から採取した付着物の年代はcal BC 110 - 40年が、より確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の¹⁴C年代, p.3-20.
 Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ¹⁴C Database and Revised CALIB3.0 ¹⁴C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.
 Stuiver, M., Reimer, P. J., Bard, E., Beck, J. W., Burr, G. S., Hughen, K. A., Kromer, B., McCormac, F. G., v. d. Plicht, J., and Spurk, M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

第V章 発掘調査のまとめ

第1節 弥生時代

1 弥生時代の遺構および遺物分布について

本遺跡で検出された弥生時代の竪穴住居跡は、前期の高橋Ⅰ・Ⅱの時期にあたる。1号竪穴住居跡は楕円形を呈し、2号竪穴住居跡は、近代の耕作及び溝跡により削平を受け残存するのは南側のみである。

遺構と出土遺物の関係には、遺構の位置と遺物の平面的な分布に重なりが見られ、2号住居内からは甕形土器の完形品が出土した。

検出された竪穴住居跡は、出土した土器と住居の形状、住居内中央土坑と円形に柱穴が位置する点が、日置郡日吉町六ツ坪遺跡の1号竪穴住居跡に似る。六ツ坪遺跡1号住居跡は、貼床構築がなされ中央土坑が炉跡である。本遺跡1号住居跡の中央土坑からは、炭化物や焼土が確認されていないため炉跡の可能性は低い。

2 弥生時代の遺物

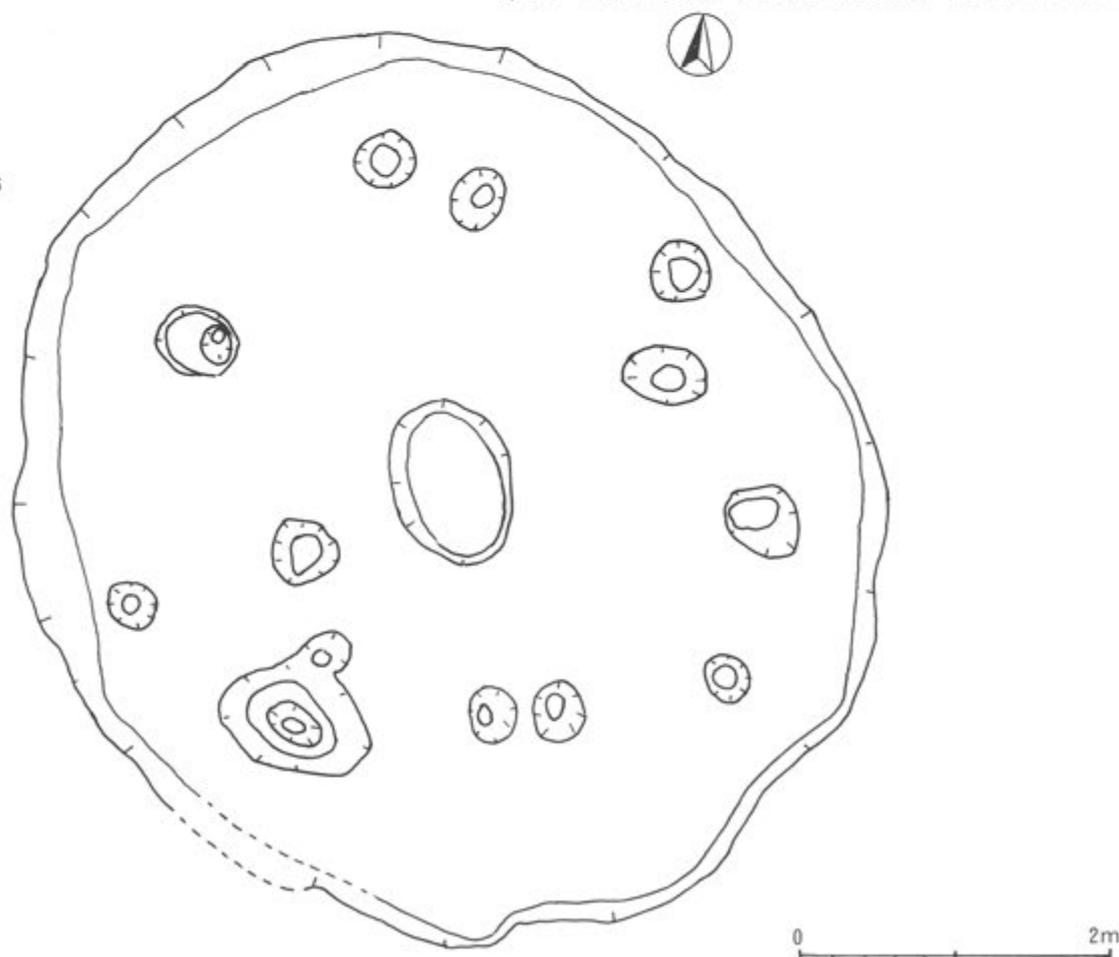
本遺跡では土器型式に断続が認められるものの、弥生時代前期～後期の土器が出土した。全体の出土量はそれほど多くなく、弥生時代中期・後期の土器は完形に近いものが目立つ。

弥生時代前期の土器で最も古い甕形土器は、8～13の刻目突帯文土器である。これらは、弥生時代前期前半段階に位置づけることができ、夜白Ⅱ式・板付Ⅰ式に併行する一群であると考えられる。これらに後出する甕形土器は、包含層出土のもの（14～32）と竪穴住居内のものがあり、藤尾編年の高橋Ⅰ・Ⅱ式に相当すると考える。竪穴住居内の資料は、甕形土器以外の器種が欠落しているため各機種のセット関係を明らかにできないが、2号竪穴住居で出土した7の甕形土器は全形を知りうる良好な資料である。壺形土器には49のように、線刻がみられるものがある。

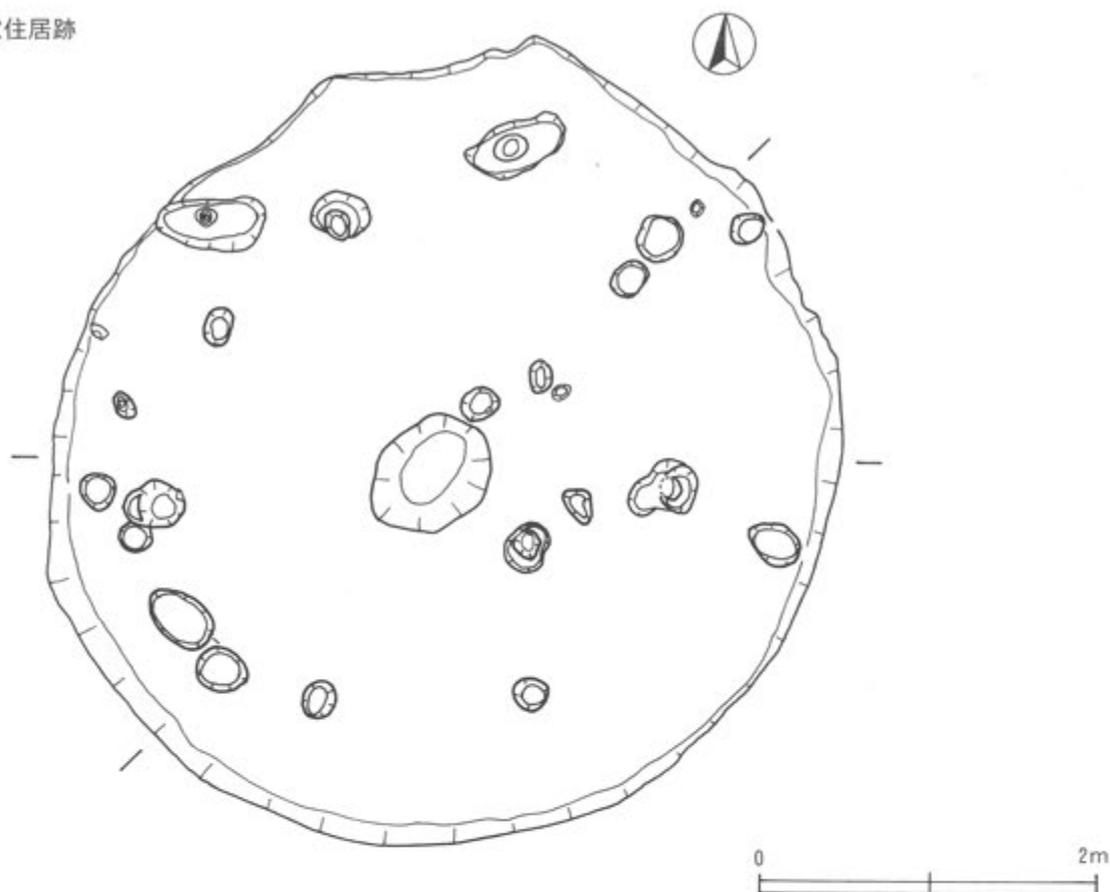
弥生時代中期の土器には、山ノ口式土器と黒髪式土器がある。前者は甕形土器・壺形土器・台付鉢・大甕などがあり、後者は甕形土器がある。本遺跡から万之瀬川を1km程遡った台地上にある川辺町寺山遺跡では、弥生時代中期の環濠内で須玖式土器、黒髪式土器がみつきり注目された。本遺跡は、沿岸部と内陸部の土器を比較する上で興味深い遺跡である。

弥生時代後期の土器は、松木菌式土器と呼ばれているもの（56・57）と中津野式土器に相当するもの（58～60, 62～65）がある。同時期の土器は、本遺跡の対岸に

古市遺跡
1号竪穴住居跡



六ツ坪遺跡
1号竪穴住居跡



位置する南田代遺跡でも出土している。

本遺跡より出土した弥生時代前期の石器は、柱状片刃石斧、打製石斧、磨製石鎌である。中でも柱状片刃石斧は、同時期の土器が出土している金峰町高橋貝塚で多数出土している。

第2節 古墳時代

調査の結果、古墳時代では、東原式土器や辻堂原式、笹貫式土器、砥石、石製品が出土し、5基の竪穴住居跡と1条の溝状遺構が検出された。

古墳時代の遺構

5基の竪穴住居跡が、南北に流れる万之瀬川に平行して検出された。平面の形状は、方形が3基、隅丸方形が2基である。遺構と出土遺物の関係は、遺構の位置と遺物の平面的な分布に重なりが見られる。5基の住居内からは、辻堂原式土器が出土している。また、4号住居跡からは多量の有溝砥石が、5号住居跡からは、石製品が出土している。

本遺跡で検出された竪穴住居跡は、貼床構築が4号、5号で確認された。貼床は、粘土を用いたものではなく住居跡に掘り込まれた最終面（工事面）であるアカホヤ火山灰層（Ⅶ層）と上位の黒褐色土を混ぜた土を用いて

いた。また、住居跡の構造は、柱穴が住居内にあるものが4号・5号、住居内に柱穴を有し住居周囲にも柱穴が巡るものが3号・6号・7号である。県内で検出された、古墳時代の竪穴住居跡で住居の周囲に柱穴を伴うものは、喜入町下大原遺跡23号竪穴住居跡と鹿児島市釘田遺跡1号竪穴住居跡があるが、住居跡の周囲に巡る柱穴は1条でありその数も下大原遺跡が4基、釘田遺跡が7基と少ない。本遺跡7号竪穴住居跡のように住居の中心に対して2つの柱穴が縦に並ぶ検出例が県内ではないため今後の検出例に期待したい。

第3節 古代以降

古代以降の遺物は、古代のものの中世のものがみられ、中世のものが更に13世紀末から14世紀初頭頃のもの16世紀頃のもの2つに分かれるようである。

古代の遺物は、386から393までの甕形土器・碗形土器と406～408の坏形土器、400・401の皿形土器の土師器と417～426の須恵器である。

土師器で中世の遺物は、409～416の坏形土器、398・402～405の皿形土器である。

白磁・青磁・染付は、13世紀末から14世紀初頭頃のもの16世紀頃のもの2つに分かれる。13世紀末か

ら14世紀初頭頃のもの427~431, 445~450である。おそらくこれらと瓦質土器(474~479)・東播磨系須恵器(480~487)がセットとなるのであろう。

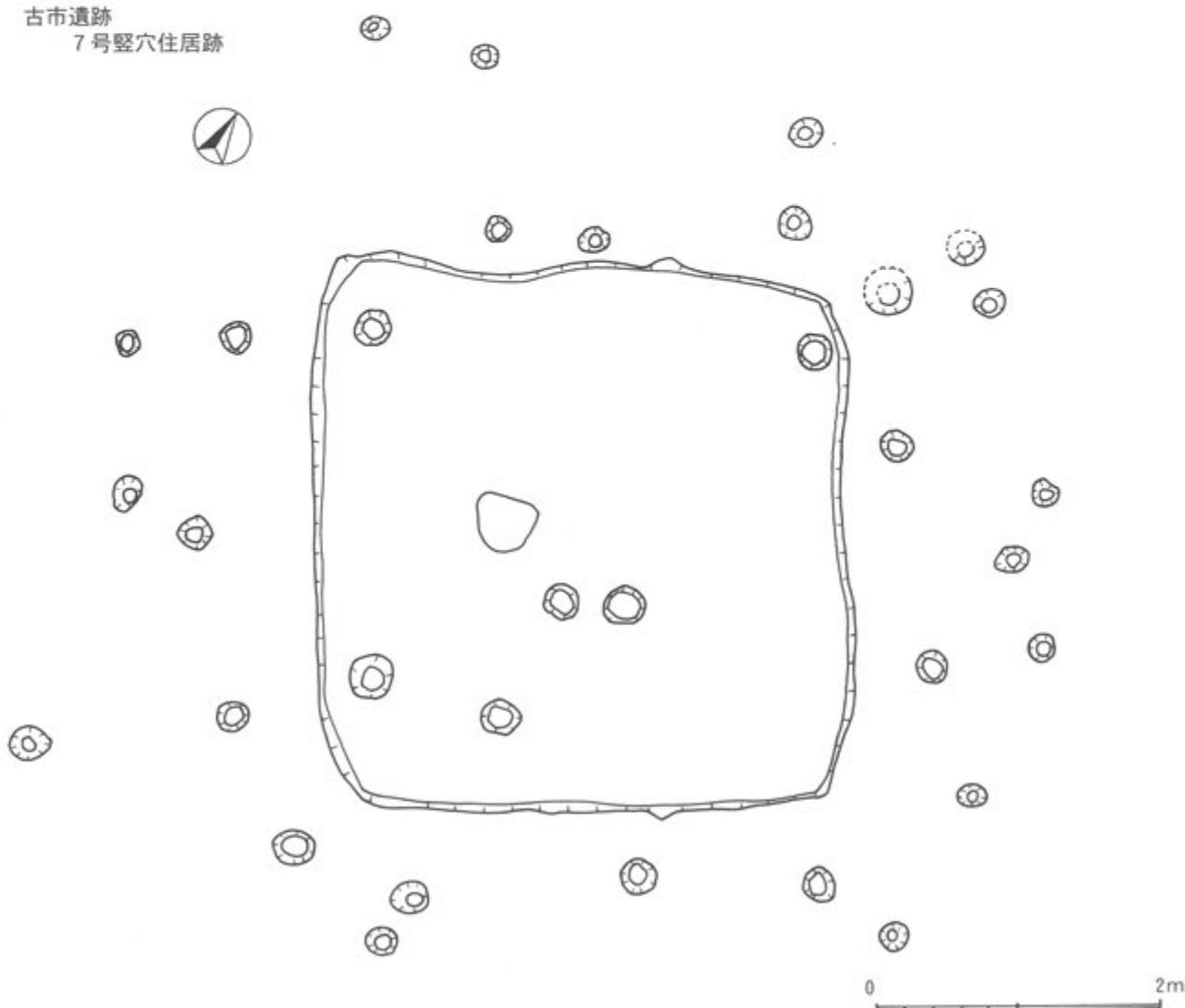
16世紀頃のもの435~444, 451~467, 468~473である。おそらくこれらとセットとなるのが489~494であろう。

参考文献・引用文献一覧

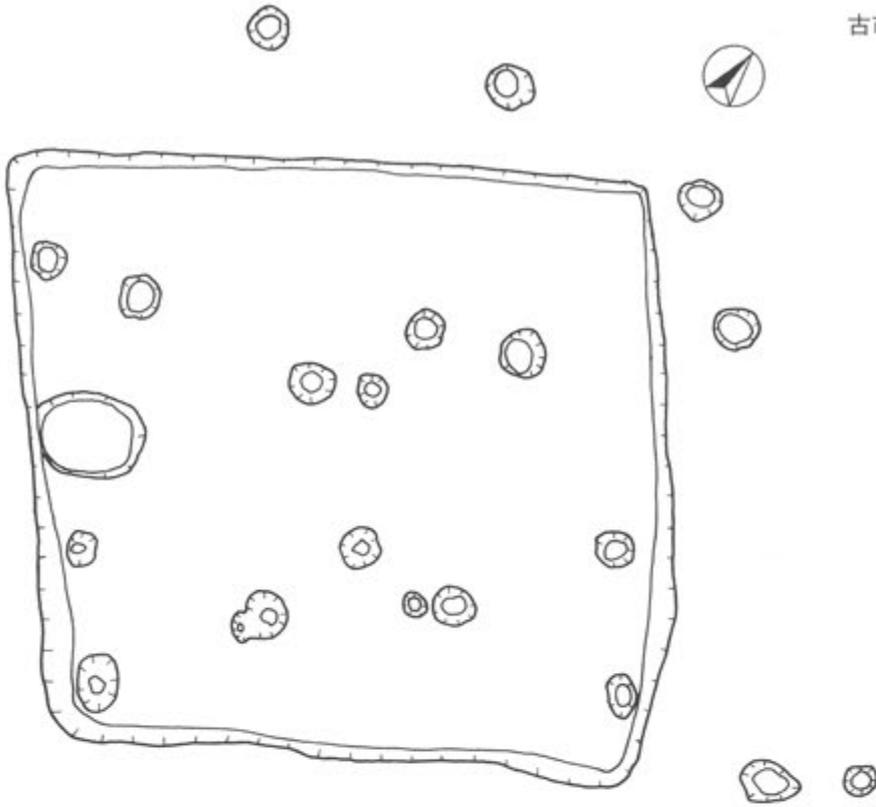
- 藤尾慎一郎1993「南九州の突帯文土器」『鹿児島考古』
第27号 鹿児島県考古学会
宮下健司1995「有溝砥石」『縄文文化の研究』7 雄山閣
鹿児島県教育委員会1984「外川江遺跡・横岡古墳」
鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書(30)
鹿児島県立埋蔵文化財センター1994「保養院遺跡」
鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(11)
鹿児島県立埋蔵文化財センター1996「東田遺跡」

- 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(16)
吹上町教育委員会1977「辻堂原遺跡」
吹上中学校建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
喜入町教育委員会1988「梅木渡瀬調査地区下大原・松木田・永野遺跡」喜入町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)
日吉町教育委員会1996「六ツ坪遺跡」日吉町埋蔵文化財発掘調査報告書(2)
高山町教育委員会2000「永野原遺跡」
高山町埋蔵文化財発掘調査報告書(7)
鹿児島大学埋蔵文化財調査室1986「鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報I」

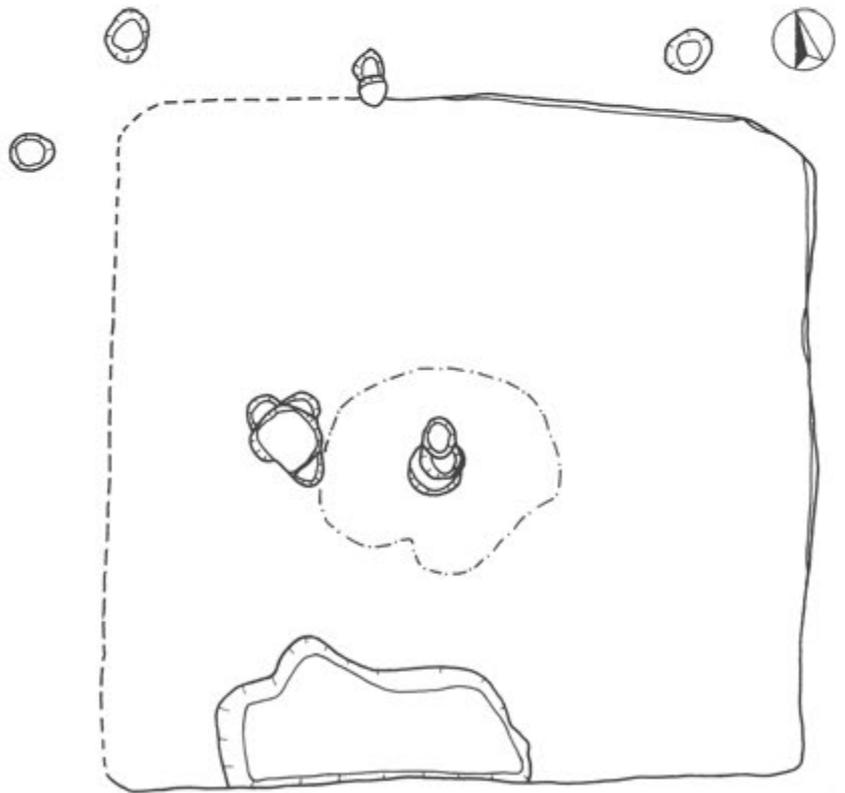
古市遺跡
7号竪穴住居跡



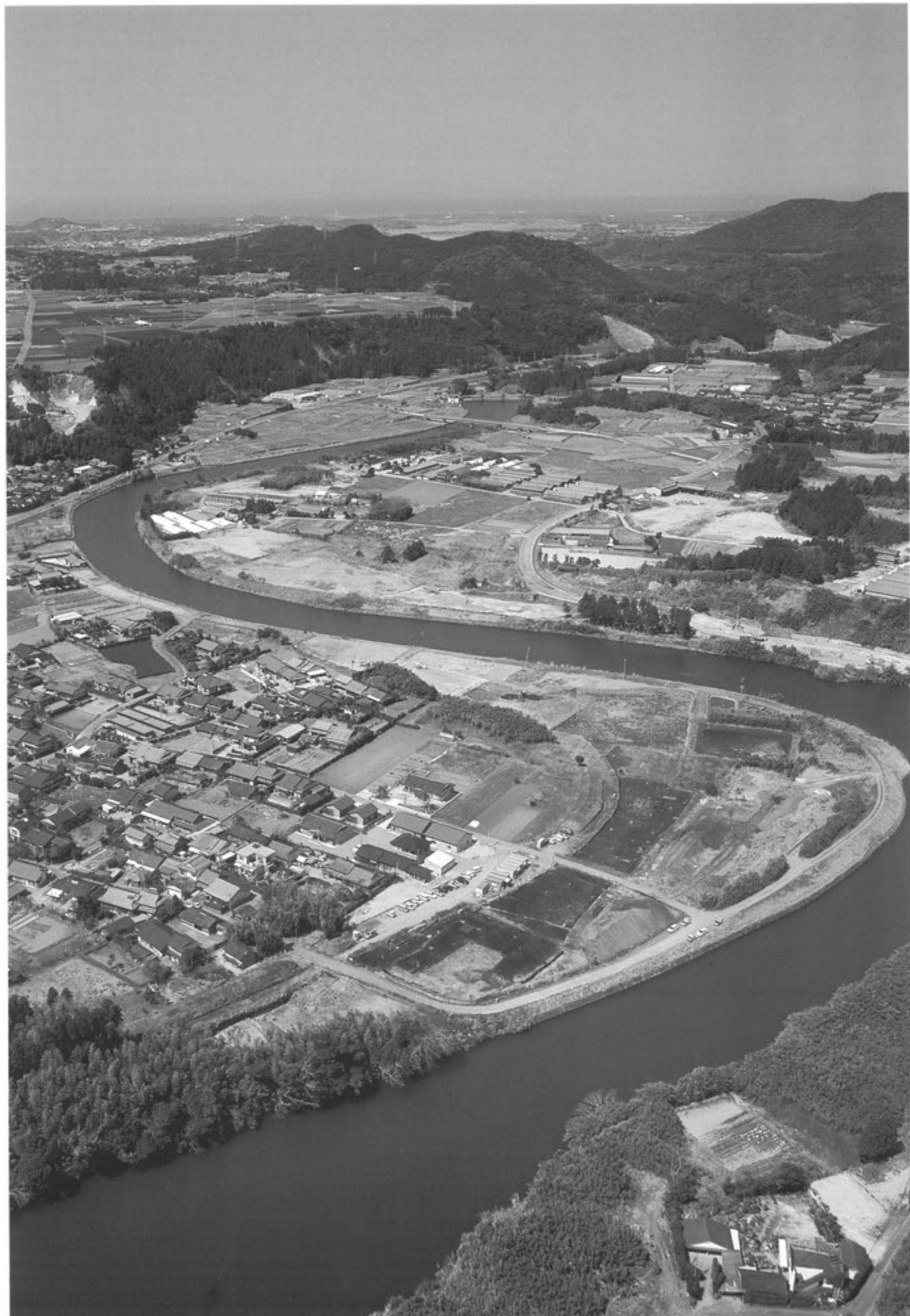
古市遺跡
6号竪穴住居穴



下大原遺跡
23号竪穴住居跡



古市遺跡図版



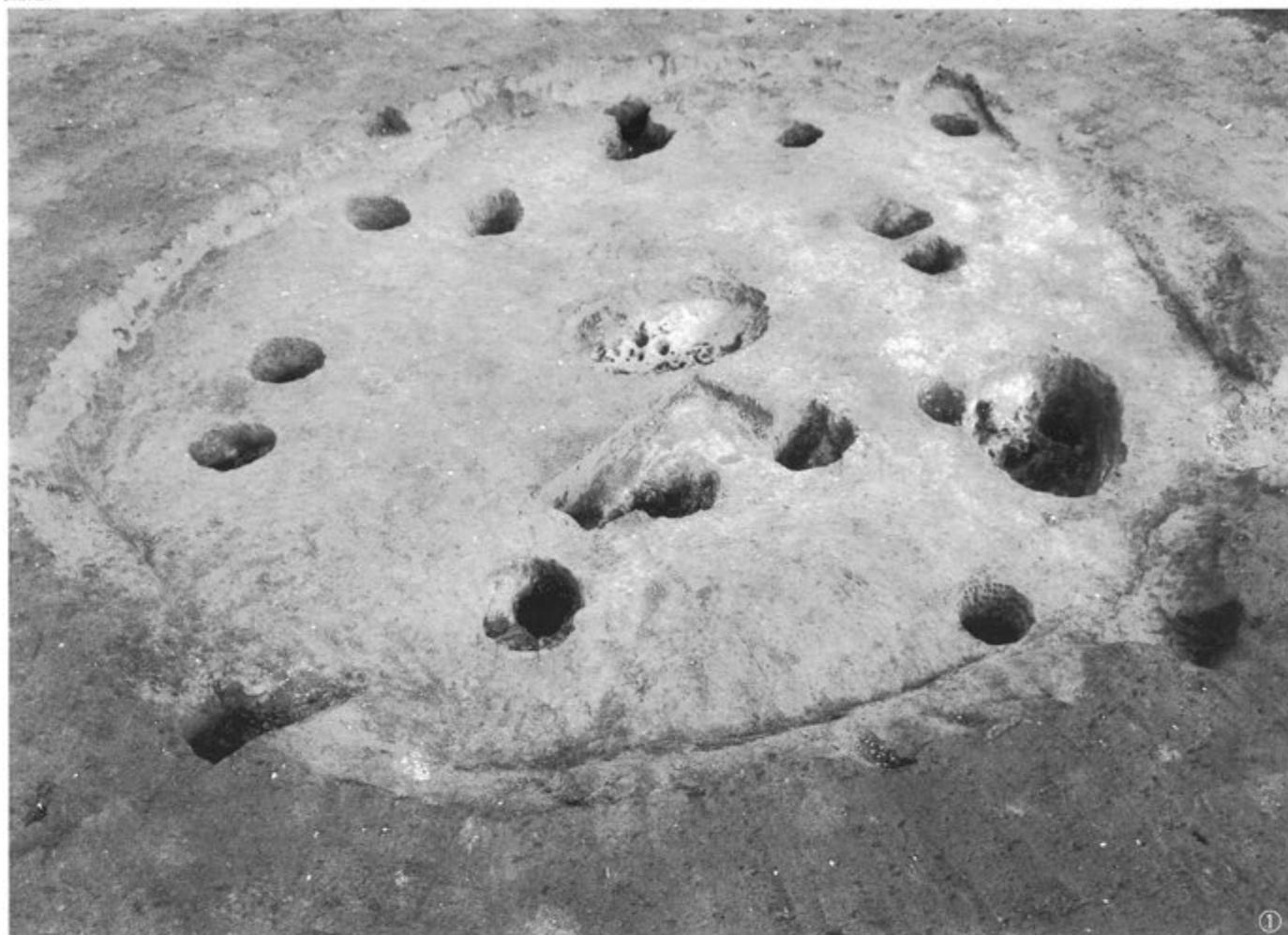
古市遺跡近景 1



古市遺跡近景 2



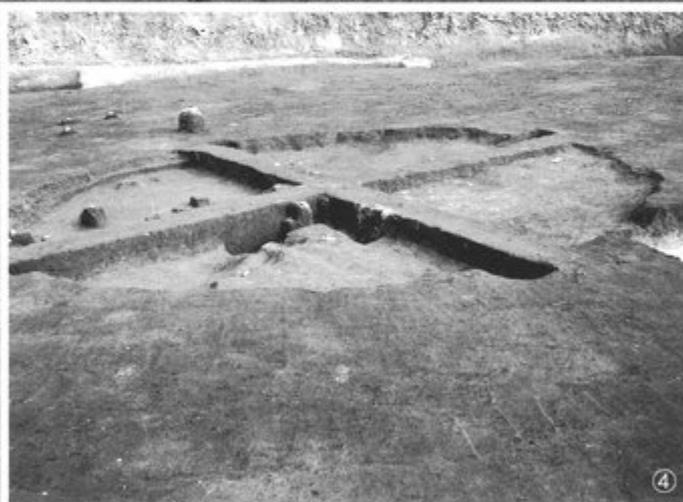
古市遺跡近景 3
「国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省」昭和49年撮影



①



②



④



③



⑤

① 1号竖穴住居跡完掘状況 ② 1号竖穴住居跡検出状況

④ 1号竖穴住居跡調査状況 ⑤ 1号竖穴住居跡遠景

③ 1号竖穴住居跡調査状況



2号竖穴住居跡検出状況



2号竖穴住居跡調査状況



2号竖穴住居跡出土土器



3号竪穴住居跡検出状況



3号竪穴住居跡調査状況



3号竪穴住居跡完掘状況



① 4号竪穴住居跡完掘状況 ② 4号竪穴住居跡検出状況
③ 4号竪穴住居跡床面検出状況

④ 4号竪穴住居跡調査状況
⑤ 4号竪穴住居跡調査状況



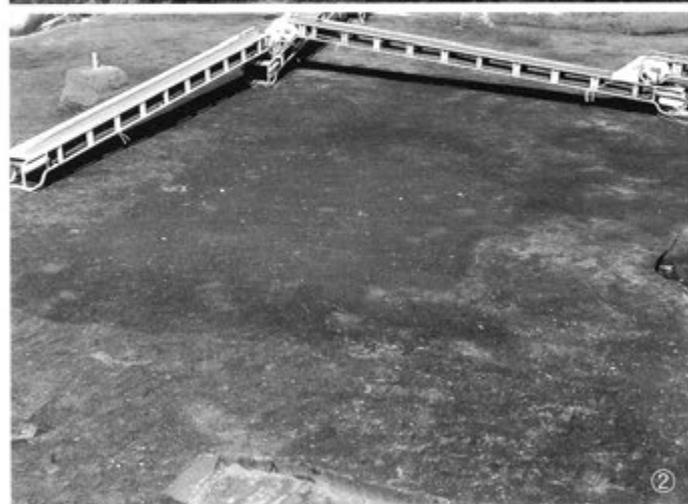
① 5号竪穴住居跡完掘状況 ② 5号竪穴住居跡検出状況

④ 5号竪穴住居跡調査状況 ⑤ 5号竪穴住居跡調査状況

③ 5号竪穴住居跡石製品出土状況



①



②



④



③



⑤

① 6号竖穴住居跡完掘状況 1 ② 6号竖穴住居跡検出状況 ④ 6号竖穴住居跡完掘状況 2
 ③ 6号竖穴住居跡遺物出土状況 ⑤ 6号竖穴住居跡完掘状況 3



①



②



④



③

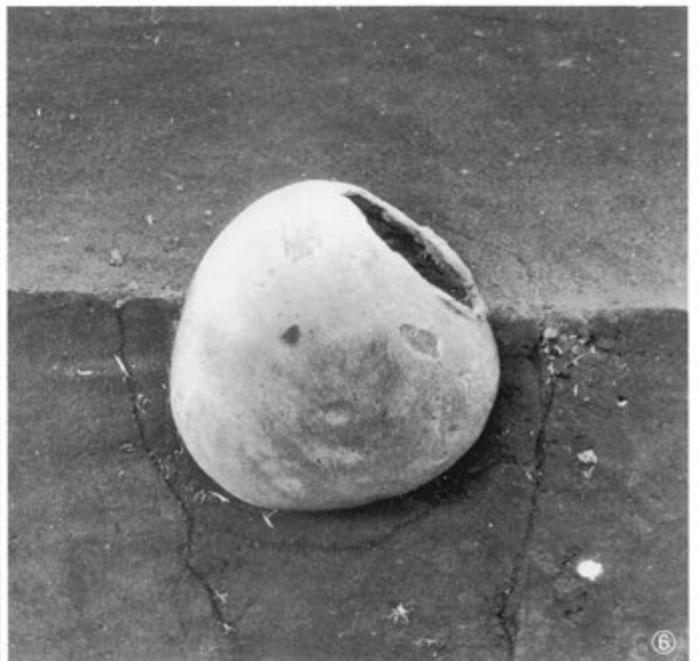


⑤

① 7号竪穴住居跡完掘状況
③ 7号竪穴住居跡ビット断面

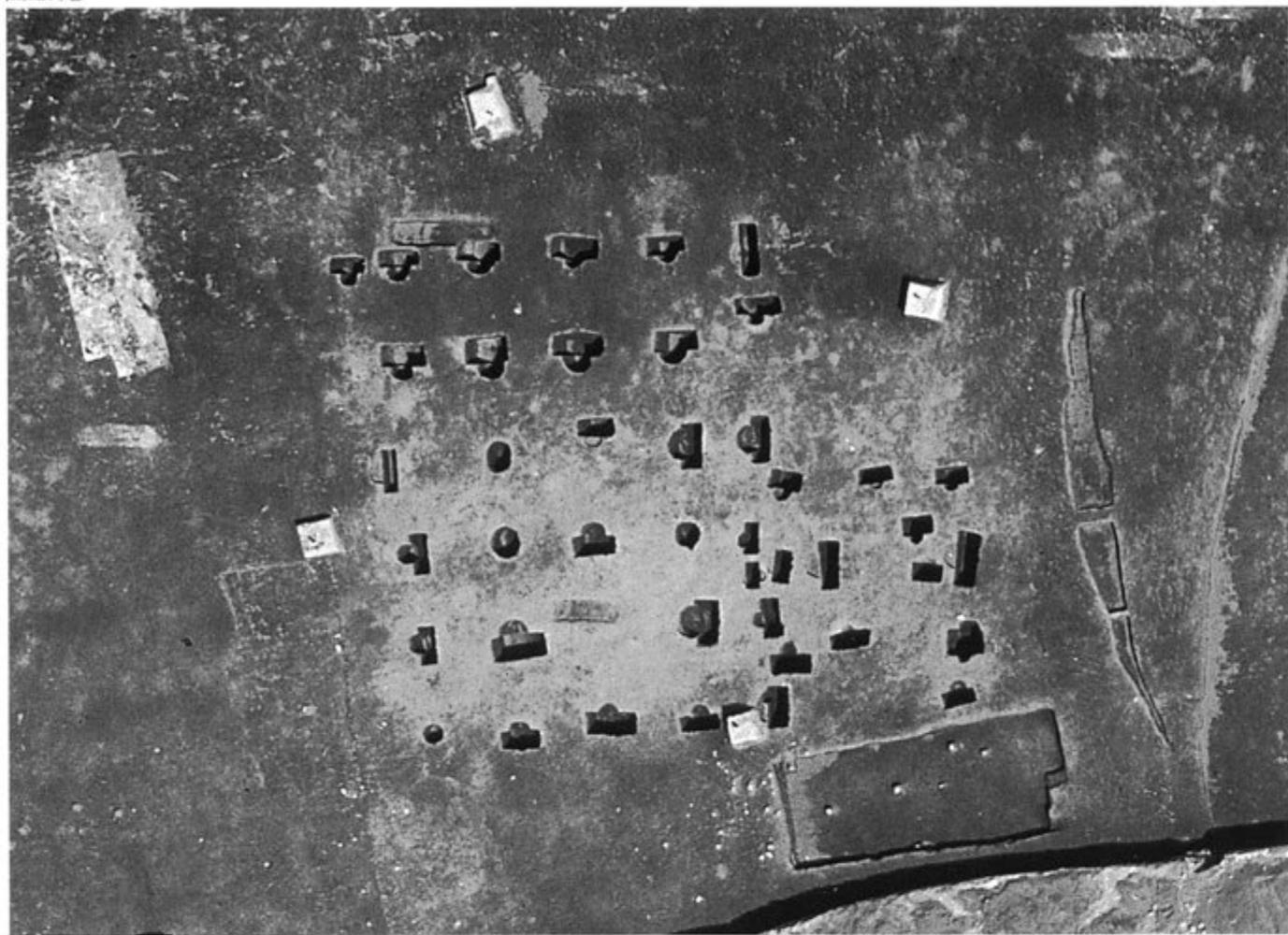
② 7号竪穴住居跡検出状況

④ 7号竪穴住居跡遺物出土状況
⑤ 7号竪穴住居跡ビット完掘状況



① 弥生時代遺物出土状況 ② 土器溜り
③ 古墳時代土器出土状況 1

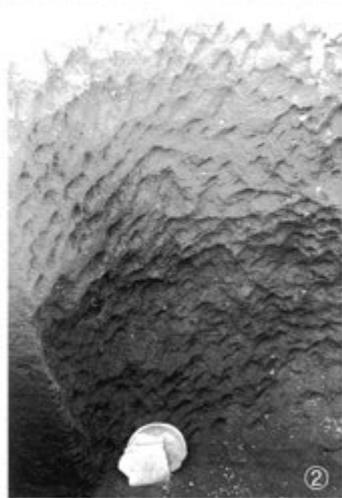
④ 弥生時代石斧出土状況 ⑤ 古墳時代遺物出土状況
⑥ 古墳時代土器出土状況 2



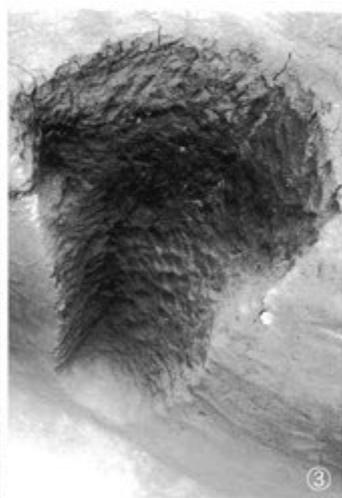
掘立柱建物跡空撮
掘立柱建物跡完掘状況 1



①



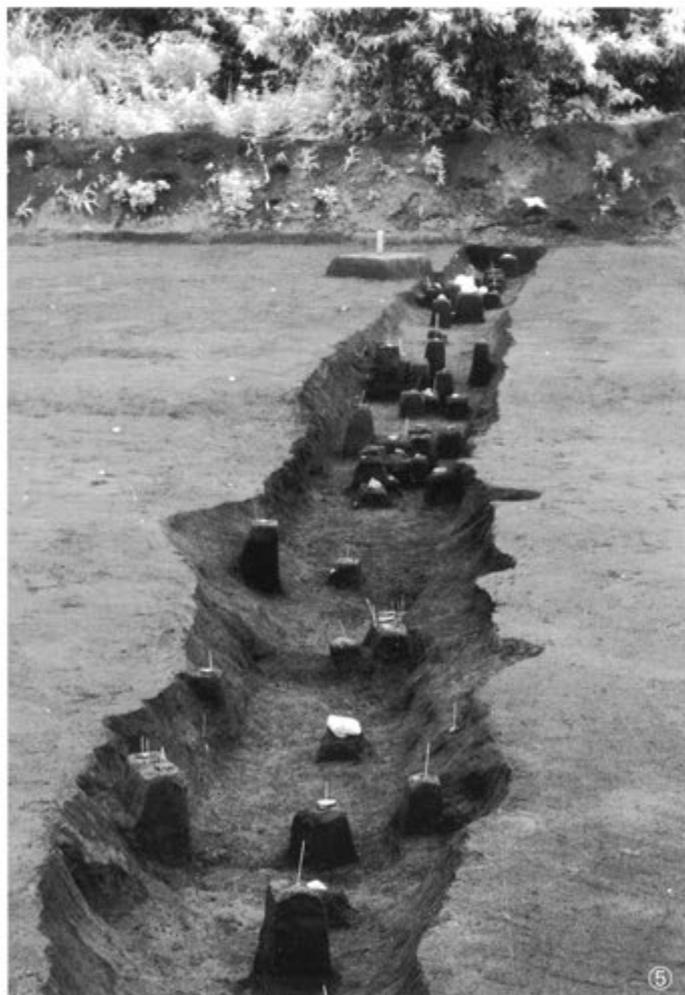
②



③



④



⑤

①掘立柱建物跡完掘状況2 ②掘立柱建物跡柱穴完掘状況1 ③掘立柱建物跡柱穴完掘状況2 ④土師器出土状況 ⑤溝状遺構完掘状況

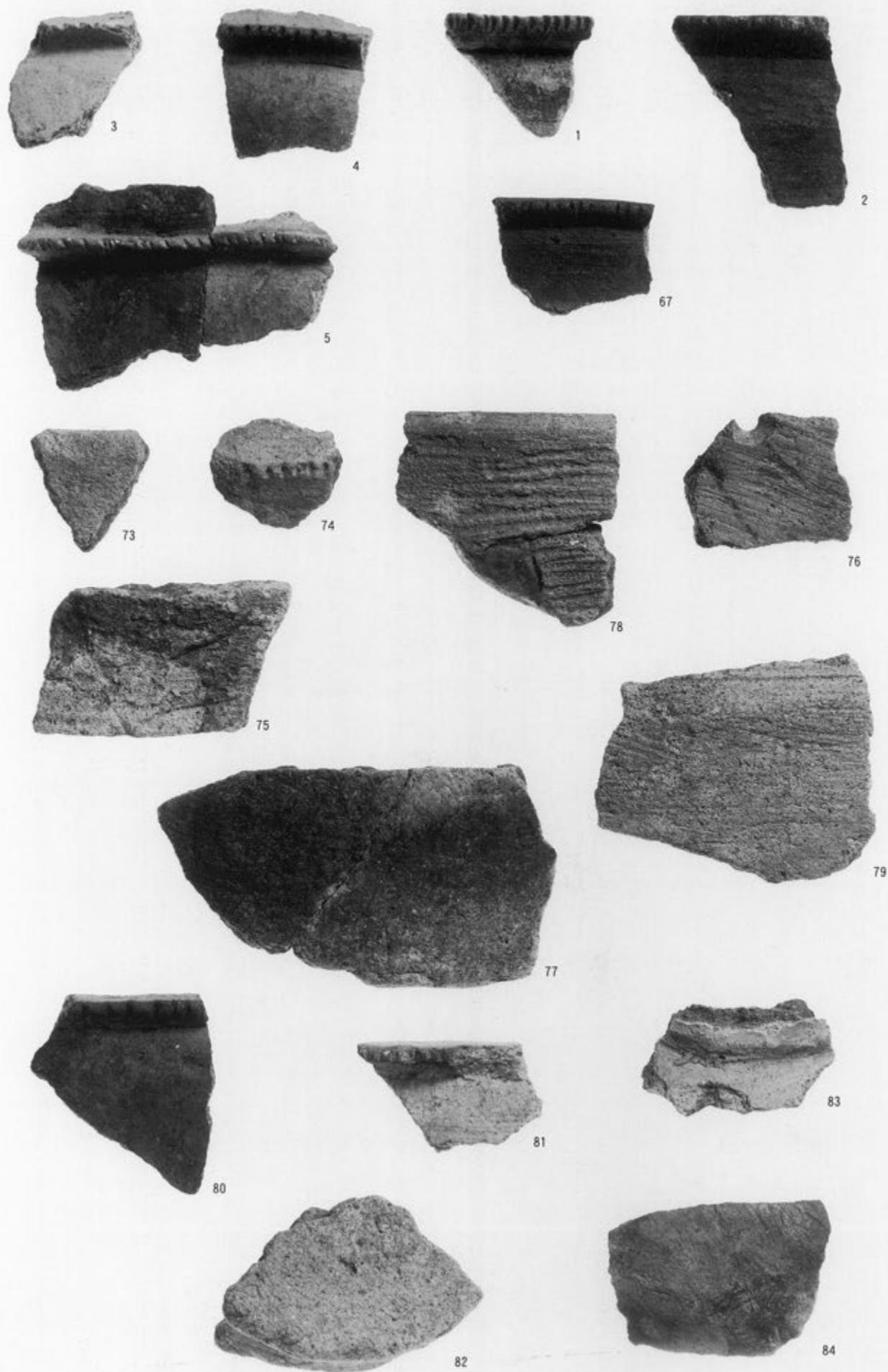


発掘調査風景
D~E-2区土層断面



33
61 57
41 56
7

弥生時代の土器 1



1号, 3号, 4号竖穴住居跡出土土器



2号竖穴住居跡出土土器



古墳時代の土器



68



69



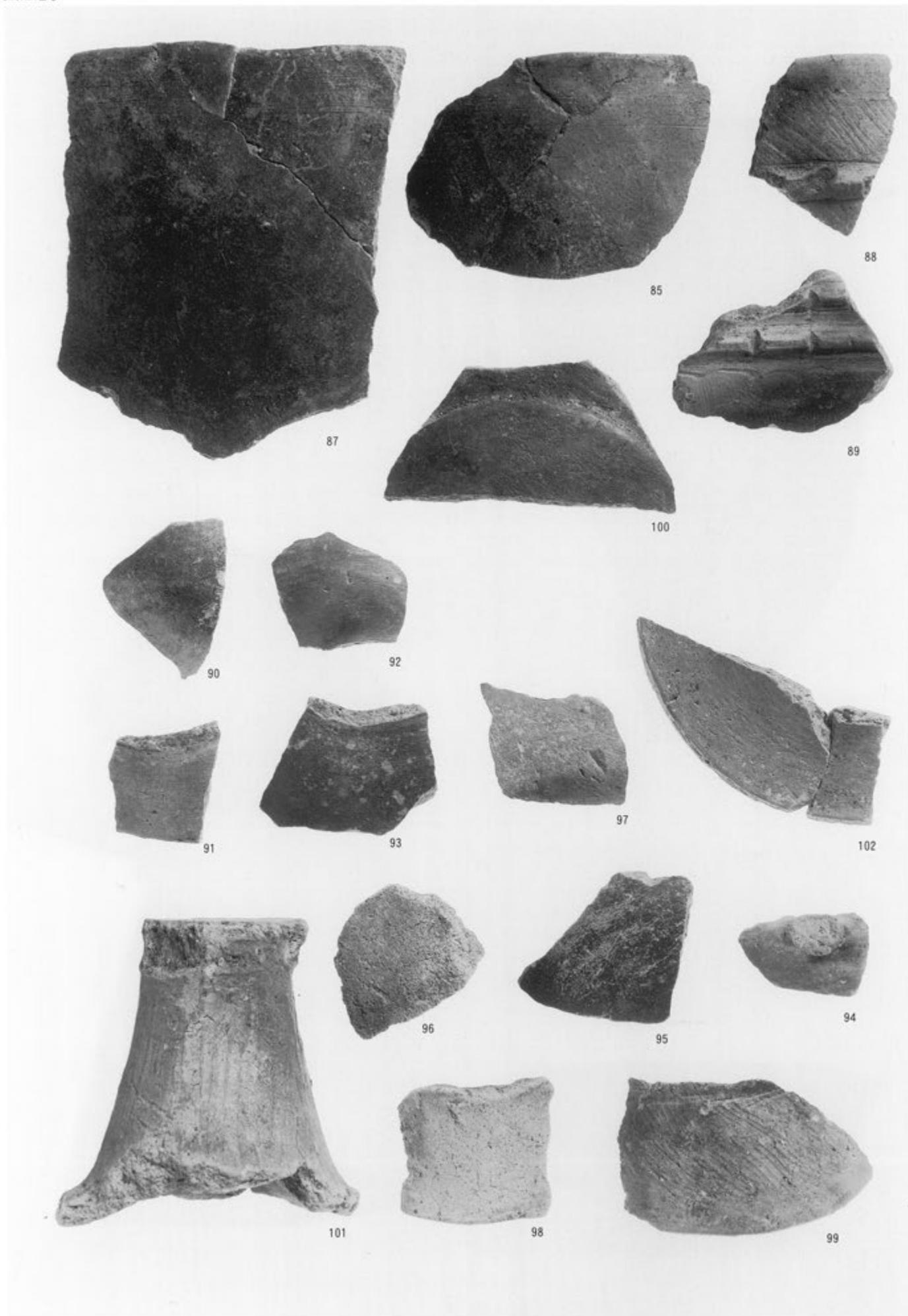
70



71



72



4号竖穴住居跡出土土器



5号竖穴住居跡出土器 1



115



108



120



133



118



157

5号竖穴住居跡出土土器2



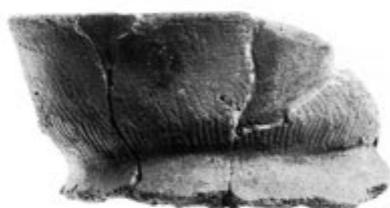
106



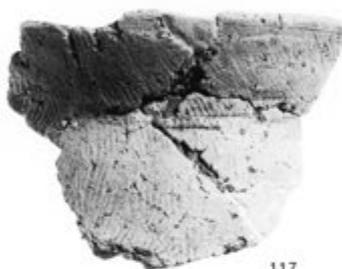
105



145



136



117



107



116



119



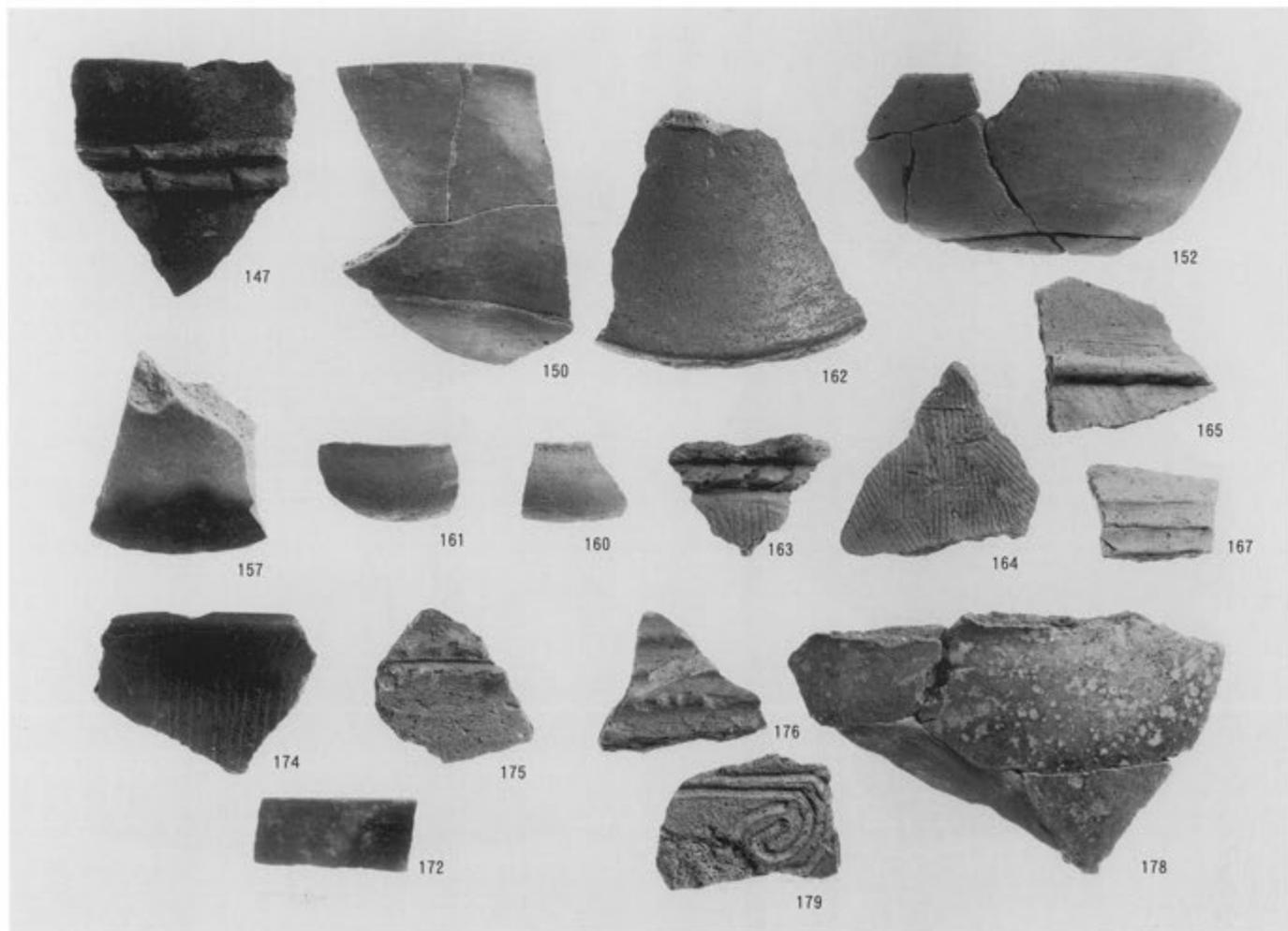
119



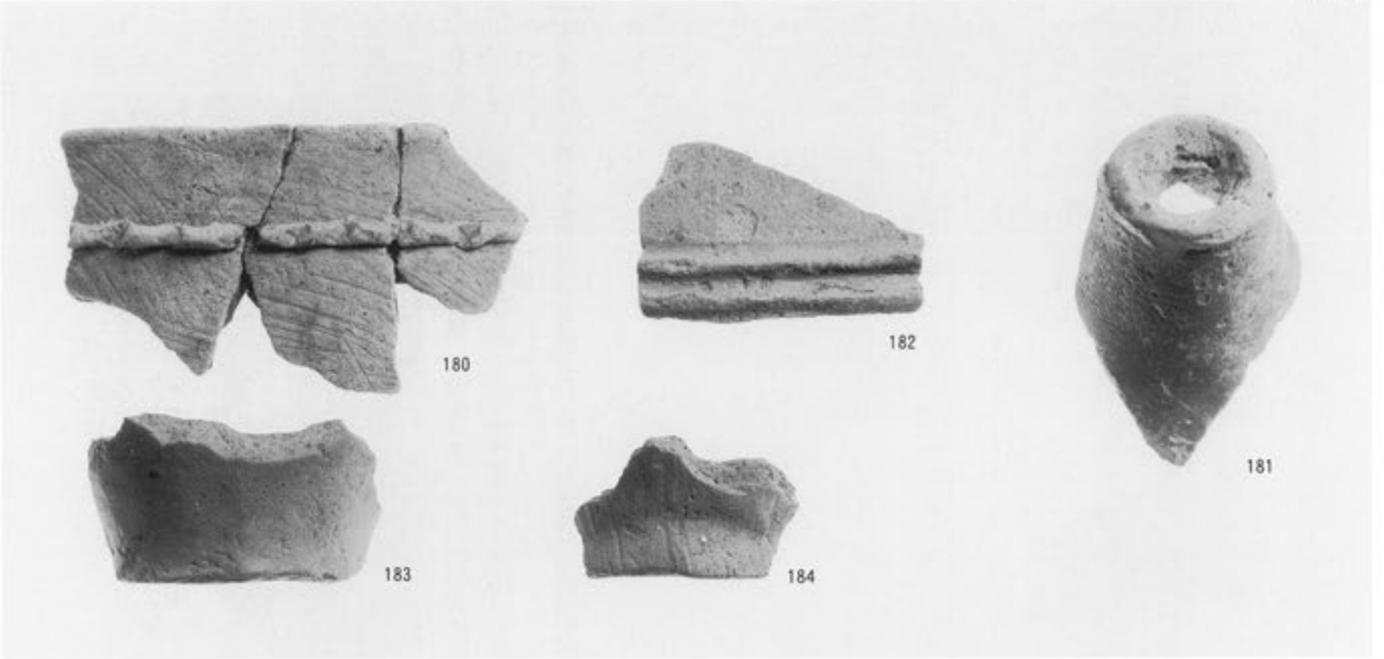
122



128



6号, 7号竖穴住居跡出土土器



361



363+364



363



364

溝状遺構出土土器ほか



弥生時代の土器 2





弥生時代の土器 4





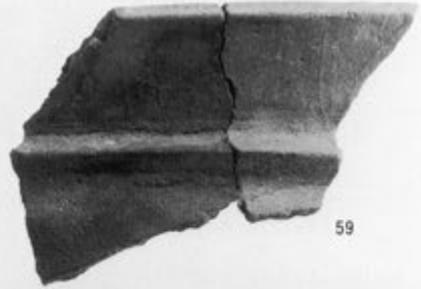
弥生時代の土器 6







58



59



60



63



66



64



65

古墳時代の土器 3



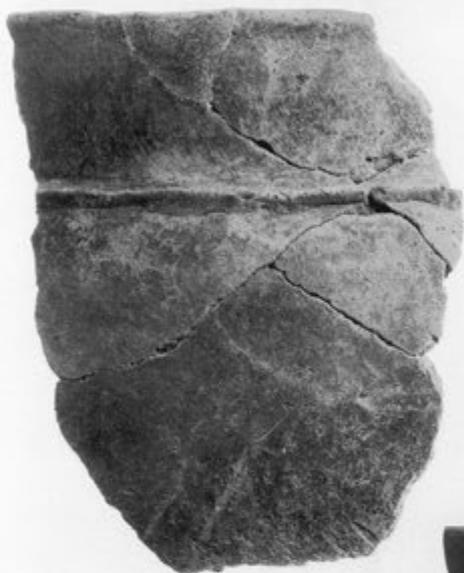
古墳時代の土器 4



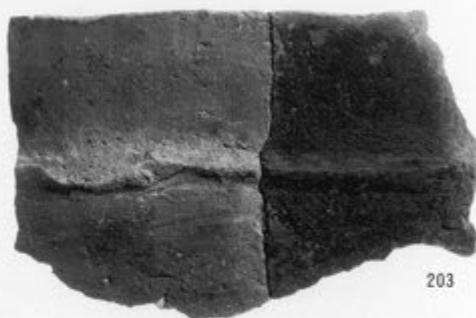
194



195



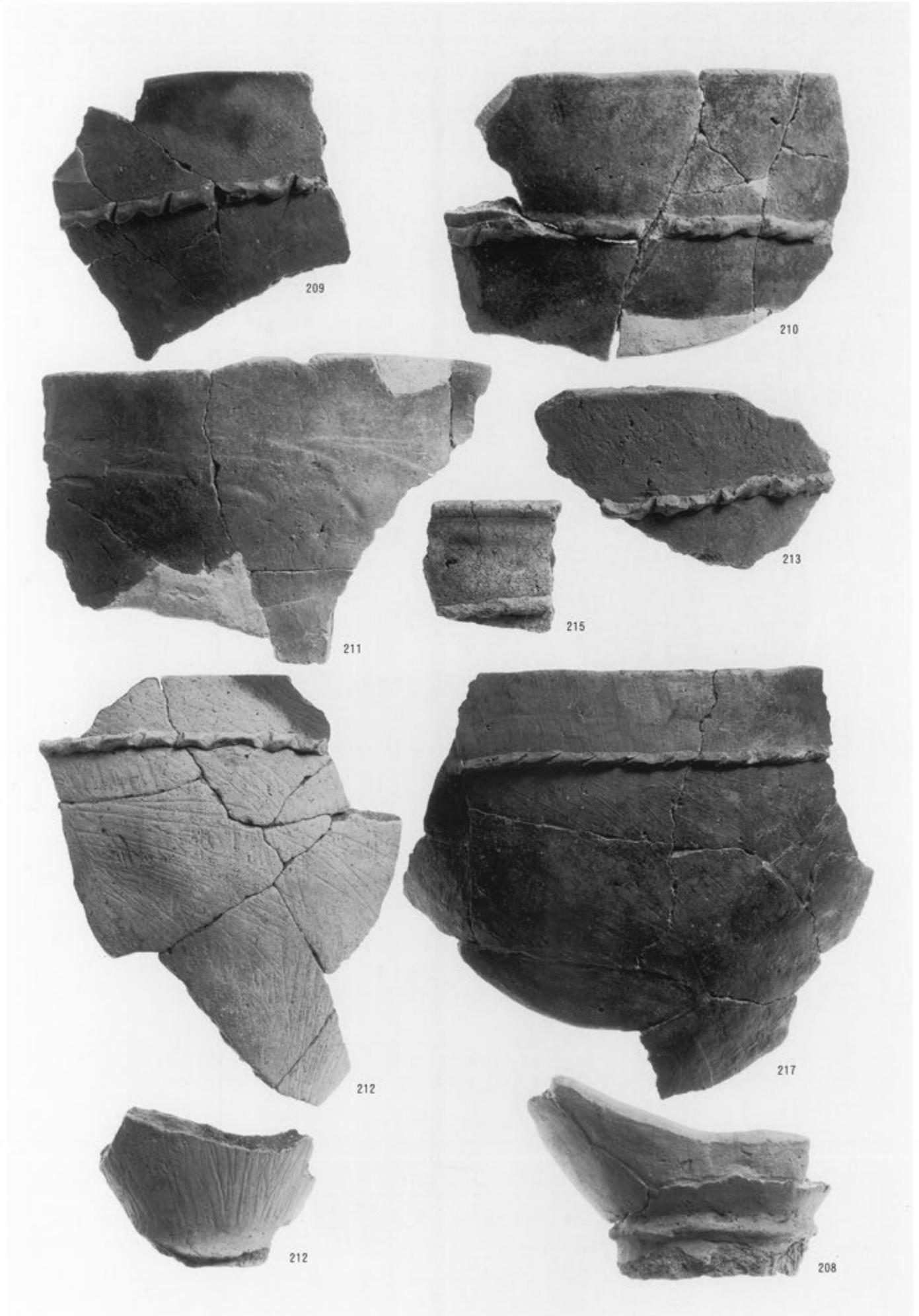
202



203

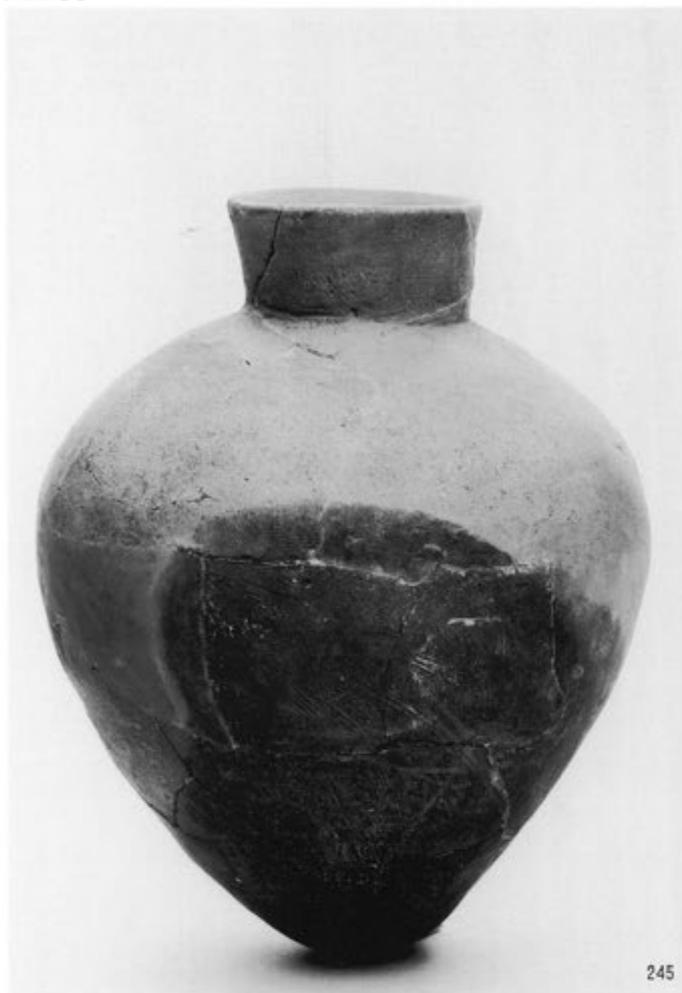


204



古墳時代の土器 6















318



319



320



332



331



323



327



328



329



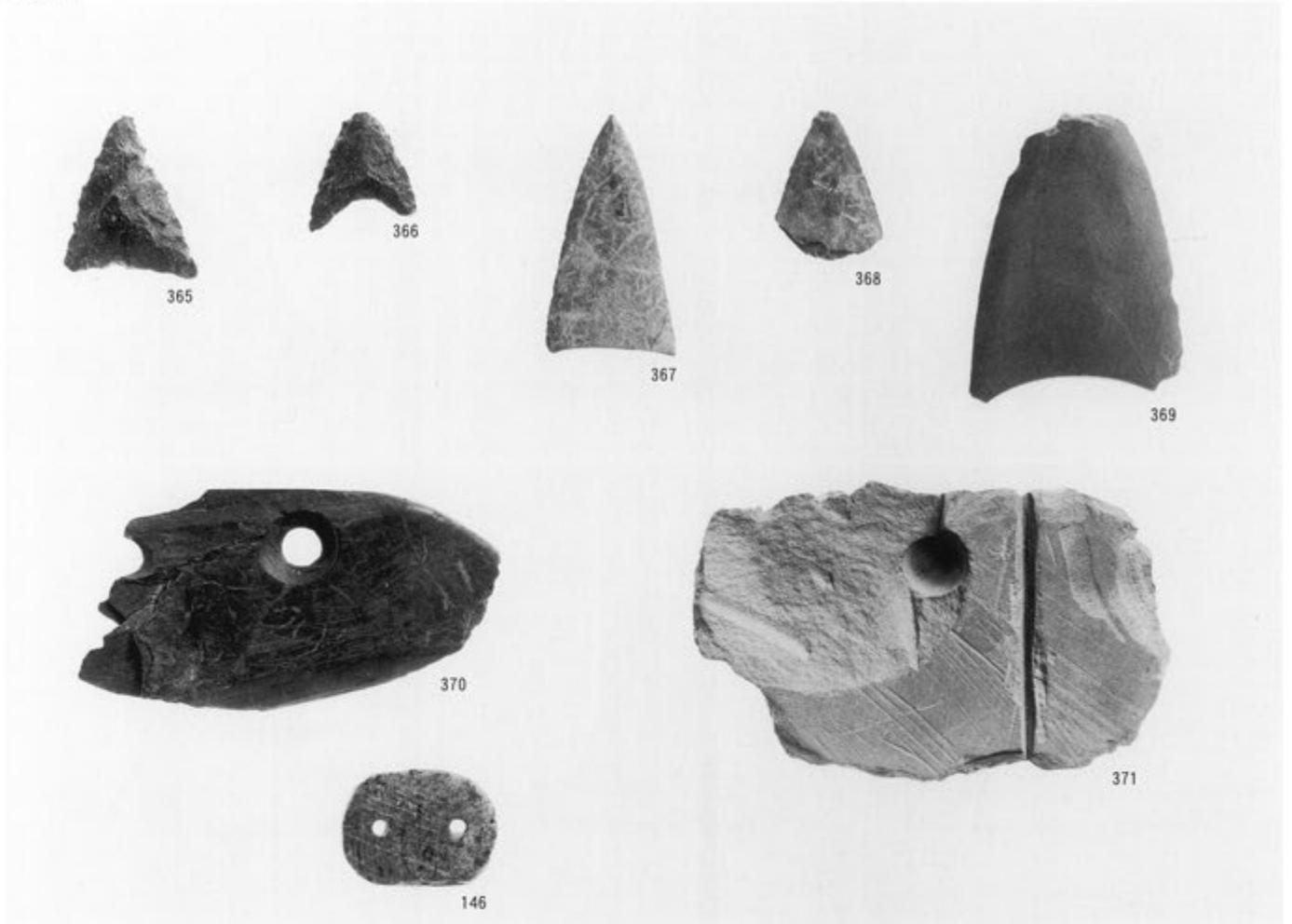
330



325



324



弥生・古墳時代の石器 1
4号竪穴住居跡出土石器

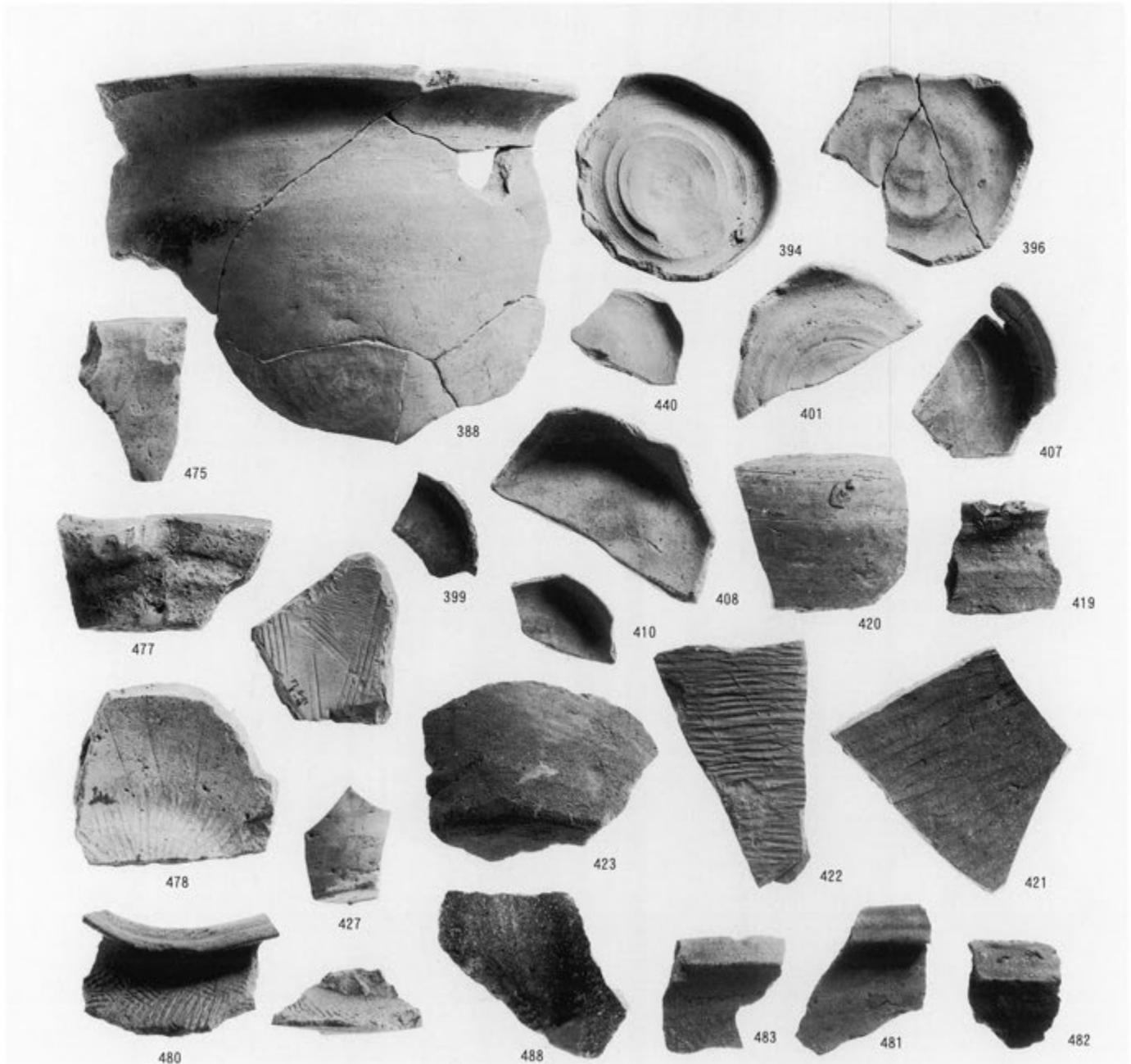


■
378 377 6
374 375
373 376
379
372

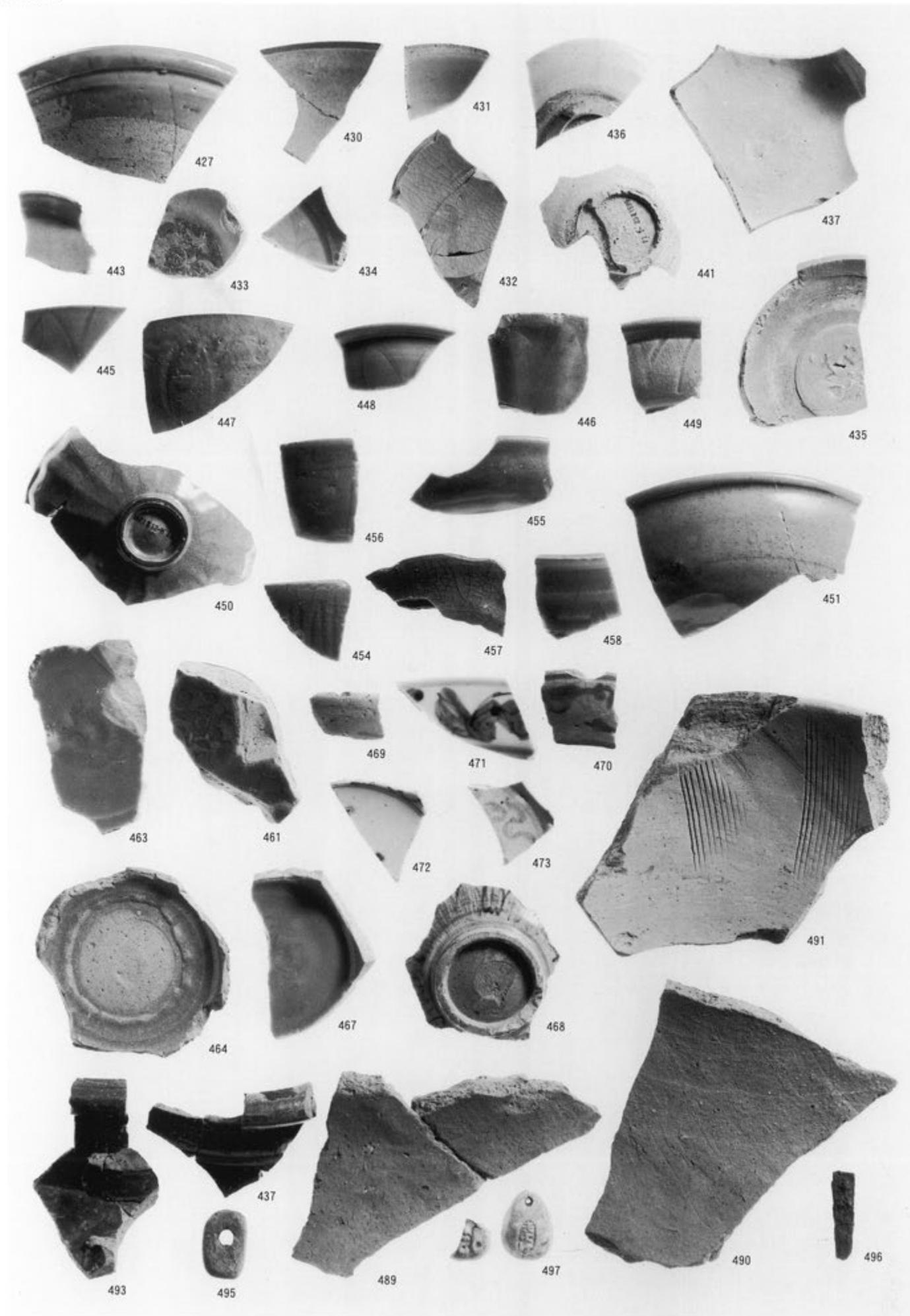
弥生・古墳時代の石器 2



弥生・古墳時代の石器 3



古代以降の土器 1



古代以降の土器 2

あとがき

古市遺跡の発掘調査は、平成13年度～平成15年度までの3年間、万之瀬川の対岸にある南田代遺跡の発掘調査と前後して実施された。夏は梅雨や台風による、川の水位上昇のため水没の危機にあい、冬は北西に向けて開口する地理的条件のため、強い季節風を直接肌で感じ、遺跡で生活した当時の人々の様子に思いを馳せる調査の日々であった。また、初年度の調査終了間際に弥生時代の竪穴住居跡に続き、古墳時代の竪穴住居跡が相次いで検出され、残った期間をいかに効率よく調査していくか悩んだこともあった。

本年度の整理作業、報告書刊行は、失われつつある調査時の記憶を掘り起こしながらの作業が続いた。本遺跡では、膨大な量の土器片の注記・分類・接合に時間が費やされたが、弥生時代の土器をはじめ数多くの土器が完形の形に接合でき、全形を知りうる良好な資料を提示することができた。また、多くの貴重な情報が遺跡から得られたため、「一つでも多くの情報を記録したい」と努力したが、情報を整理・統合し、十分に活用できたかは、時間的な制約と担当者の力量不足のため、恥ずかしながら疑問に思うところである。

本報告において、実測等の作業を続けながら、開発によって消えゆく遺跡の記録保存がこれで良いのかと不安に駆られ、疑問に思い続けながらの1年であった。次回からは、より多くの正確な情報を整理・統合して活用し、提供できるようにしていきたい。

今回「古市遺跡」の発掘調査報告書を発刊するにあたり、鹿児島県土木部加世田土木事務所ならびに川辺町教育委員会の関係各位の方々をはじめ、多くの汗を流して発掘調査に携わってくださった地元の作業員さん、報告書作成のために努力して下さった整理作業員さんに厚くお礼を申し上げ感謝の言葉といたします。

担当者一同

発掘調査に携わったみなさん(平成13・14・15年度)

赤峰明生、赤峰クニ子、鯨坂他賀子、有園ミツ子、有村 治、宇都憲一、大倉野和子
大山健一、大園サヤ、門之園イツ子、川原テミ、狩集まゆみ、倉狩イツ子、五反田影春
五反田義弘、逆瀬川文字、芝原節子、芝原弘光、芝原マリ子、下園 操、新屋チエ
園田貞子、中禮アヤ子、中禮四夫、鶴田和子、轟木国夫、中島豊文、中島春美、中迎孝市
野入高美、萩原康司、原之園三男、日吉昭男、平山清巳、深野木義光、福永キヨ子
福永健一、柞木千代子、古市昭子、古市節雄、古市セツ子、前田裕見子、牧田政任
松園節子、南 良子、南田辰男、宮下麻貴子、森川伸子、吉留美紀子、吉留ミチ子

整理作業に携わったみなさん(平成16年度)

市藪厚子、川畑裕美子、佐土原 恵、柴山みな子、末川章吾、瀬戸山三重子、竹ノ内礼子
西 浩司、橋口まゆみ、山下貴子、山元順子

南田代班、上水流班をはじめご協力いただいた多くのみなさんありがとうございました。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(89)
床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ

古市遺跡

発行日 2005年3月31日

発行者 鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-4461

鹿児島県国分市上之段1175-1

印刷所 中央印刷株式会社

〒892-0804

鹿児島県鹿児島市春日町12-16

